

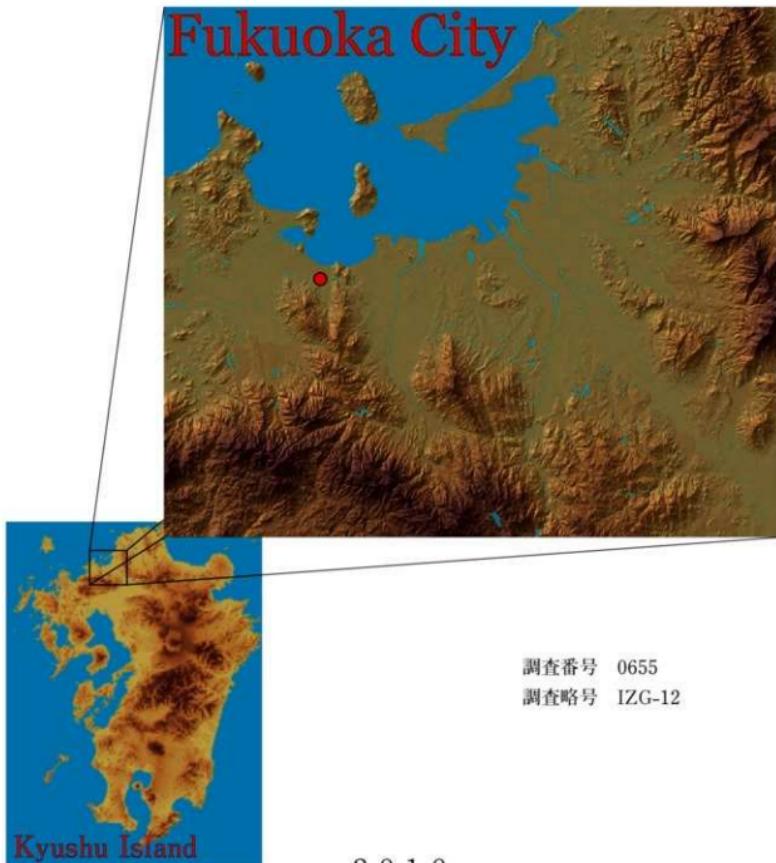
今宿五郎江 8

- 第12次調査の報告 -

2010

福岡市教育委員会

I m a j u k u g o r o u e
今宿五郎江 8





調査地と志摩半島を望む(伊都区画整理事務所 提供)



今宿五郎江遺跡第12次調査区全景(北から)



今宿五郎江遺跡第12次調査環濠掘削状況(北から)



W153



0
20cm

W188

序

福岡市は、豊かな自然環境と地理的条件に恵まれ、古くから大陸の先進文化を受け入れる窓口として栄えてきました。市内には最古の稲作の村である板付遺跡、古代の迎賓館である鴻臚館、貿易都市博多などをはじめとする貴重な文化財が残されています。福岡市教育委員会では、開発工事に伴いやむを得ず失われていく埋蔵文化財について、事前に発掘調査を実施し記録による保存と保護を行うなど、その保護に努めています。

本書で報告する今宿地区周辺では、これまでに弥生時代から中世にかけての集落跡などが調査されており、当時の生活用具である土器や石器など多くの遺物が出土しています。

今回報告する伊都区画整理事業に伴う調査では、弥生時代の環濠が発見され、多くの木製遺物が見つかり、この地域の歴史を解明する上でたいへん貴重な発見となりました。

本書の刊行が、市民の皆様の埋蔵文化財に対するご理解を深める一助となりますとともに、学術研究の分野でも役立つことができれば幸いです。

最後になりましたが、遺跡の発掘調査に際しご理解と多大なご協力をいただいた地元住民の方々をはじめ、事業関係者の皆様には厚くお礼申し上げます。

平成22年1月27日

福岡市教育委員会

教育長 山田 裕嗣

例 言

- (1) 本書は、福岡市教育委員会が2006（平成18）年度に福岡市西区今宿地内において伊都土地
区画整理事業に伴い行った埋蔵文化財発掘調査の報告書である。
- (2) 発掘調査は福岡市教育委員会が行い、調査担当は加藤隆也である。
- (3) 遺構実測・撮影は加藤が行い、空中写真は写測エンジニアリング株が行った。
- (4) 出土遺物の実測は西堂将夫、加藤が行い、写真撮影は加藤、製図は西堂、加集和子、大久
保玲子が行った。出土遺物480の実測とFig.2の作成は杉山富雄の協力を得た。
- (5) 今回の調査・報告に係る座標は伊都土地区画整理事業に伴い設置された基準点（日本測地
系）を使用しており、図中に使用した方位は国土座標の座標北である。真北から $0^{\circ} 19'$ 西偏し
ている。
- (6) 出土木製品の樹種同定はパリノ・サーヴェイ株が行い、出土動物遺存体については同文化
財部の星屋 洋が行い、その報告もあわせて依頼した。扉に使用した画像は、福岡市史編さん室
宗 達郎氏の協力を得た。出土木製品の整理においては、出土木器研究会各位にご指導をいただ
いた。
- (7) 遺構の呼称は略号化し、掘立柱建物-S B、土壙-S K、溝-S D、柱穴-S Pとした。
- (8) 今回の調査に伴う出土資料および記録類は埋蔵文化財センターで収蔵保管し、利用に供す
る予定である。

遺跡調査番号	0655	遺 跡 略 号	I Z G-12
地 番	福岡市西区今宿町地内	分布地図番号	112（今宿）
調査対象面積	130ha（工事面積）	調 査 面 積	1,340m ²
調 査 期 間	平成18年12月1日～平成19年3月9日		

本文目次

第Ⅰ章 はじめに	
1. 調査に至る経緯	1
2. 調査の組織	1
第Ⅱ章 遺跡の立地と歴史的環境	3
第Ⅲ章 調査の記録	6
1. 調査の概要	6
2. 遺構と遺物	6
3.まとめ	129
第Ⅳ章 出土遺物の科学分析	
1. 今宿五郎江遺跡第12次出土動物遺存体について 屋山 洋	130
2. 今宿五郎江遺跡第12次出土木製品の樹種 バリノ・サーヴェイ株式会社	131~142

挿図目次

Fig.1 周辺遺跡分布図 (1/25,000)	2
Fig.2 今宿五郎江遺跡調査地点位置図 (1/2,000)	4
Fig.3 今宿五郎江遺跡第12次調査遺構配置図 (1/300)	5
Fig.4 今宿五郎江遺跡第12次調査台上地上遺構配置図 (1/250)	7
Fig.5 SB-01, 02, 03, 04遺構実測図 (1/60)	9
Fig.6 SB-05, 06遺構実測図 (1/60)	10
Fig.7 SB-07, 08遺構実測図 (1/60)	11
Fig.8 SK-01, 02, 03遺構実測図 (1/40)	12
Fig.9 SP, SK出土遺物実測図 (1/3)	13
Fig.10 SD-02出土遺物実測図 (1/3)	14
Fig.11 SD-01北壁土層堆積状況図 (1/40)	15
Fig.12 SD-01(A),(B)位置図 (1/200)	16
Fig.13~24 SD-01(A)出土遺物実測図	19~30
Fig.25~27 SD-01(B)出土遺物実測図	31~33
Fig.28, 29 井泉裏ごめ出土遺物実測図	34, 35
Fig.30 井泉検出状況実測図 (1/40)	35
Fig.31~35 第3区井泉内出土遺物実測図	36~40
Fig.36~39 第4区土器溜まり出土遺物実測図	41~44
Fig.40~53 黒色土 出土遺物実測図	45~58
Fig.54~56 SD-01出土のその他遺物実測図	59~61
Fig.57 SD-01出土木製品分布状況図 (1/200)	80
Fig.58~101 SD-01出土木製品実測図	81~124

表1 第12次調査出土土器観察表	63~76
表2 第12次調査出土石製品他遺物観察表	77~79
表3 第12次調査出土木製品観察表	125~128

図版目次

カラー図版 調査地と志摩半島を望む（伊都区画整理事務所 提供）

今宿五郎江遺跡第12次調査区全景（北から）

今宿五郎江遺跡第12次調査環濠掘削状況（北から）

今宿五郎江遺跡第12次調査出土漆筒形容器

今宿五郎江遺跡第12次調査出土木製短甲

- | | | |
|---------------|-------------------------|------------------------|
| PL. 1 | 1) 第12次調査区全景（北から） | 2) SB-04完掘状況（東から） |
| | 3) SK-01完掘状況（北東から） | 4) SK-02調査状況（北東から） |
| | 5) SD-02調査状況（東から） | |
| PL. 2 | 1) SD-01調査状況（北から） | 2) SD-01黒色土掘削状況（西から） |
| | 3) SD-01井泉掘削状況（南から） | 4) SD-01掘削状況（南東から） |
| | 5) SD-01掘削状況（南東から） | |
| PL. 3 | 1) SD-01土器溜まり状況（南から） | 2) SD-01土器溜まり状況（東から） |
| | 3) SD-01土器溜まり状況（北東から） | 4) SD-01土器溜まり掘削状況（南から） |
| | 5) SD-01土器溜まり状況（北から） | |
| PL. 4 | 1) SD-01掘削状況（南から） | 2) SD-01掘削状況（南から） |
| | 3) SD-01木製品検出状況（南から） | 4) SD-01木製品検出状況（南から） |
| | 5) 井泉上層木製品検出状況（南東から） | 6) 井泉上層木製品検出状況（西から） |
| | 7) SD-01木製品出土状況（北から） | 8) SD-01木製品出土状況（西から） |
| PL. 5 | 1) SD-01（B）完掘状況（北から） | 2) SD-01（B）完掘状況（南から） |
| | 3) SD-01、井泉完掘状況（南から） | 4) SD-01土層堆積状況（南東から） |
| | 5) SD-01土層堆積状況（南東から） | |
| PL. 6 | 1) 井泉掘削開始状況（南から） | 2) 井泉掘削状況（西から） |
| | 3) 井泉上層遺物出土状況（南から） | 4) 井泉掘削状況（南から） |
| | 5) 井泉完掘状況（西から） | |
| PL. 7 | 1) 井泉完掘状況（北東から） | 2) 井泉完掘状況（北から） |
| | 3) 井泉完掘状況（北西から） | 4) 井泉完掘状況（南西から） |
| | 5) 井泉完掘状況（南西から） | |
| PL. 8 | 1) 井泉完掘状況（南西から） | 2) 井泉構築状況（南西から） |
| | 3) 井泉構築状況（北西から） | 4) 井泉横木切り込み状況（南西から） |
| | 5) 井泉裏貨泉出土状況（西から） | |
| PL. 9 | 1) SD-01（A）遺物出土状況（北東から） | 2) SD-01（A）遺物出土状況（北から） |
| | 3) SD-01完掘状況（南から） | 4) SD-01完掘状況（北から） |
| | 5) SD-01完掘状況（北東から） | |
| PL. 10 | 1) 現地説明会解説状況（西から） | 2) 現地説明会遺物展示風景 |
| | 3) 現地説明会遺物展示風景 | 4) 現地説明会解説状況（南から） |
| | 5) 大塚遺跡側現地説明会解説状況（南から） | |
| PL. 11～PL. 56 | 出土遺物（縮尺不同） | |

第Ⅰ章 はじめに

1. 調査に至る経緯

今回報告する発掘調査は、伊都土地区画整理事業に伴う造成に先立つものである。伊都土地区画整理事業は福岡市西部、今宿平野の東半部を対象に計画された区画整理事業である。施工面積は約130haである。その範囲はかつての潟湖である今宿砂丘後背地を中心とし、高祖山麓の台地を含む範囲に及んでいる。今宿平野には、国指定史跡の大塚古墳を含む今宿古墳群をはじめとする多くの埋蔵文化財が周知されている。

1996（平成8）年11月、都市整備局伊都区画整理事務所から区画整理地内の埋蔵文化財について確認調査の依頼があった。福岡市教育委員会埋蔵文化財課では、計画地が、周知の埋蔵文化財包蔵地および隣接地を含むことから、事業地全体について遺跡の遺存状態の確認のため試掘調査が必要と判断し、区画整理事務所と協議を重ね、試掘可能な地点について調査を実施することとした。試掘調査は1996年12月から1997年2月にかけて計68箇所の地点に及んだ。

試掘の成果を受け、今宿五郎江遺跡内では2002（平成14）年度より第8次調査を開始した。2003（平成15）年度には第9次調査、2004（平成16）年度には第10次調査、2005（平成17）年度には第11次調査と毎年継続して発掘調査を行ってきている。また、隣接する谷遺跡、大塚遺跡においては、現在も継続して発掘調査が行われている。

今回報告する今宿五郎江遺跡第12次調査は、第11次調査地点の南側隣接地にあたり、2006（平成18）年12月1日に着手し、翌年3月9日に終了した。そして、調査途中の2月24日には遺跡現地説明会を開催し、市民の方々をはじめ多くの見学者にお集まりいただいた。

2. 調査の組織

調査の体制は以下のとおりである。

調査委託	伊都土地区画整理	教育長	植木とみ子（調査時）
調査主体	福岡市教育委員会		山田 裕嗣
調査総括	文化財部埋蔵文化財第2課	課長	力武 卓治（調査時）
			田中 淳夫
	埋蔵文化財課第2課	調査第1係長	池崎 譲二（調査時）
			杉山 富雄
庶務担当	文化財管理課	管理係	後藤 泰子（調査時）
			古賀とも子
事前協議	埋蔵文化財第1課	事前審査係長	濱石 哲也（調査時）
		事前審査係	星野 恵美（調査時）
調査担当	埋蔵文化財第2課	調査第1係	加藤 隆也
整理作業	西堂 将夫 加集 和子 山口とし子 川田 京子 田中 由紀 鈴木 美樹 菊田 律子 長井 リサ 大久保玲子 森迫 理枝		

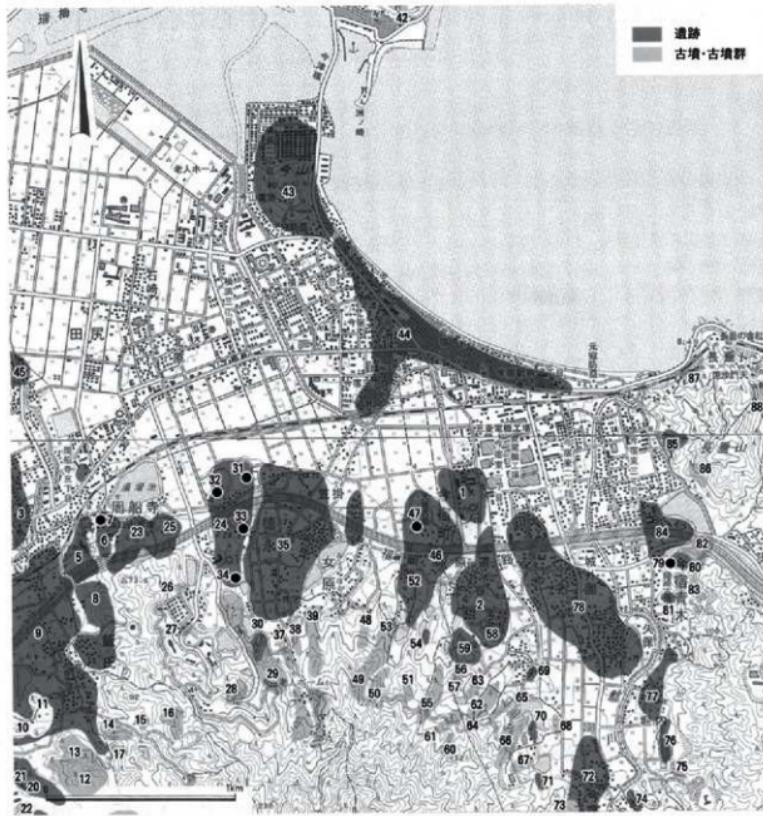


Fig.1 今宿平野遺跡分布(1/25,000)

- 1 今宿五郎江遺跡 2 谷造跡 3 岩内山遺跡群 4 山崎遺跡 5 鹿町遺跡 6 丸山遺跡群 7 丸勝山古墳 8 飯氏引地遺跡 9 綾氏遺跡群 10 飯氏古墳群A群 11 安原古墳 12 飯氏古墳群B群 13 飯氏B14号墳 14 飯氏古墳群C群 15 綾氏古墳群D群 16 飯氏小山遺跡群E群 17 飯氏古墳群D群 18 飯氏古墳群G群 19 飯氏古墳群I群 20 飯氏古墳群J群 21 千里山原遺跡 22 千里深谷B遺跡 23 速水A遺跡 24 速水B遺跡 25 速水古墳群A群 26 徳永古墳群C群 27 徳永古墳群D群 28 徳永古墳群E群 29 徳永古墳群II群 30 女原上ノ谷製鐵跡 31 山ノ鼻1号墳 32 山ノ鼻2号墳 33 光八幡宮古墳 34 谷吉古墳 35 女院跡 36 女院宮社遺跡 37 女原古墳群A群 38 女原古墳群B群 39 女原古墳群C群 40 女原古墳群D群 41 今宿古墳群E群 42 今宿古墳群F群 43 今山遺跡 44 今宿遺跡群 45 今宿田尻遺跡 46 大塚遺跡 47 大塚古墳 48 新開古墳群B群 49 新開古墳群C群 50 新開古墳群D群 51 新開古墳群E群 52 新開古墳群F群 53 新開古墳群G群 54 新開古墳群H群 55 箕上古墳群A群 56 谷上古墳群B群 57 谷上B1号墳 58 谷上C1号墳 59 青木地跡 60 柴原古墳群A群 61 相原古墳群B群 62 相原古墳群C群 63 相原古墳群D群 64 和原古墳群E群 65 村原古墳群F群 66 相原古墳群G群 67 相原古墳群H群 68 相原古墳群I群 69 相原古墳群J群 70 相原製鉄A道路 71 相原製鉄B道路 72 本村遺跡 73 本村古墳群A群 74 朝山樹木遺跡 75 魔山古墳群D群 76 滝ノ内製鐵道路 77 滝ノ内道路 78 青木遺跡群 79 銀崎古墳 80 銀崎製鉄A道路 81 銀崎製鉄B道路 82 銀崎古墳群A群 83 銀崎古墳群B群 84 銀崎道路 85 シメウガ谷製鐵跡 86 沖院古墳群A群 87 沖院古墳群B群 88 長手山西遺跡群

第Ⅱ章 遺跡の立地と歴史的環境

今宿五郎江遺跡の位置する今宿平野は、糸島平野の東側の小平野である。東側を背振山系より北側に派生する飯盛山塊や、国の天然記念物に指定されている含紅雲母ベグマタイト岩脈のある長垂山塊によって早良平野と画され、南・西は高祖山の山塊により区切られている。北側の今津湾沿岸には、博多湾内海流の左流転による砂丘が早くから発達し、その後背地にはラグーンが広がる。瑞梅寺川の河口部には、かつて古今津湾と呼称される内海がひろがっていたが、江戸時代に大規模な干拓事業が行われ現在の景観となっている。本遺跡は、高祖山麓から今宿平野を今津湾に向かって北伸する丘陵の末端にある。

当該地周辺には、各時代にわたる多くの遺跡が位置している。旧石器時代遺物は、周船寺遺跡にて三稜尖頭器がみつかるなど遺物の散布が確認されている。また、今宿五郎江遺跡においても石器の出土が報告されている。

縄文時代遺物も埋没谷などから見つかっている。近年、隣接する徳永B遺跡の調査により、中期後半の阿高式の埋甕が出土したとの情報がよせられている。

弥生時代では、博多湾に面した砂丘上に立地する今宿遺跡群では、前期から後期にいたる遺物が出土しており、特に前期から中期にかけての甕棺墓、土壙墓群は全城に広がっている。そして、その砂丘の北西端に連なる今山遺跡は、前期に生産が開始され、中期には大分県、熊本県域まで供給された玄武岩製大型蛤刃石斧の原産地であり、かつ加工地である。この石斧は樹木伐採用のもので、当時の人が積極的に森林を切り開き集落と耕地の拡大を急速に進めた証である。また、その流通範囲の広さから弥生社会のネットワーク状況が推測できる考古学上重要な遺跡である。青木遺跡では弥生時代中期から後期の集落が調査され、大塚遺跡では弥生時代後期後半から終末にかけての掘立柱建物や溝が確認されている。

古墳時代では、国指定史跡の大塚古墳、山の鼻古墳、若八幡宮古墳、丸隈山古墳など丘陵末端部台地上に大型の前方後円墳が前期から後期にかけて継続して造営されている。さらに、山麓部には後期の群集墳が濃密に分布する。女原遺跡では堅穴住居群が確認されているが、全体的に集落の調査例は多くない。

近年、新聞等でも報道されたように「寶」の字が刻まれた銅印が今宿五郎江遺跡第13次調査で出土し、隣接する大塚遺跡では戦国期の屋敷跡が調査されるなど古代以降の遺物、遺跡も多く発見されている。

今宿五郎江遺跡の発掘調査は、1984年度に今宿小学校校舎建築に伴い行ったのが第1次調査である。A・B区あわせて261m²の調査区からは大量の土器が堆積した溝が確認され、大規模集落の存在を示唆する調査となった。翌1985年、小学校の西側を南北方向に貫く新設道路建設設計画に伴う第2次調査が行われた。約6,000m²の調査により、今宿五郎江遺跡の内容と規模が明らかとなった。また、この調査では小型銅鋌が出土し、遺跡の存在が広く知られるところとなった。

その後、給油所建設、送電線仮鉄塔建設、今宿小学校プール改築工事、共同住宅建築に伴う発掘調査が行われてきたが、小規模調査であったため全体的な様相の把握までには至らなかった。しかし、2002年度から開始された伊都土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査により大規模調査が行われるようになり、環濠の存在をはじめ遺構の遺存状態や分布状況等が急速に明らかになりつつある。



Fig.2 今宿五郎江遺跡調査地点位置図(1/2,000)

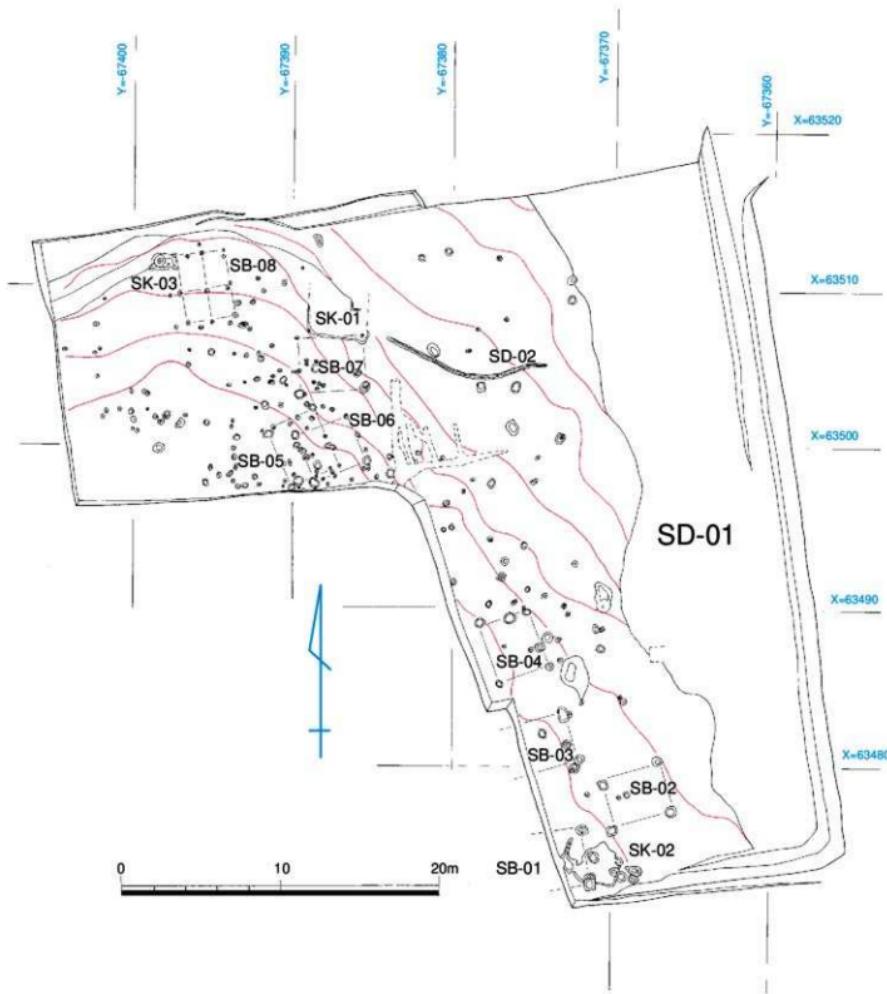


Fig.3 第12次調査構造配置図(1/300)

第Ⅲ章 調査の記録

1 調査の概要

今回報告する第12次地点の調査着手時以前に、北側隣接地を第11次（2005年7月8日～2006年11月30日）にて調査が行われており、既に大溝が調査されていた。その大溝は、南側の第12次調査予定地へと伸びていた。ただ、調査時にこの大溝が環濠であるという理解は無く、後に行われた大塚遺跡第11次調査により東側を巡る溝と繋がることが確認されるのを待たねばならない。調査区表土剥ぎ作業を進める過程では、溜まり（井泉）の存在が明らかになると同時に大溝が調査区南側では東側調査区外に伸びており、溝の東側立ち上がりの調査が行えないことが明らかとなった。よって、今回報告する第12次調査地点内の環濠調査では、内側の集落遺構と溝の状況を確認することができていない。

調査は、環濠の外側にある西側の台地上に土壌や柱穴などの遺構が展開していることから、まず西側の台地上の遺構調査を先行して行い、その後大溝の掘削を行う計画とした。

2 遺構と遺物

掘立柱建物（S B）

今回の調査では、200穴以上のピット状の遺構を検出し、約150穴から遺物が出土している。この内、建物として復元できたのは可能性を含めて以下の8軒である。

SB-01 (Fig.5)

調査区南側、西端にて検出された。確認された柱穴は2穴のみで、調査区西側に展開すると考えられる。方位をN-9° - W（座標北）にとり柱間は芯々で約3.4mである。柱穴の平面プランは略円形であり、長軸約60cm、遺存する深さは約20～50cmである。柱穴146の底面には、直径約15cmの柱を立てた痕跡と思われる凹みが残る。両柱穴からは弥生土器の小破片が出土している。

SB-02 (Fig.5)

調査区南側にて検出された。方位をN-17° - W（座標北）にとる1間×1間の建物である。柱間は略南北方向3.7～3.8m、東西方向3.0～3.3mである。柱穴の平面プランには、略方形と楕円形を呈する2種類がみられる。柱穴の平面プランが略円形を呈するものが北側に位置しており、直径約60～70cm、残存深さは18～28cmである。南側の平面プランが略方形を呈する柱穴は長軸55～65cm、残存深さは27～45cmである。141・142・148からは弥生土器の小片が出土しており、147からは凸レンズ底の甕底部片と器台の上部破片001 (Fig.9, PL.11) が出土している。柱穴の掘削時期は、出土遺物から弥生時代後期後半頃と考えられる。

SB-03 (Fig.5)

調査区南側、西端にて検出された。確認された柱穴は平面プランが長楕円形と略円形を呈する2穴のみで、調査区西側に展開すると考えられる。方位をN-20° - W（座標北）にとり柱間は芯々で約3.0mである。平面プランが長楕円形を呈する137の規模は長軸90cm、短軸65cmであり遺存する深さは約30cmである。略円形を呈する139の直径は約60cm、残存深さは27cmである。137からは土師質の高台付壺の破片が出土しており、掘削時期は古代以降と考えられる。

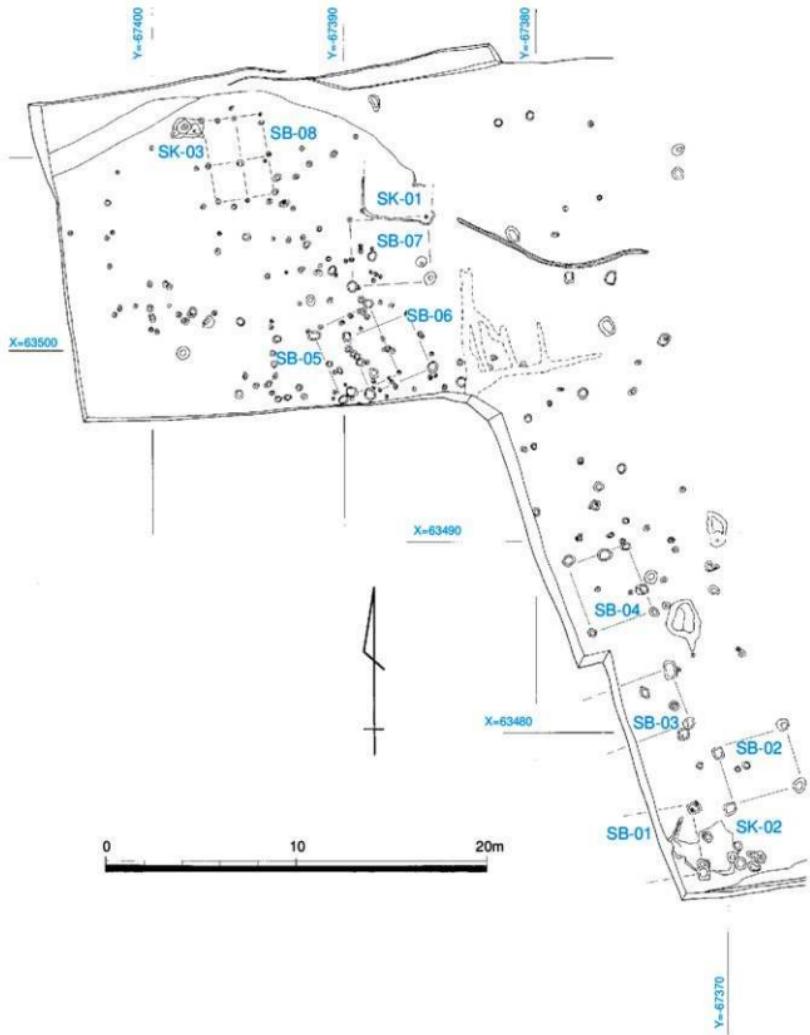


Fig.4 台地上造構配置図(1/250)

SB-04 (Fig.5, PL.1)

調査区南側にて確認された。方位をN-18°-W（座標北）にとる1間×1間分の建物であるが、西側調査区外へ展開する可能性がある。柱間は芯々で略南北方向3.7～4.0m、東西方向3.1～3.4mである。柱穴の平面プランは不定形を呈しており、その規模は長軸45～60cm、残存深さは9～22cmである。126・135からは、弥生土器の小片が出土している。

SB-05 (Fig.6)

調査区中央部西寄りにて検出され、**SB-06**と切り合う。方位をN-27°-E（座標北）にとる1間×1間の建物である。柱間は芯々で略南北方向3.8～4.0m、東西方向3.1～3.3mである。柱穴の平面プランは略円形と不定形であり、直径約20～60cm、残存深さは約15～35cmである。050・062からは土師器の小片が出土しており、古墳時代以降の掘削と考えられる。

SB-06 (Fig.6)

調査区中央部西寄りにて検出され、**SB-05**と切り合う。方位をN-22°-E（座標北）にとる1間×1間の建物である。柱間は芯々で略南北方向3.1～3.2m、東西方向3.5～3.6mである。柱穴の平面プランは略円形、略方形と不定形があり、直径約30～60cm、残存深さは約15～30cmである。各柱穴からは弥生土器の小破片が出土している。

SB-07 (Fig.7)

調査区中央部北寄りにて検出され、**SK-01**と切り合う。方位をN-3°-E（座標北）にとる1間×1間の建物である。柱間は芯々で略南北方向3.1～3.5m、東西方向4.0～34.1mである。柱穴の平面プランは略円形と不定形があり、直径約20～60cm、残存深さは約15～30cmである。柱穴087からは土師器と思われる土器小片が出土しており、遺物から**SK-01**を切ると考えられる。

SB-08 (Fig.7)

調査区北側西寄りにて検出され、**SK-03**と切り合う。方位をN-9°-E（座標北）にとる2間×2間の総柱建物である。柱間は芯々で略南北方向1.9～2.4m、東西方向1.4～1.8mである。柱穴の平面プランは略円形が主体であり、直径約20～30cm、残存深さは約5～25cmである。柱穴028、026の底面には小礫がみられた。柱穴027からは須恵器の壺胴部片が出土している。

柱穴（S P）

上述したように約150穴から遺物の出土がみられたが、その多くが小破片である。弥生土器が最も多くみられた。図化した出土遺物（Fig.9, PL.11）では、SP-042からは砥石片002が出土している。また、時代の幅を示す資料として、SP-156からは弥生時代後期後半の高坏003、SP-136からは滑石製石錘004と須恵質高台付坏片が出土しており、各時代の建物の存在がうかがわれる。

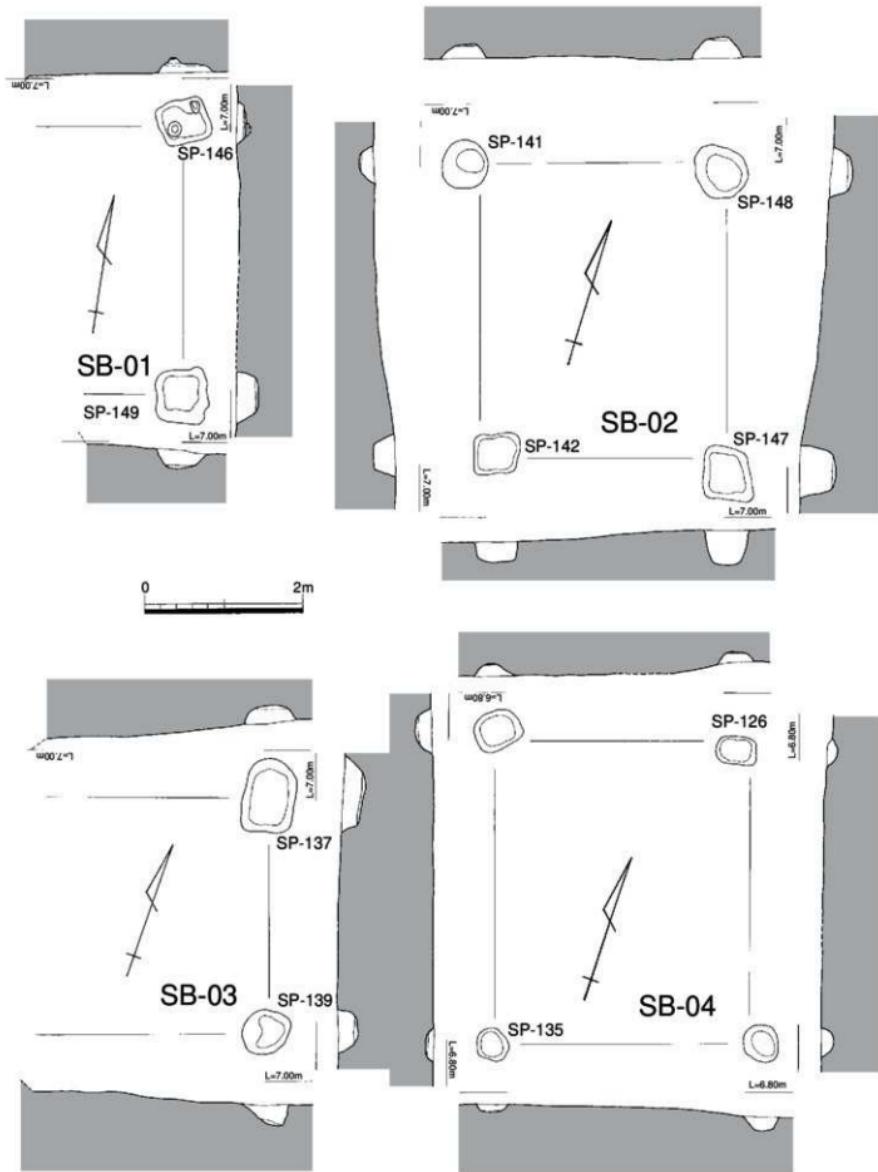


Fig.5 SB-01,02,03,04遺構実測図(1/60)

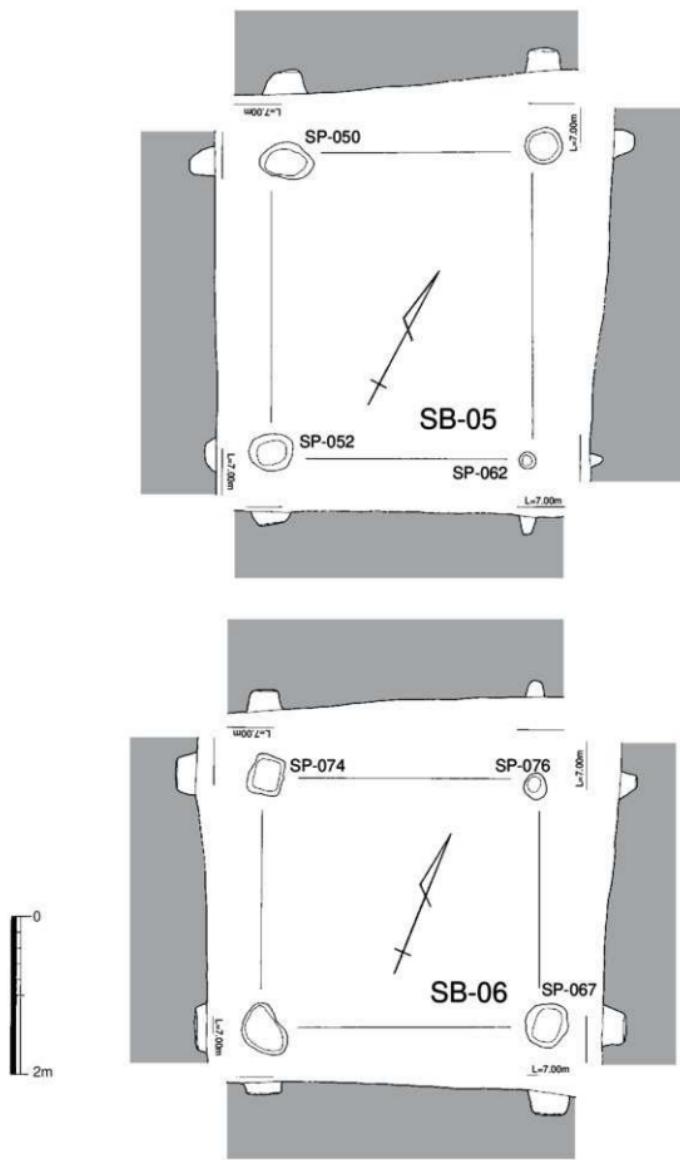


Fig.6 SB-05,06造構実測図(1/60)

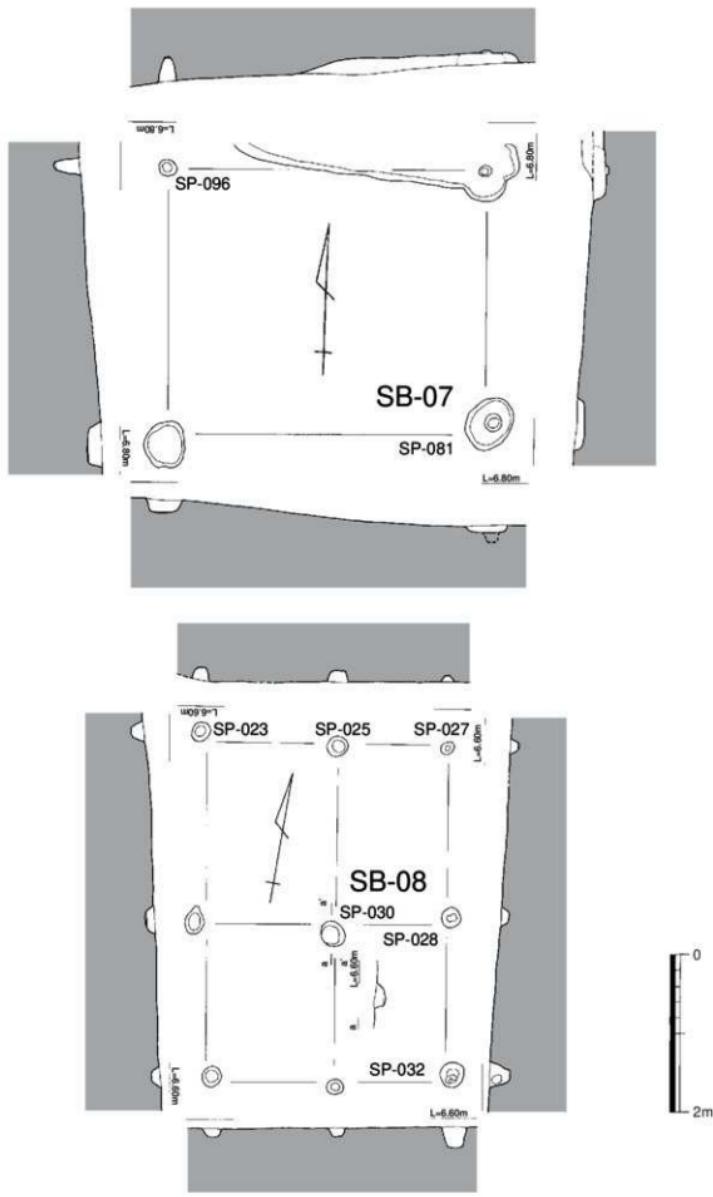


Fig.7 SB-07,08造構実測図(1/60)

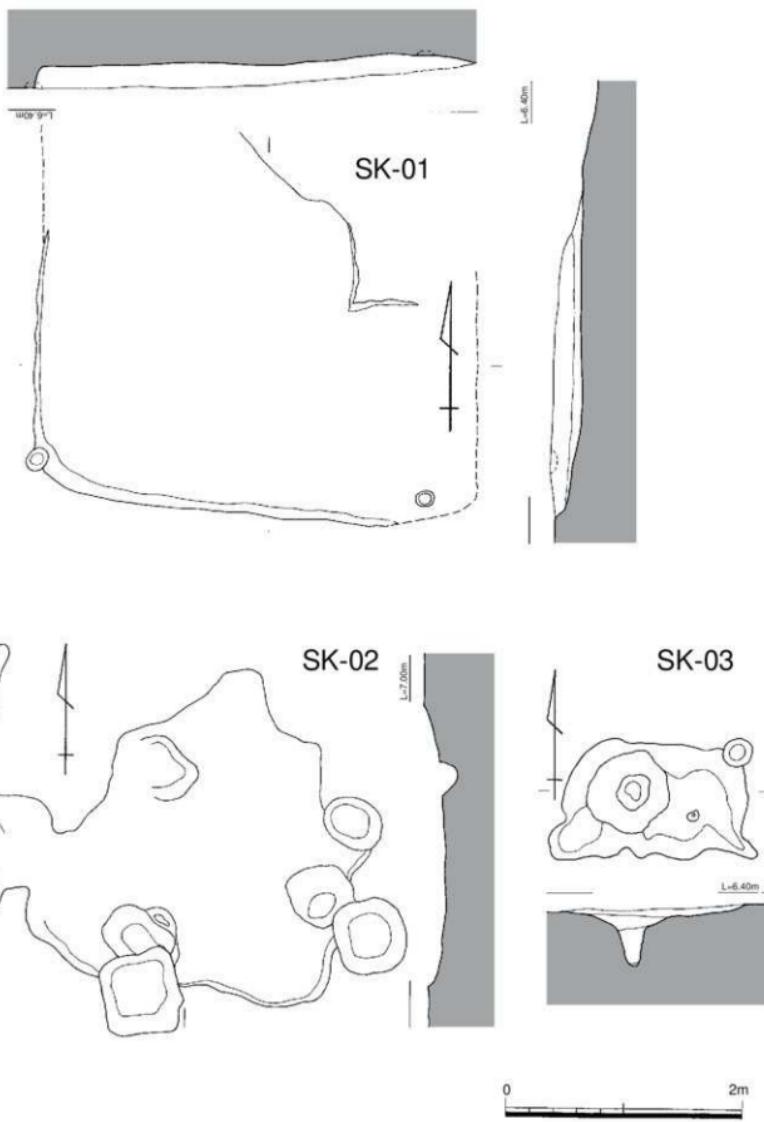


Fig.8 SK-01,02,03遺構実測図(1/40)

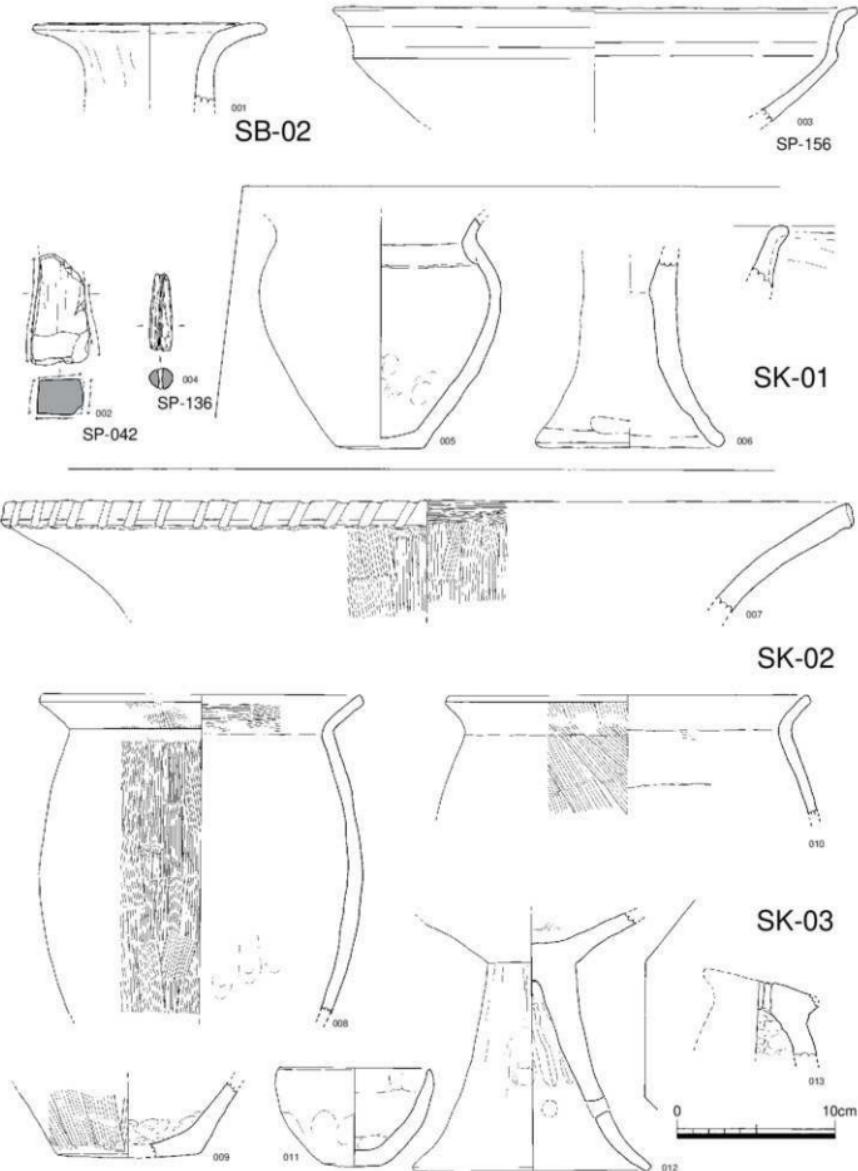


Fig.9 SP、SK出土遺物実測図(1/3)

SD-02

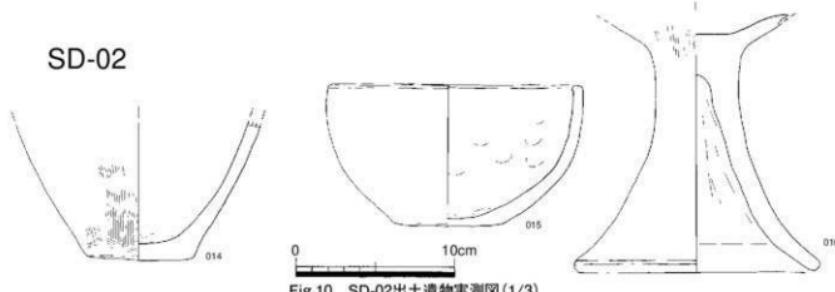


Fig.10 SD-02出土遺物実測図(1/3)

土壤 (SK)

今回の調査では、遺構検出作業において一定の範囲で地山と異なる土壤が確認された部分を土壤と呼称して掘削をおこなった。よってその中には決して人為的ではない、ある時期の地表面の埋込みのような性格のものも含まれる。この項では3基の土壤状の遺構を取り上げる。

SK-01 (Fig.8)

調査区や北寄りにて検出し、SB-07と切り合う。遺構の平面形は略方形を成すと考えられ、調査ではその一隅を確認した。残存深さは約25cmで底面もほぼ平坦であり、住居址の可能性を有する。しかし主柱穴など構造に関わる遺構は確認されなかった。出土遺物 (Fig.9、PL.11) には小型甕005、と支脚の破片006があり、これらから弥生時代後期前半頃の埋没と考えられる。

SK-02 (Fig.8)

調査区南端にて確認された平面不定形を呈する土壤である。長軸約3.5、短軸約3mの規模をもつ。遺構の底面も凹凸があり、残存する深さは約30cmである。出土遺物 (Fig.9、PL.11) は壺口縁片007、甕の各部破片008～010、鉢011、高环下部片012などがあり遺構の埋没時期は弥生時代後期後半から終末頃と考えられる。

SK-03 (Fig.8)

調査区北側、西寄りにて検出され、SB-08と切り合う平面不定形を呈する土壤である。長軸約1.5、短軸約1mの規模を有し、遺構西よりも一部ピット状に深くなってしまい残存する深さは約40cmである。出土遺物 (Fig.9、PL.11) は脊形支脚の破片013が出土しており、SB-08に切られると考えられる。

溝 (SD)

台地上にて確認された溝状遺構は1条のみである。

SD-02 (PL.1)

調査区北寄りにて検出認された。SK-01から谷方向へ蛇行しながら緩やかに流れる。確認できた長さは約11m、残存幅は最大25cm、残存する深さは約20cmで、断面はU字形を呈する。出土遺物 (Fig.10、PL.11) には甕底部片014、鉢015、高环脚016がある。遺構の埋没時期は遺物から弥生時代後期後半頃と考えられる。隣接する大塚遺跡の調査では、弥生時代後期後半から終末期にかけての同様な溝が竪穴住居や建物を囲むように複数確認されており、その性格の解明が待たれる。

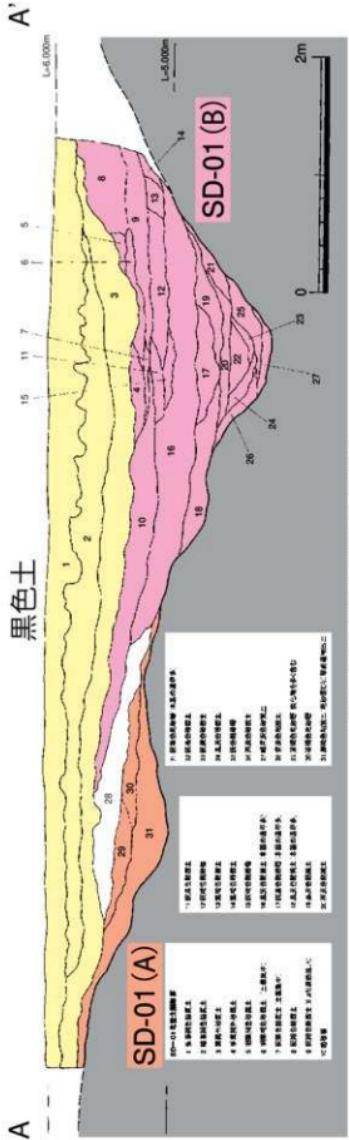


Fig.11 SD-01北壁土層堆積状況図 (1/40)

環濠（SD-01）

調査区の東端を南北方向に走る溝である。長さ約40mを検出した。この溝は北側で調査された第11次調査区において調査されており、複数の構が重複していることは第11次調査の土層断面観察から明らかであった。小規模な溝の掘り返しはあるが基本的には、ほぼ直線的に北流していた溝状遺構SD-01(A)を大規模に掘削しなおしてSD-01(B)を巡らせる構造をしている。その掘削は、集落の外周を緩やかに巡らせるかのように東側に湾曲させ、更に外周側に井泉を設設させている。この溝SD-01(B)掘削時に溝底面の地山である青灰色粘土が掘削され、前の溝を埋め込んでいることから溝の掘削が深く今まで及んだことが分かり、その土木工事の大規模な様相をうかがうことができる。

当初の溝SD-01(A)には祭祀用の土器が出土しており、その埋没時には既に五郎江遺跡には集落が存在していた。ただし、その溝が自然地形に起因する谷部の利用なのか、計画的に掘削された溝なのか、どの程度人為的な管理がされていたのかなど、環濠として機能していたかどうかを含めて、今区の調査成果では不明である。

最終的には、溝全面を黒色土が覆い完全に埋没している。特にSD-01(B)と全体を覆う黒色土との間には、大量の遺物の集中がみられた。調査時、SD-01(A)からは弥生時代中期末の遺物が含まれることより「弥生中期層」と呼称し遺物の取り上げを行ったが、後期の土器も含んでおり誤解を招くことを危惧し、この報告ではSD-01(A)と呼称する。また、SD-01(B)を調査時はSD-01と呼称していたものを呼びかけるものである。

溝の基本的層序は北側調査区壁のみの確認である。それ以外の箇所では環濠の本体であるSD-01(B)が東側調査区外へと振っているため、確認できていない。だが、掘削に伴う土質の変化から判断してSD-01(A)、SD-01(B)、黒色土の基本的な層位関係に変化はみられないと考える。ただ、溝という遺構の性格もあり、各層位内の砂層と粘質層などの堆積変化は著しい。

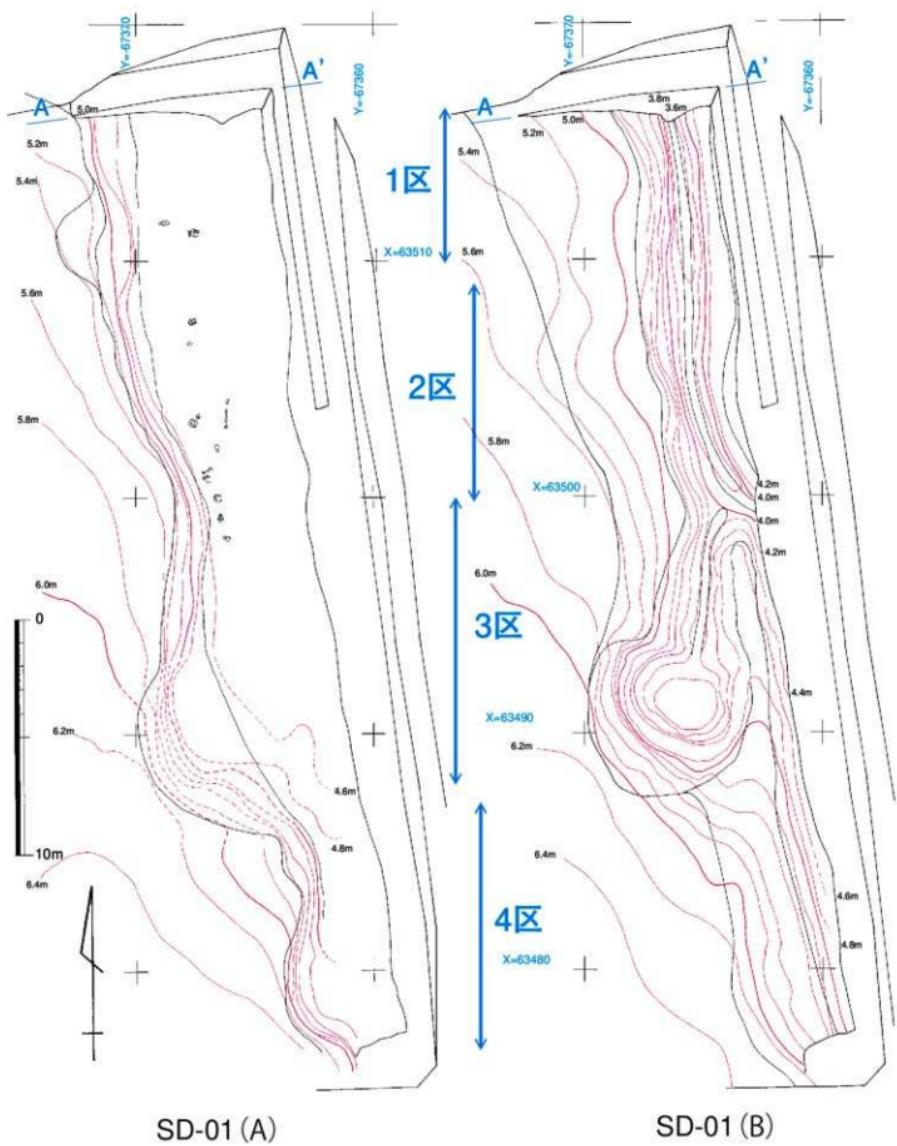


Fig.12 SD-01(A),(B)位置図(1/200)

SD-01(A)

断面の観察で確認された最も古い溝状の遺構である。人為的に掘削されたものか、自然の谷状のものかは判断できていない。SD-01(B)に切られ、西側肩部を検出するのみで、当初の深さや幅などの規模は不明である。(A)の上面には(B)掘削時に跳ね上げられたと考えられる地中下層にみられる青灰色粘土の層が確認された。

出土遺物(Fig.13~24, PL.11~16) 017~022は鋤先口縁の壺である。丹塗りの範囲には、外面全体に及ぶものと外面上部のみに限られるなど差異が見られる。023は丹塗りの広口壺で、頸部外面に縱方向の研磨調整が見られる。024は素口縁の壺である。頸部と胴部の境に断面三角形の突帯が巡る。025~029は丹塗磨研の長頸袋状口縁壺である。030は頸部が短く太い袋状口縁壺である。頸部にはハケメ調整が見られ、丹塗りは施されていない。031~034は丹塗磨研の壺である。031は外面にのみ丹塗りを施し、胴部に外側からの穿孔が見られる。035~040は器壁外面にハケメ調整が見られる壺である。035の底部には外面からの焼成後穿孔が見られる。041~052は蓋形土器である。052は小型で歪みが著しい。053, 054は壺で、後者には外外面丹塗りがされている。055~065は鉢、塊形土器である。059, 061, 062は丹塗りが施され、063の底部は穿孔されている。066~070は高坏である。066の口縁部は打ち欠きか。069は外外面丹塗りで脚上部は中実である。071, 072は丹塗りの蓋であり、2対計4穴の穿孔が見られる。073, 074は丹塗りの短頸壺であり、073の口縁部には2対計4穴の穿孔が見られる。075は丹塗りの脚付短頸壺である。口縁部に穿孔が見られる。076は注口付き鉢、半島系か。077は長胴の壺である。底部が外に張り出す器形を呈しており、生産地や時期は不明である。078は半島の影響がある壺か。079は鉢、080, 081は壺の底部、082, 083は塊、084, 085は壺。086の外面には格子目タタキ痕が見られ、三韓系土器の広口壺または壺の破片と考えられる。087は脚付土器の脚部破片、088, 089は手づくねミニチュア土器、090は滑石製の投弾、091は土製の投弾、092は土器の転用による筋鉢車の未製品と考えられる。093~100は支脚である。101~105は器台である。106, 107は打ち欠きの石錘。108, 109は中央に円形孔をもつ石錘である。110は大型蛤刃石斧片、111は敲石、112は磨製石鎌の破片と考えられる。113は繩文時代の石匙、114は磨製石包丁の破片、115は紡錘車。116は用途不明の球形を呈する磨石、117は手持ち用の砥石、118は磨製石剣の破片と考えられる。

調査時には、西肩部に壺017, 018, 020, 024、袋状口縁壺025, 026, 027、高坏066、脚付短頸壺075、鉢079の各遺物が廃棄された状態で確認された(Fig.12, PL.9)。丹塗磨研の祭祀土器が主体となって出土している。

SD-01(B)

今宿五郎江遺跡を囲むように巡り、環濠と考えられている溝である。今回の調査範囲内では、SD-01(B)の本体が東側調査区外へと延びるため、その全容は不明である。敷設されている井泉との関係は、堤をオーバーフローした井泉内の水は排水路を通って環濠に流れ込み、水は環濠内を北方向にスムーズに流れるようにつくられており、環濠の掘削下端は井泉の排水路が連結する部分を意識して屈曲させていることからも、井泉はSD-01(B)掘削当初から計画的に敷設させていたものと考えられる。

出土遺物(Fig.25~27, PL.16~18) SD-01(B)と井泉からは多くの木製遺物が出土している。木製品については別項を設ける。119, 120は壺の底部片、121は下層から出土した丹塗り素口縁壺である。122は長胴の壺、123, 124は下層から出土した小型壺、125, 128は鉢、126の壺外面には丹塗りの痕跡が見られる。127は口縁下に穿孔がある下層出土の短頸壺である。129, 130の鉢底部に穿孔が見られる。129は焼成前、130は焼成後の穿孔である。131~139は鉢・塊である。133は外外面丹塗りである。140は台付き壺、141, 142は高坏である。142の脚上部は中実になっている。143, 144は壺である。145, 146は器台、147は支脚である。148~158は蛇文岩、滑石製の石錘である。滑石を素材に小型で精緻につくるもの、博多湾型と呼称される長卵形につくるもの

などが見られる。159,160は打ち欠きの石錘である。161は砥石、162～164は石製紡錘車、165は石包丁片、166は用途不明の骨角器である。179は暗緑色を呈するガラス管玉である。

井泉

井泉の内側上面には多くの土器が堆積しており、中下層には土器に混じって多くの木製品が出土している。その様相は、SD-01(B)が埋没を始めた後もその機能を失わず、幾度かの掘り返しが行われて存続していたと考えられる。堤状造構の構造は強固なもので、4枚以上の大型板状アカガシ材を数本の縱杭により立たせ、その裏ごめには粗砂をもって構築していた。また、水の流れに平行して堤を補強するかのように先を杭状に尖らせた部材が數本配置されていた。その裏ごめ部からはガラス小玉、鉄鎌、貨泉が出土しており、祭祀に伴う埋納の可能性が考えられる。

ここでは井泉の堤状造構の裏ごめから出土した遺物と井泉内から出土した遺物を分けて記述する。また、井泉内出土の木製品については別項にて記述する。

井泉裏ごめ出土遺物(Fig.28,29,PL.19) 167は鍔先口縁の壺、168は広口の壺でどちらも丹塗りが施されている。169は口縁が屈曲し、ハケメ調整が見られる壺である。170,171は器台であり、170は口縁端部が内湾する。172は大型鉢である。173～175は紡錘形、長卵形の石製錘、176は石錘の末製品と考えられるもので、荒加工のままである。177は中央に円孔をもつ石錘である。178は濃緑色を呈するガラス製小玉である。180は貨泉、181は鉄鎌である。刃を下にして基部を左側から巻き上げる方法でつくられている。井泉敷設には大きな掘削を伴ったはずであり、前時代遺物の混入が容易であったと考えられる。

井泉内出土遺物(Fig.31～35,PL.20～22) 182,183は大型壺である。182は口径52.0cm、183の口径は44.2cm、器高61.0cmである。184～190は壺である。底部の形状には平底のものと、凸レンズ状を呈するものがある。191の丹塗り磨研小型壺と192の無頸壺は井泉下層から出土した。193～197は壺である。198は小型壺、199は鉢、200の高坏脚部には3ヶ所の穿孔がある。北四国地域からの搬入品か。201～203は脚付き土器である。脚部の径はそれぞれ16.5,19.0,12.8cmである。204は多孔式瓶の破片、205は水銀朱の付着する広口口皿の破片である。(p62参照) 206は器高10.2cmの鉢、207は直径7mmのガラス玉、208は安山岩製石包丁、209,210は石製紡錘車とその未製品と考えられる。211は緻密なミガキと凹線文が見られる搬入品と思われる高坏脚である。212～219は器台である。器面調整には指圧痕、ハケメ、平行タタキなどが見られる。器高は12.5～23.5cmである。220～224は支脚である。器高は8.3～16.4cmである。225,226は脛形支脚である。226の外面には平行タタキによる調整が見られる。

4区土器溜まり

SD-01(B)と全体を覆う黒色土の間に、土器が面的に集中堆積している部分がみられた。

出土遺物(Fig.36～39,PL.22,23) 227は大型壺である。口径39.0、器高51.4cmである。228～231は壺である。口径はそれぞれ36.7、29.0、22.7、19.0cmである。232は器壁が直立する鉢、233は底部内面から焼成前穿孔がされた有孔鉢。234はミニチュアの壺形土器、235～238は鉢・壺である。238の鉢は丸底である。239は台付き壺で、口径21.7、器高27.8、脚部径18.0cmである。240は口縁部に凹線文と円形浮文がみられる広口壺である。畿内からの搬入品と考えられる。241,242は高坏である。242は破片であるが注口付きか。243は台付き鉢、口径19.0、脚径12.8、器高12.4cmである。244は水銀朱精製に関わると考えられている広口口皿の把手部である。器壁からは水銀朱が検出された(p62参照)。245の外側調整には細かい縱方向のタタキの後、細い凹線が見られる。半島系の土器片と考

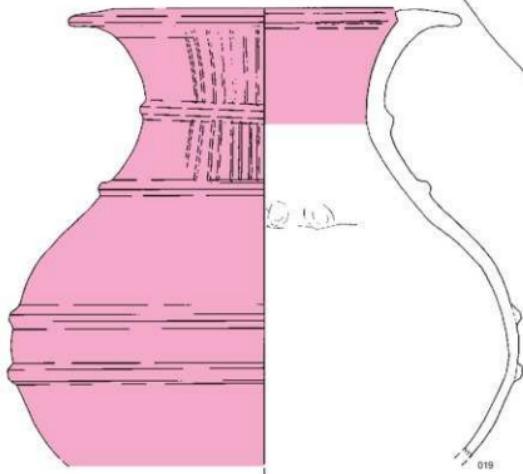
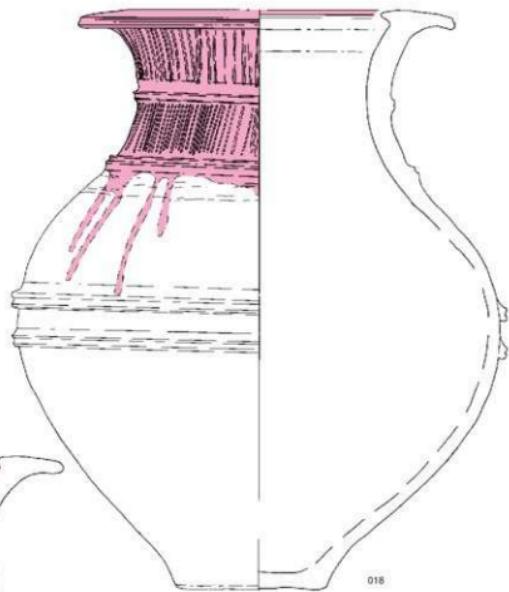
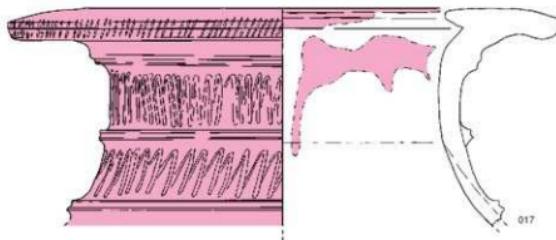


Fig.13 SD-01(A) 出土遺物実測図(1/3)

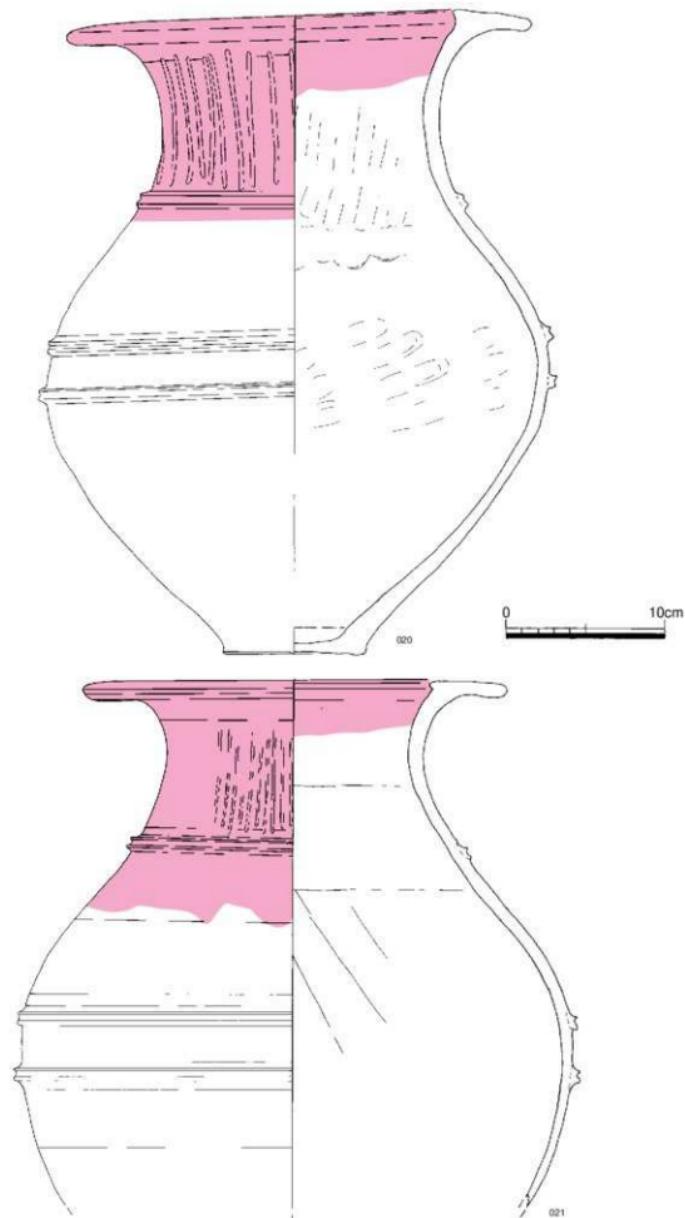


Fig.14 SD-01(A) 出土遺物実測図(1/3)

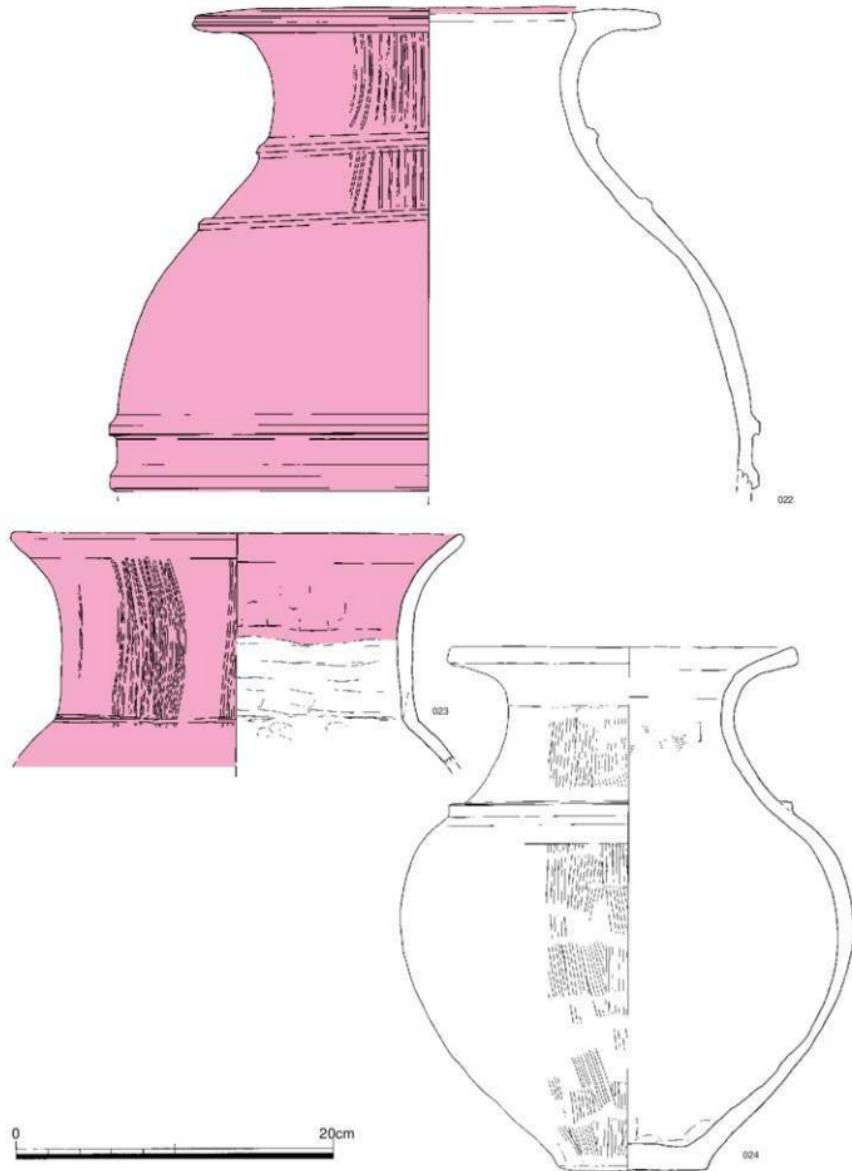


Fig.15 SD-01(A) 出土遺物実測図(1/3)

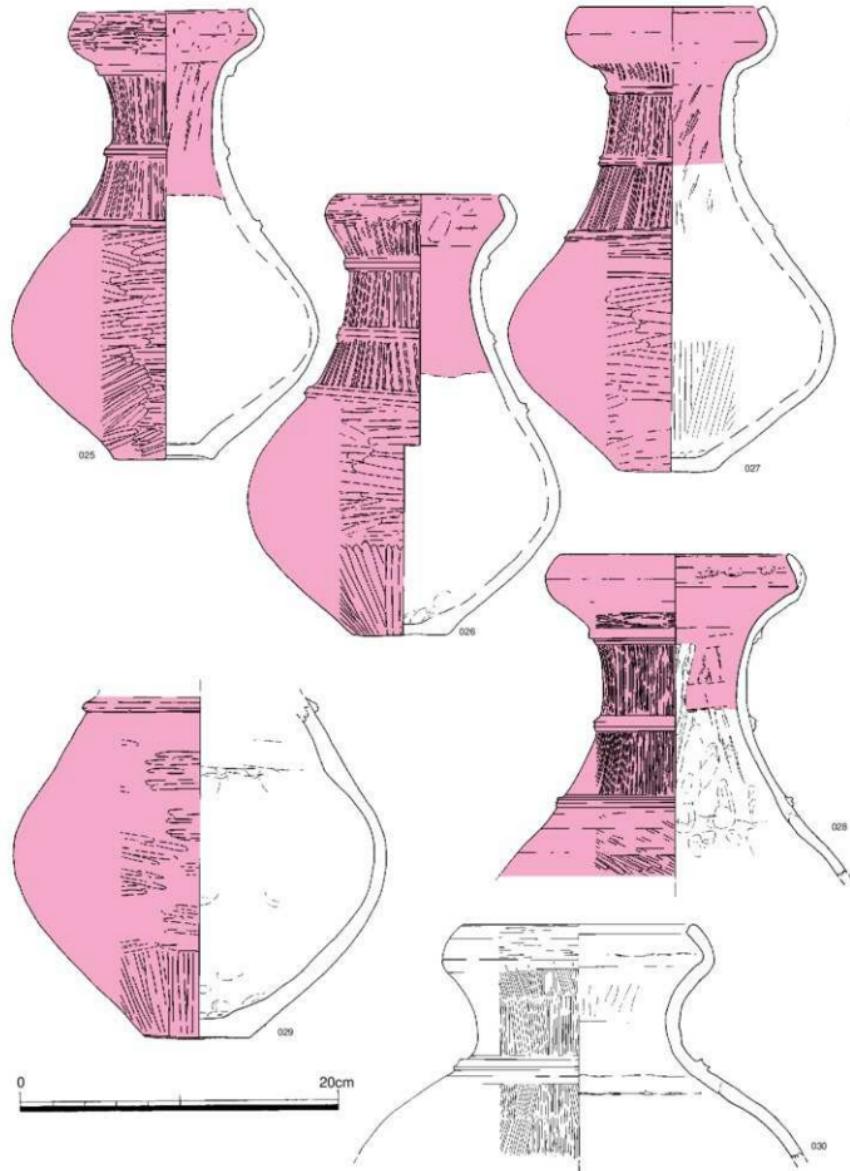


Fig.16 SD-01(A) 出土遺物実測図(1/3)

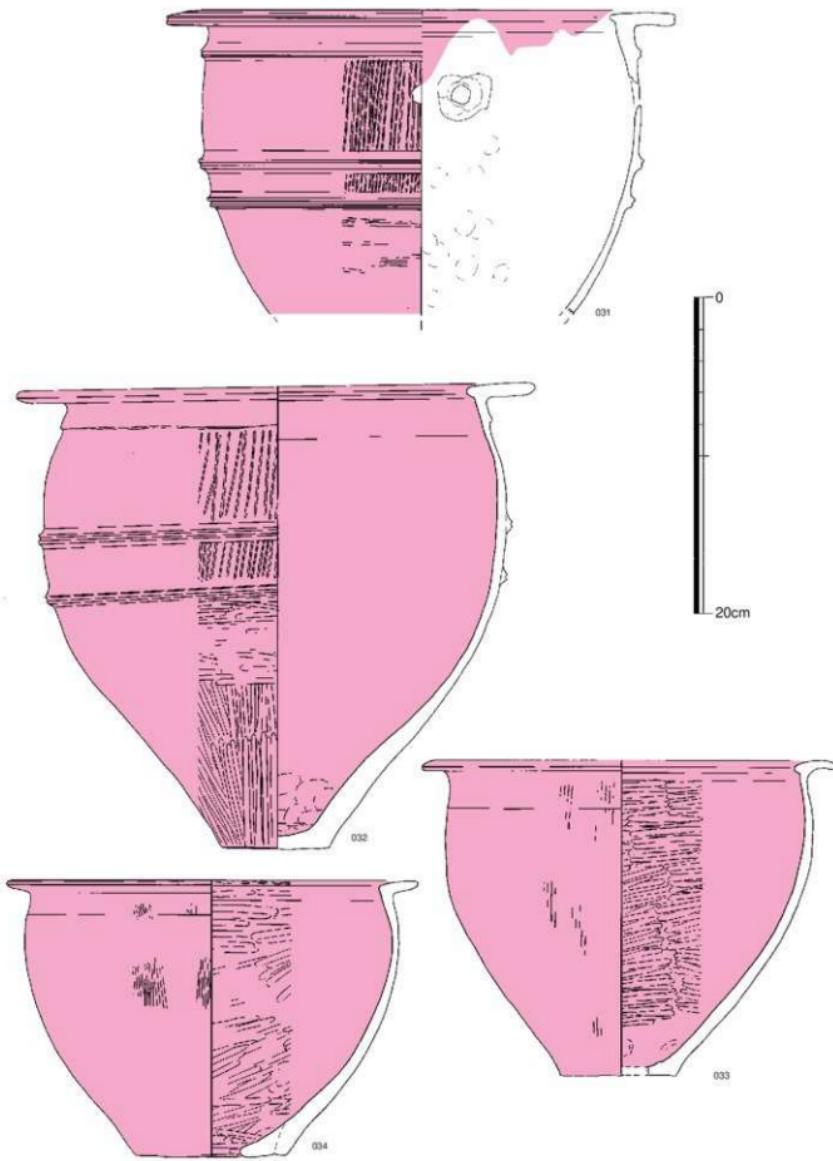


Fig.17 SD-01(A) 出土遺物実測図(1/3)

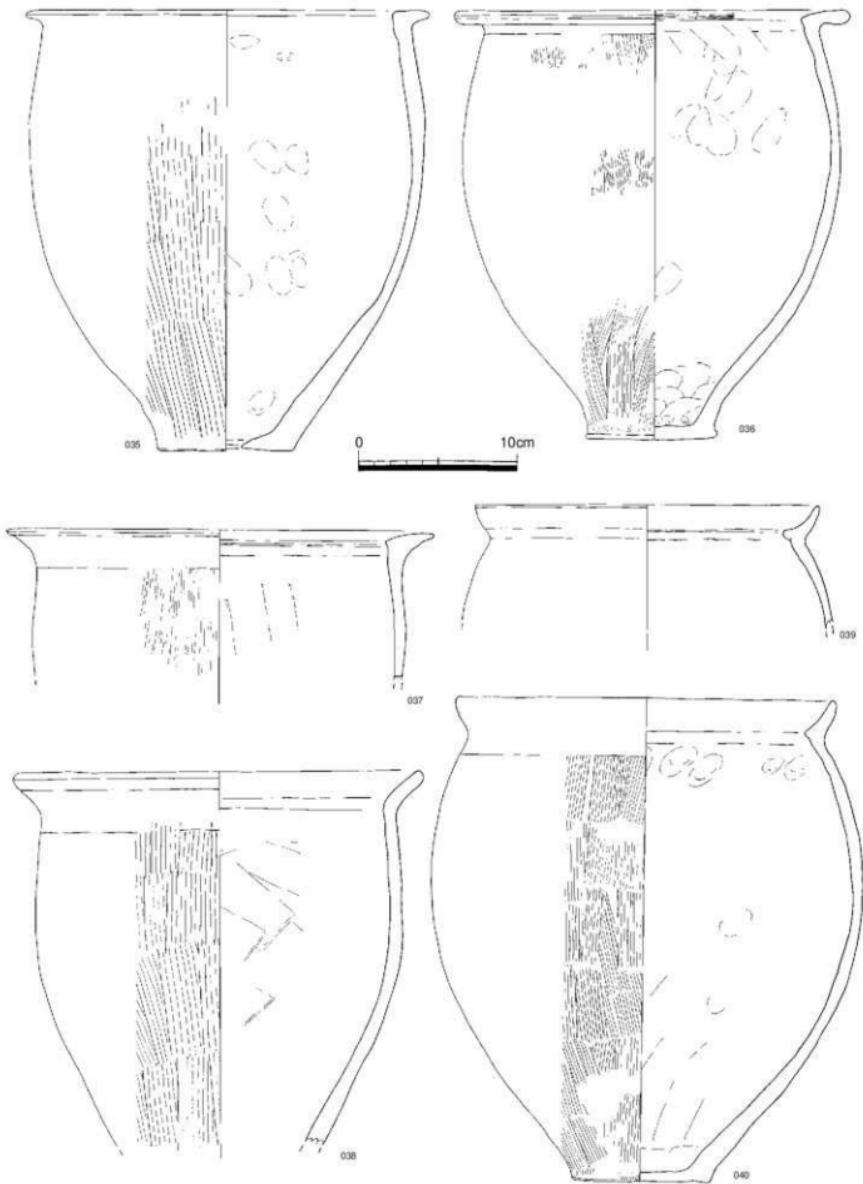


Fig.18 SD-01(A) 出土遺物実測図(1/3)

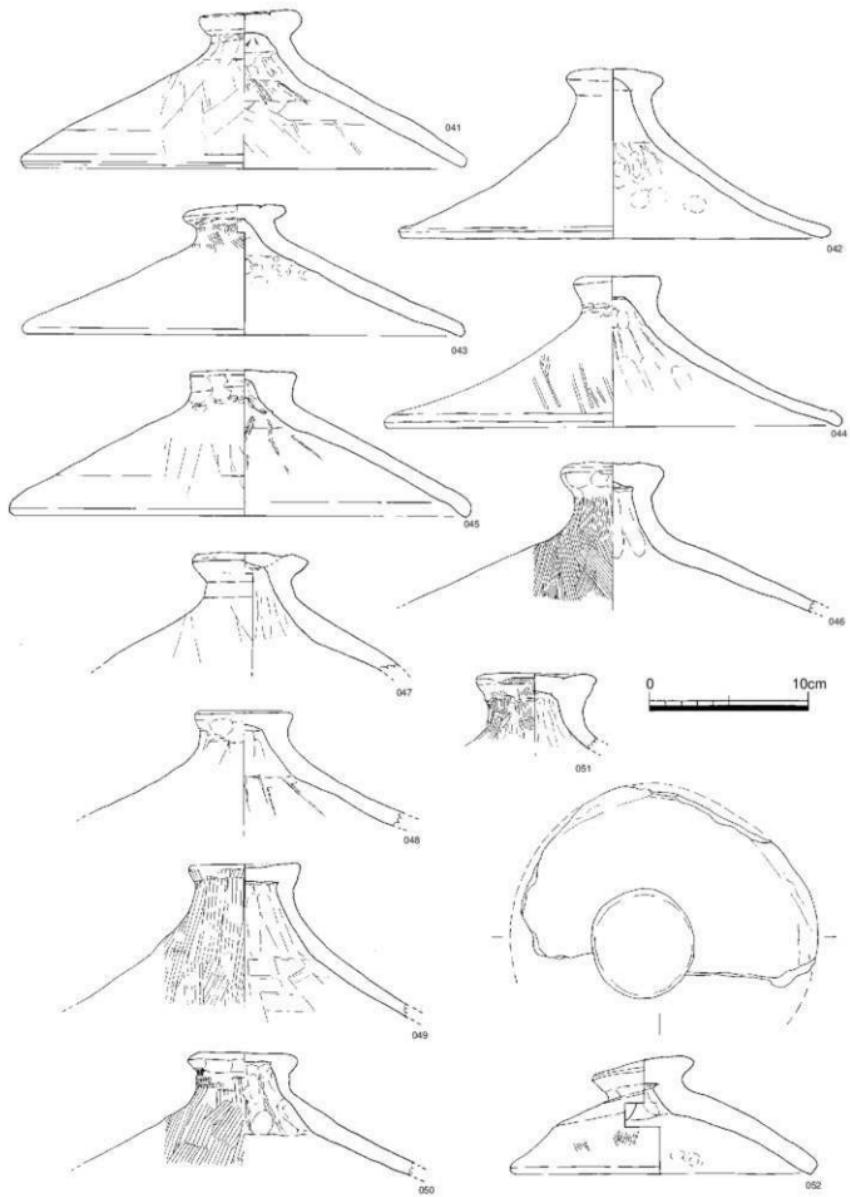


Fig.19 SD-01(A)出土遺物実測図(1/3)

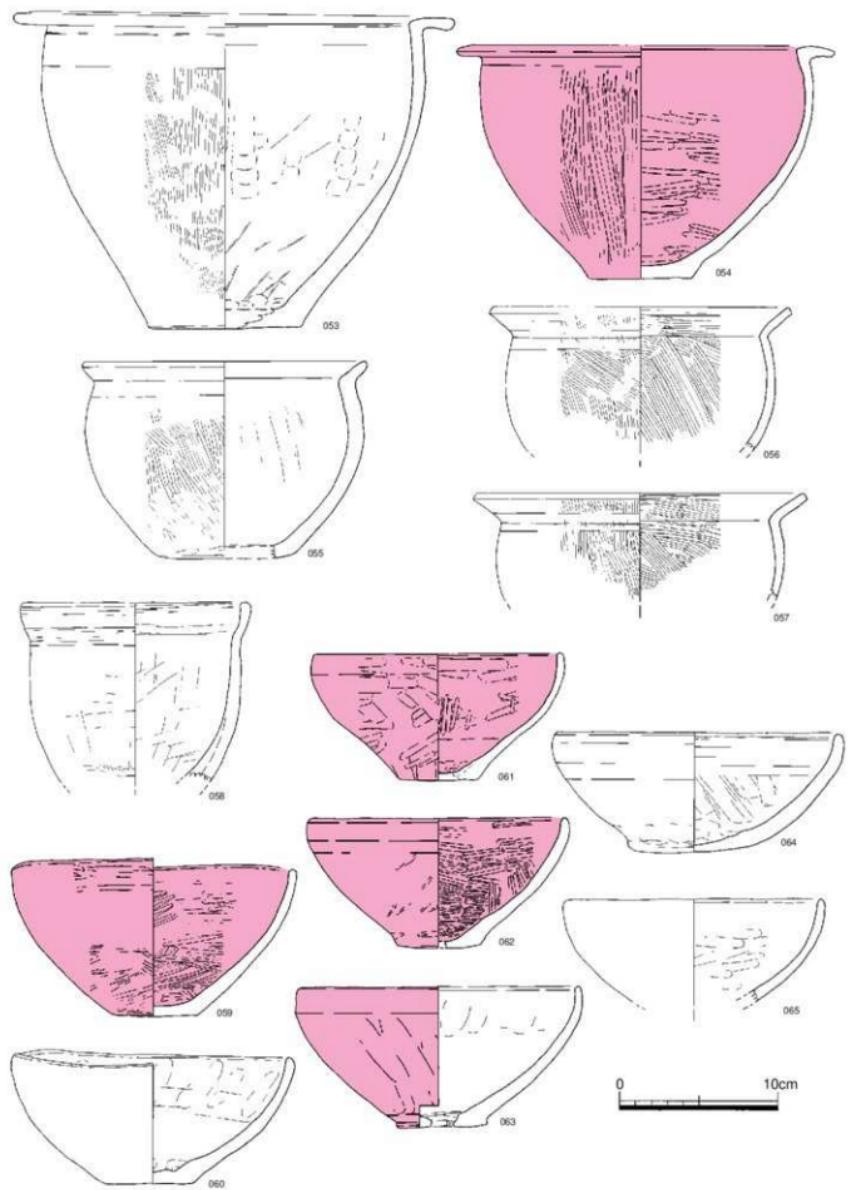


Fig.20 SD-01(A) 出土遺物実測図(1/3)

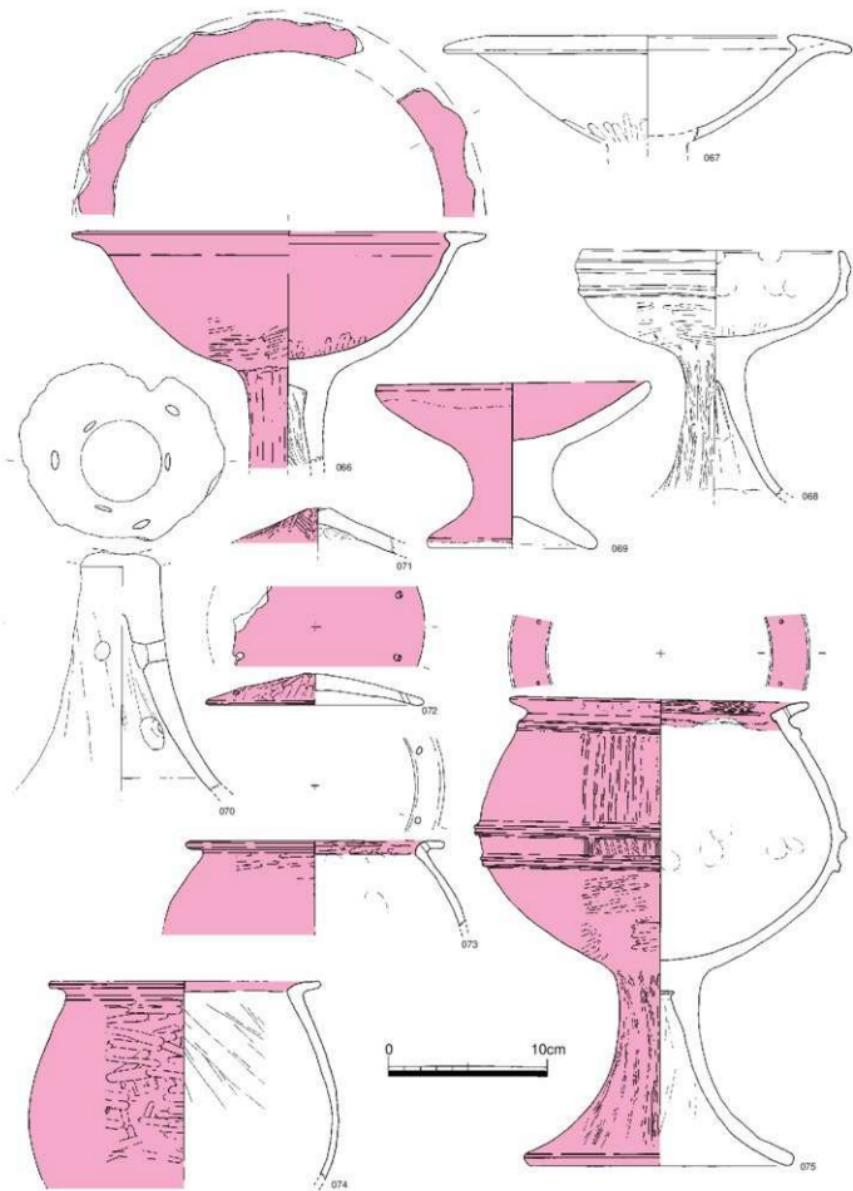


Fig.21 SD-01(A) 出土遺物実測図(1/3)

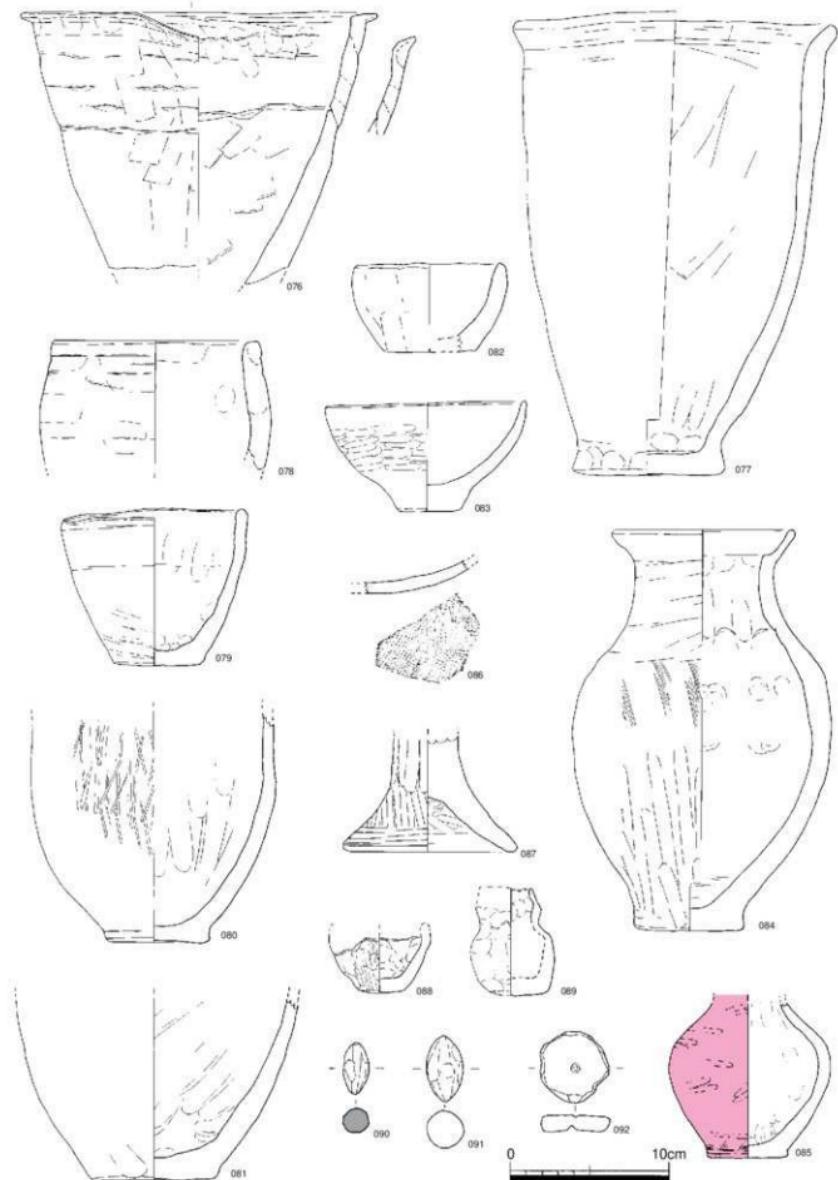


Fig.22 SD-01(A) 出土遺物実測図(1/3)

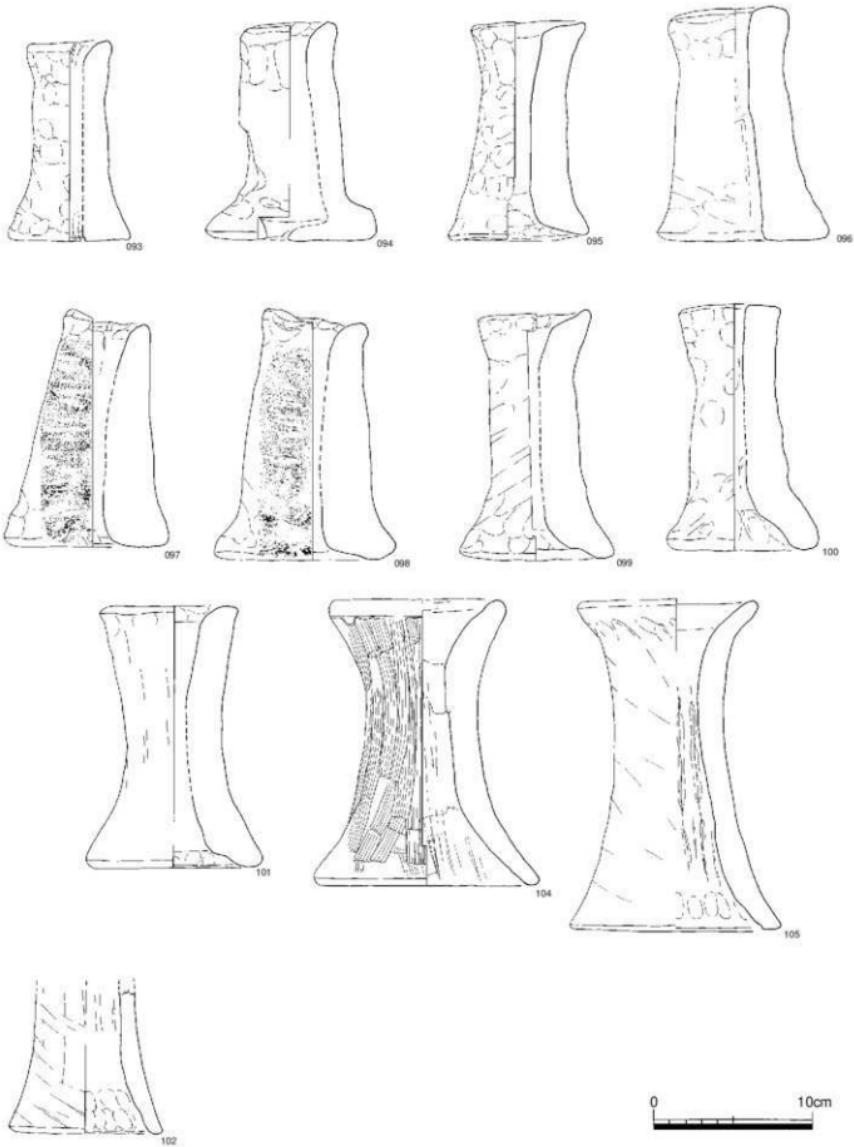


Fig.23 SD-01(A) 出土遺物実測図(1/3)

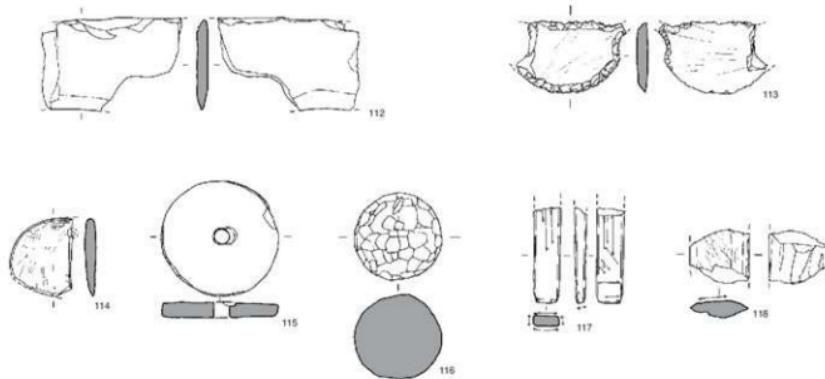
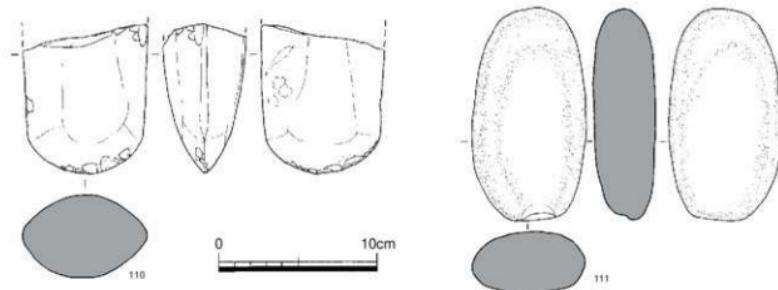
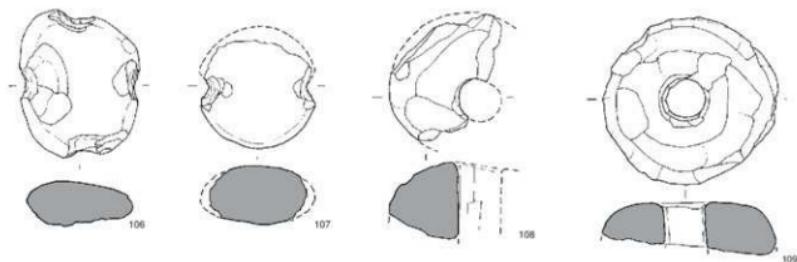


Fig.24 SD-01(A) 出土遺物実測図(1/3)

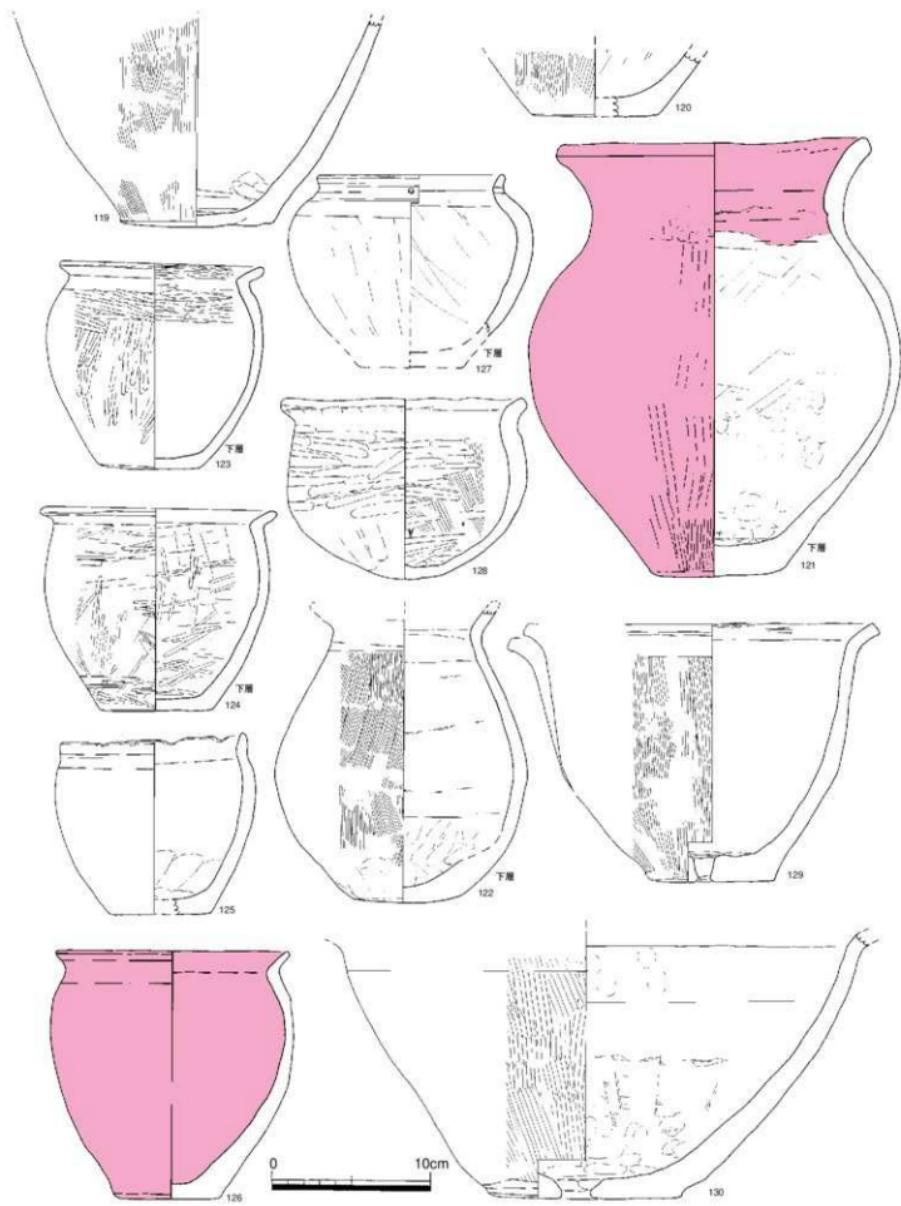


Fig.25 SD-01(B)出土遺物実測図 (1/3)

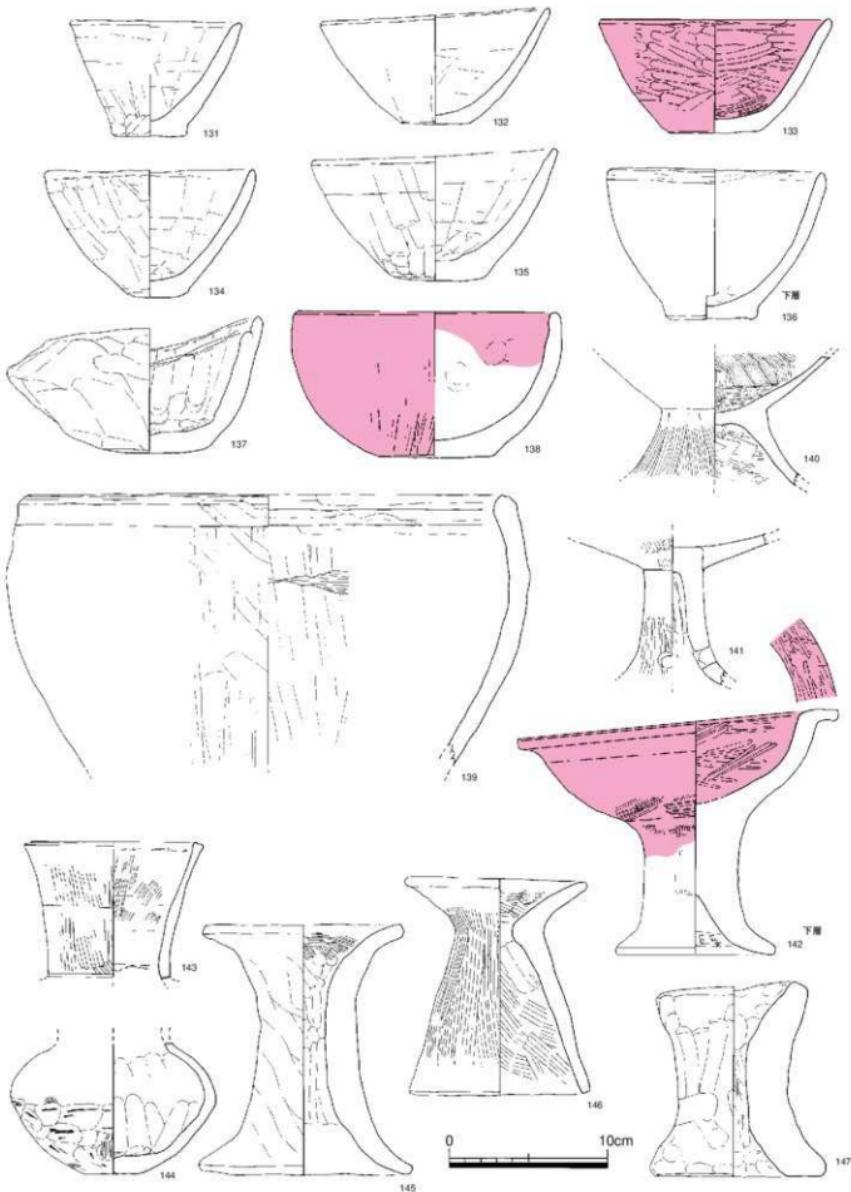


Fig.26 SD-01(B)出土遺物実測図 (1/3)

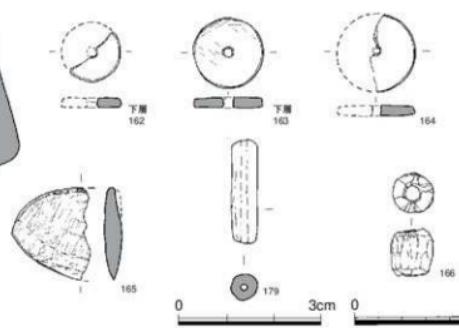
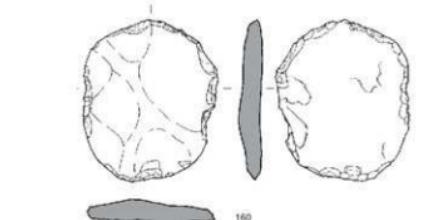
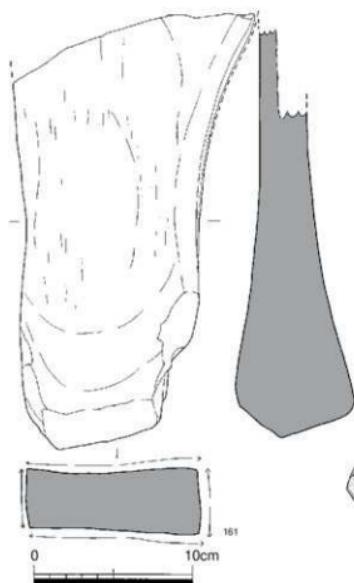
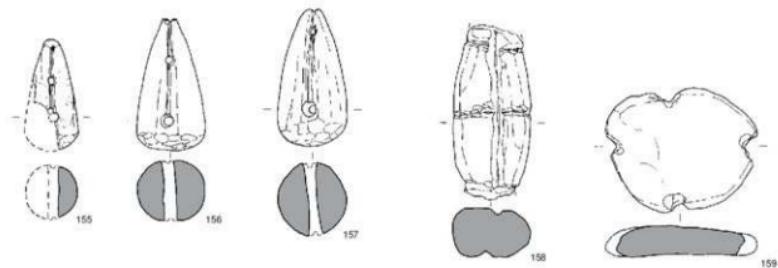
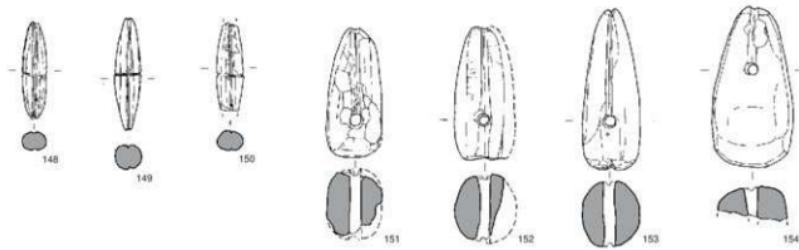


Fig.27 SD-01(B) 出土遺物実測図 (1/1),(1/2),(1/3)

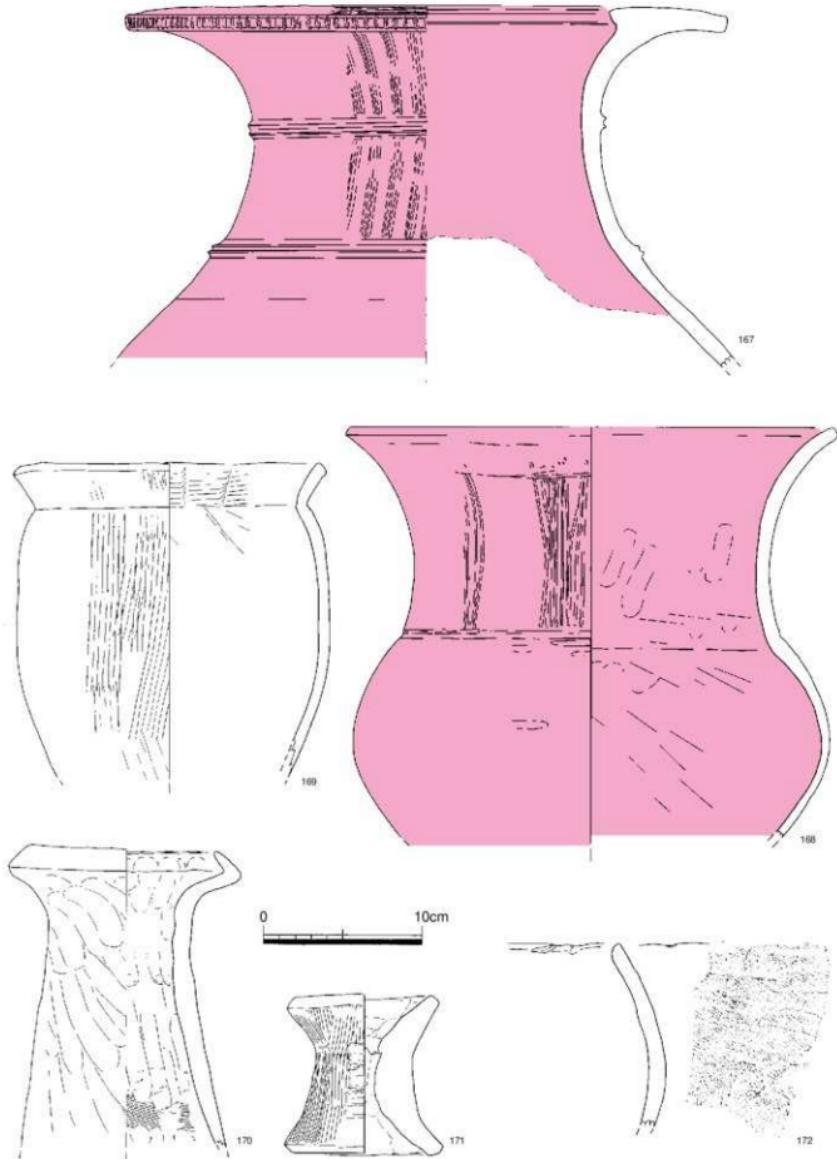


Fig.28 井泉裏ごめ出土遺物実測図(1/3)

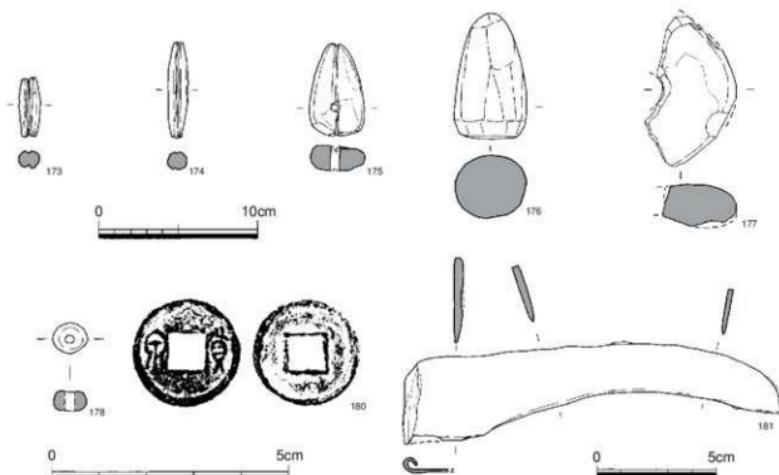


Fig.29 井泉裏ごめ出土遺物実測図(1/1),(1/2),(1/3)

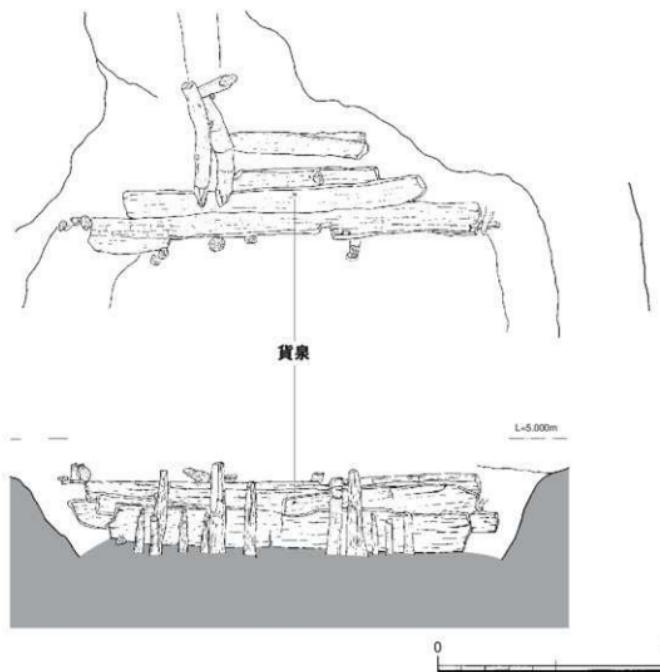


Fig.30 井泉検出状況実測図(1/40)

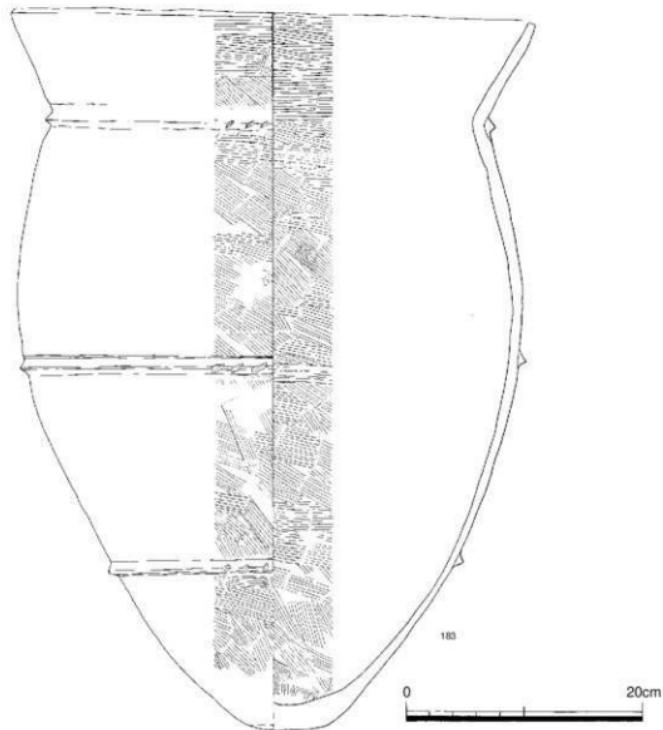
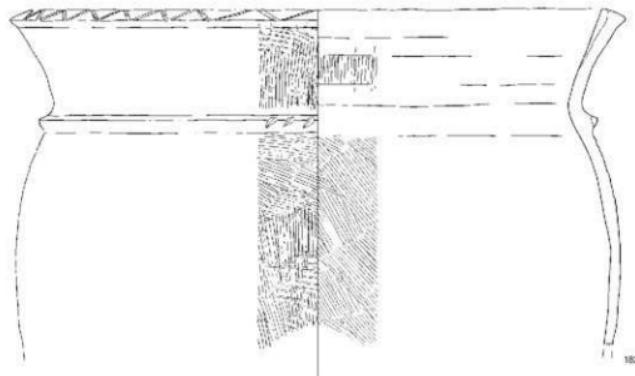


Fig.31 第3区井泉内出土遺物実測図(1/4)

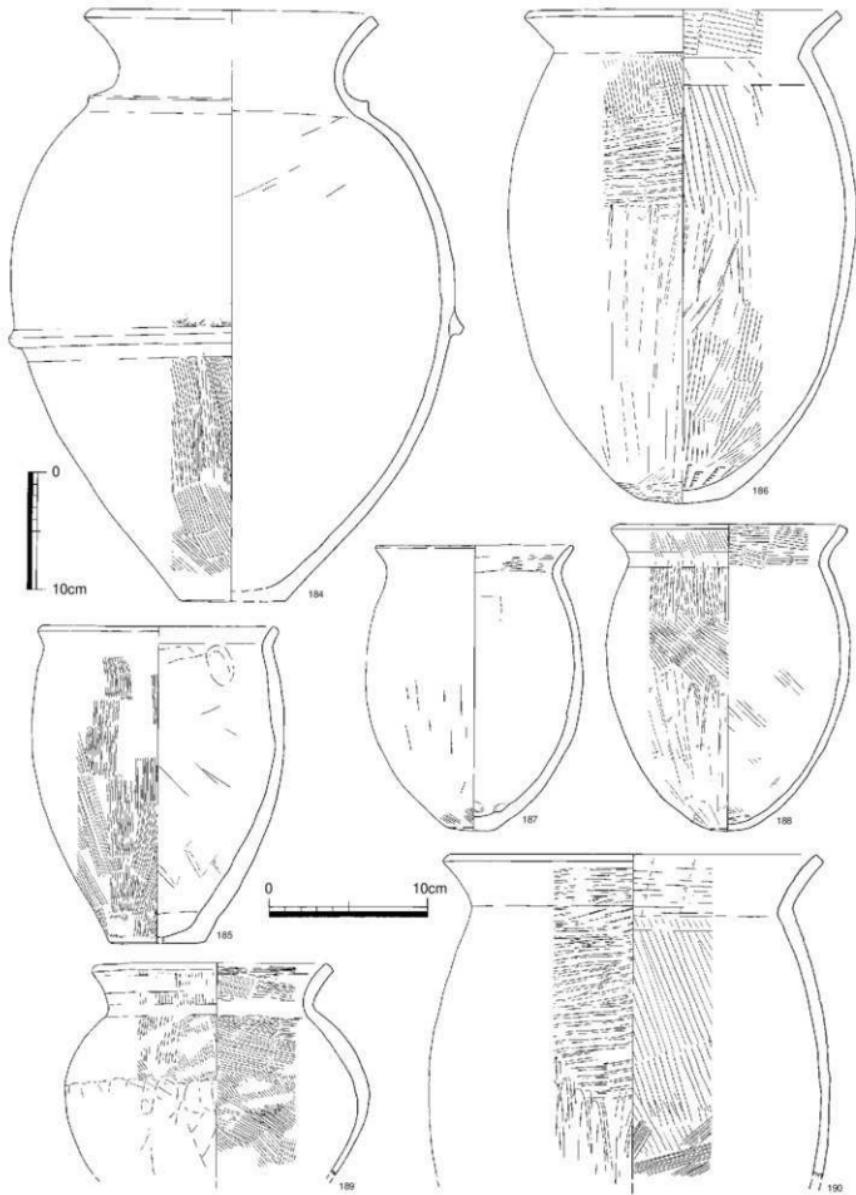


Fig.32 第3区井泉内出土遺物実測図(1/3),(1/4)

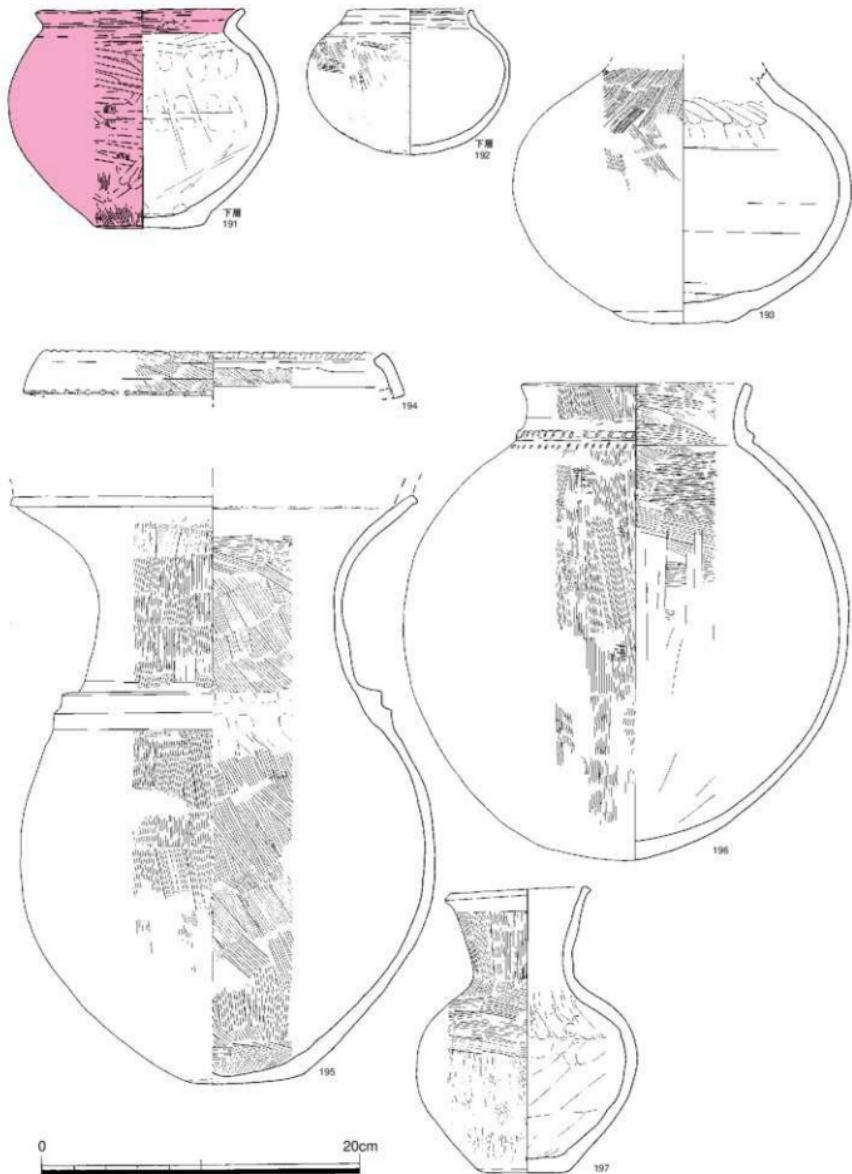


Fig.33 第3区井泉内出土遺物実測図(1/3)

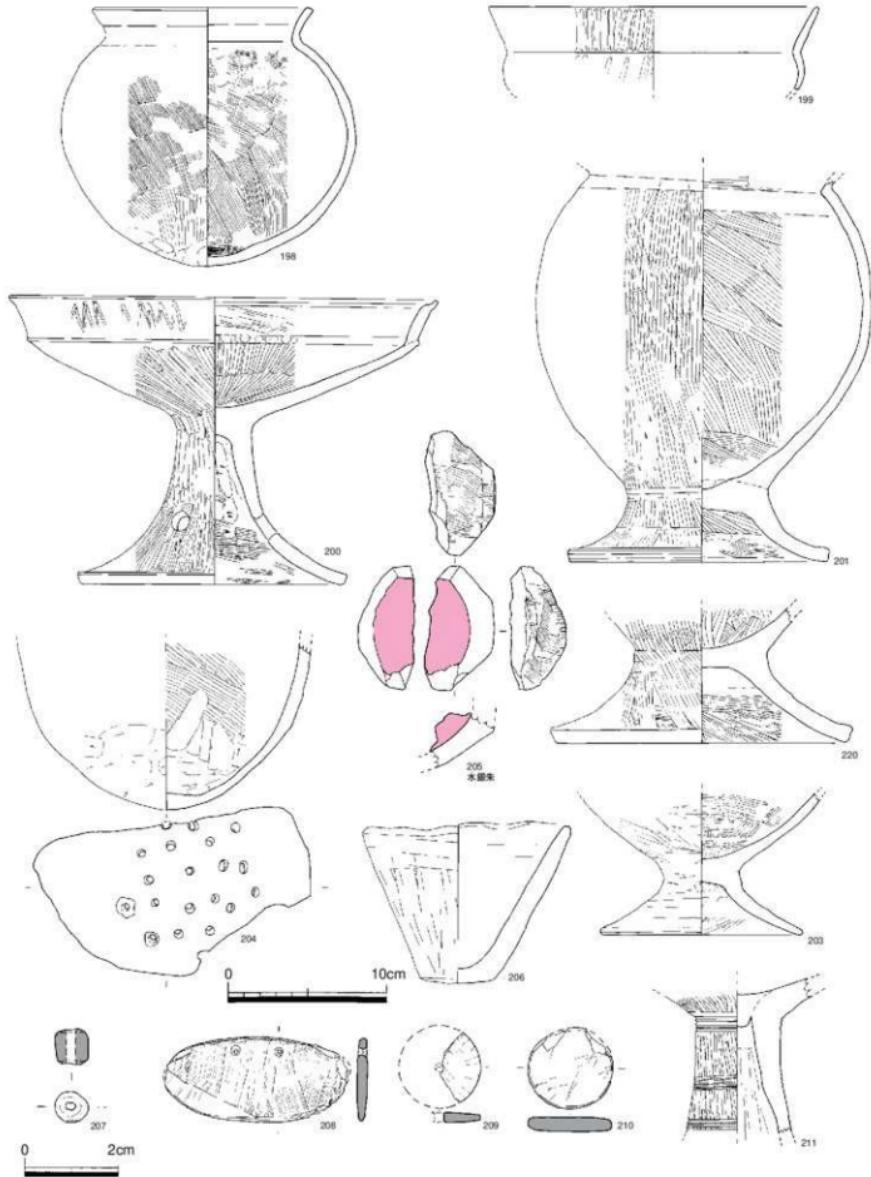


Fig.34 第3区井泉内出土遺物実測図(1/1),(1/3)

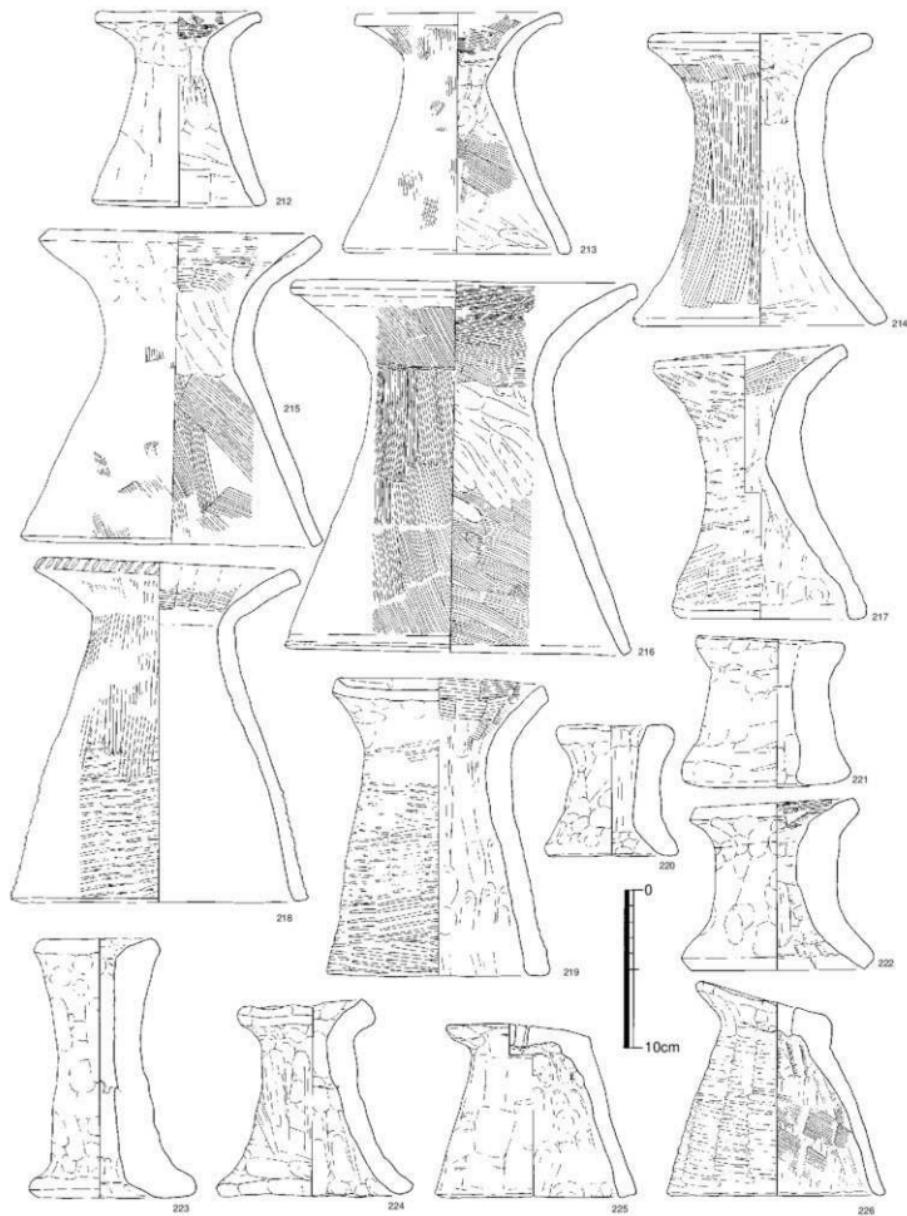


Fig.35 第3区井泉内出土遺物実測図(1/3)

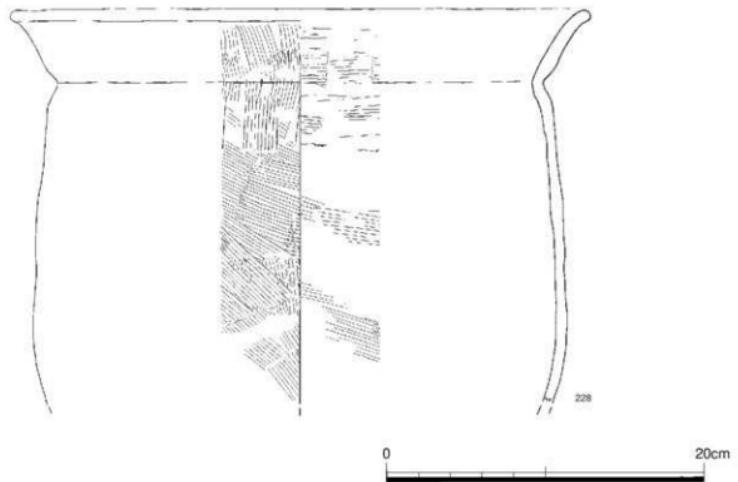
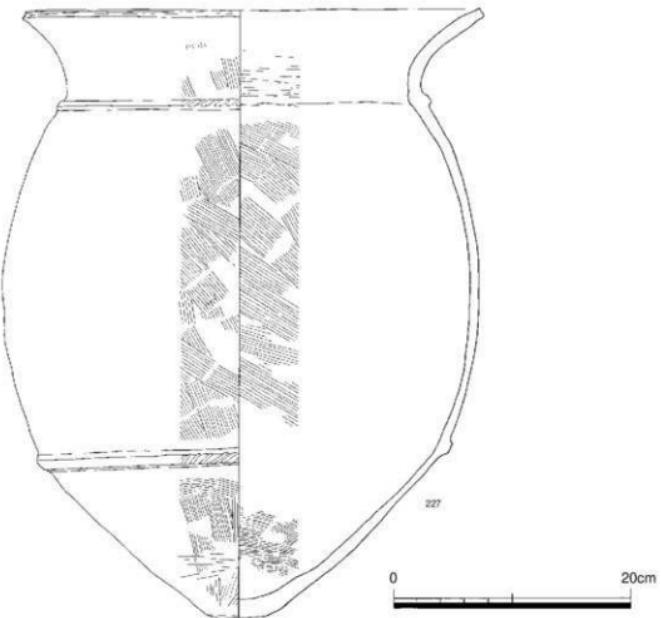


Fig.36 第4区土器溜まり出土遺物実測図(1/3),(1/4)

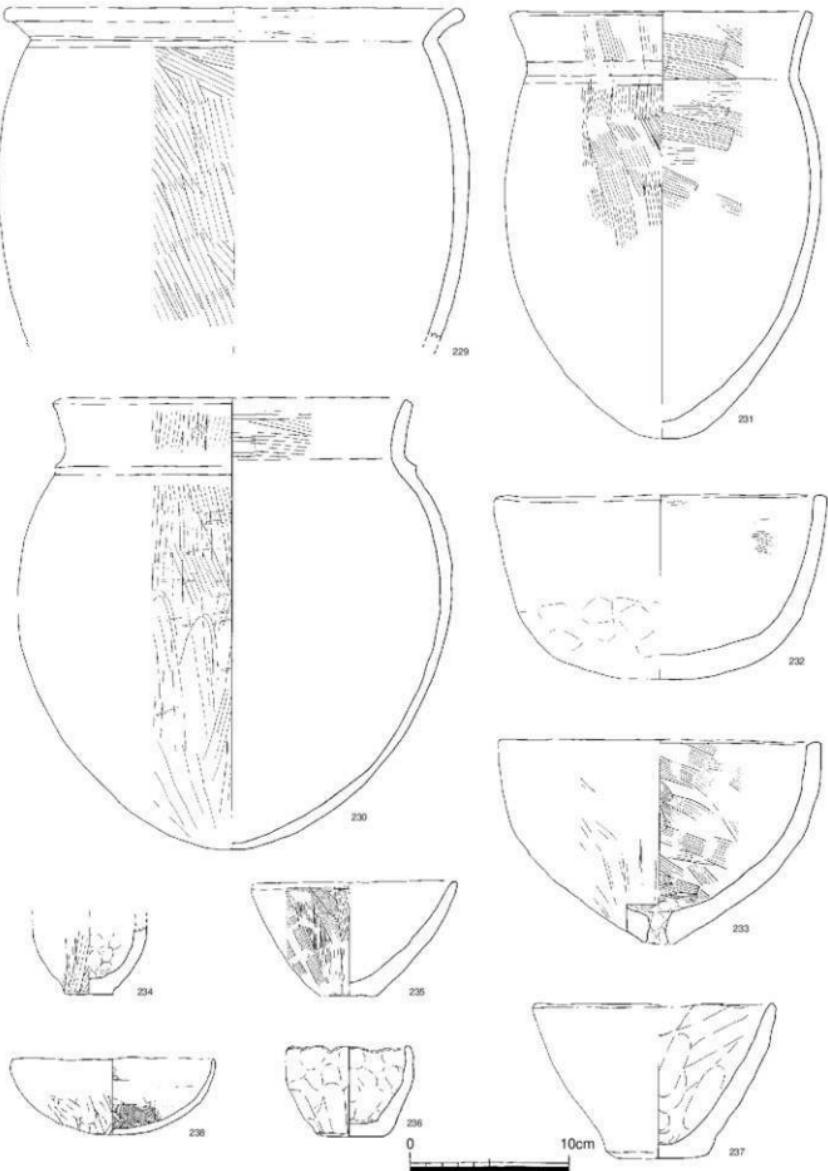


Fig.37 第4区土器溝まり出土遺物実測図(1/3),(1/4)

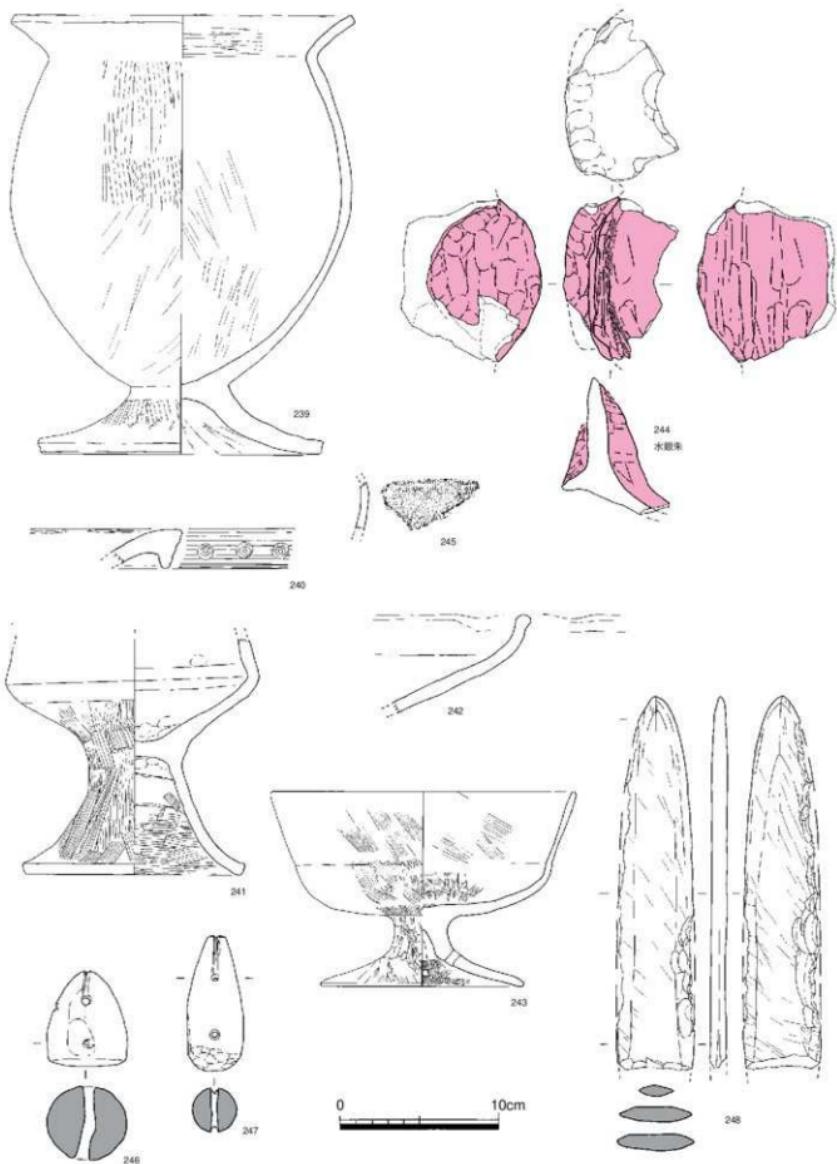


Fig.38 第4区土器溜まり出土遺物実測図(1/3)

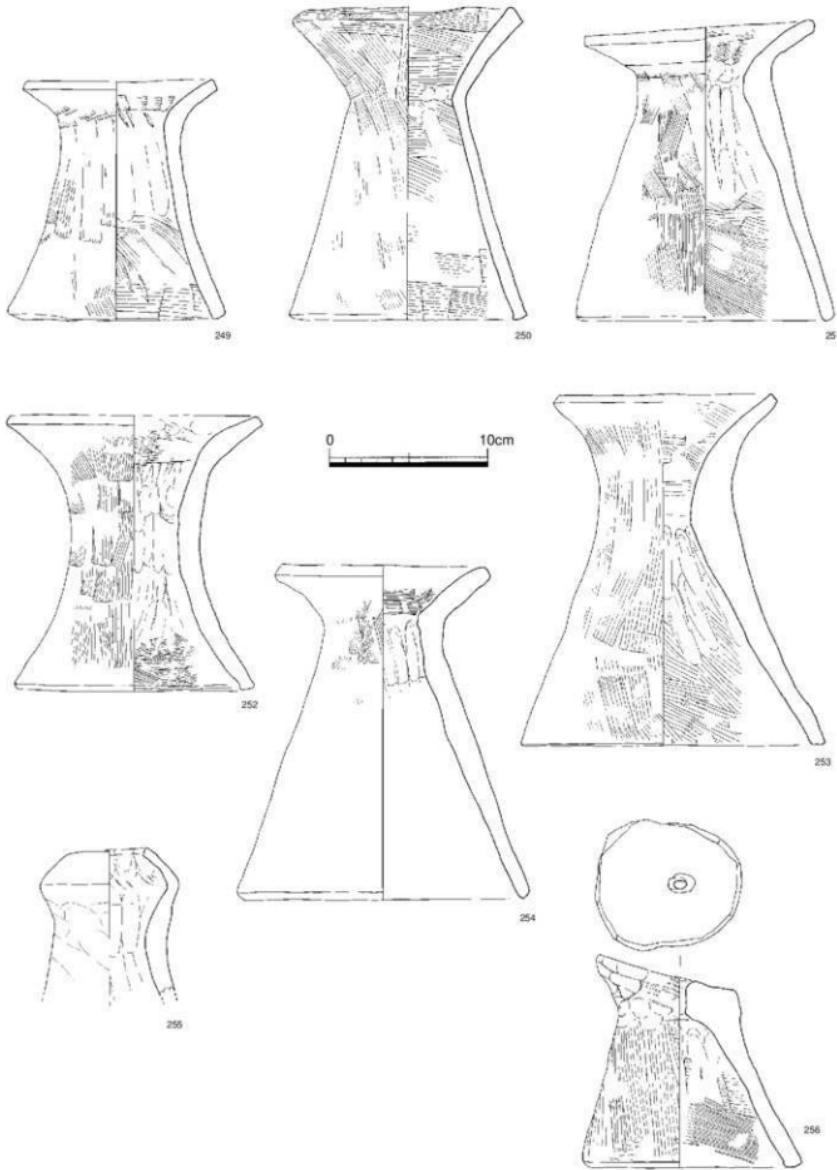


Fig.39 第4区土器溜まり出土遺物実測図(1/3)

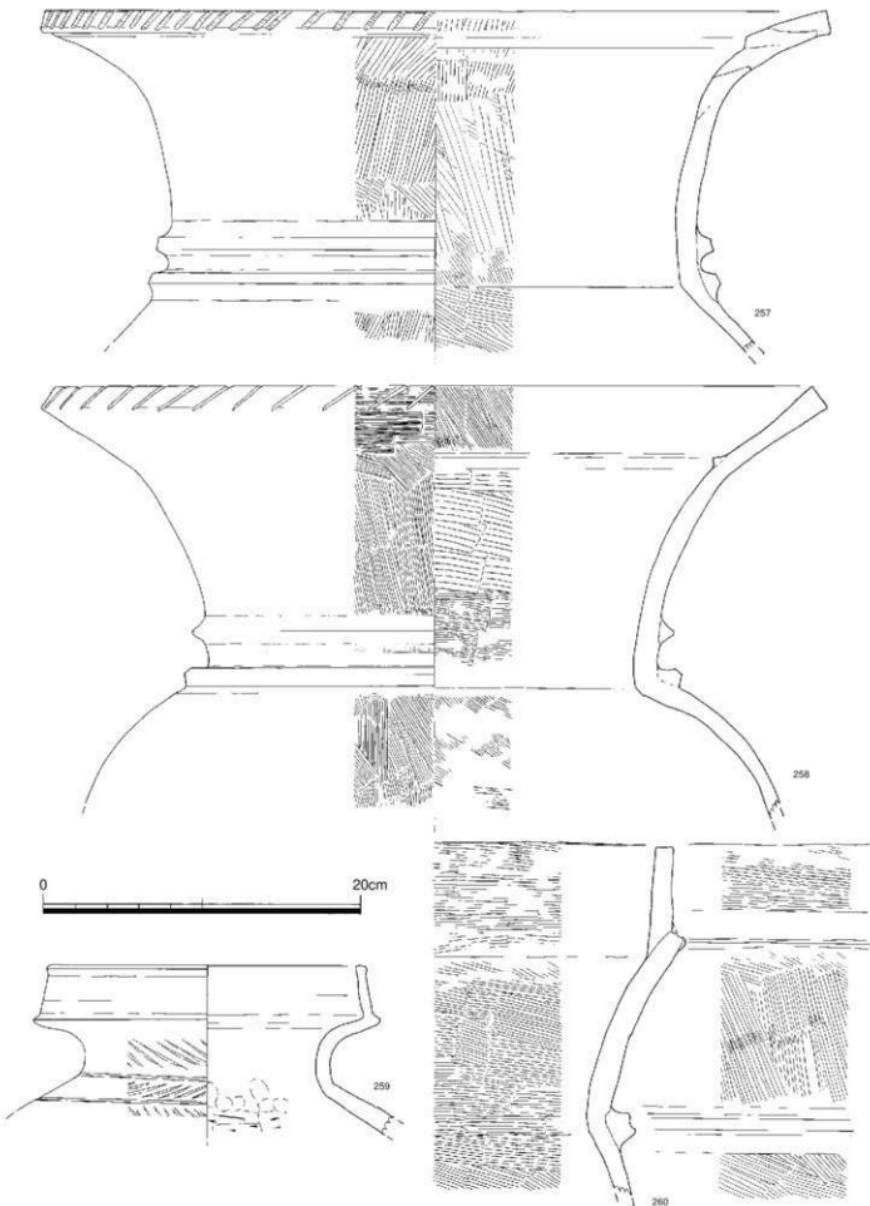


Fig.40 黑色土 出土遺物実測図(1/3)

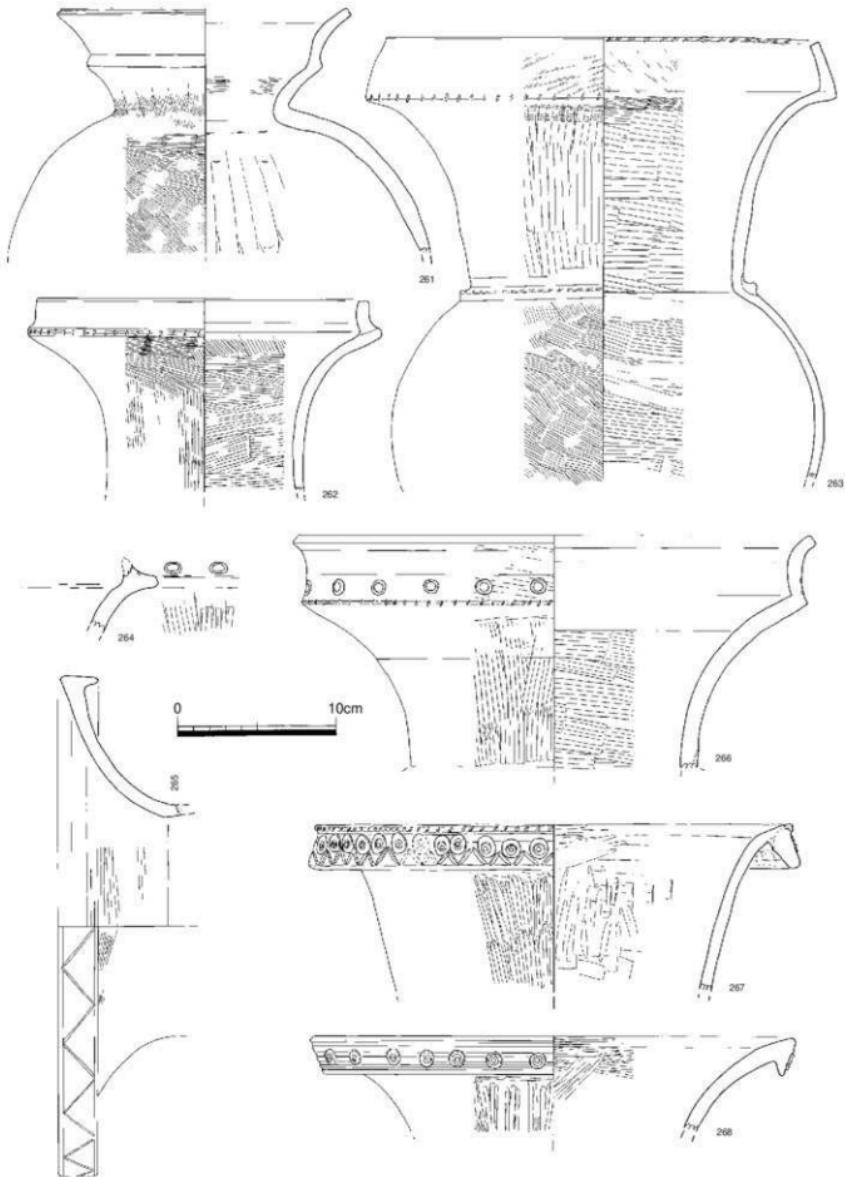


Fig.41 黑色土 出土遺物実測図(1/3)

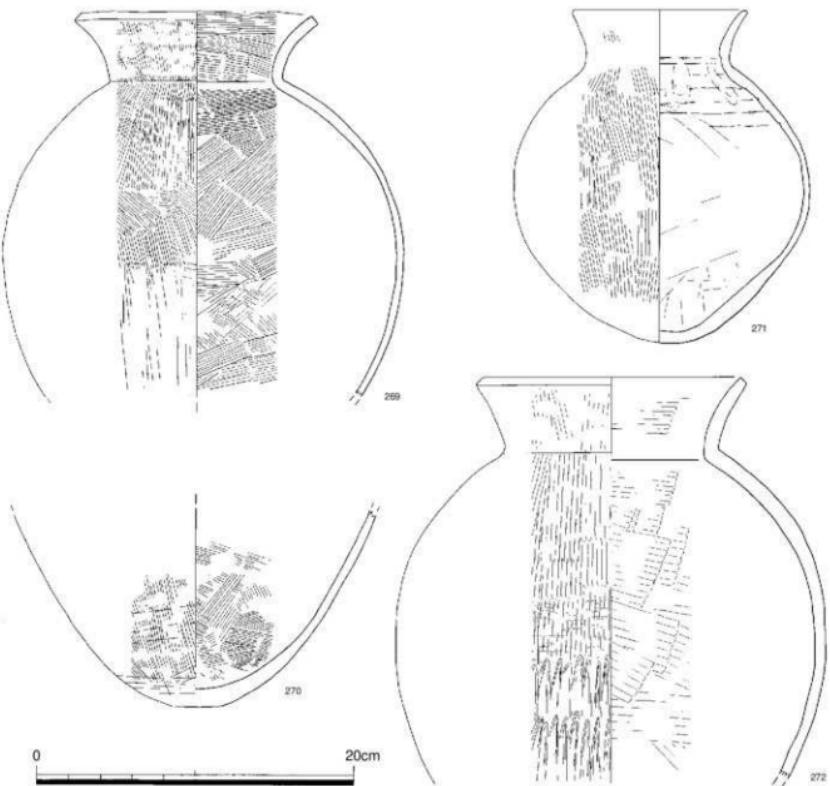


Fig.42

えられる。246,247は石錘である。246は底部が平坦につくられる糸島型と呼称されていたもので、247は底を丸くつくり長卵形を呈する博多湾形と呼称されてきたものである。重量はそれぞれ196、171gである。248は石劍である。鎮は無く、断面形も平坦である。石材は砂岩質ホルンフェルスで、残存長23.6cm、最大幅4.9cm、最大厚1.05cmである。249～254は器台である。器面調整には基本的にハケメ調整が行われている。器高は15.2～22.2cmである。255は口縁端部が内済する器台の破片である。口径は5.0cmである。256は脊形支脚で、器面調整にはハケメ調整が行われている。

最上層黒色土

出土遺物 (Fig.40～53、PL.23～30) 257,258,260は大型壺である。257の口縁端部にはハケメ原体小口によると考えられる刺突文が施文される。口径49.8cmである。258も同様に口縁端部に刺突文が見られる。口径49.5cm。260は口径が約90cmに復元される。259は二重口縁の壺で、口径20.2cmであ

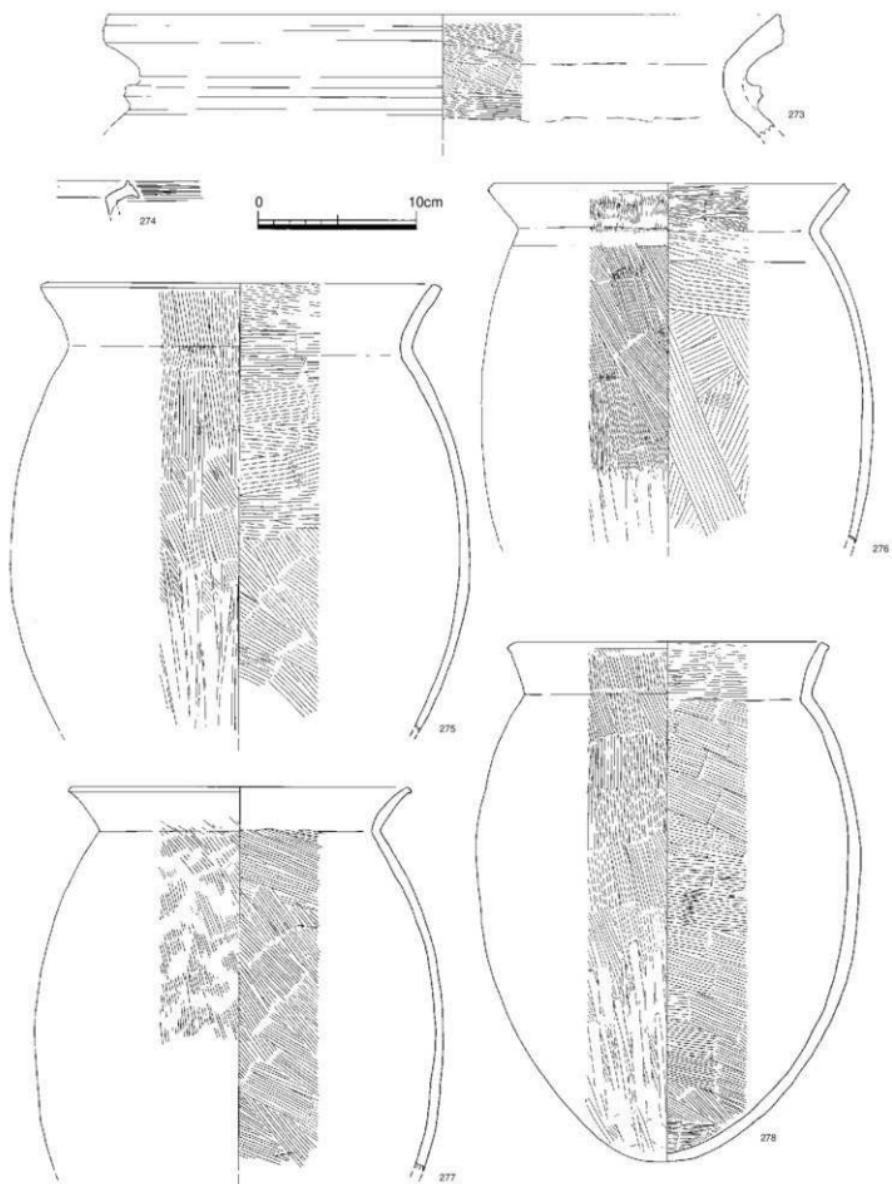


Fig.43 黑色土 出土遺物実測図(1/3)

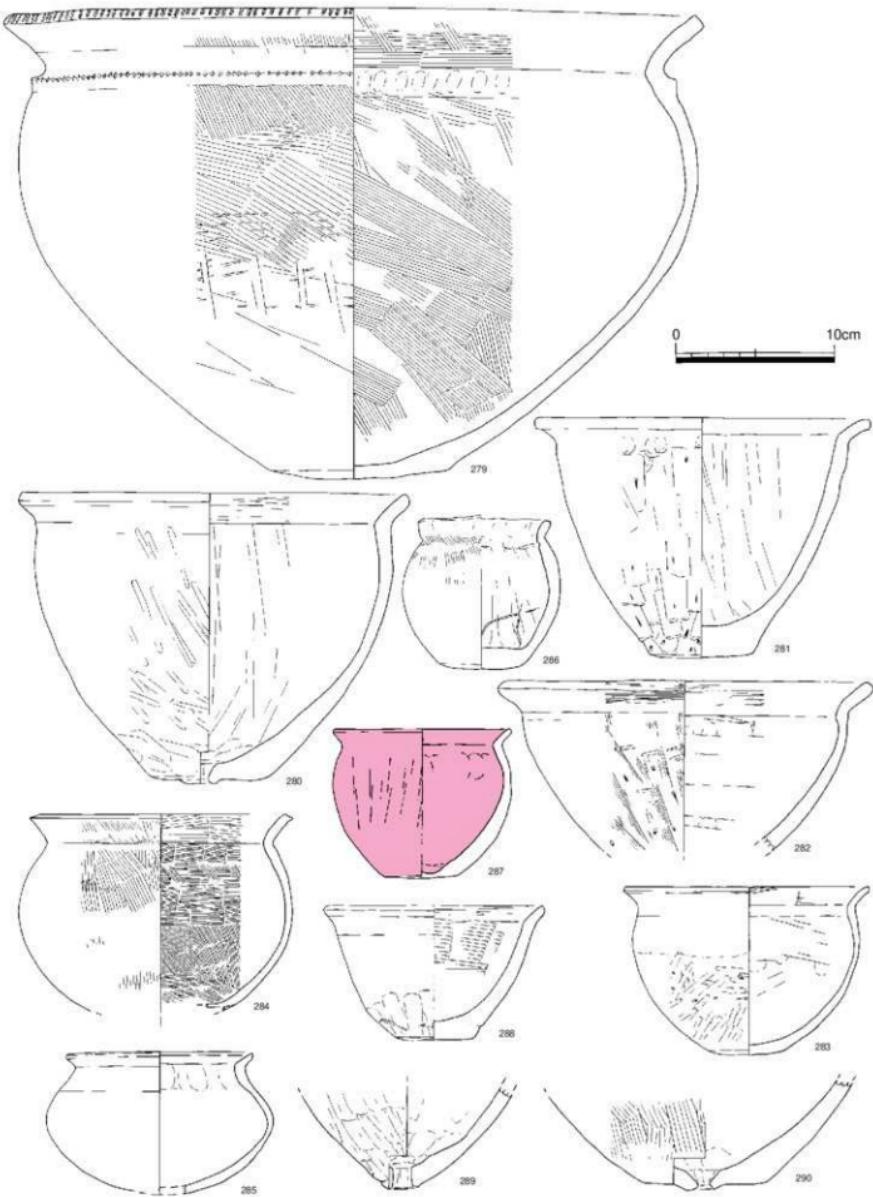


Fig.44 黑色土 出土遺物実測図(1/3)

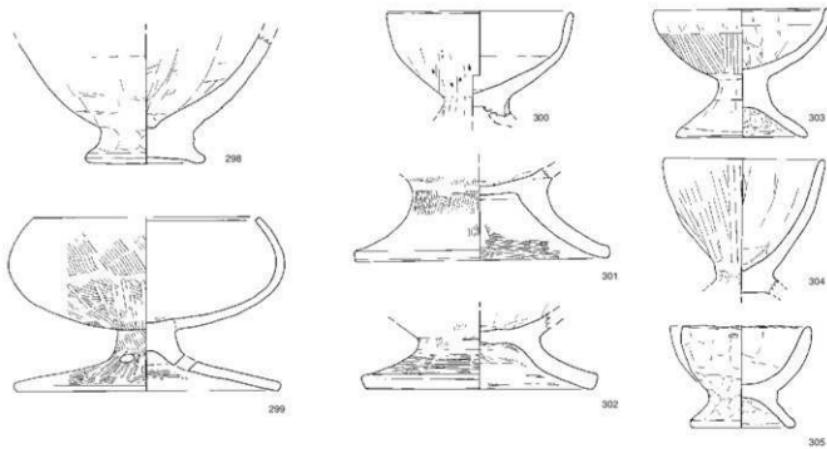
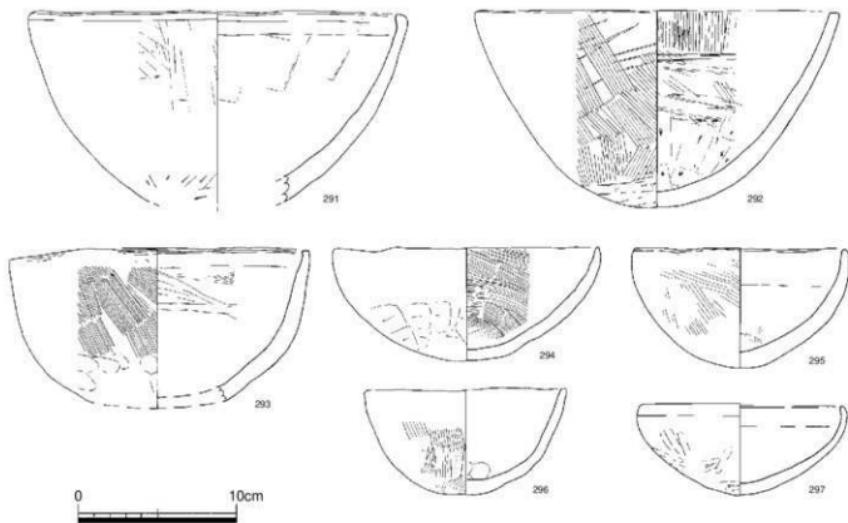


Fig.45 黒色土 出土遺物実測図(1/3)

る。261～272は壺である。263の口縁端部にもハケメ原体小口によると考えられる刺突文が施文される。口径27.3cm。264の壺口縁部破片には竹管文が見られる。265の壺口縁端部は下垂させ、鋸歯状の刻目文が施文される。口径31.7cm。266は264同様に口縁端部下に竹管文が見られる。口径33.0cm。267は口縁端部を下垂させ、円形浮文の貼り付け、鋸歯状の刻目文が見られる。口径

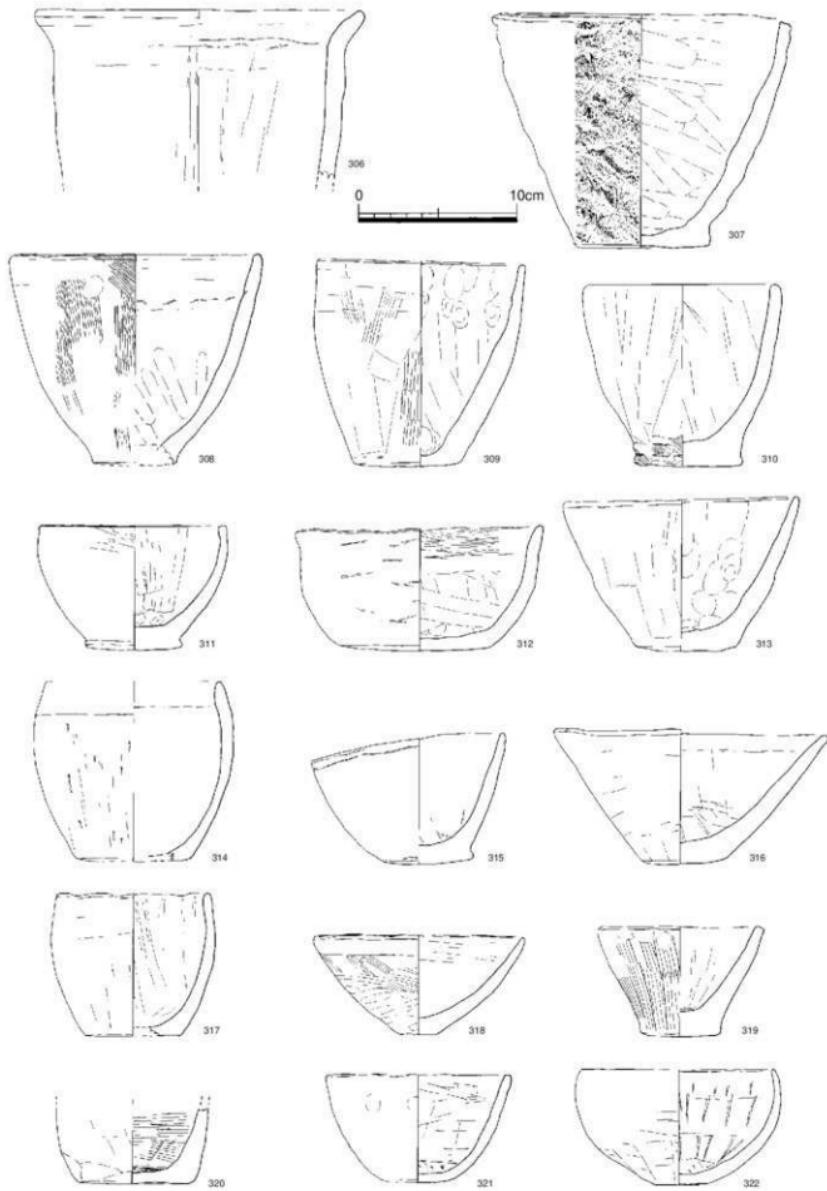


Fig.46 黑色土 出土遺物実測図(1/3)

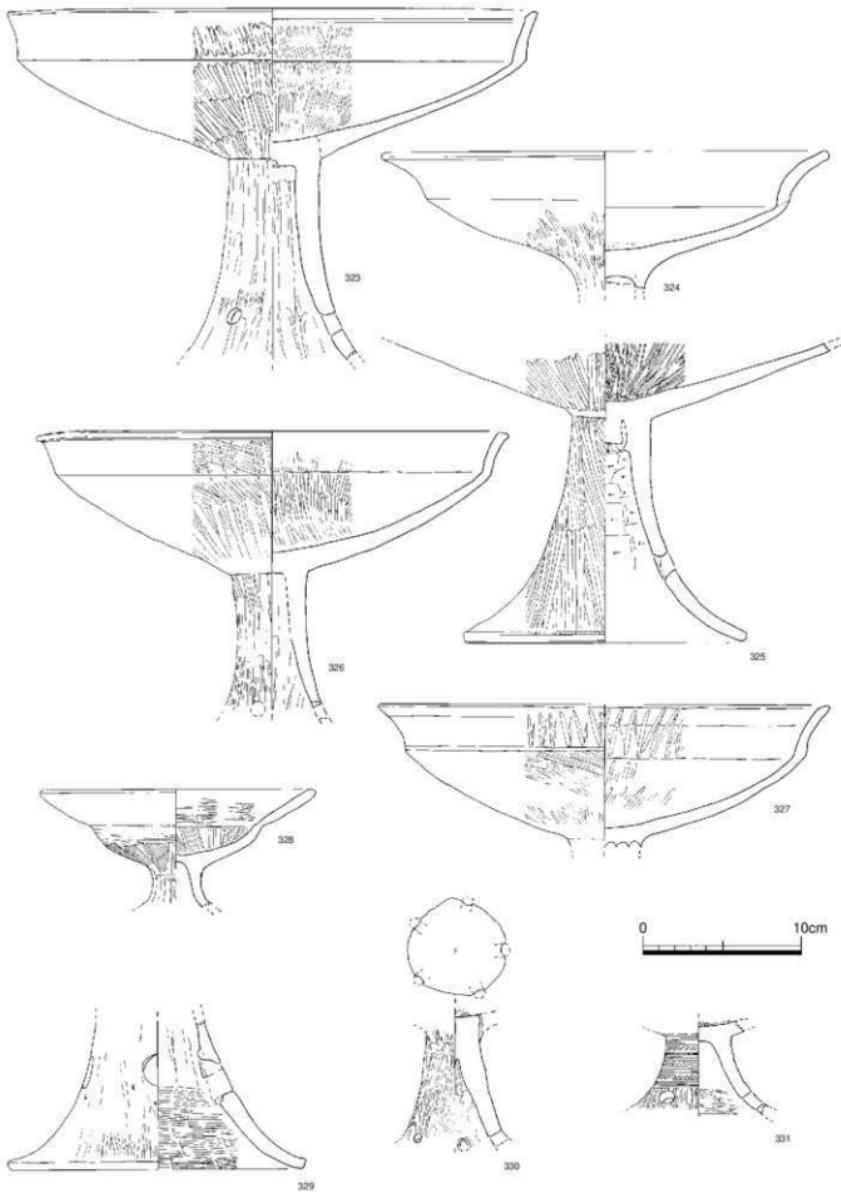


Fig.47 黑色土 出土遺物実測図(1/3)

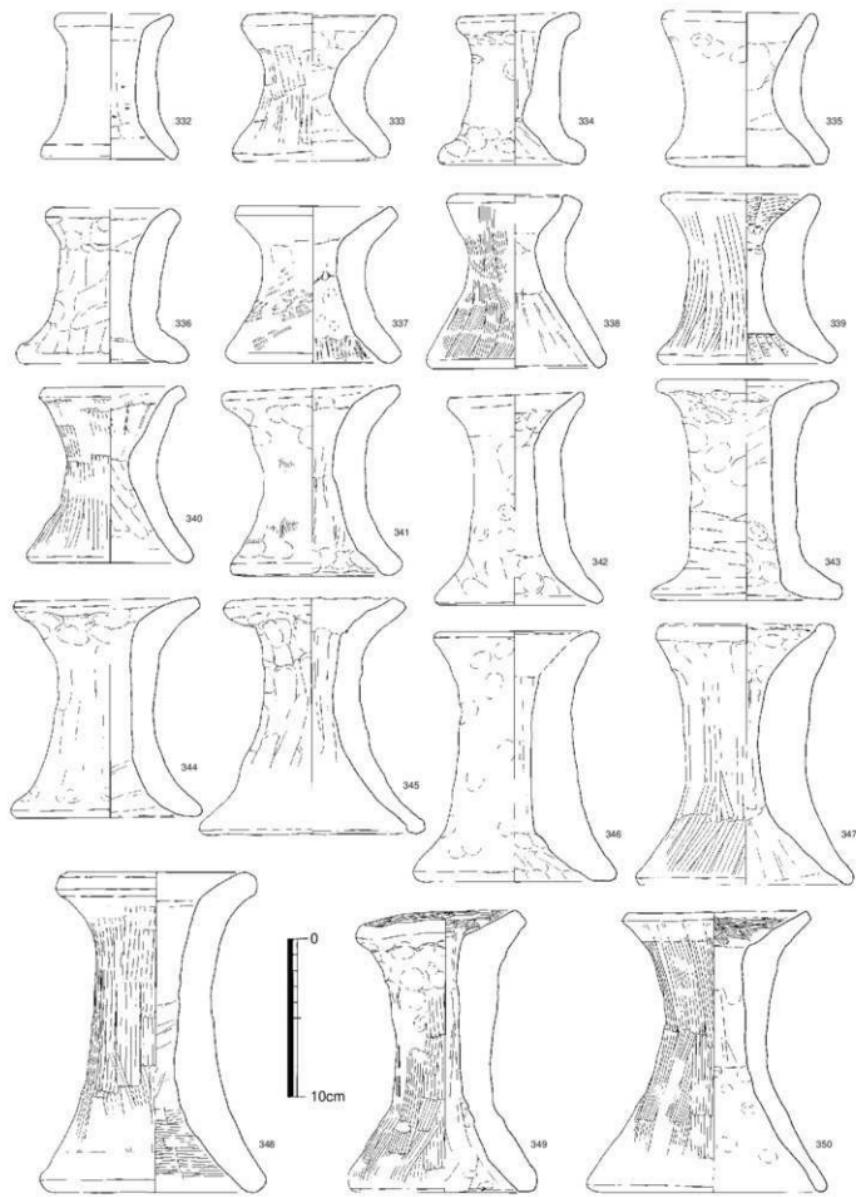


Fig.48 黑色土 出土遺物実測図(1/3)

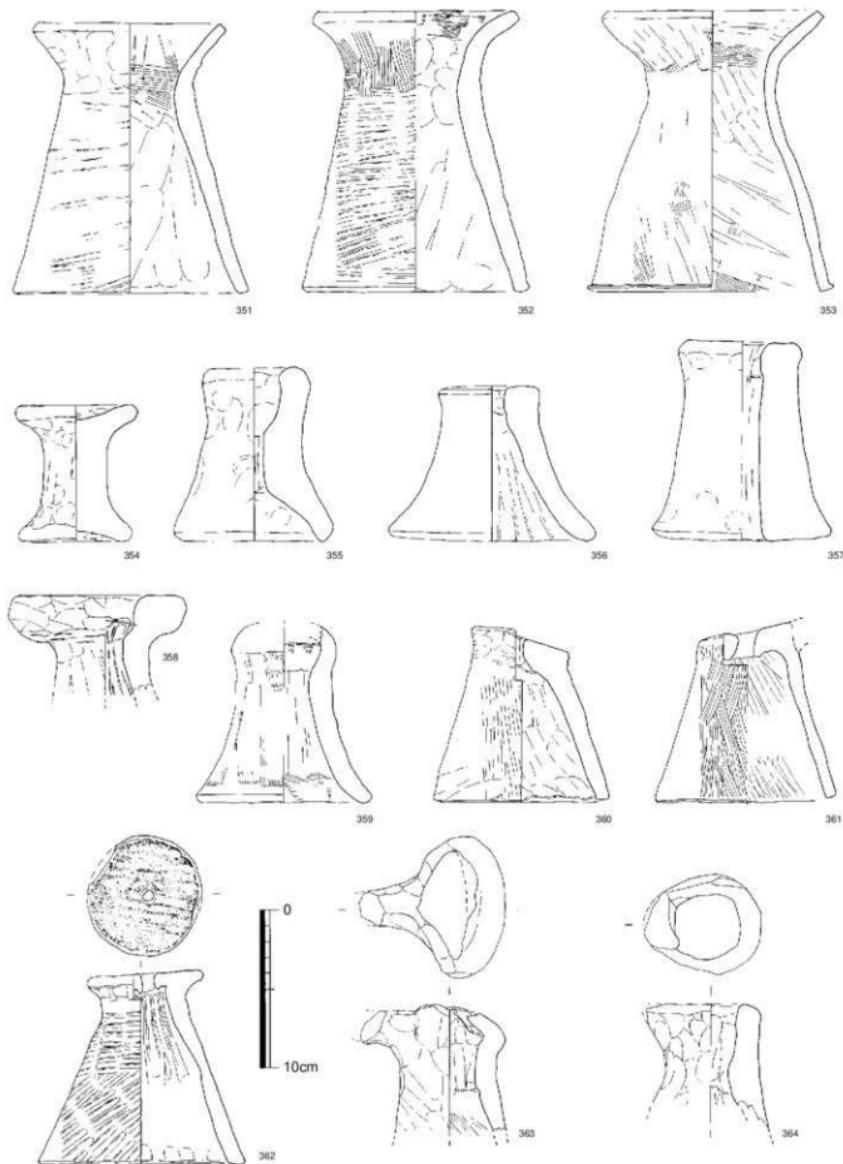


Fig.49 黑色土 出土遺物実測図(1/3)

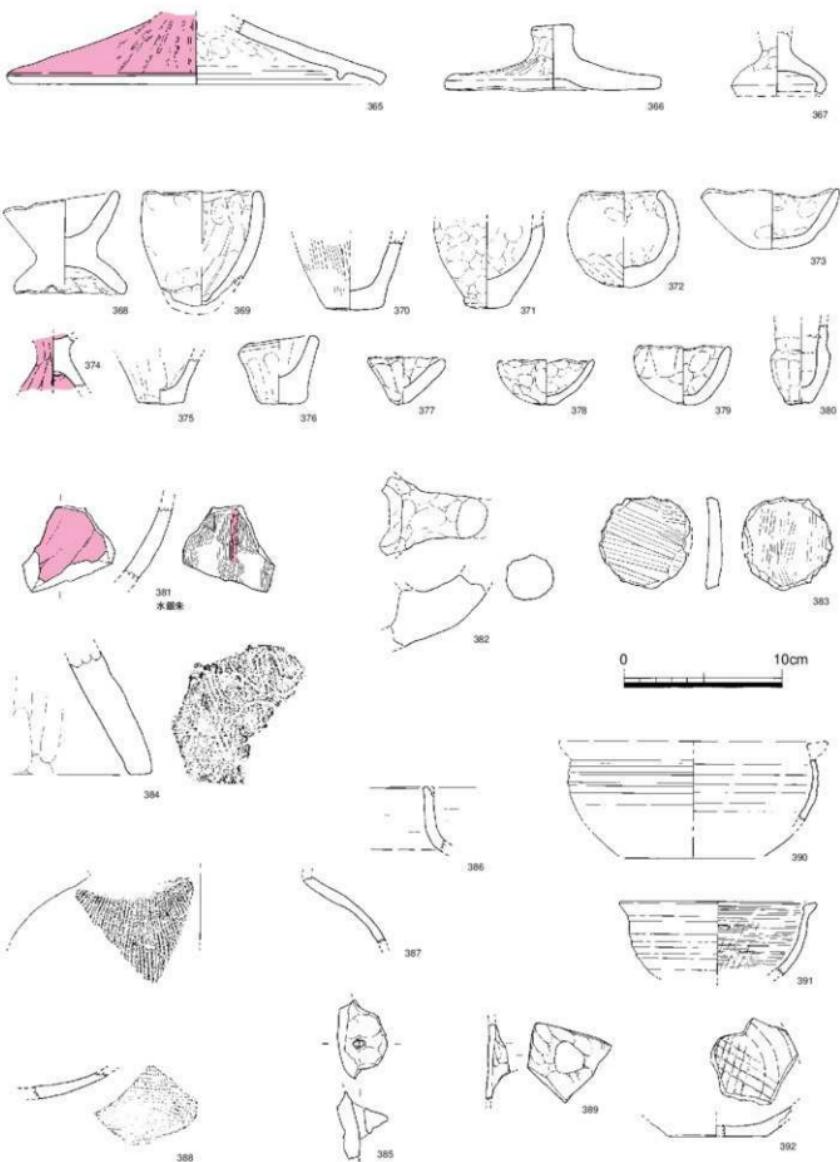


Fig.50 黑色土 出土遺物実測図(1/3)

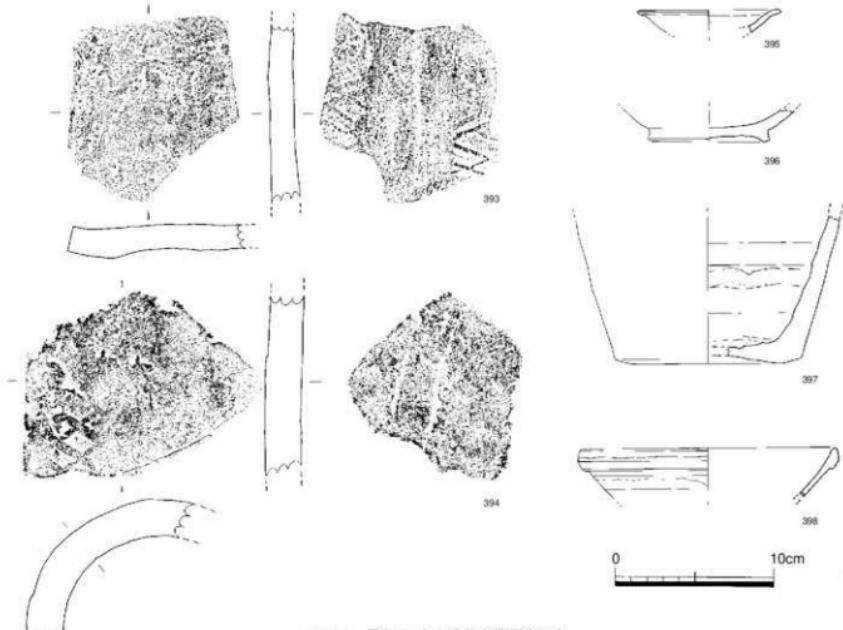


Fig.51 黒色土 出土遺物実測図(1/3)

30.0cm。268の下鉢した口縁部には凹線文と円形浮文の貼り付けが見られる。口径は30.6cmである。264～268は搬入された土器と考えられる。273～278は甕である。273は大型の甕で口径は42.6cmに復元される。274は口縁端部に面をつくり、凹線を施す。瀬戸内地域からの搬入品と考えられる。275～278は口縁を外反させるもので、口径はそれぞれ25.3、22.8、21.6、20.2cmである。279は大型の鉢。口縁端部と突帶に刻目文が見られる。口径44.7、器高29.8cmである。280～290は鉢、小型甕、塊類である。280,289,290の鉢底部にはそれぞれ焼成前に穿孔が見られる。287は内外面に丹塗りが施されている。291～297は鉢、塊である。口径はそれぞれ24.0,23.0,19.2,16.7,13.5,12.6,13.0cmである。298～305は台付土器である。口径は8.3～20.8cmである。306～322は小型甕、鉢、塊である。323～331は高坏である。口径は17.5～33.4cmである。331は脚部に3ヶ所の穿孔を持つもので、東海地域からの搬入品と考えられる。332～353は器台である。器高は9.3～20.2cmである。354～364は支脚、舟形支脚である。筒状を呈するもの、中実のもの、上面を面的に舟形を呈するもの、上部をつまみ出すものなどが見られる。365～367は蓋形土器である。365は上面に丹塗りが施され、内面には返りを有する。368～380はミニチュア土器である。374の高坏形土器は全面に丹塗りが施されている。381は水銀朱精製に関わると考えられている広片口皿の破片。外器壁には液垂れが見られ、水銀朱が検出された(p62参照)。382は匙形土器、383は円盤状土器、384は表面に線刻を有する器台である。385～392は半島系土器である。390～392は楽浪系土器である。全て塊の破片であり、胎土は精良な泥質である。390は体部の破片。391の口径は12.4cmに復元され、内面には平行の暗文が残る。392は底径6.0cmに復元される破片で、内底部には斜格子の暗文が見られる。393,394は瓦である。

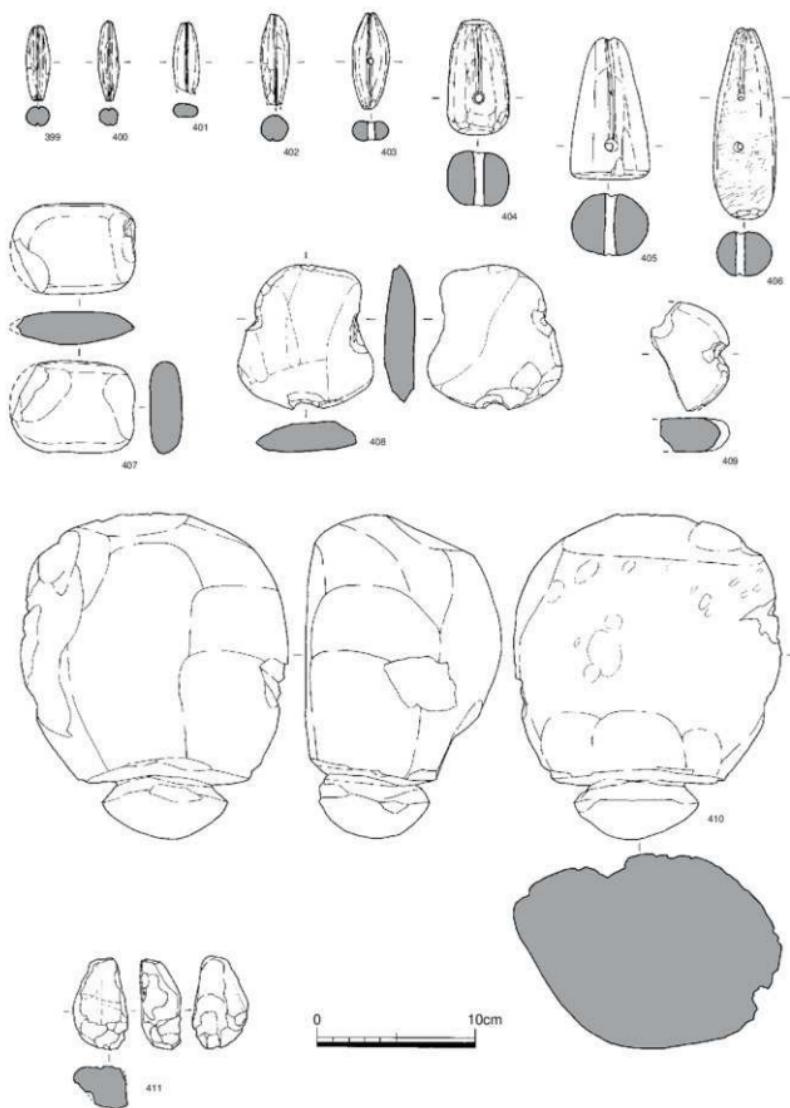


Fig.52 黑色土 出土遺物実測図(1/3)

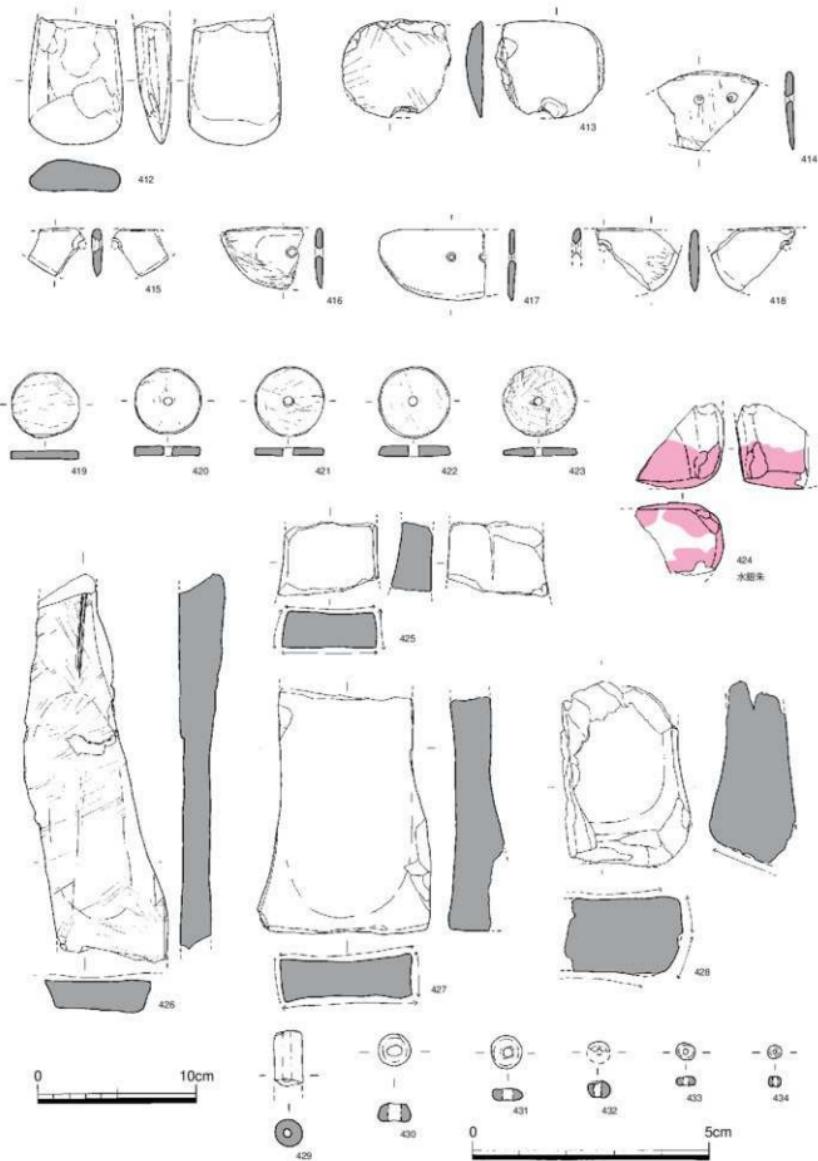


Fig.53 黑色土 出土遺物実測図(1/1),(1/3)

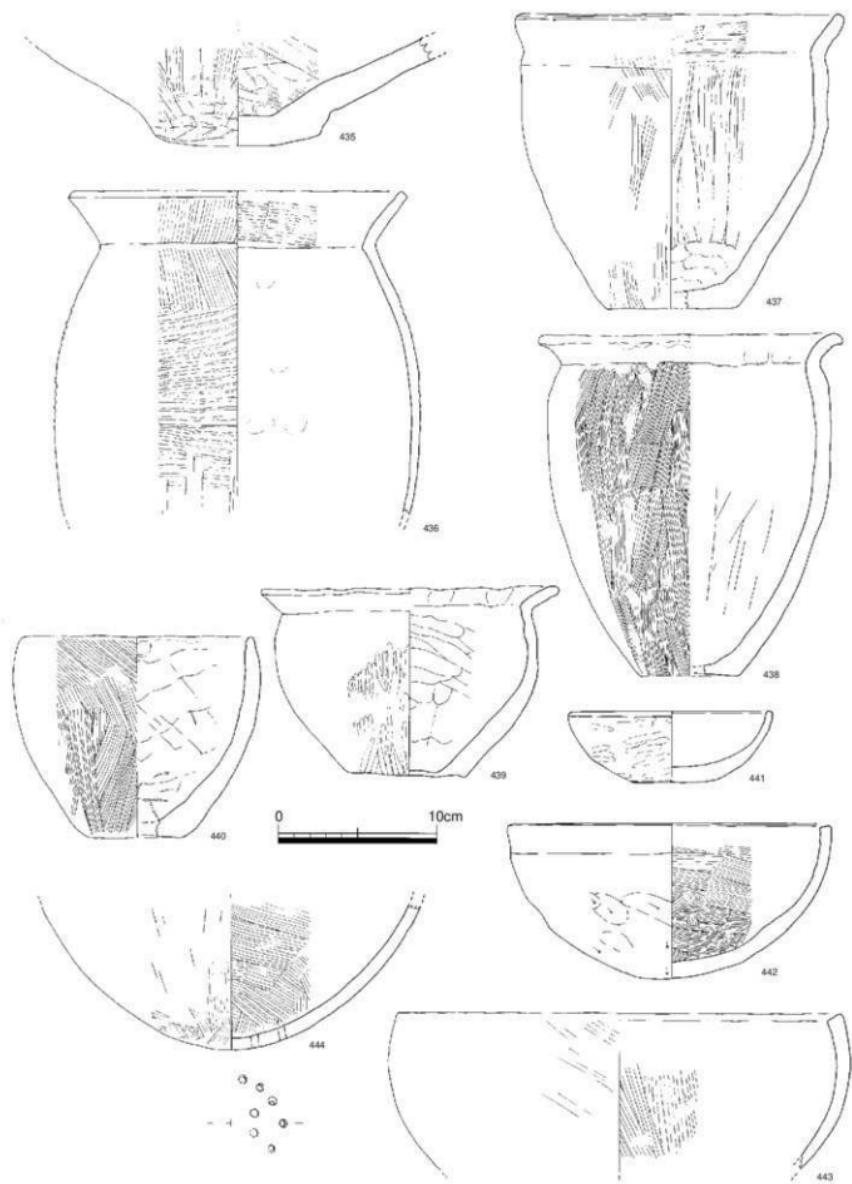


Fig.54 SD-01出土のその他遺物実測図(1/3)

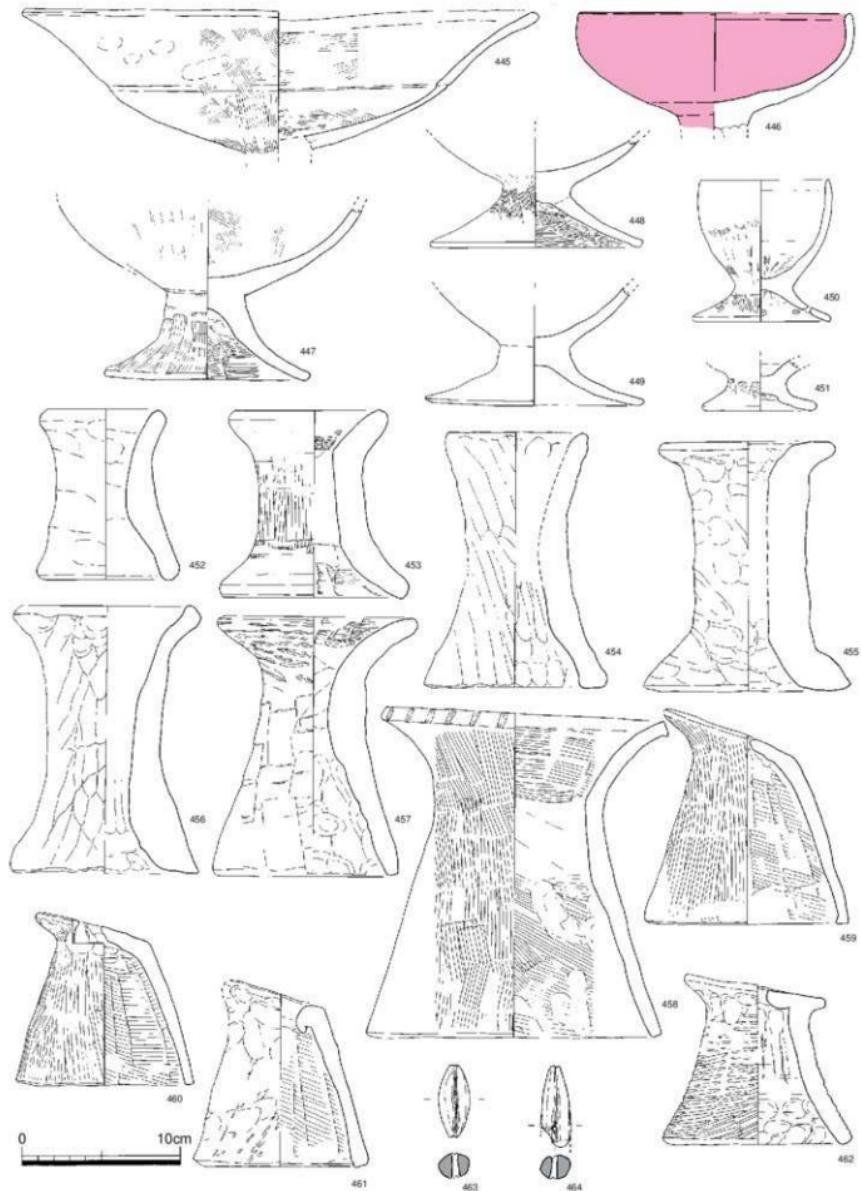


Fig.55 SD-01出土のその他遺物実測図(1/3)

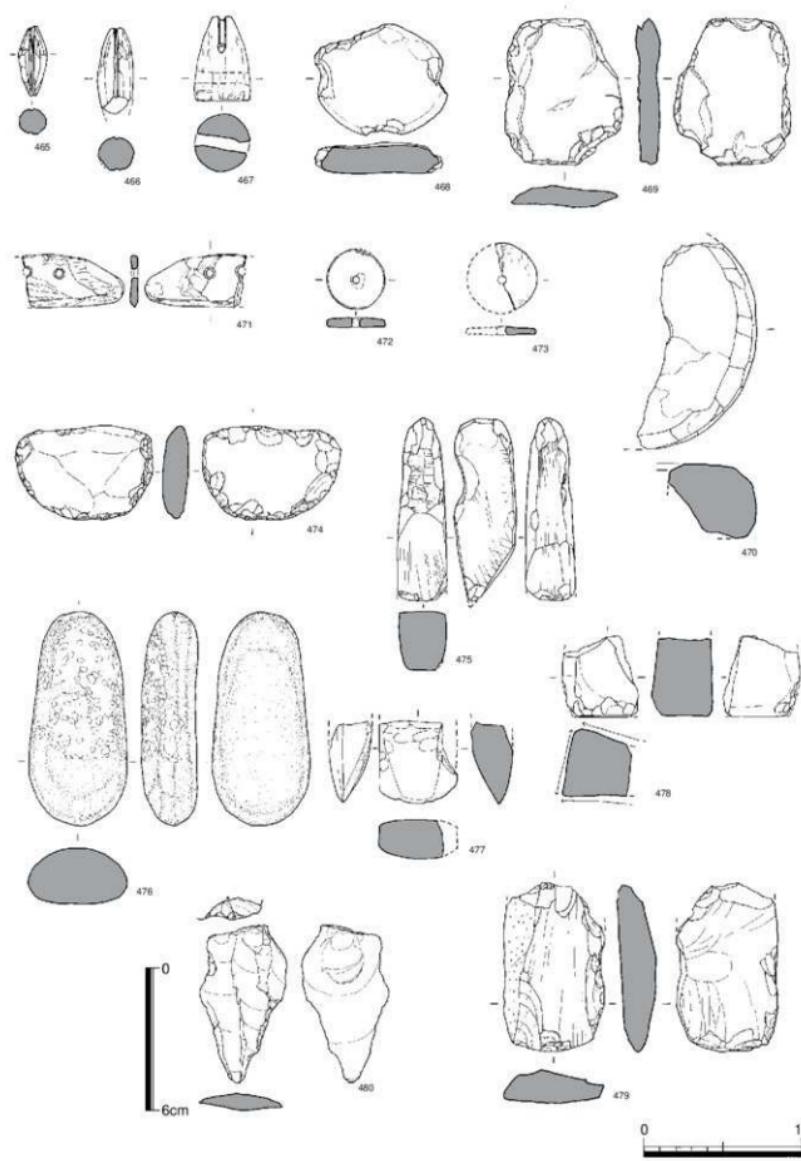
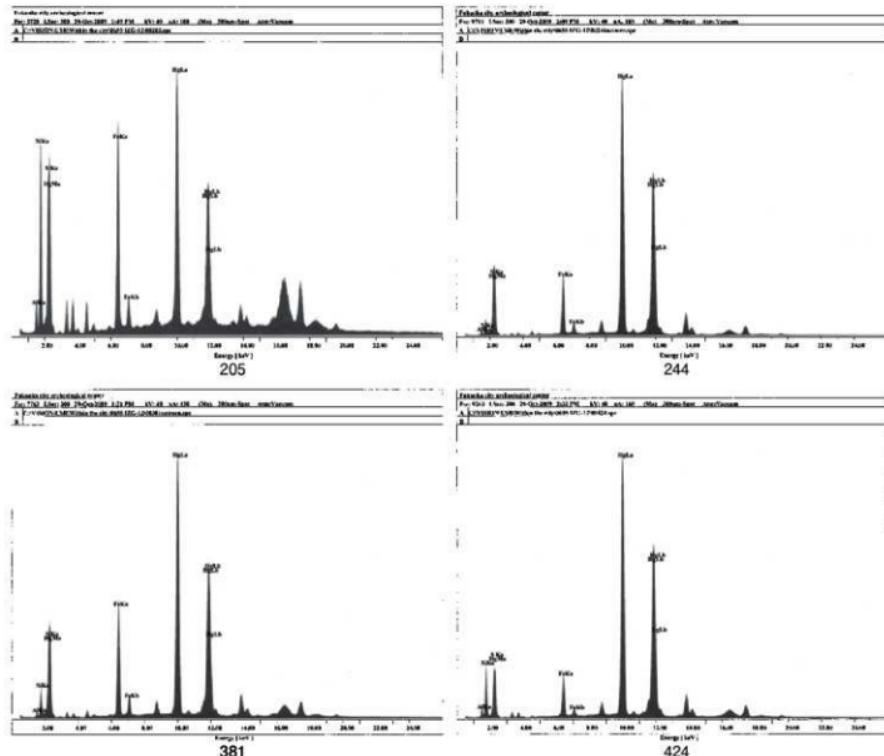


Fig.56 SD-01出土のその他遺物実測図(1/2),(1/3)

る。396は土師質壺、397は須恵質壺、395,398は白磁の皿と碗である。399～409は紡錘形、長卵形、打ち欠きの石錘である。410,411の素材は軽石である。410には顕著な加工痕が見られ、浮子に使用するためのものと考えられる。412,413は石斧、414～418は石包丁である。419～423は紡錘車。424は石杵である。石杵も水銀朱精製に関わると考えられており、表面からは水銀朱が検出された（p62参照）。広片口皿とセット関係になるものである。425～428は砥石、429～434はガラス小玉である。

その他の遺物 (Fig.54～56, PL.30～32)

435～439は壺、壺である。440～443は鉢である。口径は13.0～28.0cmである。444は多孔式の瓶である。445～451は高杯、脚付土器である。452～462は器台、支脚である。463～470は石錘である。471は石包丁、472,473は紡錘車、474は石包丁未製品、475,477は石斧、476は敲石、478は砥石、479は打製石斧である。480は先土器時代の剥片である。



赤色顔料蛍光X線分析表

表1 第12次出土土器觀察表

遺物番号	地区	遺構・層位	器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	残存率	備考	測量cm(復元)	
												外観: 明赤褐色2.5YR5/6~7.5YR6/6 内面: 橙色5YR6/8	受部1/3
001	SB-02 SP-147	器台	(14.7)	—	—	やや粗。径5mm以下の石英・長石を多量含む。	やや不良	外観: 明赤褐色2.5YR5/6~7.5YR6/6 内面: 橙色5YR6/8	受部1/3				
003	SP-156	高環	(33.0)	—	—	密。径9mm以下の石英・長石を多量含む。	良好	外観: 淡褐色7.5YR8.2~灰褐色7.5YR7/4 内面: 浅黄褐色2.5YR8/4	环部の一部				
005	SK-01	甌	—	5.6	—	やや粗。径5mm以下の石英・長石を多量含む。	良好	外観: 淡褐色7.5YR8.2~灰褐色7.5YR7/2 内面: 明麗灰色5YR7/2	2/1				
006	SK-01	支脚	—	12.0	—	密。径5mm以下の石英・長石を多量含み、微細な雲母を微量含む。	良好	外観: 淡褐色7.5YR8.2~灰褐色7.5YR7/2~7.4	2/3	外観は熱焼による変色			
007	SK-02	甌	(54.0)	—	—	やや粗。径5mm以下の石英・長石を多量含み、1mm以下の雲母を微量含む。	やや不良	外観: 淡褐色7.5YR8.2~灰褐色7.5YR5/1	口縁部1/6				
008	SK-02	甌	(20.5)	—	—	密。径6mm以下の石英・長石を多量含み、1mm以下の雲母を微量含む。	良好	外観: 淡褐色7.5YR8.2~灰褐色7.5YR6.6 内面: にぶい橙色7.5YR7/3	口縁部1/8 胴部1/4				
009	SK-02	甌	—	(9.0)	—	やや粗。径5mm以下の石英・長石を多量含む。	やや不良	外観: 淡褐色7.5YR8.2	底部1/4				
010	SK-02	甌	(23.0)	—	—	密。径3mm以下の石英・長石を多量含み、1mm以下の雲母を微量含む。	やや不良	外観: にぶい赤褐色7.5YR7/4 内面: 浅黄褐色2.5YR8/4	口縁~部1/5				
011	SK-02	甌	(10.0) 4.0	6.2	—	やや粗。径5mm以下の石英・長石を多量含む。	やや不良	外観: 明赤褐色5YR5.8~にぶい橙色5YR7/4 内面: にぶい褐色2.5YR6.2	上半1/4 下半3/5				
012	SK-02	高環	—	(15.0)	—	密。径4mm以下の石英・長石を多量含む。	やや不良	外観: にぶい橙色5YR7/8 その他の内面: にぶい褐色5YR7/4	环部わずか 胴部1/8 その他完存	脚部に穿孔あり			
013	SK-03	杏形支脚	—	—	—	やや粗。径6mm以下の石英・長石を多量含む。	やや不良	外観: 明赤褐色5YR5.8~橙色5YR6.6 内面: にぶい橙色5YR7/3	受部1/2				
014	SD-02	甌	—	6.8	—	やや粗。径6mm以下の石英・長石を多量含む。	良好	外観: 淡褐色7.5YR6.1 内面: 淡褐色7.5YR5.2~橙色7.5YR6.8	胴部下のみ				
015	SD-02	鉢	(16.1)	7.0	9.0	密。径5mm以下の石英・長石を多量含む。	良好	外観: にぶい橙色5YR7/4~灰褐色2.5YR5.2~内面: 明赤褐色2.5YR7.1~7.2	3/4				
016	SD-02	高環	—	(15.5)	—	やや粗。径5mm以下の石英・長石多量に含み、微細な雲母を微量含む。	やや不良	外観: 淡褐色7.5YR8.2 内面: 淡褐色7.5YR8.2~浅黄褐色7.5YR4	1/2				
017	SD-01(A)	曲先口縁壺	35.0	—	—	密。径7mm以下の石英・長石を多量に含む。径2mm以下の黒色砂粒を微量含む。	良好	外観: 淡褐色7.5YR5.8~橙色5YR6.6 内面: にぶい橙色5YR7/6	口縁から底部 ほぼ完存	X=63503.21 Y=67367.65 L=491			
018	SD-01(A)	曲先口縁壺	(23.7)	9.6	26.8	密。径3mm以下の石英・長石を多量に含む。	良好	外観: 丹塗り 明赤褐色5YR5.6~5.8、黑色2YR2.1 内面: にぶい褐色2.5YR6.3~帶色2.5YR6.6	口縁部2/5 胴部外側に一部黒塗りか? その他ほぼ完存	X=63500.02 Y=67366.68 L=489			
019	4X SD-01(A)	曲先口縁壺	(24.9)	—	—	密。径4mm以下の石英・長石を多量に含む。	良好	外観: 淡褐色5YR6.6~2.5YR6/8 (月の輪) 内面: にぶい褐色7.5YR6/4	口縁1/6 全体外側に丹塗り 胴部上・中位2/5				
020	SD-01(A)	曲先口縁壺	29.3	9.0	40.8	密。径4mm以下の石英・長石を多量に含む。	良好	外観: にぶい赤褐色5YR7.3~明赤褐色2.5YR5/8(月の輪) 1/2	口縁部3/4 胴部1/1 胴部2/3	頭部内外に丹塗り X=63512.5 Y=67360.1 L=474			
021	4X SD-01(A)	甌	—	26.7	—	密。径4mm以下の石英・長石を多量に含む。	良好	外観: 明赤褐色2.5YR7/2~内面: にぶい褐色2.5YR6/3~6.6 明赤褐色2.5YR5/8~6.8	口縁部2/4 胴部1/1 胴部上半3/5 胴下1/3	口縁~頭部の間に丹塗り 胴部径最大の辺よりに9cmの大黒頭あり			
022	4X SD-01(A)	曲先口縁壺	29.7	—	—	やや粗。径5mm以下の石英・長石を多量に含み、1mm以下の雲母を微量含む。	やや不良	外観: 橙色5YR6.6~明赤褐色2.5YR6.3~6.6 明赤褐色2.5YR6/3~6.8	口縫~頭部の間に丹塗り 胴部上半1/3	外全体に丹塗り (崩壊なし)			
023	3X SD-01(A)	広口甌	(28.6)	—	—	精良。径1mm以下の石英・長石を多量に含み、微細な雲母を微量含む。	良好	外観: 丹塗り 明赤褐色2.5YR5.8~5.5~6.5 橙色5YR6/8~6.8	口縫部1/3				
024	SD-01(A)	甌	(22.1)	9.6	33.2	密。径4mm以下の石英・長石を多量に含む。径1mm以下の雲母を微量含む。	良好	外観: にぶい褐色7.5YR7/3~7.5YR6/6	口縫部1/10	X=63501.34 Y=67367.09 L=482			
025	SD-01(A)	袋状口縁壺	10.9	6.4	28.5	密。径2mm以下の石英・長石を多量に含む。1mm以下の雲母を微量含む。	良好	外観: 丹塗り 明赤褐色5YR5.8~赤褐色5YR4/4~5.5~6.5 橙色5YR6/8~6.8	141#完存	X=63498.32 Y=67366.36 L=474			
026	SD-01(A)	袋状口縁壺	10.5	6	28.2	密。径2mm以下の石英・長石を多量に含む。	良好	外観: 丹塗り 明赤褐色5YR5.8~赤褐色5YR4/4~5.5~6.5 橙色5YR6/8~6.8	口縫部1/4	胴部に剥離あり X=63502.16 Y=67366.66 L=463			
027	SD-01(A)	袋状口縁壺	11.7	6.4	29.4	密。径4mm以下の石英・長石を多量に含む。1mm以下の雲母を微量含む。	良好	外観: 丹塗り 明赤褐色5YR5.8~赤褐色5YR4/4~5.5~6.5 橙色5YR6/8~6.8	口縫部1/4	外全体、丹塗り X=63699.18 Y=67366.58 L=474			
028	3X SD-01(A)	袋状口縁壺	(14.4)	—	—	精良。径2mm以下の石英・長石を多量に含み、1mm以下の雲母を微量含む。	良好	外観: 丹塗り 赤褐色5YR5.8~明赤褐色2.5YR5/8~内面: 橙色5YR6/6	肩から頭部2/5				
029	SD-01(A)	甌	—	6.7	—	やや粗。径5mm以下の石英・長石を多量に含み、1mm以下の黒色砂粒を微量含む。	良好	外観: 橙色5YR7/6~明赤褐色2.5YR5/8~内面: 橙色5YR6/6	胴上半2/5 胴下平2/3	底部外側以外は丹塗剥落			

遺物番号	地名	遺構・層位	器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	残存率	備考	
030	4区	SD-01(A)	袋口縁壺	14.4	—	—	密、径5mm以下の石英、長石を多量含む。	良好	に赤い褐色7.5YR7/4	1/3縁～肩部1/1	瓶部が原く詰まっている	
031	3区	SD-01(A)	壺	(32.3)	—	—	密、径1mm以下の石英、長石を多く含む。	良好	外面:丹赤り、明赤褐色25YR5/8 内面:一部丹赤り。 に赤い褐色7.5YR6/4	1/3	壇の後に丹赤り	
032	4区	SD-01(A)	壺	(32.8)	6.9	29.4	密、径4mm以下の石英、長石を少量含む。	良好	橙色5YR6/8	1/3縁部2/5 胴上半3/5 胴下1/1	底部外表面以外は丹赤磨研	
033	2区	SD-01(A)	壺	26.0	(7.4)	20.0	精良、径5mm以下の石英、長石を少量化。	良好	外面:灰褐色2.5YR5.2-2-明赤褐色5YR5.5 内面:赤褐色5YR4.8-明赤褐色5YR5.8	1/3縁部3/4 胴部4/3 底部1/4	内面全体に丹赤磨研、胴部上面に煤付着	
034	4区	SD-01(A)	壺	(26.0)	(9.6)	17.5	密、径2mm以下の石英、長石を多量含む。	良好	外面:に赤い褐色5YR7/4	1/3	内面全体に丹赤磨研、底部に外面向から焼成後穿孔化	
035	1区	SD-01(A)	壺	25.4	8.4	28.2	密、径3mm以下の石英、長石を少量化。	良好	外面:橙色7.5YR6/6-6/8 内面:明赤褐色5YR5/6-5/8	1/3縁～肩部1/2 底部1/1	底部に外面向からの焼成後穿孔あり	
036	1区	SD-01(A)	壺	(25.0)	8.4	27.2	やや粗、径2mm以下の石英、長石を多量含む。	良好	外面:灰褐色7.5YR6.2-2-に赤い褐色7.5YR3.3 内面:に赤い褐色5YR4.0-4-黒褐色7.5YR3.2	1/3縁～肩部中位 その焼成有。		
037	4区	SD-01(A)	壺	26.9	—	—	密、径3mm以下の石英、長石を多量含み、1mm以下の岩片を微量含む。	良好	に赤い褐色7.5YR6/3	1/3縁～肩部上半1/3		
038	4区	SD-01(A)	壺	(25.9)	—	—	やや粗、径3mm以下の石英、長石を多量含む。	良好	外面:灰褐色7.5YR5/2 内面:に赤い褐色7.5YR6/3-5/4	1/3縁～肩部下位 1/3		
039	4区	SD-01(A)	壺	(21.8)	—	—	密、径3mm以下の石英、長石を多量含み、1mm以下の岩片を微量含む。	良好	に赤い褐色7.5YR5/3-4/4	1/3縁部2/5 胴部上位1/3		
040	2区	SD-01(A)	壺	24.0	8.7	30.6	密、径7mm以下の石英、長石を多量含む。	良好	外面:明褐灰色2.5YR7/2-2-橙色7.5YR6/6 内面:に赤い褐色7.5YR5.3-3-に赤い褐色5YR6/4	1/3縁部1/3 胴部1/4 その焼成有		
041	3区	SD-01(A)	蓋形土器	58～64	28.2	10.0	密、径2mm以下の石英、長石を多量含み、1mm以下の岩片を微量含む。	良好	黄褐色10YR5/6-6-灰褐色7.5YR6/2	一部欠損		
042	1区	SD-01(A)	蓋形土器	つまみ6.1	(27.3)	10.8	密、径2mm以下の石英、長石を多量含む。	良好	に赤い褐色10YR6/3-6/4	つまみ部分1/1 体部1/3	脚部の両面に黒斑	
043	4区	SD-01(A)	蓋形土器	つまみ6.4	(28.0)	8.3	密、径3mm以下の石英、長石を多量含む。	良好	橙色7.5YR6/6	つまみ部1/1 体部1/5	瓶端部内面に火を受ける (赤褐色7.5YR5/2)	
044	4区	SD-01(A)	蓋形土器	つまみ5.5	(28.9)	9.5	密、径3mm以下の石英、長石を多量含む。	良好	外面:浅黄褐色7.5YR8/3 内面:に赤い褐色7.5YR7/3	つまみ部1/1 体部1/4		
045	4区	SD-01(A)	蓋形土器	つまみ6.8	(29.2)	9.25	やや粗、径3mm以下の石英、長石を多量含む。	良好	に赤い褐色7.5YR6/3	つまみ部1/1 体部1/5		
046	4区	SD-01(A)	蓋形土器	つまみ6.5	—	—	密、径4mm以下の石英、長石を多量含む。	良好	に赤い褐色7.5YR7/3	つまみ部1/1 体部上半1/3		
047	4区	SD-01(A)	蓋形土器	つまみ7.3	—	—	密、径2mm以下の石英、長石を少量化。	良好	外面:に赤い褐色7.5YR7/4 内面:に赤い褐色7.5YR5/3-6/3	上半1/1		
048	4区	SD-01(A)	蓋形土器	つまみ6.2	—	—	密、径3mm以下の石英、長石を多量含み、1mm以下の岩片を微量含む。	良好	外面:に赤い褐色7.5YR7/3 内面:に赤い褐色7.5YR6/3	つまみ部1/1 体部上半1/3		
049	4区	SD-01(A)	蓋形土器	つまみ7.1	—	—	密、径2mm以下の石英、長石を多量含み、1mm以下の岩片を微量含む。	やや不良	に赤い褐色7.5YR6/3-5/3-5/5-被燃:橙色5YR6/6-2-黑褐色5YR2.1-灰褐色5YR4/2	つまみ部1/1 体部上半1/3	脚部外表面を円周に沿って被燃、そのちょうど裏に煤付着	
050	4区	SD-01(A)	蓋形土器	つまみ6.9	—	—	やや粗、径3mm以下の石英、長石を多量含み、1mm以下の岩片を微量含む。	良好	外面:橙色7.5YR6/6 内面:に赤い褐色7.5YR5/3	つまみ部1/1 体部上半1/6		
051	4区	SD-01(A)	蓋形土器	つまみ7.5	—	—	やや粗、径3mm以下の石英、長石を多量含む。	やや不良	外面:に赤い褐色7.5YR6/4 内面:灰褐色7.5YR5/2-2-黑褐色7.5YR3/1	つまみ部1/1		
052	1区	SD-01(A)	蓋形土器	つまみ6.5	(19.5)	7.5	やや粗、径3mm以下の石英、長石を多量含む。	やや不良	灰褐色7.5YR5/2-2-橙色7.5YR6/6	上半1/2 下半1/6	形が歪んでいる	
053	3区	SD-01(A)	壺	27.8	9.8	20.1	やや粗、径4mm以下の石英、長石を多量に含み、微細な空洞を微量含む。	良好	外面:に赤い褐色7.5YR6/3-5/3- 内面:明赤褐色5YR5.8-に赤い褐色5YR6/4	3/4		
054	1区	SD-01(A)	壺	23.7	6.6	14.8	密、径2mm以下の石英、長石を少量化。	良好	橙色5YR7/6-7/8	1/1#定存	内面全体に丹赤磨研	
055	4区	SD-01(A)	壺	(18.0)	(8.5)	12.4	やや粗、径3mm以下の石英、長石を多量含み、2mm以下の岩片を微量含む。	やや不良	外面:に赤い褐色7.5YR5/3- 内面:褐灰色7.5YR5/1	1/3縁～肩部1/4 底部1/1		
056	4区	SD-01(A)	壺	(19.0)	—	—	密、径3mm以下の石英、長石を多量含む。	良好	外面:煤付着:黒褐色7.5YR3/1 内面:に赤い褐色7.5YR5/4	1/3縁墨わずか 脚部上～中位1/8		

遺物番号	地名	遺構・層位	器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	残存率	備考		
											(mm)	(mm)	
057 4区	SD-OH(A)	鉢	(21.1)	—	—	密, 併4mm以下の石英, 長石を多量含む。	良好	灰褐色7.5YR5/2	口縁～胴部上半 1/10				
058 3区	SD-OH(A)	小型甌	(14.6)	—	—	精良, 併1mm以下の石英, 長石を少量含む。	良好	外面: に赤褐色7.5Y R6.3~灰褐色7.5Y R4.2 内面: 灰褐色7.5Y R6.3~灰褐色7.5Y R4.2	1/3	X=63596.58 Y=-67367.72 L=465			
059	SD-OH(A)	壺形土器	18.1	5.4	10.0	密, 併2mm以下の石英, 長石を多量含む。	良好	外面: 灰褐色7.5Y R4.6~灰褐色7.5Y R4.2 内面: 灰褐色7.5Y R4.6~灰褐色7.5Y R4.2	体部上半一部 欠け				
060	SD-OH(A)	壺形土器	18.0	5.8	8.5	密, 併3mm以下の石英, 長石を多量含む。併1mm以下の石英, 長石を少量含む。	良好	内外面: に赤褐色7.5Y R6.4~に赤褐色7.5Y R5.4	はは完存				
061	3区	SD-OH(A)	鉢	(15.7)	4.8	8.1	密, 併2mm以下の石英, 長石を少量化。併1mm以下の石英, 長石を微量含む。	良好	内外面: 分離り, 明赤褐色2.5Y R5/8~明赤褐色2.5Y R3/4	1/3			
062 3区	SD-OH(A)	鉢	(16.6)	(5.3)	8.3	密, 併3mm以下の石英, 長石を多量含む。	良好	外表面: 分離り, に赤褐色7.5Y R7.3 内面: 丹赤り。明赤褐色2.5Y R5/6	1/3	内面丹赤り			
063 3区	SD-OH(A)	鉢	17.9	5.8	8.9	密, 併5mm以下の石英, 長石を多量含む。併1mm以下の石英, 長石を微量含む。	良好	外表面: 分離り, に赤褐色2.5Y R4/2 内面: に赤褐色2.5Y R4/2	2/3	底部から穿孔あり			
064 3区	SD-OH(A)	鉢	(18.1)	7.5~ 8.0	7.6	密, 併2mm以下の石英, 長石を多量含み, 微細な微量含む。	良好	外表面: 灰褐色7.5Y R6/2 内面: に赤褐色7.5Y R6/3	1/3				
065 1区	SD-OH(A)	甌	(16.6)	—	—	やや粗。併5mm以下の石英, 長石を多量含む。	やや不良	外表面: 灰褐色7.5Y R4/3 内面: に赤褐色10YR5/4~黒褐色10YR5/1	体部1/3	内面は黒色碧砂。(外面にも深窓跡あり)			
066 4区	SD-OH(A)	高坏	(16.0)	—	—	密, 併3mm以下の石英, 長石を多量含む。	良好	に赤褐色5YR6/3, 明褐灰2.5YR5/8(丹赤り)	环部1/2 脚柱部1/1	环部・外側全体に分離り(崩壊なし)。口縁部は打ち欠きか			
067 1区	SD-OH(A)	高坏	25.8	—	—	密, 併2mm以下の石英, 長石を多量含む。	良好	外表面: 灰褐色10YR5/2 内面: に赤褐色10YR7/4	环部1/2				
068 4区	SD-OH(A)	高坏	(16.5)	—	—	やや粗。併5mm以下の石英, 長石を多量含む。	良好	に赤褐色5YR6/4~明褐色5YR5/6	环上半2/5 环下半2/脚柱部1/1	口縁直下に低い突起			
069 1区	SD-OH(A)	低脚高坏	17.0	10.6	10.8	やや粗。併5mm以下の石英, 長石を多量含む。	良好	外表面: 环内部: 丹赤り。赤褐色5YR6/8~明褐色5YR7/2 脚柱部: 内面: に赤褐色5YR7/4	环部1/4 その他完存	丹赤り(崩壊なし)。脚内全体に黒斑			
070 4区	SD-OH(A)	高坏	—	—	—	密, 併2mm以下の石英, 長石を多量含む。	良好	に赤褐色7.5YR6/3	脚部のうち脚部以外は残存				
071 4区	SD-OH(A)	蓋	面部伴1.2	—	—	精良, 併2mm以下の石英, 長石を多量含む。	良好	に赤褐色7.5YR6/3~丹赤り。赤褐色2.5YR4/6	上半1/4	外側全体に丹赤			
072 4区	SD-OH(A)	蓋	—	13.8	2.0	密, 併3mm以下の石英, 長石を多量含む。	良好	外表面: 丹赤り。赤褐色5YR4/8 内面: 棕褐色7.5YR6/6	3/5	細孔あり			
073 4区	SD-OH(A)	短頸甌	(16.4)	—	—	密, 併3mm以下の石英, 長石を多量含む。	良好	口縁～外側全体: 丹赤り。赤褐色5YR4/8 その他の内面: に赤褐色5YR6/4	1/6	細孔あり			
074 3区	SD-OH(A)	小型甌	(17.2)	—	—	密, 併3mm以下の石英, 長石を多量含み, 微細な微量含む。	良好	外表面: 丹赤り。明赤褐色5YR7/4 内面: に赤褐色7.5Y R6/3	1/3	口縁から脚部			
075	SD-OH(A)	脚付短甌	19.0	17.1	29.8	密, 併10mm以下の石英, 長石を多量含み, 1mm以下の骨髄を微量含む。	良好	外表面: 明赤褐色5YR5/8 内面: に赤褐色5YR7/4	脚部4/5 その他の内面	口縁～外側全體に丹赤り(丹赤り以前にハラ崩き)。脚部上半に暗文。			
076 4区	SD-OH(A)	注口付き甌	22.6	—	—	密, 併3mm以下の石英, 長石を多量含む。	良好	外表面: に赤褐色7.5YR6/3 内面: に赤褐色7.5YR6/3	体部1/3	外側接合が明瞭。半島系			
077	SD-OH(A)	甌	(20.5)	9.7	29.3	粗, 併10mm以下の石英, 長石を多量含む。	良好	外表面: に赤褐色7.5YR6/3, 亂毛 内面: に赤褐色7.5YR7/4	上半2/5 下半1/1	異質な器形。外側上半に吹きこぼれ痕あり			
078 4区	SD-OH(A)	甌	(13.2)	—	—	密, 併3mm以下の石英, 長石を多量含む。	良好	に赤褐色7.5YR6/3	口縁～脚部上半1/5	半島影響か? (外側接合で、口縁は折り返し)			
079	SD-OH(A)	鉢	11.7	5.6	9.9	密, 併3mm以下の石英, 長石を多量に含む。併1mm以下の骨髄を微量含む。	良好	外表面: 明褐灰7.5YR7/1~棕褐色7.5YR6/6 内面: に赤褐色7.5YR5/3~赤褐色7.5YR6/6	完存				
080 4区	SD-OH(A)	袋状口縁甌	—	6.6	—	密, 併3mm以下の石英, 長石を多量含む。	良好	に赤褐色7.5YR6/4 内面: 7.5YR3/1	脚部F半存	外側の片側半分が黒斑			
081 4区	SD-OH(A)	壺	—	7.8	—	やや粗, 併12mm以下の石英, 長石を多量含む。	やや不良	外表面: に赤褐色5YR6/4 内面: に赤褐色5YR6/3	脚部下定位存				
082 4区	SD-OH(A)	甌	(8.9)	(5.7)	5.6	密, 併2mm以下の石英, 長石を多量含む。	良好	底部内面: 黒斑, 黑褐色7.5YR3/1 その他の: 赤褐色5YR6/2	体部1/5				
083 4区	SD-OH(A)	甌	(12.7)	4.1	7.1	やや粗, 併5mm以下の石英, 長石を多量含む。	良好	外表面: 黑褐色7.5YR3/1 内面: 黑褐色7.5YR5/1	体部1/3 底部1/1				

遺物番号	地区	遺構・層位	器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	残存率	備考	法規(cm)(厘米)	
												外側	内側
084	4区	SD-01(A)	壺	(116)	6.9	25.4	密, 併8mm以下の石英・長石を多量含む。	良好	外側: に赤褐色7.5YR6.4~褐色7.5YR6.6 内側: 黄褐色5YR6.2~明褐色5YR5.8(片端部)	1/4縁・胴部1/2 胴部1/4			
085	1区	SD-01(A)	壺	—	5.1	—	やや粗。併6mm以下の石英・長石を多量含む。	やや不良	外側: に赤褐色7.5YR7.4/内側: 黄褐色5YR5.8(片端部)	胴上半2/5 胴下3/4	外側全体に丹塗磨研		
086	4区	SD-01(A)	広口壺または瓶	—	—	—	精良。併1mm以下の石英・長石を多量含む。	良好(瓦質)	外側: 明褐色2.5YR5.8(片端部) 内側: 黄褐色7.5YR6.1~7.5	胴部下位の 破片	半島系		
087	4区	SD-01(A)	脚付き器種	—	11.0~11.4	—	やや粗。併6mm以下の石英・長石を多量含む。	良好	外側: 棕褐色7.5YR6.6 内側: 明褐色7.5YR7.2	脚柱部1/1 脚部下位1/2	粗製		
088	3区	SD-01(A)	ミニチュア壺形土器	—	2.9	—	やや粗。併3mm以下の石英・長石を多量含む。	良好	外側: に赤褐色7.5YR5.4~明褐色10YR6.8	2/3			
089	1区	SD-01(A)	ミニチュア壺形土器	3.5	3.8	6.9	密, 併3mm以下の石英・長石を多量含む。	良好	明褐色7.5YR7.1~7.2	1/4は定存	丹塗りか?		
091	3区	SD-01(A)	投掷	長さ42、 最大幅2.3	—	—	密, 併2mm以下の石英・長石を多量含む。	良好	に赤褐色7.5YR6.3~7.5 灰褐色7.5YR4.1	完存	重量18.52g		
092	3区	SD-01(A)	砧鍛車 (未完成)	直径 43~45	厚 5.0	—	密, 併3mm以下の石英・長石を多量含む。	良好	に赤褐色7.5YR6.3	完存	土器の転用		
093	3区	SD-01(A)	支脚	5.5	7.8	12.7	密, 併1mm以下の石英・長石・雲母を少量含む。	良好	に赤褐色5YR5.4	1/4は定存			
094	4区	SD-01(A)	支脚	6.2	10.8	13.8	粗。併6mm以下の石英・長石を多量含み, 1mm以下の雲母を少量含む。	不良	外側: に赤褐色7.5YR6.4~明褐色7.5YR5.8 内側: 黄褐色7.5YR6.1	上半3/4 下半1/1			
095	SD-01(A)	支脚	7.2	8.9	13.9	密, 併4mm以下の石英・長石を多量含み, 1mm以下の雲母を少量含む。	良好	明褐色7.5YR5.6~に赤褐色 YR6.3	完存	X=63501.13 Y=67367.20 L=474			
096	4区	SD-01(A)	支脚	7.6	10.8	14.85	やや粗。併4mm以下の石英・長石を多量含み, 1mm以下の雲母を少量含む。	やや不良	に赤褐色7.5YR5.4	根部2/3 その他の1/1			
097	4区	SD-01(A)	支脚	5.5	10.4	15.0	やや粗。併5mm以下の石英・長石を多量含み, 1mm以下の雲母を少量含む。	やや不良	に赤褐色7.5YR6.4~7.5 灰褐色7.5YR4.1	1/4は定存	幅2~2.5cmの板状工具 直角あり		
098	4区	SD-01(A)	支脚	6.7	11.4	16.0	やや粗。併5mm以下の石英・長石を多量含み, 1mm以下の雲母を少量含む。	良好	に赤褐色7.5YR6.3~5/4	1/4は定存	幅2~2.5cmの板状工具直角あり		
099	2区	SD-01(A)	支脚	7.2	9.8	15.8	やや粗。併5mm以下の石英・長石を多量含み, 濾織細網を微細含む。	良好	に赤褐色7.5YR7.3~7/4	脚部2/3 その他の1/1			
100	4区	SD-01(A)	支脚	6.4	9.6	15.6	やや粗。併5mm以下の石英・長石を多量含み, 1mm以下の雲母を少量含む。	良好	に赤褐色7.5YR6.4	解部1/2 その他の1/1			
101	4区	SD-01(A)	器台	(8.8)	(11.1)	16.6	やや粗。併5mm以下の石英・長石を多量含み, 1mm以下の雲母を少量含む。	良好	に赤褐色7.5YR7.4	受部1/3 柱状部1/1 解部2/5			
102	SD-01(A)	器台	—	9.7	—	—	密, 併2mm以下の石英・長石を多量含み, 1mm以下の雲母を少量含む。	良好	に赤褐色7.5YR6.4	下半1/1			
104	3区	SD-01(A)	器台	11.0	14.2	18.1	やや粗。併6mm以下の石英・長石を多量に含み, 微細な雲母を少量含む。	良好	に赤褐色7.5YR5.2	2/3			
105	4区	SD-01(A)	器台	11.4	13.3	21.0	密, 併2mm以下の石英・長石を多量含む。	良好	に赤褐色7.5YR6.4	受部・脚部4/5 脚部1/1			
119	SD-01(BB)	壺(下部)	—	9.6	—	—	密, 併5mm以下の石英・長石を多量に含み, 併1mm以下の黒い砂粒を微量含む。	良好	外側: 棕褐色7.5YR4.3~明褐色 7.5YR7.2 内側: に赤褐色7.5 YR6.3~5/3~6/3~7.5YR7.4	脚部下半1/3			
120	SD-01(BB)上層	壺	—	(8.0)	—	—	密, 併4mm以下の石英・長石を多量含む。	良好	外側: 燐付着, 黑褐色7.5YR2.1 内側: 脚部に赤褐色7.5YR5.3	底部1/4			
121	SD-01(BB)F層	素口縦壺	19.8	8.5	27.7	密, 併9mm以下の石英・長石を多量に含む, 併2mm以下の透明砂粒を少量含む。	良好	外側: 月, 明褐色5YR5.8~暗赤褐色 5YR3.6~6.6(10YR6.6 内側: に赤褐色 5YR3.6~6.6(10YR6.6	完存				
122	SD-01(BB)F層	壺	—	6.0	—	—	やや粗。併5mm以下の石英・長石を多量に含む。	良好	灰褐色7.5YR4.2~に赤褐色 7.5YR5.3/5	口縁端と脚部 下半の一部を欠損	X=63515.80 Y=67366.45 L=4.16		
123	2区	SD-01(BB)F層	小型壺	12.9	6.2	13.1	密, 併4mm以下の石英・長石を多量含む。	良好	外側: 棕褐色7.5YR4.3~4/6 内側: に赤褐色10YR6.3~7.5YR5.3	口縁~脚部上 半2/3	X=63155.32 Y=67366.30 L=4.05		
124	2区	SD-01(BB)F層	小型壺	15.0	7.2	12.9	やや粗。併5mm以下の石英・長石を多量含む。	良好	外側: 黑褐色7.5YR4.1~暗赤褐色 10YR6.3~7.5YR5.4	口縁~脚部上 半3/4	その他の定存		
125	1区	SD-01(BB)上層	鉢	11.7	(6.2)	11.4	やや粗。併5mm以下の石英・長石を多量含み, 1mm以下の雲母を少量含む。	良好	外側: 棕褐色7.5YR5.1 内側: に赤褐色7.5YR6.3	脚部2/3 底部1/4			

測定値(厘米)											
地番	地区	道構・層位	器種	口径	底径	器高	胎上	焼成	色調	残存率	備考
126	2区	SD-0109上層	甕	(147)	7.0	15.7	やや粗。径4mm以下の石英、長石を多量含み、微細な雲母を微量含む。	良好	外面:灰褐色2.5YR4/1~明赤褐色2.5YR5/8 内面:黒褐色7.5YR3/1~明赤褐色2.5YR3/8	口縁~部屋1/4 胴部中2/3 その他完存	丹波作り(特に内面に残る、磨研はない)
127	2区	SD-0109下層	小型甕	(119)	—	—	やや粗。径1mm以下の石英、長石を多量含み、少量の雲母を微量含む。	やや不良	黒褐色7.5YR3/1~2/2	口縁~胴部中位1/3	L1縁部に径3mmほどの穿孔が1ヶ所残る。内外面とも僅付着
128	3区	SD-0109上層	甕	15.5	—	11.5	やや粗。径5mm以下の石英、長石を多量含む。	良好	に似い橙色7.5YR7-3 横(外面):黒褐色7.5YR3/1 ヨコ(内面):暗褐色5.5YR3/4	完存	外曲の1/3周分に火を受け、その部分の内面にコゲ付着
129	3区	SD-0109上層	有孔甕	22.5~ 23.5	8.0	16.4	やや粗。径5mm以下の石英、長石を多量含み、1mm以下の雲母を微量含む。	良好	に似い橙色5.5YR7-4~橙色7.5YR6/8	L1縁部わずか 体部上半1/3 下半1/2	底部内面から焼成前穿孔
130	1区	SD-0109上層	有孔甕	—	12.2~ 13.1	—	やや粗。径6mm以下の石英、長石を多量含み、1mm以下の雲母を微量含む。	やや不良	外面:灰褐色7.5YR6/1 内面:に似い橙色5.5YR6/3	口縁はわずか 体部1/3 底部3/4	底部付近に横長の黒斑あり。
131	3区	SD-0109上層	甕	(109)	4.8	7.4	やや粗。径6mm以下の石英、長石を多量含む。	良好	外面:に似い橙色5YR7/4 内面:橙色5YR7/6	上半1/3 下半2/3 底部1/1	
132	3区	SD-0109上層	甕	(14.6)	4.5	7.25	密。径4mm以下の石英、長石を多量含み、1mm以下の雲母を微量含む。	良好	橙色7.5YR7/6~明褐色7.5YR5/8	体部1/4 底部1/1	
133	2区	SD-0109上層	甕	14.7	5.8	7.2	密。径4mm以下の石英、長石を多量含み、微細な雲母を微量含む。	良好	外面:灰褐色7.5YR6/2~明赤褐色5YR5/6 内面:に似い赤褐色5YR4/2~黒褐色5YR2/1	底部外側以外は刀削磨研、内面下手にはさらにも黒染り(刷文の横に墨まつている)	
134	3区	SD-0109上層	甕	13.3	4.0	8.1	やや粗。径5mm以下の石英、長石を多量含み、1mm以下の雲母を微量含む。	やや不良	外面:明褐色7.5YR7/1~ 内面:灰褐色7.5YR3/3	体部2/3 底部1/1	
135	3区	SD-0109上層	甕	15.6	5.7	8.3	密。径5mm以下の石英、長石を多量含む。	良好	外面:に似い橙色5YR7/3~ 内面:灰褐色5YR5/1 内面:に似い黒褐色5YR6/3~灰褐色7.5YR5/2	ほぼ完存	
136	1区	SD-0109下層	甕	13.9	5.7	9.6	やや粗。径5mm以下の石英、長石を多量含む。	良好	橙色7.5YR4/4	1/2	
137	3区	SD-0109上層	甕	16.4~ 17.4	—	8.6	やや粗。径5mm以下の石英、長石を多量含む。	やや不良	に似い橙色5YR7/4~橙色7.5YR6/6	外曲面とも一部に片が残る、磨研ではない	
138	1区	SD-0109上層	甕	(16.7)	7.4	9.2	やや粗。径5mm以下の石英、長石を多量含み、1mm以下の雲母を微量含む。	良好	口縁より灰褐色7.5YR5/2~ 赤褐色5YR4/6	上半1/5 下半1/2	内面に外曲調整時の指當て痕あり。内面に黒斑
139	2区	SD-0109上層	甕	(31.4)	—	—	やや粗。径5mm以下の石英、長石を多量含み、1mm以下の雲母を微量含む。	良好	外面:に似い橙色7.5YR7/3~ 明褐色7.5YR5/6 内面:灰褐色7.5YR6/2~黒褐色7.5YR4/3	口縁~体部中位1/3	
140	1区	SD-0109上層	台付起甕	—	—	—	やや粗。径5mm以下の石英、長石を多量含む。	良好	に似い黒褐色7.5YR6/3	東底部1/6 脚部上半1/1	
141	1区	SD-0109上層	高坏	—	—	—	密。径3mm以下の石英、長石を多量含む。	良好	環状内面:明赤褐色5YR5/8 その他の色:橙色5YR6/6	環状下半1/4 脚柱部1/1	脚部に3ヶ所穿孔
142	2区	SD-0109下層	高坏	20.3	9.7	14.8	やや粗。径5mm以下の石英、長石を多量含む。	良好	外面:に似い黄褐色10YR6/3 内面:に似い黒褐色5YR5/6~明褐色5YR5/6	口縁部~脚部2/3 その他の穿孔	丹波磨研(平島の影響か?)
143	3区	SD-0109上層	長瓶甕	(11.3)	—	—	密。径6mm以下の石英、長石を多量含む。	良好	灰褐色7.5YR8/1~に似い黒褐色7.5YR5/3	灰頭部上半2/5 下半1/1	
144	4区	SD-0109上層	甕	—	3.4	—	やや粗。径5mm以下の石英、長石を多量含む。	良好	外面:橙色7.5YR6/6~明褐色7.5YR7/1 内面:灰褐色7.5YR5/1	脚部のみは丹波外間に黒斑あり	
145	1区	SD-0109中段	器台	12.4	13.5	15.7	やや粗。径5mm以下の石英、長石を多量含む。	やや不良	明褐色5YR7/2~橙色5YR7/8	受部1/2 脚部2/3 その他の穿孔	
146	3区	SD-0109南端	器台	(11.6)	(11.4)	—	やや粗。径5mm以下の石英、長石を多量含み、1mm以下の雲母を微量含む。	良好	外に:に似い橙色5YR6/4	受部下半1/3 脚上半1/1	
147	SD-0109	支脚	—	9.6	11.1	12.3	やや粗。径5mm以下の石英、長石を多量含み、1mm以下の雲母を微量含む。	良好	橙色7.5YR6/6~暗褐色7.5YR3/3	ほぼ完存	
148	SD-0101	中柱	墨先口縁	38.0	—	—	密。径3mm以下の石英、長石を多量含み、微細な雲母を微量含む。	良好	外面:明褐色5YR5/3~橙色5YR6/6 内面:に似い橙色7.5YR6/6~明褐色5YR5/8	口縁部2/3 脚部1/1 脚部1/5	口縁部に刷文、丹波りの後に脚部外間に暗文
149	SD-0101	中柱	広口壺	(31.0)	—	—	密。径2mm以下の石英、長石を少量含む。	良好	外面:明褐色2.5YR5/8~赤褐色2.5YR4/6 内面:に似い橙色7.5YR6/4~黒褐色5YR4/6	口縁~脚部上半1/4	内外面とも全面丹波り。暗文は8~10本を1単位として、数單位が並ぶ
150	SD-0101	分歧	甕	—	—	—	密。径5mm以下の石英、長石を多量含み、2mm以下の雲母を微量含む。	やや不良	外面:明褐色7.5YR7/2~黒褐色7.5YR3/3 内面:に似い黒褐色7.5YR6/3~明褐色5YR3/3	口縁~脚上位1/1 脚柱部1/3	外面上に墨、内面にコゲ付着
151	SD-0101	分歧	器台	14.7	—	—	やや粗。径5mm以下の石英、長石を多量含み、1mm以下の雲母を微量含む。	良好	橙色7.5YR6/6	受部2/3 脚部は器部以外	受部端部は不整円形
152	SD-0101	分歧	器台	9.6	9.9	10.2	密。径5mm以下の石英、長石を多量含み、1mm以下の雲母を微量含む。	良好	外面:明褐色5YR5/8~に似い黒褐色7.5YR7/3~内面:に似い黒褐色7.5YR6/2	完存	

遺物番号	地区	遺構・層位	器種	口径	底径	高さ	胎上	焼成	色調	残存率	備考	
											法規(cm)(復元)	
172 3区	SD-01上層	大型鉢	—	—	—	やや粗。径6mm以下の石英・長石を多量含む。	良好	外面:にい・褐色7.5YR7/3~褐色7.5YR7/8 内面:褐色7.5YR4/4	体部上半破片	体部最大径は30cm前後か		
182 3区	井泉内上層	大型甕	(52.0)	—	—	やや粗。径6mm以下の石英・長石を多量含む。	良好	外面:灰白色7.5YR8/2~にい・褐色7.5YR5/4~内面:明褐色7.5YR5/6	口縁~胴部上位	口縁端部に網文、頸部三角窓帯に網文、口縁内面半が削離		
183 3区	井泉内上層	大型甕	44.2	—	61.0	やや粗。径6mm以下の石英・長石を多量含み、3mm以下の雲母を微量含む。	良好	外面:明褐色7.5YR7/2 内面:にい・褐色7.5YR6/3	口縁~胴部上位2/3	底部、胴部中下位の三角窓帯にそれぞれ工具小孔の刺突支が発見。胴部内面に黒斑あり		
184 3区	井泉内上層	大型甕	(24.8)	(9.0)	50.0	やや粗。径6mm以下の石英・長石を多量含む。	良好	外面:褐色7.5YR4/3~4/4 内面:黒褐色7.5YR3/2~褐色7.5YR4/4	口縁~胴部上位1/4 下3/4 底部1/6			
185 3区	井泉内上層	甕	(15.3)	6.1	21.0	やや粗。径6mm以下の石英・長石を多量含む。	良好	にい・褐色7.5YR6/4	上半1/3 下半1/1 底部2/3			
186 3区	井泉内上層	甕	(20.0)	(5.5)	31.2	密。径6mm以下の石英・長石を多量含む。	良好	外面:褐色7.5YR4/4 内面:にい・褐色7.5YR7/4	1/3			
187 3区	井泉内上層	甕	(12.5)	3.1	18.1	やや粗。径5mm以下の石英・長石を多量含み、1mm以下の雲母を微量含む。	良好	外面:にい・褐色7.5YR7/3~明褐色7.5YR5/6 内面:にい・褐色7.5YR6/3~黒褐色7.5YR3/2	上半1/4 下半1/3 底部1/1	外面に黒斑や煤付着		
188 3区	井泉内上層	甕	(14.9)	2.5	19.4	密。径4mm以下の石英・長石を多量含む。	良好	にい・褐色7.5YR6/4~にい・褐色7.5YR6/4	上半1/3 下半2/3	外面に黒斑		
189 3区	井泉内上層	小型甕	15.3	—	—	密。径5mm以下の石英・長石を多量含み、微細な雲母を微量含む。	良好	外面:にい・褐色7.5YR7/3~7/4 内面:明褐色7.5YR7/2~にい・褐色7.5YR3/2	口縁~胴部中位のみ完存			
190 3区	井泉内上層	甕	24.0	—	—	密。径4mm以下の石英・長石を多量含む。	良好	外面:にい・褐色7.5YR6/3~褐色7.5YR4/4 内面:にい・褐色7.5YR6/4~褐色7.5YR4/2	口縁部3/5 胴部上半3/4	胴部外面に黒斑、内外面に炭化物付着		
191 3区	井泉内下層	小型甕	13.2	7	13.85	密。径3mm以下の石英・長石を多量含む。	良好	外面:明褐色7.5YR5/8~褐色7.5YR4/8 内面:にい・褐色7.5YR6/3~黒褐色7.5YR3/2	胴部のみ完存	X=63490.97 Y=67365.72 L=424		
192 3区	井泉内下層	無颈甕	7.7~8.0	—	9.2	密。径2mm以下の石英・長石を多量含む。	良好	外面:灰褐色7.5YR4/2~暗褐色7.5YR3/3 内面:褐色7.5YR4/3~暗褐色7.5YR3/4	完存	X=63490.77 Y=67364.65 L=430		
193 3区	井泉内	甕	—	7.7	—	やや粗。径4mm以下の石英・長石を多量含み、2mm以下の角閃石や雲母を微量含む。	良好	外面:にい・褐色7.5YR5/3~褐色7.5YR4/3 内面:褐色7.5YR4/2~暗褐色7.5YR3/4	胴部のみ完存	X=63490.40 Y=67364.07 L=446		
194 3区	井泉内上層	複合口縁甕	(21.3)	—	—	密。径5mm以下の石英・長石を多量含み、微細な雲母・黒色砂粒を微量含む。	良好	灰褐色7.5YR4/2	二次口縁部1/10	胴部外面に黒斑あり X=63490.40 Y=67364.07 L=446		
195 3区	井泉内上層	二重口縁甕	—	7.5	—	密。径5mm以下の石英・長石を多量含み、2mm以下の雲母・黒色砂粒を微量含む。	良好	にい・褐色7.5YR6/3	二次口縁部1/4	第一次口縁部が大きく述べる傾向がある鳥島地域の複合口縁甕の特徴に似る		
196 3区	井泉内上層	甕	—	14.5	—	密。径5mm以下の石英・長石を多量含み、微細な雲母・黒色砂粒を微量含む。	良好	明褐色7.5YR7/2~にい・褐色7.5YR6/4	口縁部2/3	口縁部2/3		
197 3区	井泉内上層	長颈甕	9.2	5.9	18.1	密。径2mm以下の石英・長石を多量含む。	良好	外面:にい・褐色7.5YR5/3~褐色7.5YR4/4 内面:にい・褐色7.5YR5/3	胴部上半1/2	平底が微妙に残る		
198 3区	井泉内上層	小型甕	(13.9)	—	—	密。径2mm以下の石英・長石を多量含み、微細な雲母・黒色砂粒を微量含む。	良好	明褐色7.5YR7/2~明褐色7.5YR5/3	口縁部1/4	口縁部1/4		
199 3区	井泉内上層	水滴形甕	(20.8)	—	—	水滴形。微細な石英・長石・黑色砂粒を少量含む。	良好	外面:にい・褐色7.5YR7/2~灰褐色7.5YR5/2 内面:にい・褐色7.5YR7/4	口縁部~胴部上半1/3	外面に煤付着		
200 3区	井泉内上層	高坏	(27.0)	17.0	18.3	密。径5mm以下の石英・長石を多量含み、1mm以下の雲母・黒色砂粒を少量含む。	良好	にい・褐色7.5YR5/3~灰褐色7.5YR4/2	环部上半1/2	脚部に3ヶ所穿孔・北四国からの輸入品か		
201 3区	井泉内上層	台付甕	—	16.5	—	やや粗。径6mm以下の石英・長石を多量含み、2mm以下の雲母を微量含む。	良好	褐色7.5YR4/4	脚部上半1/2			
202 3区	井泉内上層	台付甕	—	19.0	—	密。径4mm以下の石英・長石を多量含み、2mm以下の雲母を微量含む。	やや不良	にい・褐色7.5YR3/4	脚部下1/2			
203 3区	井泉内上層	低脚高坏	—	(12.8)	—	やや粗。径5mm以下の石英・長石を多量含み、径1mm以下の雲母を少量含む。	良好	环部内面:にい・褐色7.5YR7/3~6/4 その他の:明褐色7.5YR5/2~にい・褐色7.5YR6/3	环部上以外道存			
204 3区	井泉内上層	甕	—	—	—	やや粗。径5mm以下の石英・長石を多量含み、微細な雲母を微量含む。	良好	外面:にい・褐色7.5YR7/3~にい・褐色7.5YR5/4 内面:にい・褐色7.5YR6/3~褐色7.5YR6/6	底部のみ	多孔式		
205 3区	井泉内上層	把手付広口甕	—	—	—	粗。径9mm以下の石英・長石を多量含む。	良好	外面:深灰色・黒色7.5YR2/1~灰褐色7.5YR4/2 内面:水銀朱・赤色10R5/2	尾部近くの破片	水銀朱がヒビの奥まで染み込んでいる		
206 3区	井泉内上層	甕	(13.2)	4.8	10.2	やや粗。径5mm以下の石英・長石を多量含み、微細な雲母を微量含む。	やや不良	外面:にい・褐色7.5YR6/4~褐色7.5YR4/3 内面:にい・褐色7.5YR6/4~褐色7.5YR6/6	上半1/4	底部外側は剥離が顕著		
211 3区	井泉内上層	高坏	—	—	—	密。径7mm以下の石英・長石を多量含み、微細な雲母を微量含む。	良好	灰褐色7.5YR8/2~浅黃褐色7.5YR8/3	下半1/2	搬入品か		

測量(単位:cm(厘米))											
遺物番号	地区	遺構・層位	器種	口径	底径	高さ	船上	焼成	色調	残存率	備考
212 3区	井泉内上層	器台	(10.4)	(11.0)	12.45	やや粗。口径以下の石英、長石を多量含み、微細な雲母を微量含む。	良好	灰褐色7.5YR5/2~明赤褐色SYR5/6	受部1/4 脚部1/1 脚部1/2		
213 3区	井泉内上層	器台	(13.1)	(14.5)	15.25	やや粗。口径以下の石英、長石を多量含み、微細な雲母を微量含む。	良好	外側:褐灰色7.5YR5/1~桜色7.5YR6/6 内面:暗褐色SYR6/8	受部2/5 脚部2/3 脚部1/6		
214 3区	井泉内上層	器台	14.2	16.0	18.5	やや粗。口径以下の石英、長石を多量含み、但2mm以下の雲母を微量含む。	良好	外側:褐灰色7.5YR5/1~桜色7.5YR6/6 内面:暗褐色SYR6/8	受部2/5 脚部2/3 脚部1/1	内部が被熱変色して桜色化	
215 3区	井泉内上層	器台	(17.9)	19.0	19.8	やや粗。口径以下の石英、長石を多量含み、但1mm以下の雲母を微量含む。	やや不良	外側:褐灰色7.5YR5/1~桜色7.5YR6/6 内面:暗褐色SYR6/8	受部1/4 脚部1/1 脚部2/5		
216 3区	井泉内上層	器台	(22.0)	(21.8)	23.5	密。口径以下の石英、長石を多量含み、微細な雲母を微量含む。	良好	灰褐色7.5YR5/2~桜色7.5YR6/6	受部1/4 脚部1/3		
217 3区	井泉内上層	器台	12.3	11.8~12.3	17.4	密。口径以下の石英、長石を多量含み、微細な雲母を微量含む。	良好	外側:桜色7.5YR6/6~明褐色7.5YR7/2 内面:桜色SYR7/6~6-6	脚部3/4 その他の施存		
218 3区	井泉内上層	器台	16.8	18.8	21.9	密。口径以下の石英、長石を多量含み、2mm以下の雲母を微量含む。	良好	に近い桜色7.5YR7/4~6/4	脚部1/1 その他の3/4	受部の刺突文はハケメ工具の小口を使用	
219 3区	井泉内上層	器台	13.6	14.0	18.85	密。口径以下の石英、長石を多量含み、微細な雲母を微量含む。	良好	外側:に近い桜色7.5YR5/3~灰褐色7.5YR4/2 内面:褐灰色7.5YR4/2	完存		
220 3区	井泉内上層	支脚	7.4	8.0~8.4	8.3	やや粗。口径以下の石英、長石を多量含み、微細な雲母を微量含む。	良好	灰褐色7.5YR5/2~明褐色7.5YR5/7	はは完存		
221 3区	井泉内上層	支脚	9.5	10.65	9.6	やや不良。口径以下の石英、長石を多量含む。	やや不良	外側:明赤褐色SYR5/8~に近い桜色7.5YR7/3 内面:灰褐色7.5YR6/2	受部3/5 その他の施存		
222 3区	井泉内上層	支脚	10.6	12.2	10.8	やや粗。口径以下の石英、長石を多量含み、但1mm以下の雲母を微量含む。	良好	に近い桜色7.5YR7/3~明褐色7.5YR5/6	脚部欠損		
223 3区	井泉内上層	支脚	7.9	10.6	16.4	やや粗。口径以下の石英、長石を多量含み、但1mm以下の雲母を微量含む。	良好	に近い桜色7.5YR6/3	1/2		
224 3区	井泉内上層	器台	8.8	12.4	12.4	やや粗。口径以下の石英、長石を多量含む。	良好	外側:桜色7.5YR6/8 内面:に近い桜色7.5YR7/4 脚部:黒褐色7.5YR3/1	受部2/3 その他の施存	全体に火を受け焼付着(右側に表面剥離する状態)。脚部に焼こげ跡がある	
225 3区	井泉内上層	杏形支脚	—	12.7~13.7	11.0	やや粗。口径以下の石英、長石を多量含み、但1mm以下の雲母を微量含む。	良好	外側:褐灰色7.5YR6/1~桜色SYR6/6 内面:灰褐色7.5YR6/2~明褐色7.5YR5/6	はは完存		
226 3区	井泉内上層	杏形支脚	—	13.8	13.5	やや粗。口径以下の石英、長石を多量含み、微細な雲母を微量含む。	良好	外側:明褐色7.5YR5/8~灰褐色7.5YR5/2 内面:明赤褐色SYR5/8~に近い褐灰色7.5YR3/3	はは完存		
227 4区	SD01土器集中	大型壺	39.0	5.1	51.4	やや粗。口径以下の石英、長石を多量含み、1mm以下の雲母を微量含む。	良好	外側:に近い桜色SYR7/4~6/4 内面:桜色SYR6/6	口縁部1/2 脚上~中位3/4 脚下位1/1	蓋部、剥落した下部の台形壺帯にそぞぞれ工具小口の刺突文が並ぶ。裏面に大きな黒斑が2ヶ所	
228 4区	SD01土器集中	壺	(36.7)	—	—	やや粗。口径以下の石英、長石を多量含む。	やや不良	に近い桜色7.5YR6/3	口縁~脚上位1/3 脚中位1/6		
229 4区	SD01土器集中	壺	(29.0)	—	—	やや粗。口径以下の石英、長石を多量含む。	やや不良	外側:に近い桜色7.5YR6/3~5 内面:5~4 内面:明褐色7.5YR5/6~脚部7.5YR4/3	口縁部1/4 脚部上~中位1/3		
230 4区	SD01土器集中	壺	22.7	—	28.6	やや粗。口径以下の石英、長石を多量含み、但1mm以下の雲母を微量含む。	良好	外側:灰褐色7.5YR5/2~4/2 内面:桜色7.5YR6/6	口縁部4/5 底部1/2 その他の施存		
231 4区	SD01土器集中	壺	19.0	—	26.95	やや粗。口径以下の石英、長石を多量含み、1mm以下の雲母を微量含む。	良好	外側上半:褐灰色7.5YR7/1 外側下半:に近い褐灰色7.5YR6/3 内面:灰褐色7.5YR2/2	口縁部1/2 脚部上~中位2/3 その他の施存		
232 4区	SD01土器集中	鉢	20.6	—	11.6	やや粗。口径以下の石英、長石を多量含む。	やや不良	外側:に近い桜色7.5YR6/3 内面:桜色SYR7/6	1/2		
233 4区	SD01土器集中	有孔鉢	(20.2)	—	13.0	粗。口径以下の石英、長石を多量含む。	やや不良	外側:に近い桜色7.5YR7/3~桜色SYR6/6~6-6	上半1/4 下半1/1	底部内面から焼成前穿孔	
234 4区	SD01土器集中	ミニチュア壺形土器	—	3.0	—	やや粗。口径以下の石英、長石を多量含む。	良好	外側:に近い桜色7.5YR7/4~桜色SYR6/4	下半1/3 底部1/1		
235 4区	SD01土器集中	鉢	17.8	3.4	7.2	やや粗。口径以下の石英、長石を多量含む。	良好	に近い桜色7.5YR6/3	1/2		
236 4区	SD01土器集中	壺形土器	(7.8)	4.5	5.8	やや粗。口径以下の石英、長石を多量含む。	やや不良	外側:に近い桜色7.5YR6/4~灰褐色7.5YR6/6 内面:に近い褐灰色7.5YR5/3~5/4	上半1/4 下半完存		
237 4区	SD01土器集中	碗	14.8~15.4	6.6	9.8	やや粗。口径以下の石英、長石を少量含む。	不良	明褐色7.5YR7/2~明赤褐色SYR5/6	完存		
238 4区	SD01土器集中	鉢	12.7	—	4.8	密。口径以下の石英、長石を少量含む。	良好	に近い桜色7.5YR6/3~5/3	口縁部3/4 その他の施存	特に底部内面はハケメを螺旋状に丁寧に施す	

表題(cm(厘米))											
地番	地区	造構・層位	器種	口径	底径	器高	胎土	焼成	色調	残存率	備考
239	4区	SD-01土器集中	台付甕	(217)	18.0	27.75	やや粗。径9cm以下の石英、長石を多量含み、1mm以下の雲母・粘土を少量含む。	良好	にぶい褐色7.5YR6/4	口縁部1/5 胴部上～中1/2/3 その他完全	
240	4区	SD-01土器集中	広口甕	—	—	—	やや粗。径2cm以下の石英、長石を多量含む。	良好	にぶい褐色7.5YR5/4	口縁部破片	L1縁部に凹線文、円形浮文、横内より撇入
241	4区	SD-01土器集中	高坏	—	14.1	—	やや粗。径4cm以下の石英、長石を多量含む。	良好	环部内面:黄褐色7.5YR7/8 その他:暗褐色7.5YR6/2～ 褐色7.5YR7/6	环上半わざか 环下半1/5 脊柱 部1/1 脊輪部1/3	
242	4区	SD-01土器集中	注口付 高坏か	—	—	—	密。径4cm以下の石英、長石を少量含み、1mm以下の雲母を微量含む。	良好	灰褐色7.5YR5/2～褐色 7.5YR4/6	环部破片	
243	4区	SD-01土器集中	脚付甕	19.0	12.8	124	密。径1mm以下の石英、長石を多量含む。	やや不良	にぶい褐色5.5YR6/3	环部上半・脚部 部1/1 その他完全	脚部4/3カ所穿孔
244	4区	SD-01土器集中	把手付 広口甕	—	—	—	やや粗。径2cm以下の石英、長石を多量含む。	良好	内面:尾部立ち上がり外面:把手上部 水藍色、赤褐色10R6/8～5 10R4/4 その他:黒色2/3 10R4/2	尾部立ち上がり3/4 尾部把手2/3 体部わざか	
245	4区	SD-01土器集中	印形土器	—	—	—	精良。径2cm以下の石英、長石を微量含む。	やや不良	外面部:灰白色N8～灰黑色N4/ 内面部:灰白色10YR7/1	胴部中位破片	
249	4区	SD-01土器集中	器台	12.3	13.8	152	やや粗。径6mm以下の石英、長石を多量含み、1mm以下の雲母・粘土を微量含む。	良好	明褐色7.5YR7/2～にぶい 褐色7.5YR6/4	受部3/4 脚部1/1	
250	4区	SD-01土器集中	器台	14.5	15.0	19.8	やや粗。径6mm以下の石英、長石を多量含み、1mm以下の雲母・粘土を微量含む。	良好	外面:にぶい褐色7.5YR7/3 ～7/4 内面:褐色5YR7/6 ～6/8	受部3/4 脚部1/3	脚部の欠損は外曲のみ が大きく剥離している もの
251	4区	SD-01土器集中	器台	14.3	15.8	18.5	やや粗。径5mm以下の石英、長石を多量含む。	良好	灰白色10YR8/2～にぶい 褐色10YR7/3	受部2/3 脚部3/4 その他完全	
252	4区	SD-01土器集中	器台	(16.1)	15.0	17.4	やや粗。径5mm以下の石英、長石を多量含む。	良好	外面:尾部灰色5YR5/1～褐色 5YR6/8 内面:尾部灰色5YR4/1 ～にぶい褐色5YR6/4	受部1/4 その他2/3	
253	4区	SD-01土器集中	器台	(14.2)	19.3	22.2	やや粗。径6mm以下の石英、長石を多量含み、2mm以下の雲母・粘土を微量含む。	やや不良	灰白色7.5YR8/2～褐色 7.5YR6/6	受部1/5 脚部1/2	外面のみが大きく剥離 している
254	4区	SD-01土器集中	器台	(13.6)	18.4	21.25	やや粗。径5mm以下の石英、長石を多量含む。	やや不良	外面部:明褐色7.5YR7/1～ 褐色7.5YR6/6 内面部:褐色 7.5YR6/6	受部1/3 脚部下半1/4 その他完全	
255	4区	SD-01土器集中	器台	5.0	—	—	密。径4mm以下の石英、長石を多量含む。	良好	明赤褐色5YR5/8～にぶい 褐色5YR7/3	口縁～頭部完全	
256	4区	SD-01土器集中	杏形支脚	7.8 ⁺ 8.9	13.9	13.4	やや粗。径7mm以下の石英、長石を多量含み、1mm以下の雲母を微量含む。	良好	外面:にぶい褐色7.5YR6/3～ 内面:明褐色5YR5/6	上半完全 下半1/2	上半外曲は被熱している
257	4区	SD-01黒色土	大型壺	(49.8)	—	—	やや粗。径5mm以下の石英、長石を多量含み、微細な雲母を微量含む。	良好	褐色7.5YR4/3～4/6	頭部上半3/5 頭部下半1/3 肩部わざか	口縁端面にハケメ小口の 刺突文を巡らす
258	4区	SD-01黒色土	大型壺	49.5	—	—	やや粗。径5mm以下の石英、長石を多量含み、1mm以下の雲母を微量含む。	良好	褐色7.5YR6/6～6/8	頭部1/2 脚部1/8	口縁端面に刺突文
259	4区	SD-01黒色土	二重口縁壺	(20.2)	—	—	やや粗。径7mm以下の石英、長石を多量含む。	やや不良	外面:にぶい褐色7.5YR6/3～ 内面:明褐色5YR5/1～ にぶい褐色7.5YR5/3	二次口縁1/6 一次口縁1/4 脚部1/1 脚部1/3	ハケメ小口の刺突による 肩部文様
260	4区	SD-01黒色土	大型壺	—	—	—	密。径3mm以下の石英、長石を多量含み、1mm以下の雲母を微量含む。	良好	にぶい褐色7.5YR5/8	破片	口縫は90cm位か
261	4区	SD-01黒色土	二重口縁壺	18.6	—	—	密。径4mm以下の石英、長石を多量含む。	良好	胴部内面:黒褐色7.5YR3/1 その他:暗褐色7.5YR7/6	肩部外曲に黒斑	
262	4区	SD-01黒色土	二重口縁壺	21.0	—	—	密。径2mm以下の石英、長石を多量含む。	良好	褐色7.5YR7/6	口縁～頭部上半1/1 頭部下半1/3	口縁屈曲部に刺突文が 巡る
263	4区	SD-01黒色土	二重口縁壺	27.3	—	—	密。径3mm以下の石英、長石を多量含む。	良好	にぶい褐色7.5YR7/3～にぶい 褐色7.5YR5/3	二次口縁3/4 頭部5/6 脚部上半1/6	口縁端面・口縁屈曲部・ 頭部突帯にハケメ小口 で刺突文を巡らす
264	4区	SD-01黒色土	壺	—	—	—	密。径5mm以下の石英、長石を多量含み、1mm以下の雲母を微量含む。	良好	にぶい褐色7.5YR6/3	難入土器	
265	4区	SD-01黒色土	壺	31.7	—	—	密。径5mm以下の石英、長石を多量含み、1mm以下の雲母(金・銀色)を微量含む。	やや不良	外面部:にぶい褐色7.5YR5/3 内面部:にぶい褐色7.5YR5/4	頭部3/4	口縁部の文様はハケメ 工具による。難入土器
266	4区	SD-01黒色土	楕合口縁壺	(33.0)	—	—	密。径5mm以下の石英、長石を多量含み、1mm以下の雲母を微量含む。	良好	にぶい褐色7.5YR6/4	口縁～頭部1/4	二次口縁部に竹管文、 切目文、難入土器
267	4区	SD-01黒色土	壺	(30.0)	—	—	密。径2mm以下の石英、長石を多量含む。	良好	にぶい褐色7.5YR6/4	頭部1/4	口縁部に凹線文、円形浮文、 横内より撇入
268	3区	SD-01黒色土	広口壺	(30.6)	—	—	やや粗。径9mm以下の石英、長石を多量含み、5mm以下の石英、長石を多量含む。	良好	灰褐色7.5YR4/2	口縁～頭部2/5	口縁端面に凹線文、円形浮文、 横内より撇入

地番 番号	地区	造構・層位	器種	口径	底径	器高	胎上	焼成	色調	残存率	備考
269	4区	SD-01黒色土	壺	15.3	—	—	密、径4mm以下の石英、長石を多量含み、3mm以下の雲母を微量含む。	良好	褐色7.5YR4/3~4/6	口縁～胴上位3/4、胴中位1/3	
270	4区	SD-01黒色土	壺	—	33	—	密、径2mm以下の石英・長石を多量含み、微細な雲母・黑色鉱を微量含む。	良好	に赤い褐色7.5YR7/4~灰褐色YR4/2	胴部下のみ	黒斑2ヶ所あり
271	4区	SD-01黒色土	壺	11.1	—	21.0	密、径2mm以下の石英、長石を多量含む。	良好	橙色5YR7/6~に赤い褐色5YR7/3	口縁～胴上半3/4、胴下1/2	
272	4区	SD-01黒色土	壺	17.0	—	—	密、径4mm以下の石英、長石を多量含み、1mm以下の雲母を微量含む。	良好	に赤い褐色7.5YR6/4	口縁部7/8、胴上半3/5、胴下1/8	
273	4区	SD-01黒色土	大型壺	(42.6)	—	—	密、径4mm以下の石英、長石を多量含み、1mm以下の雲母を微量含む。	良好	褐色7.5YR4/3	口縁～頸部1/6	
274	1区	SD-01黒色土	壺	—	—	—	密、径1mm以下の凹四角石、長石を多量含む。	良好	黒褐色7.5YR3/1	一部	瓶内より搬入
275	4区	SD-01黒色土	壺	(25.3)	—	—	密、径3mm以下の石英、長石を多量含み、微細な雲母を微量含む。	良好	に赤い褐色7.5YR7/4~6/4	口縁部1/3、胴上位1/2、胴下1/4	
276	4区	SD-01黒色土	壺	22.8	—	—	密、径3mm以下の石英、長石を多量含む。	良好	外面：褐色7.5YR4/4~黒褐色7.5YR7/6 内面：に赤い褐色7.5YR4~褐色7.5YR1/1	口縁～胴上半3/4	外面部全体に焼付着
277	4区	SD-01黒色土	壺	(21.6)	—	—	密、径3mm以下の石英、長石を多量含む。	良好	外面：灰色7.5YR8/1~8/2 内面：灰色7.5YR8/2~に赤い褐色7.5YR6/1	口縁～胴上位2/5、外面部全体に焼付着	
278	4区	SD-01黒色土	壺	(20.2)	—	33.0	やや粗。径5mm以下の石英、長石を多量含む。	良好	口縁部1/5、胴上半2/5、胴下1/3		
279	1区	SD-01黒色土	砵	434~447	11.0	29.8	やや粗。径5mm以下の石英、長石を多量含み、微量の雲母を微量含む。	良好	明褐色7.5YR7/2~明褐色7.5YR5/6	口縁部10/10	口縁部と底部付近に大きな黒斑あり
280	1区	SD-01黒色土	有孔鉢	(24.7)	7.4	18.4	やや粗。径5mm以下の石英、長石を多量含み、微量の雲母を微量含む。	良好	灰褐色7.5YR5/2~明褐色7.5YR5/6	上半1/8、下半1/1	底部に内面からの焼成前穿孔
281	3区	SD-01黒色土	砵	(21.2)	6.4	15.2	やや粗。径5mm以下の石英、長石を多量含み、微量の雲母を微量含む。	良好	に赤い褐色7.5YR6/3~灰褐色7.5YR4/2	口縁部わずか	
282	1区	SD-01黒色土	砵	10.8	—	—	やや粗。径5mm以下の石英、長石を多量含み、微量の雲母を微量含む。	良好	外面：に赤い褐色7.5YR7/4 内面：に赤い褐色7.5YR6/3~5/4	口縁～体部3/4	
283	1区	SD-01黒色土	壺	(15.5)	5.0	10.7	密、径3mm以下の石英、長石を多量含む。	良好	橙色2.5YR6/6~灰褐色5YR4/2	口縁～胴上半1/4、胴下1/1	
284	4区	SD-01黒色土	壺	16.6	—	—	密、径3mm以下の石英、長石を少量含む。	良好	外面：灰色7.5YR8/1~褐色7.5YR7/6 内面：に赤い褐色5YR7/4~明褐色5YR5/8	底部以外完存	脚部黒斑が剥離面まで及ぶ。底部に脚台が付く。
285	4区	SD-01黒色土	小型壺	11.8	—	(9.0)	密、径2mm以下の石英、長石・雲母を少量含む。	良好	に赤い褐色7.5YR5/3	3/4	
286	2区	SD-01黒色土	小型壺	8.4	5.2	9.7	やや粗。径5mm以下の石英、長石を多量含む。	やや不良	灰褐色7.5YR5/2~明褐色7.5YR5/8	口縁部1/2、胴部1/1	
287	3区	SD-01黒色土	小型壺	(11.3)	4.6	9.45	密、径5mm以下の石英、長石を多量含む。	良好	明褐色7.5YR5/8(月彫り)、に赤い褐色7.5YR6/4	上半1/3、下半1/1	全面丹焼(研磨なし)
288	4区	SD-01黒色土	壺	(14.0)	5.0	8.5	密、径4mm以下の石英、長石を多量含む。	良好	外面：浅黃褐色7.5YR8/4 内面：に赤い褐色7.5YR7/4	口縁部1/4、体部2/5、底部1/1	
289	1区	SD-01黒色土	有孔の壺？	—	—	—	密、径3mm以下の石英、長石を多量含み、1mm以下の雲母を微量含む。	良好	外面：に赤い褐色7.5YR7/3 内面：に赤い褐色7.5YR7/4	底部1/4	底部有孔
290	1区	SD-01黒色土	有孔の壺？	—	7.8	—	やや粗。径5mm以下の石英、長石を多量含む。	やや不良	外面：明褐色7.5YR5/6~灰褐色10YR6/2 内面：褐色7.5YR4/6~灰褐色10YR6/2	底部完存	底部内面から焼成前穿孔
291	4区	SD-01黒色土	砵	(24.0)	—	—	密、径6mm以下の石英、長石を多量含む。	良好	外面：褐色7.5YR4/4 内面：に赤い褐色7.5YR5/4	体部1/3	
292	4区	SD-01黒色土	砵	(23.0)	—	—	密、径4mm以下の石英、長石を多量含む。	良好	灰褐色7.5YR5/2~褐色7.5YR4/3	1/4	黒斑が剥離面まで及ぶ
293	4区	SD-01黒色土	砵	18.0~19.2	—	—	密、径4mm以下の石英、長石を多量含む。	良好	に赤い褐色7.5YR5/3~明褐色7.5YR5/6	体部2/3、底部わずか	
294	1区	SD-01黒色土	砵	16.7	—	7.1	やや粗。径5mm以下の石英、長石を多量含む。	やや不良	黄褐色2.5Y4/1~6 黄色2.5Y6/2	2/3	
295	4区	SD-01黒色土	碗	(13.5)	—	7.6	やや粗。径5mm以下の石英、長石を多量含み、1mm以下の雲母を微量含む。	良好	橙色7.5YR6/6	体部3/4、底部1/1	

植物 番号	地区	遺構・層位	器種	口径	底径	器高	胎土	焼成	色調	残存率	備考
296	I区	SD-01黒色土	鉢	12.6	—	6.6	やや粗、径2mm以下の石英・長石を多量含む。	やや不良	外面:灰白色2.5YR7/1~灰黄色2.5YR6-2 内面:灰白色2.5YR7/1	7/8	
297	I区	SD-01黒色土	鉢	(13.0)	—	5.8	やや粗、径4mm以下の石英・長石を多量含む、2mm以下の雲母を微量含む。	良好	外面:明褐色7.5YR7/1~15-6V、褐色2.5YR7/4 内面:褐褐色7.5YR3/1	上半1/3 下半1/1	作りは難
298	3区	SD-01黒色土	鉢?	—	7.7	—	やや粗、径5mm以下の石英・長石を多量含む。	良好	外面:にふい褐色7.5YR7/4~褐色2.5YR5-1 内面:にふい褐色7.5YR5-3~褐色7.5YR4-4	体部下半1/4 底部4/5	
299	I区	SD-01黒色土	脚付壺	(14.2)	(16.9)	11.0	密、径3mm以下の石英・長石・黒色砂粒などを多量含む。	良好	にふい褐色2.5YR5/3~明褐色7.5YR5-6	壇部・脚部1/3 脚部2/1	
300	4区	SD-01黒色土	低脚高壺	11.8	—	—	密、径2mm以下の石英・長石を多量含み、1mm以下の雲母を微量含む。	良好	にふい褐色2.5YR5/3~5/4	杯上半2/3 杯下1/1 脚部わずか	
301	3区	SD-01黒色土	台付き器核	—	(16.1)	—	やや粗、径5mm以下の石英・長石を多量含み、1mm以下の雲母を少量含む。	良好	灰褐色7.5YR6-2	台上半1/1 台下半1/8	
302	4区	SD-01黒色土	台付壺	—	14.9	—	密、径6mm以下の石英・長石を多量含み、1mm以下の雲母を微量含む。	良好	にふい褐色7.5YR6/3	台部3/5	
303	4区	SD-01黒色土	低脚高壺	(11.3)	8.3	8.1	密、径4mm以下の石英・長石を多量含み、1mm以下の雲母を微量含む。	良好	灰褐色7.5YR5/2~にふい褐色7.5YR5/4	杯上半1/5 脚部2/5 その他完存	
304	4区	SD-01黒色土	脚付壺	10.3	—	—	密、径6mm以下の石英・長石を多量含む。	良好	にふい褐色7.5YR7/3~にふい褐色7.5YR5/4	壇部上半1/2 下半1/1	
305	3区	SD-01黒色土	台付壺	8.3~8.9	(6.6)	—	密、径7mm以下の石英・長石を多量含み、1mm以下の雲母を微量含む。	良好	灰褐色7.5YR6/2	壇部上半3/4 台部1/8 その他完存	外面に刷毛痕あり
306	4区	SD-01黒色土	壺	(20.8)	—	—	やや粗、径9mm以下の石英・長石を多量含む。	良好	外:にふい褐色7.5YR5/3~黒褐色7.5YR6/1 内面:褐色7.5YR6-6	口縁~胴上半1/3	外面に刷毛着付
307	2区	SD-01黒色土	壺	18.2~18.9	8.5	14.8	やや粗、径6mm以下の石英・長石を多量含む。	良好	外:灰褐色7.5YR5/2~褐色7.5YR6/6 内面:褐色7.5YR4-3~4/4	口縁部2/3	外面に2ヶ所黒斑あり
308	1区	SD-01黒色土	(有孔)壺	(16.0)	(5.4)	13.3	密、径3mm以下の石英・長石を多量含み、1mm以下の雲母を微量含む。	良好	にふい褐色7.5YR7/4~褐色7.5YR6/6	1/4	
309	3区	SD-01黒色土	壺	(13.2)	7.0	13.2	やや粗、径10mm以下の石英・長石を多量含み、1mm以下の雲母を微量含む。	やや不良	外:にふい褐色7.5YR5/3 内面:灰褐色7.5YR4/2	1/3	
310	3区	SD-01黒色土	壺	(12.6)	6.8	11.5	やや粗、径6mm以下の石英・長石を多量含む。	良好	にふい褐色7.5YR6/3	胴上半1/4 胴下3/5 底部1/1	
311	3区	SD-01黒色土	壺	11.8	6.1	7.85	密、径5mm以下の石英・長石を多量含み、微細な雲母を微量含む。	やや不良	外:暗褐色7.5YR5/6~にふい褐色7.5YR7/3 内面:にふい褐色7.5YR7/4~褐色7.5YR4/1	体部1/6 底部1/1	
312	4区	SD-01黒色土	鉢	15.8	9.6	7.9	やや粗、径5mm以下の石英・長石を多量含む。	良好	外:にふい褐色7.5YR5/3 内面:にふい褐色7.5YR6/4	体部2/3 底部5/6	
313	3区	SD-01黒色土	壺	14.9	6.4	9.8	やや粗、径6mm以下の石英・長石を多量含み、微細な雲母を微量含む。	やや不良	外:灰褐色7.5YR6/2~黒褐色7.5YR5/1 内面:灰褐色7.5YR4/1~灰褐色7.5YR6/2	体部1/4 底部4/1	
314	1区	SD-01黒色土	壺	(11.0)	(7.2)	11.4	やや粗、径5mm以下の石英・長石を多量含み、1mm以下の雲母を微量含む。	やや不良	褐色7.5YR4/4	1/3	
315	1区	SD-01黒色土	壺	12.4	5.8	8.3	密、径3mm以下の石英・長石を多量含み、1mm以下の雲母を微量含む。	良好	にふい褐色7.5YR6/4	体部上半2/3 その他完存	
316	4区	SD-01黒色土	鉢	(17.4)	5.3	8.6	やや粗、径6mm以下の石英・長石を多量含み、1mm以下の雲母を微量含む。	良好	にふい褐色7.5YR6/4	体部1/3 底部1/1	
317	3区	SD-01黒色土	壺	(9.7)	(6.0)	9.0	やや粗、径5mm以下の石英・長石を多量含み、1mm以下の雲母を微量含む。	良好	外:明褐色7.5YR7/2~にふい褐色7.5YR6/4 内面:にふい褐色7.5YR7/3~にふい褐色7.5YR5/3	2/5	
318	1区	SD-01黒色土	鉢	13.4	2.0	6.25	やや粗、径4mm以下の石英・長石を多量含む、1mm以下の雲母を微量含む。	良好	外:褐色7.5YR6/1~にふい褐色7.5YR7/4 内面:褐色5YR7/8	体部3/4 底部1/1	
319	1区	SD-01黒色土	壺	(10.5)	5.0	7.0	やや粗、径5mm以下の石英・長石を多量含む。	良好	にふい褐色7.5YR6/4~褐色5YR6/8	上半1/6 下半1/1	
320	1区	SD-01黒色土	壺	—	7.0	—	やや粗、径4mm以下の石英・長石を多量含む。	やや不良	外:にふい褐色7.5YR5/4 内面:灰褐色7.5YR5/2	体部2/5 底部2/3	
321	1区	SD-01黒色土	壺	11.8	4.5	6.85	やや粗、径5mm以下の石英・長石を多量含む。	良好	黒褐色7.5YR3/1~にふい褐色7.5YR5/4	体部1/4 底部1/2	
322	1区	SD-01黒色土	壺	12.1	3.3	7.3	密、径6mm以下の石英・長石を多量含み、1mm以下の雲母を少量含む。	良好	外:にふい褐色7.5YR6/3 内面:明褐色7.5YR5/8	口縁部2/3 その他1/1	

遺物番号	地区	遺構・層位	器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	残存率	備考	
											内部(cm)(復元)	外部(cm)(復元)
323 4区	SD-01黒色土	高坏		33.4	—	—	やや粗。径5mm以下の石英、長石を多量含み、1mm以下の雲母を微量含む。	良好	环部内面に赤褐色7.5YR5-4～に赤褐色SYR5-3 その他の青褐色7.5YR5-3～5-4	环～脚柱部L/1		
324 1区	SD-01黒色土	高坏		28.4	—	—	やや粗。径5mm以下の石英、長石を多量含み、2mm以下の雲母を少量含む。	良好	褐色SYR4-4～6	环上半3/5 环下L/1	脚柱部内面奥に粘土充填跡が残る	
325 1区	SD-01黒色土	高坏		—	17.9	—	やや粗。径5mm以下の石英、長石を多量含む。	良好	に赤い褐色7.5YR7/4	环下半1/3 脚柱部L/1 脚部L/2		
326 4区	SD-01黒色土	高坏		29.8	—	—	密。径3mm以下の石英、長石を多量含み、1mm以下の雲母を微量含む。	良好	外面:に赤い赤褐色SYR4-4 内面:に赤い褐色7.5YR5-4	环部上半L/3 环部下半～脚柱部L/1	脚部に3ヶ所穿孔	
327 1区	SD-01黒色土	高坏		28.5	—	—	やや粗。径5mm以下の石英、長石を多量含み、1mm以下の雲母を微量含む。	良好	に赤い褐色7.5YR6/4	环上半11/12 环下L/3	环部上半内面に暗文	
328 4区	SD-01黒色土	高坏		(17.5)	—	—	密。径5mm以下の石英、長石を多量含み、微細な雲母を少量含む。	良好	に赤い褐色7.5YR6/3	环部上半1/4 环部下半～脚柱部L/1		
329 3区	SD-01黒色土	高坏		—	(18.6)	—	やや粗。径5mm以下の石英、長石を多量含む。	良好	灰褐色7.5YR5-2～に赤い褐色7.5YR5-3	脚柱部S/4 脚部L/3	穿孔が3カ所(おそらく本末は4孔)残る。北四国からの輸入品か。	
330 3区	SD-01黒色土	高坏		—	—	—	密。径4mm以下の石英、長石を多量含み、1mm以下の雲母を微量含む。	良好	に赤い褐色7.5YR6/4～に赤い褐色7.5YR5-3	脚柱部L/1	脚部に5ヶ所穿孔	
331 3区	SD-01黒色土	高坏		—	—	—	密。径3mm以下の石英、長石を少量化み、微細な雲母を微量含む。	良好	に赤い褐色7.5YR5/3	脚柱部L/1 环部～脚部わずか	脚部に3ヶ所穿孔。東海地域からの輸入品か。	
332 1区	SD-01黒色土	器台		7.55	8.7	9.25	密。径5mm以下の石英、長石を多量含む。	良好	明褐色SYR7/2～明赤褐色SYR5-8	受部2/3 脚上半L/1 脚下L/2		
333 3区	SD-01黒色土	器台		9.9	10.0	9.4	やや粗。径5mm以下の石英、長石を多量含み、微細な雲母を微量含む。	良好	灰褐色7.5YR4-2～明褐色7.5YR5-6	1/2は完存		
334 2区	SD-01黒色土	器台		7.9	9.4～9.7	9.6	やや粗。径5mm以下の石英、長石を多量含み、微細な雲母を微量含む。	良好	に赤い褐色7.5YR5/3～灰褐色7.5YR4/2	受部1/5 脚部L/4/5 その他の完存		
335 1区	SD-01黒色土	器台		9.9	10.3	9.85	密。径5mm以下の石英、長石を多量含む。	良好	に赤い褐色7.5YR7/3～7/4	その他の完存		
336 4区	SD-01黒色土	器台		8.6	10.9	9.9	やや粗。径6mm以下の石英、長石を多量含み、1mm以下の雲母を微量含む。	やや不良	灰褐色7.5YR5/2～に赤い褐色7.5YR5/4	脚部L/3/4 その他の完存		
337 3区	SD-01黒色土	器台		(10.3)	11.2	9.9	やや粗。径5mm以下の石英、長石を多量含む。	良好	に赤い褐色7.5YR4/2	受部1/3 脚部2/3		
338 3区	SD-01黒色土	器台		8.5	(11.4)	11.1	やや粗。径5mm以下の石英、長石を多量含み、1mm以下の雲母を微量含む。	良好	に赤い褐色7.5YR5/3～明褐色7.5YR5-6	受部1/5 脚部L/3 その他の完存		
339 3区	SD-01黒色土	器台		10.1	11.4	10.9	やや粗。径5mm以下の石英、長石を多量含み、2mm以下の雲母を微量含む。	やや不良	に赤い褐色7.5YR5/3～明褐色7.5YR5-6	受部5/6 脚部7/8		
340 2区	SD-01黒色土	器台		9.3	10.1～10.6	11.2	やや粗。径5mm以下の石英、長石を多量含み、微細な雲母を微量含む。	やや不良	灰褐色7.5YR6/2～明褐色7.5YR5-6	受部2/3 その他の完存		
341 3区	SD-01黒色土	器台		11.4	10.9	12.1	やや粗。径5mm以下の石英、長石を多量含み、2mm以下の雲母を微量含む。	やや不良	灰褐色7.5YR5/2～橙色7.5YR6/6	受部1/2 脚部3/5		
342 3区	SD-01黒色土	器台		8.8	10.6	13.5	やや粗。径5mm以下の石英、長石を多量含み、1mm以下の雲母を微量含む。	良好	に赤い褐色7.5YR5/3	受部1/2 脚柱部L/1 脚部3/5		
343 1区	SD-01黒色土	器台		11.5	12.2	14.0	やや粗。径10mm以下の石英、長石を多量含む。	やや不良	外観:に赤い褐色7.5YR7/4～に赤い褐色7.5YR5-3 内面:灰褐色7.5YR5/2	脚柱部L/1 その他の1/2		
344 2区	SD-01黒色土	器台		11.9	12.1	13.9	やや粗。径5mm以下の石英、長石を多量含み、1mm以下の雲母を微量含む。	良好	外観:灰褐色7.5YR6/2～に赤い褐色7.5YR5-3 内面:明褐色7.5YR5/1～7/2	脚部S/8 脚部L/9	その他の完存	
345 2区	SD-01黒色土	器台		11.1～11.5	14.0	14.9	粗。径5mm以下の石英、長石を多量含み、2mm以下の雲母を微量含む。	良好	に赤い褐色7.5YR5/3～6	脚部L/3 その他の1/3	その他の完存	
346 2区	SD-01黒色土	器台		(10.5)	12.9	15.9	やや粗。径5mm以下の石英、長石を多量含む。	やや不良	外観: 橙色7.5YR6/6～赤褐色SYR4-6 内面: 赤褐色7.5YR6/2	受部わずか その他の完存		
347 2区	SD-01黒色土	器台		(11.3)	13.7	16.6	やや粗。径5mm以下の石英、長石を多量含み、微細な雲母を微量含む。	やや不良	明褐色7.5YR7/2～明褐色7.5YR5-6	脚部L/3 脚部L/8 その他の完存		
348 2区	SD-01黒色土	器台		12.7	14.3	20.2	やや粗。径6mm以下の石英、長石を多量含み、1mm以下の雲母を微量含む。	良好	に赤い褐色7.5YR6/3	受部1/2 脚部L/4 その他の完存		
349 2区	SD-01黒色土	器台		10.8	(12.0)	17.8	やや粗。径6mm以下の石英、長石を多量含み、1mm以下の雲母を微量含む。	良好	橙色7.5YR6/6～赤褐色7.5YR5/2	上半完存 下半2/5		

遺物番号	地区	遺構・層位	器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	残存率	備考	測定値(cm)(厘米)
									外観	内面		
350	2区	SD-01黒色土	器台	11.9	(15.1)	17.7	小中粒、併8mm以下の石英、長石を多量含み、微細な雲母を微量含む。黒褐色の釉薬を被覆含む。	良好	に赤い褐色5YR5/4～赤褐色5YR4/6	受部2/5 脚部部1/4 その他の完存		
351	4区	SD-01黒色土	器台	(12.1)	(14.9)	17.1	やや粗、併4mm以下の石英、長石を多量含み、微細な雲母を微量含む。	良好	外観：灰褐色5YR5/2～内面：に赤い褐色5YR5/4～橙褐色5YR6/6	受部1/5 脚部上半1/6 脚部下半1/6		
352	4区	SD-01黒色土	器台	13.1	(14.3)	17.7	やや粗、併3mm以下の石英、長石を多量含み、微細な雲母を微量含む。	良好	灰褐色5YR6/2～橙褐色5YR7/8	受部2/3 脚部上半1/5 脚部下半1/4		
353	1区	SD-01黒色土	器台	14.0	15.6	17.8	やや粗、併4mm以下の石英、長石を多量含み、2mm以下ドロイド状の雲母を微量含む。	やや不良	脚部内面：灰褐色7.5YR6/2～外側：に赤い褐色7.5YR4/1～その他の内面：に赤い褐色7.5YR7/3～7/4	受部3/4 脚部上半1/1 脚部下半1/4		
354	3区	SD-01黒色土	支脚	(7.7)	7.2	8.7	やや粗、併5mm以下の石英、長石を多量含み、1mm以下の雲母を微量含む。	良好	に赤い褐色7.5YR6/3～5/4	受部1/4 その他の完存		
355	3区	SD-01黒色土	支脚	6.8	(10.0)	11.0	やや粗、併5mm以下の石英、長石を多量含み、1mm以下の雲母を微量含む。	良好	に赤い褐色7.5YR5/3～明褐色7.5YR5/6	脚部部3/5 その他の完存		
356	4区	SD-01黒色土	舟形支脚	6.4	13.1	9.8	密、併2mm以下の石英、長石を多量含む。	良好	浅褐色7.5YR8/3～8/4	3/4		
357	2区	SD-01黒色土	支脚	7.8	10.9～11.3	12.7	密、併4mm以下の石英、長石を多量含み、併1mm以下の雲母を微量含む。	良好	灰褐色5YR6/2～に赤い褐色7.5YR4/4	ほぼ完存		
358	3区	SD-01黒色土	支脚?	11.2	—	—	やや粗、併5mm以下の石英、長石を多量含む。	やや不良	外観：に赤い褐色7.5YR7/4～内面：に赤い褐色7.5YR6/8	受部～脚部上半3/4		
359	2区	SD-01黒色土	支脚	—	(11.0)	—	やや粗、併7mm以下の石英、長石を多量含み、併1mm以下の雲母を微量含む。	良好	に赤い褐色7.5YR6/3～5/3	2/5		
360	1区	SD-01黒色土	舟形支脚	6.2	11.0	11.1	やや粗、併5mm以下の石英、長石を多量含む。	やや不良	外観：に赤い褐色7.5YR7/4～内面：に赤い褐色7.5YR6/8	受部：突出部欠損。脚上半1/1 脚下半2/3		
361	1区	SD-01黒色土	舟形支脚	5.9+ 突出部	11.3	—	やや粗、併5mm以下の石英、長石を多量含む。	良好	外観：に赤い褐色7.5YR7/3	突出部以外完存		
362	3区	SD-01黒色土	支脚	7.3～ 7.7	(13.0)	12.3	やや粗、併5mm以下の石英、長石を多量含む。	やや不良	外観：灰褐色7.5YR6/2～橙褐色7.5YR6/8	受部：1/1 脚部1/3		
363	3区	SD-01黒色土	支脚	—	—	—	やや粗、併5mm以下の石英、長石を多量含む。	良好	に赤い褐色7.5YR5/4	受部：突出部欠損。脚部上半2/3		
364	3区	SD-01黒色土	支脚	6.0～ 7.5	—	—	やや粗、併5mm以下の石英、長石を多量含む。	やや不良	に赤い褐色7.5YR5/4	受部3/4 脚部上半1/1		
365	2区	SD-01黒色土	蓋	—	(24.0)	—	密、併2mm以下の石英、長石を多量含み、併1mm以下の雲母を微量含む。	良好	外観：丹健り。赤褐色2.5YR4/6～4/8 内面：に赤い褐色7.5YR6/6～7/8	脚部1/4 脚部1/8	脚部内面かえり部分は被熱変色(暗赤褐色化)	
366	3区	SD-01黒色土	蓋	つまみ 2.7	13.7	4.2	密、併3mm以下の石英、長石を多量含み、微細な雲母を微量含む。	良好	に赤い褐色7.5YR5/3～5/4	完存		
367	1区	SD-01黒色土	ミニチュア 蓋形土器?	—	5.4	—	やや粗、併5mm以下の石英、長石を多量含む。	やや不良	に赤い褐色7.5YR6/3	脚部2/3 つまみ上面剥離		
368	3区	SD-01黒色土	器台	(7.4)	(6.5～ 7.1)	(6.5)	やや粗、併5mm以下の石英、長石を多量含む。	良好	褐灰色7.5YR6/1～黒褐色7.5YR3/1	受部1/3 脚部1/4	天地も断定不可	
369	1区	SD-01黒色土	蓋形土器?	7.3	—	—	やや粗、併5mm以下の石英、長石を多量含む。	やや不良	に赤い褐色7.5YR5/3	底部外面が剥離 その他の残存		
370	2区	SD-01黒色土	ミニチュア 蓋形土器?	—	3.5	—	やや粗、併5mm以下の石英、長石を多量含む。	良好	に赤い褐色7.5YR6/3～灰褐色7.5YR5/2	脚部下位1/3 底部1/1		
371	3区	SD-01黒色土	蓋形土器?	—	2.4	—	やや粗、併5mm以下の石英、長石を多量含み、1mm以下の雲母を微量含む。	やや不良	外観：に赤い褐色7.5YR5/3 内面：褐色7.5YR4/3	脚部中位1/4 底部1/1		
372	1区	SD-01黒色土	ミニチュア 蓋形土器?	5.0	—	6.1	やや粗、併5mm以下の石英、長石を多量含む。	良好	に赤い褐色7.5YR6/4	完存		
373	1区	SD-01黒色土	ミニチュア 鉢形土器	8.8	—	3.8	密、併3mm以下の石英、長石を多量含む。	やや不良	外観：浅黃褐色7.5YR8/4～に赤い褐色7.5YR6/4 内面：浅黃褐色7.5YR8/4～褐色7.5YR4/4	口縁部4/5 その他の完存		
374	3区	SD-01黒色土	ミニチュア 鉢形土器?	—	—	—	精良、併4mm以下の石英、長石を多量含む。	良好	赤褐色5YR4/8	脚柱部1/1	全面丹健り(磨研もあるか)	
375	3区	SD-01黒色土	ミニチュア 鉢形土器?	—	2.8	—	密、併3mm以下の石英、長石を多量含む。	やや不良	に赤い褐色7.5YR6/3～に赤い褐色7.5YR6/4	体部3位ねじか 底部1/1		
376	3区	SD-01黒色土	ミニチュア 鉢形土器?	5.1	2.3	4.4	密、併4mm以下の石英、長石を多量含む。	良好	に赤い褐色7.5YR5/3	完存		

遺物番号	地区	遺構・層位	器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	残存率	備考	
											法単位(cm)(厘米)	
377 4区	SD-01黒色土	ミニチュア 鉢形土器	(4.9)	—	3.0	やや粗。径5mm以下の石英・長石を多量含む。	良好	橙色7.5YR7/6	口縁部1/3 全体1/1			
378 2区	SD-01黒色土	ミニチュア 鉢形土器	6.1	1.7	2.8	やや粗。径2mm以下の石英・長石を多量含む。	良好	外側: 黄褐色10YR5.8-7に似 褐色7.5YR5.3 内面: 灰褐色5 YR4.2-5 基礎色7.5YR3.3	ほぼ完存			
379 4区	SD-01黒色土	ミニチュア 碗形土器	6.1	—	3.7	やや粗。径5mm以下の石英・長石を多量含む。	良好	外側: 順滑7.5YR6.6-褐色 色7.5YR4.1 内面: 灰褐色 7.5YR4.2	口縁部3/4 全体1/1			
380 2区	SD-01黒色土	ミニチュア 壺形土器	—	1.8	—	密。径2mm以下の石英・長石を多量含む。	良好	外側: に似い褐色7.5YR5.3 褐色7.5YR4.1 内面: 褐色7.5YR4.1	1/2			
381 3区	SD-01黒色土	把手付広 口片皿	—	—	—	粗。径4mm以下の石英・長石を多量含む。	良好	外側: 順滑7.5YR2.1 内面: 水銀朱、赤色10R5.8	口縁部付近の 破片	外面に水銀朱が垂れて いる		
382 1区	SD-01黒色土	匙形土器	—	—	—	やや粗。径5mm以下の石英・長石を多量含み、1mm以上の 雲母・石英の混在を微量含む。	良好	に似い褐色7.5YR7/4	固化部分のみ			
383 3区	SD-01黒色土	円板 土器加工品	—	—	—	粗。径2mm以下の石英・長石を多量含む。(長石産 のトマス内に含む)	良好	に似い褐色7.5YR6/4	ほぼ完存	壺・壺の副部下位片		
384 3区	SD-01黒色土	器台	—	—	—	粗。径5mm以下の石英・長石を多量含み、2mm以下の雲 母・石英の混在を微量含む。	良好	外側: に似い褐色7.5YR6/3 内面: 褐灰色7.5YR5.1	脚部破片			
385 3区	SD-01黒色土	双耳壺	—	—	—	やや粗。径5mm以下の石英・長石を多量含む。	やや不良	褐灰色7.5YR4/1-灰褐色 7.5YR5/2	耳部分1/1(双耳 のうち二つのみ)	耳幅4cm前後。半島系土 器		
386 4区	SD-01黒色土	壺	—	—	—	精良。径1mm以下の石英・長石を微量含む。	良好(瓦質)	外側: 褐灰色10YR6/1 内面: 灰白色10YR7/1	口縁部破片	半島系土器		
387 1区	SD-01黒色土	壺	—	—	—	精良。泥質。	良好(瓦質)	灰白色	肩部	半島系土器。外面に繩文 タキ		
388 4区	SD-01黒色土	広口壺 または壺	—	—	—	精良。径2mm以下の石英・長石を微量含む。	良好(瓦質)	灰白色10YR7/1	脚部下位2の 破片	半島系土器		
389 1区	SD-01黒色土	把手付きの 器種	—	—	—	精良。泥質。	良好(瓦質)	外側: 黑灰色 内面: 灰白色	把手部分	半島系土器。外面に繩文 タキらしき痕跡残る		
390 1区	SD-01黒色土	壺	—	—	—	精良。微細な紗紋を微 量含む。	良好(瓦質)	灰白色10YR7/1	体部の一部	樂浪系土器		
391 3区	SD-01黒色土	壺	(12.4)	—	—	精良。泥質。	良好	黑色	体部	内面上部にまで放射状 暗文を施す。樂浪系土器		
392	SD-01黒色土	甌	—	(6.0)	—	精良。泥質。	良好	外側: 黑灰色 内面: 灰黑色	底部	内面見込みに格子状の 暗文。樂浪系土器		
393	SD-01壁清掃	平瓦	—	—	—	やや粗。径5mm以下の石英・長石を多量含む。	良好	青灰色5B5/1	側面残るが残 存率不明	平瓦一枚作り。		
394	SD-01壁清掃	丸瓦	—	—	—	やや粗。径5mm以下の石英・長石を多量含む。	不良	灰白色10YR7/1-1/側灰色 10YR6/2 断面: に似い褐 色7.5YR7/4	側面が残るた め、幅3/5は残 存			
395	SD-01検出時	白磁壺	(9.0)	—	—	精良。硬質。やや砂跡 あり。	良好	釉: 灰褐色	体部上部1/9			
396	SD-01検出時	土師質壺	—	(7.7)	—	精良。径4mm以下の石英・長石を少量含む。	良好	外側: に似い褐色7.5YR7/4~ 6/4 内面: 灰褐色7.5YR6/2	体部下部2/3 高台端部わずか			
397	SD-01壁清掃	須恵質壺	—	(11.7)	—	やや粗。径2mm以下の石英・長石を少量含み、1mm以 下の雲母を微量含む。	良好	脚部外側: 塗褐色10GY4/1 底部外側: 全体: 灰色N6/ 底部内側: 灰色N6/	脚部下位1/5	脚部外側全体に自然釉 底質		
398	SD-01検出時	白磁壺	(16.5)	—	—	精良。硬質。やや砂跡 あり。	良好	釉: 淡褐色 白粉: 白色	口縁 ~ 体部上 半1/6			
435 1区	SD-01壺	壺	—	10.5	—	やや粗。径7mm以下の石英・長石を多量含み、2mm 以下の雲母を微量含む。	やや不良	に似い褐色7.5YR6/4	底部完存	大型品		
436 2区	SD-01西脇	壺	(21.4)	—	—	密。径5mm以下の石英・長 石を多量含み、1mm以 下の雲母を微量含む。	良好	外側: 灰白色5YR8/1-1/側色 5YR7/6 内面: に似い褐色 5YR7/3	口縁 ~ 脚部中 位1/4	外面に黒斑(径12cm大)		
437 1区	SD-01壁面	壺	19.9	7.9	18.6	やや粗。径6mm以下の石英・長石を多量含む。	良好	外側: に似い褐色7.5YR6/3~ 4/側色7.5YR6/2 内面: 明褐色 7.5YR5.8-褐色7.5YR6/6	口縁部1/2 脚部完存	外面下間に黒斑		
438 1区	SD-01壁面	壺	(19.2)	6.2	21.6	やや粗。径5mm以下の石英・長石を多量含む。	やや不良	褐色7.5YR6/6	1/3	焼きひずみあり。外面上 半に壊。内面下半にコゲ。		
439 1区	SD-01壁面	壺	18.8	7.2	11.8	やや粗。径5mm以下の石英・長石を多量含む。	良好	外側: 明褐色7.5YR7/2~ 3/側色7.5YR6/6 内面: 明褐 色7.5YR7/2	口縁部1/4 脚部完存	外面下半・内面半周分に 黒斑		

植物 番号	地区	造構・部位	器種	口径	底径	器高	胎上	焼成	色調	残存率	備考	
											基準(cm(厘米))	
440	1区	SD-01壁面	鉢	(14.6)	(6.0)	12.6	やや粗。径2mm以下の石英、長石を多量含む。	やや不良	外面:灰黄色2.5YR6/2~暗灰黄色2.5Y4/2 内面:にふい黄色2.5Y6/3	1/2		
441	1区	SD-01壁面	鉢	(13.0)	4.9	4.5	やや粗。径2mm以下の石英、長石を多量含む。	良好	橙色5YR6/6~6/8	上半1/8 下半2/3	画面に丹塗りの可能性あり。	
442	2区	SD-01西脇	鉢	—	—	20.4	やや粗。径2mm以下の石英、長石を多量含み、1mm以下の雲母-黑色砂粒を微量含む。	良好	灰白色7.5YR8/1~浅黃褐色7.5YR8/4	部部2/3 その他完存	画面に黒斑	
443	2区	SD-01壁面	鉢	(28.0)	—	—	やや粗。径2mm以下の石英、長石を多量含み、微細な雲母を微量含む。	良好	外側:灰白色7.5YR8/1~にふい橙色5YR7/1 内面:淡褐色5YR8/3~赤褐色5YR4/6	口縁~部部中位 外面に黒斑(径10cm大) 1/9		
444	2区	SD-01西脇	瓶	—	—	—	やや粗。径6mm以下の石英、長石を多量含み、1mm以下の雲母を微量含む。	良好	橙色7.5YR6/6~6/8	胴部下位1/4	底部穿孔。底部前面は火熱を受けている。	
445	2区	SD-01西脇	高坏	32.5~ 33.4	—	—	粗。径3mm以下の石英、長石を少量化し、径1mm以下の雲母-黑色砂粒を微量含む。	良好	橙色7.5YR7/6	环部2/3	口縁端部に黒斑	
446	SD-01前頭部	高坏	(17.3)	—	—	粗。径4mm以下の石英、長石を多量含み、1mm以下の云母で黒色を微含む。	やや不良	にふい褐色7.5YR6/3 月桂叶2.5YR5/8	环部上半1/3 环部下半2/3	内外丹塗り?はとんど剥離		
447	2区	SD-01西脇	低脚壺	—	13.0	—	やや粗。径4mm以下の石英、長石を多量含み、1mm以下の雲母を微量含む。	良好	灰白色7.5YR8/2~にふい橙色7.5YR7/4	部部下1/4 脚柱部1/1 脚部2/4		
448	SD-01壁面	脚付鉢	—	13.5	—	粗。径2mm以下の石英、長石を多量含み、径1mm以下の雲母-黑色砂粒を微量含む。	良好	にふい橙色7.5YR7/4~褐灰色7.5YR6/1	脚部はわずか 脚部は完存			
449	2区	SD-01西脇	低脚壺	—	(13.8)	—	やや粗。径4mm以下の石英、長石を多量含み、1mm以下の雲母を微量含む。	良好	灰白色7.5YR8/2~にふい橙色7.5YR7/4	环部はわずか 脚部は1/4 その他の完存		
450	SD-01壁面	脚付壺	(7.9)	(8.8)	8.95	—	精良。径1mm以下の石英、長石を微量含む。	良好	灰白色7.5YR8/2~にふい橙色7.5YR7/4	环部2/2 环部底1/1 脚部1/4	脚部に穿孔(おそらく本來は6個)	
451	2区	SD-01西脇	低脚付き器皿	—	7.3	—	やや粗。径4mm以下の石英、長石を多量含み、1mm以下の雲母を微量含む。	良好	にふい橙色7.5YR7/3~6/4	脚柱部1/1 脚部4/5		
452	3区	SD-01西脇	器台	8.1	9.0	10.8	やや粗。径5mm以下の石英、長石を多量含む。	やや不良	橙色7.5YR6/6~6/8	ほぼ完存		
453	SD-01壁面	支脚	10.1	11.9	11.85	やや粗。径8mm以下の石英、長石を多量含み、1mm以下の雲母を微量含む。	良好	灰褐色5YR5/2~にふい褐色5YR5/4	受部7/8 その他完存			
454	1区	SD-01壁面	器台	(8.6)	11.5	16.1	やや粗。径5mm以下の石英、長石を多量含む。	やや不良	灰黄色2.5Y7/2~橙色7.5YR6/6	その他の完存		
455	2区	SD-01西脇	器台	(11.1)	13.0	15.75	やや粗。径8mm以下の石英、長石を多量含む。	良好	12.にふい橙色7.5YR6/4~灰褐色7.5YR6/2	受部2/5 脚部2/4 その他の完存		
456	1区	SD-01壁面	器台	11.8	11.6	16.9	粗。径7mm以下の石英、長石を微量含む。	やや不良	外側:にふい黄色10YR6/4~橙色7.5YR6/8 内面:にふい黄色10YR7/3	受部2/3 その他の完存		
457	2区	SD-01西脇	器台	12.6	11.7	16.5	やや粗。径7mm以下の石英、長石を多量含み、1mm以下の雲母-黑色砂粒を微量含む。	良好	浅黃褐色7.5YR8/3~橙色5YR6/8	脚部4/5 その他の完存		
458	2区	SD-01西脇	器台	17.4	18.6	20.9	やや粗。径6mm以下の石英、長石を多量含み、1mm以下の雲母-黑色砂粒を微量含む。	良好	明褐色7.5YR7/2~明赤褐色5YR5/8	脚部2/3 その他の完存	受部内外面と脚部外面に丹塗り。	
459	2区	SD-01西脇	杏形支脚	5.8~ 8.3	12.9	13.6	やや粗。径3mm以下の石英、長石を多量含み、1mm以下の雲母-黑色砂粒を微量含む。	良好	外側:淡褐色5YR8/3~赤褐色2.5YR4/8 内面:灰褐色5YR6/2~赤褐色5YR4/6	脚部2/3 その他の完存		
460	SD-01壁面	杏形支脚	4.8~ 7.2	10.5~ 11.2	11.0	11.10	やや粗。径4mm以下の石英、長石を多量含み、1mm以下の雲母-黑色砂粒を微量含む。	良好	外側:褐色5YR5/5~明赤褐色5YR5/6 内面:明赤褐色5YR5/6~5.8	脚部1/2 その他の完存		
461	2区	SD-01西脇	杏形支脚	6.0~ 6.6	10.4~ 11.4	11.8	やや粗。径4mm以下の石英、長石を多量含み、微細な雲母-黑色砂粒を微量含む。	良好	灰白色7.5YR8/1~明赤褐色5YR5/8	11.は完存	外側の1/3が黒斑	
462	2区	SD-01西脇	支脚	9.0	(12.0)	20.8	やや粗。径5mm以下の石英、長石を多量含み、微細な雲母-黑色砂粒を微量含む。	良好	外側:明褐色7.5YR7/2~橙色7.5YR6/6 内面:にふい褐色7.5YR7/3~にふい褐色7.5YR5/4	脚部下半1/4	脚部下半に黒斑	

表2 第12次調査出土石製品他遺物観察表

遺物番号	地区	遺構・層位	器種	長	幅	厚	重量	石材	色調	残存率	備考
計数(個・g(複数))											
002	SP-042		砥石 (仕上げ砥)	残7.1	—	—	103.34	不明	灰白色10YR8/1~8/2	不明(製品の大きさが不明)	仕上げ研ぎ用。おそらく金属器用。使用による傷みはない。少なくとも4面使用。
004	SP-136		石鍬	4.9	1.45	1.3	13.85	滑石	灰色N6/~明オリーブ灰褐色 5GY7/1	完存	精錐形。破損品の再利用。(一次品の欠損面に溝が再度造る)。
090 2区	SD-01(A)	段築	3.3	1.6	1.5	9.85	滑石	オリーブ灰褐色25GY4/1	完存		
106 4区	SD-01(A)	石鍬	9.35	7.6	3.05	289.73	安山岩	灰白色10Y7/1	完存	打ち欠き石鍬。長辺辺の両端を打ち欠く。	
107 4区	SD-01(A)	石鍬	残6.8	7.3	3.7	194.53	安山岩か	灰白色10Y7/1~明褐色 7.5YR7/2	3/5	打ち欠き石鍬。短辺を打ち欠く。	
108 1区	SD-01(A)	石鍬	—	—	—	183.14	滑石 (かなり軟化)	灰黄色25Y6/2	不明	大型ドリーナツを呈し、中央に凹孔をもつ環状。円孔部分にノミ状工具あり。側面にケイリ痕。	
109 1区	SD-01(A)	石鍬	直径 (11.1~11.5)	残34.4	—	34.374	滑石 (かなり軟化)	灰黄色25Y6/2	半曲と水平に 1/2欠損	穿孔部分にノミ状工具の加工痕残る。	
110 3区	SD-01(A)	太型焰刃 石斧	—	7.8	5.2	527.16	玄武岩	灰色10Y6/1	刃部1/1 基部1/2?	全面に仕上げ研磨	
111 3区	SD-01(A)	敲石	13.45	7.1	3.8	625.78	不明	灰色Y6/1~暗オリーブ色 5Y4/4	完存		
112 1区	SD-01(A)	磨製石鑿	—	5.9	0.7	57.69	砂岩質ホルン フェルス	灰色N6/~N4/	不明	両刃。全面に仕上げ研磨。体部の僅みに赤色顔料が付着。	
113 4区	SD-01(A)	石匙	—	4.5	0.7	31.27	玄武岩	暗灰色N3/	端部を1/4欠損	打撲による成形のみ(両刃とも調節面そのままで、敲打による平滑化や研削はない)。片刃。	
114 4区	SD-01(A)	磨製石瓶丁	残39	残5.0	0.65	21.74	玄武岩 (風化)	明緑灰色10GY7/1~緑灰色 10GY6/1	1/3		
115 3区	SD-01(A)	精錐車	直徑 7.4	—	1.0	92.68	雲母安鈍岩	黄褐色2.5Y4/1~暗灰黃色 25Y4/2	ほぼ完存	全体に仕上げ研磨。袖孔のやり直し跡がある。	
116 1区	SD-01(A)	磨石	直徑 5.3~5.5	—	—	253.52	玄武岩	灰色N5/~灰白色10YR8/1	—	全体に敲打	
117 2区	SD-01(A)	砥石	—	1.7	0.8	13.65	粘板岩	灰色N4/	不明	仕上げ研ぎ用。欠損面以外の全5面使用。	
118 3区	SD-01(A)	磨製石鑿	—	3.75	1.1	16.65	砂岩質ホルン フェルス	暗緑灰色10G4/1	破片	片面のみ縫をもつ。平坦な方に研磨時の擦痕がよく残っている。	
148 3区	SD-01(B)上層	石鍬	6.1	1.6	1.15	14.96	頁岩	灰色N4/	ほぼ完存	精錐形。	
149	SD-01(B)	石鍬	7.1	1.7	1.5	23.32	滑石	灰色N5/~N4/	完存	精錐形 X=63513.33 Y=-67306.44 L=4.70	
150	SD-01(B)	石鍬	残57	1.65	1.3	16.86	蛇紋岩	明黄褐色10YR6/6~暗灰色 10YR5/1	2/3(両端をそれ ぞれ1.6欠損)	精錐形 X=63494.39 Y=-67306.97 L=5.01	
151	SD-01(B)	石鍬	8.2	3.5	4.6	173.64	滑石	灰色N4/~明オリーブ灰褐色 2.5Y7/1	7/8	長脚形。穿孔口は両面とも欠損。 X=63501.13 Y=-67364.61 L=4.83	
152	SD-01(B)	石鍬	8.4	残3.2	4.4	153.03	蛇紋岩	灰白色10YR7/1~橙色 7.5YR6/6	3/5	底部平頭形。 X=63501.80 Y=-67365.01 L=4.85	
153	SD-01(B)	石鍬	10.1	3.7	4.2	220.83	滑石	にぶい黄褐色10YR6/3~暗 色	完存	長脚形。 X=63496.83 Y=-67364.01 L=4.90	
154	SD-01(B)	石鍬	10.1	5.1	2.6	177.85	蛇紋岩	灰白色5Y7/1~7/2 1/2(ちょうど 間に半裁)	1/2(ちょうど 間に半裁)	長脚形。 X=63494.88 Y=-67366.68 L=5.06	
155 3区	SD-01(B)	石鍬	(7.05)	(3.4)	3.45	73.08	滑石	緑灰色7.5GY6/1~灰色N4/	3/4	長脚形。溝が甚る部分は丁寧な仕上げ研磨。下位の穿孔はやり直した跡あり。	
156 3区	SD-01(B)上層	石鍬	8.3	4.3	3.85	168.16	滑石	灰色N5/~暗黃色25Y6/2	完存	長脚形。	
157 3区	SD-01(B)上層	石鍬	8.65	4.3	4.6	222.18	滑石	灰色10Y5/1	完存	長脚形。	
158	SD-01(B)	石鍬	残11.1	5.0	3.1	263.55	蛇紋岩	にぶい黄褐色10YR7/2~青 褐色10YR5/8	長辺両端部を 大損	鋸刃方向の溝はノミを打ち込んだでいる。 X=63514.59 Y=-67365.40 L=4.90	
159 4区	SD-01(B)下層	石鍬	9.6	7.8	1.9	213.79	滑石	明オリーブ灰褐色2.5GY7/1~ 灰色N4/	完存	打ち欠き石鍬。長辺辺の両端を打ち 欠く。	
160 3区	SD-01(B)上層	石鍬	10.2	8.4	1.4	187.1	玄武岩	灰色5Y6/1~暗オリーブ色 5Y4/4	完存	打ち欠き石鍬。長辺辺の4辺ともに打 ち欠く。	
161 3区	SD-01(B)上層	砥石 (粗研)	残27.5	残15.25	7.6	243.5	砂岩	褐灰色10YR6/1	おそらく3/4	成形段階用。金属器用。研いだ方向 は主に長辺方向。小4辺面が未使用。	
162 1区	SD-01(B)下層	精錐車	直徑3.7	0.6	6.90	滑石	緑灰色7.5GY6/1	1/2	丁寧な仕上げ研磨。袖孔は両面から 穿つ。		
163 2区	SD-01(B)下層	精錐車	直徑4.4	0.7	24.18	滑石	緑灰色5G6/1	完存	丁寧な仕上げ研磨。無面も研磨する のが成形時面取り直し痕が残る。		
164 2区	SD-01(B)上層	精錐車	直徑(4.9)	0.65	12.71	滑石	緑灰色10GY6/1	1/2	丁寧な仕上げ研磨		
165 3区	SD-01(B)	磨製石瓶丁	残5.0	残5.85	1.1	37.70	凝灰岩	暗赤色75R4/1	2/5	両刃。鶴形。丁寧な研磨。	
179 1区	SD-01(B)	ガラス管玉	22.5	0.6	—	2.02	—	暗緑色	完存	X=63510.87 Y=-67365.87 L=4.32	

遺物番号	地区	遺構・層位	器種	長	幅	厚	重量	石材	色調	残存率	備考
166		SD-01(B)	骨角器	2.0	1.7		2.38	骨	褐色7.5YR4/4	ほぼ完存	表面はくずれ成形、内部は誰など回転運動による穿孔孔径20-65cm X=6351435 Y=6736541 L=428
173	3区	丹泉裏	石鍤	3.8	1.35	1.15	8.03	滑石	灰色N 6/ ~にぶい黄褐色 10YR5/4	完存	鈎鍤形
174	3区	丹泉裏	石鍤	6.0	1.25	1.1	12.54	蛇紋岩	灰色N 6/ ~にぶい黄褐色 10YR5/4	完存	鈎鍤形。
175	3区	丹泉裏	石鍤	5.85	3.45	1.6	30.40	粘板岩?	灰色N 6/ ~N5/	完存	丁寧な仕上げ研磨
176	3区	丹泉裏 (未完成)	石鍤	7.85	4.5	3.9	210.99	蛇紋岩	灰色N 5/ ~にぶい黄褐色 10YR5/4	完存	底部平頭型。研磨段階まで進んでいる。
177	3区	丹泉裏	石鍤	—	(2.7)		129.29	粘板岩? (かなり風化)	にぶい黄褐色10YR7/2	1/3	風化が進み、加工痕跡が不明
178	3区	丹泉裏込み	ガラス小玉	直徑0.7	0.4	0.22			濃紺色(藍色)	完存	
180	3区	丹泉裏の壺込め	貯泉						—	完存	L=4.46
181	3区	丹泉裏込み	鉄錐	16.0	3.4	0.3	46.09	鉄	—	ほぼ完存	刃部長13.0cm、刃の厚さ2.0mm、基部を削り返す。X=63492/02 Y=6736443 L=451
207	3区	丹泉裏上層	ガラス小玉	直徑0.675	0.75	0.43			トルコ青色(緑がかかった青色)	ほぼ完存	
208	3区	丹泉裏上層	磨製石砲丁	11.6	5.5	0.6	61.03	安山岩	褐灰色7.5YR4/1	ほぼ完存	両刃、格円形。刃部の削減部分は少し光沢有り。刃部以外は粗い研磨。
209	3区	丹泉裏上層	劫錐車	直徑(5.2)	0.6	9.10		滑石	緑灰色5G5/1	1/3	全体に仕上げ研磨。
210	3区	丹泉裏上層	劫錐車 (未完成)	直徑 5.3~5.5	0.9	41.23		滑石	灰色N4/ ~明オリーブ灰色 2.5GY7/1	一部欠損	丁寧な仕上げ研磨、残り輪孔のみ。
246	4区	SD-01土器軸中部	石鍤	6.0	5.1	4.7	195.46	滑石	灰色N5/ ~N6/	完存	底部平頭型。丁寧な研磨。
247	4区	SD-01土器軸中部	石鍤	8.6	3.6	3.6	170.59	蛇紋岩	緑灰色10GY5/1~灰色N4/	ほぼ完存	長脚形。
248	4区	SD-01土器軸中部	磨製石剣	残23.6	(4.9)	1.05	182.56	砂岩質ホルン フェュエル	緑灰色5G5/1~暗緑色 5GY6/1	不明	鉄劍形。端がなく、断面形も平坦。 X=63479.60 Y=67389.36 L=5.49
399	1区	SD-01黒色土	石鍤	4.7	1.5	1.25	11.91	滑石	灰色N 6/ ~オリーブ灰色 5GY6/1	ほぼ完存	鈎鍤形。
400	1区	SD-01黒色土	石鍤	5.1	1.3	1.1	9.83	滑石	灰色N 5/ ~緑灰色10GY5/1	完存	鈎鍤形。
401	1区	SD-01黒色土	石鍤	残4.5	1.6	0.9	8.50	頁岩か粘土 岩	灰色N5/	4/5	劫錐形。裏面は長辺方向の溝が幅最大部分で途切れ、済部分の研磨もない。
402	3区	SD-01黒色土	石鍤	残5.8	1.8	1.7	21.19	滑石	緑灰色10GY5/1	ほぼ完存	鈎鍤形。
403	4区	SD-01黒色土	石鍤	6.1	2.3	1.25	22.91	頁岩	灰色N4/	完存	鈎鍤形。
404	1区	SD-01黒色土	石鍤	7.25	3.95	3.4	141.40	不明	明褐色7.5YR7/1~7/2	完存	長脚形。
405	3区	SD-01黒色土	石鍤	8.9	5.0	4.0	231.46	滑石	黃灰色2.5Y6/1~暗灰黄色 2.5Y4/2	完存	底部平頭型。
406	4区	SD-01黒色土	石鍤	12.1	3.9	3.3	224.54	滑石	灰オリーブ色5Y6/2~暗灰色 N3/	7/8	長脚形。
407	1区	SD-01黒色土	石鍤	7.8	5.8	2.1	158.05	玄武岩	灰色10Y6/1	ほぼ完存	打ち欠き石鍤。打ち欠きは短辺1辺に残る。
408	3区	SD-01黒色土	石鍤	9.1	8.6	2.1	215.32	安山岩?	灰色 5 Y 6 / 1 ~ 黄褐色 10YR5/6	完存	打ち欠き石鍤。打ち欠きは長辺辺のうち3辺に残る。
409	1区	SD-01黒色土	石鍤	—	—	2.2	95.16	滑石	灰色N 5/ ~灰白色25Y7/1	2/5	打ち欠き石鍤。
410	4区	SD-01黒色土	浮具 (ブイ)	20.5	16.9	12.4	1235.5	軽石	褐灰色5YR6/1	不明	加工面は大きめの溝、他に一方を小さく抜いてして、そこに乗せ込んでいる。両側面に横筋状の削離面はないという。
411	4区	SD-01黒色土	不明鉛石	5.8	3.4	2.7	11.41	軽石	褐灰色5YR6/1	不明	加工面は2面のみ。他の自然面が残る。
412	1区	SD-01黒色土	蛤刀斧斧	—	5.8	2.3	168.77	玄武岩	灰色5Y6/1	刃部1/L 基部1/2?	全面に仕上げ研磨
413	3区	SD-01黒色土	石斧	—	6.2	1.1	66.55	玄武岩	黄灰色2.5Y5/1~4/1	不明	大型剥片を利用したもの。平面のうち1面は剥離面のままで、もう1面は自然面に削離面を有す。
414	1区	SD-01黒色土	磨製石砲丁	残6.3	残5.0	0.7	20.11	輝緑岩灰岩	暗赤色10GY4/1	1/3	楕円形に追いや成形段階で薄く剥がれたもののそれを手で剥離し、刃部仕上げ。そして若干研磨。
415	1区	SD-01黒色土	磨製石砲丁	—	—	0.6	8.18	粘板岩	緑灰色10GY5/1, 褐色7.5YR4/4	不明	全面に仕上げ研磨
416	3区	SD-01黒色土	磨製石砲丁	残5.1	3.8	0.5	14.48	砂岩質ホルン フェュエル	暗緑色10GY4/1	2/5	片刃、外削刃半月形。刃部先端に光沢部分有り。丁寧な研磨。
417	3区	SD-01黒色土	磨製石砲丁	残6.65	4.5	0.4	20.69	凝灰岩	緑灰色10GY6/1	3/5	片刃

遺物番号	地区	遺構・層位	器種	長	幅	厚	重量	石材	色調	残存率	備考
418	4区	SD-01黒色土	磨製石砲	残52	残4.0	0.6	1654	片岩	暗緑灰色10GY4/1	1/5	両刃、外溝刃半月形。丁寧な研磨。
419	2区	SD-01黒色土	劫鉢車	直径43	0.6	18.36	滑石	暗緑灰色10GY4/1~灰白色N7/	完存	未成品。(形を作り出して粗く研磨した段階)	
420	4区	SD-01黒色土	劫鉢車	直径42	0.65	2263	何かの変形(成形岩)	緑灰色10GY5/1~明オリーブ色2.5GY7/1	ほぼ完存	丁寧な仕上げ研磨	
421	4区	SD-01黒色土	劫鉢車	直径43	0.5	20.05	蛇紋岩	明オリーブ色2.5GY7/1	ほぼ完存	丁寧な仕上げ研磨	
422	4区	SD-01黒色土	劫鉢車	直径45	0.7	26.43	蛇紋岩?	に赤い黄褐色10YR6/3~明オリーブ色2.5GY7/1	完存	丁寧な仕上げ研磨	
423	2区	SD-01黒色土	劫鉢車	直径46	0.6	18.41	滑石	暗緑灰色5G3/1	ほぼ完存	丁寧な仕上げ研磨	
424	1区	SD-01黒色土	石斧	残5.35	—	—	94.0	砂岩	黄灰色2.5Y6/1~5/1 赤色顔料:赤色7.5R4/8	水銀朱付着	
425	3区	SD-01黒色土(粗研)	砥石	—	6.4	—	108.08	砂岩	灰黄色2.5Y6/2	不明	成形段階用。欠損面以外の全表面使用
426	3区	SD-01黒色土(仕上げ研)	砥石	残24.6	残9.0	残3.0	580.13	頁岩	暗灰色N3/	楕円形は残存	仕上げ用。上面のみ使用
427	3区	SD-01黒色土	砥石(粗研)	残15.5	10.95	残3.5	76221	砂岩	黄灰色2.5Y6/1~灰黄色2.5Y6/2	おそらく1/2	成形段階用。研いだ方向は不明瞭。金属器に使用。小口面が未使用。
428	3区	SD-01黒色土	砥石(粗研)	—	—	5.4	659.57	不明(かなり風化)	灰色10Y6/1	不明	成形段階用。欠損面以外の全表面使用
429	1区	SD-01黒色土	ガラス管玉	残1.05	0.575	—	0.89	—	緑色	不明	
430	3区	SD-01黒色土	ガラス小玉	直径0.7	0.35	0.22	—	—	濃紺色(藍色)	完存	
431	2区	SD-01黒色土	ガラス小玉	直径0.65	0.225	0.15	—	—	濃紺色(藍色)	完存	
432	2区	SD-01黒色土	ガラス小玉	直径0.45	0.375	0.04	—	—	濃紺色(藍色)	2/5	
433	1区	SD-01黒色土	ガラス小玉	直径0.4	0.2	0.03	—	—	濃紺色(藍色)	完存	
434	2区	SD-01黒色土	ガラス小玉	直径0.275	0.25	0.02	—	—	濃紺色(藍色)	完存	
463	3区	SD-01過溝時	石鍤	4.6	2.05	1.55	1791	玄武岩?	暗緑色10GY5/1	完存	劫鉢形。
464	SD-01前部廻山	石鍤	残5.1	1.9	1.5	18.30	滑石	暗緑色10GY4/1	1/2	劫鉢形。	
465	1区	SD-01壁面	石鍤	4.5	1.8	1.6	14.13	滑石	明緑灰色7.5GY7/1	完存	劫鉢形。成形時のノミ痕跡と溝のみ。研磨待ちの未成品が箇離仕上げかは不明。
466	SD-01	石鍤	残5.4	2.2	2.1	34.08	蛇紋岩	に赤い黄褐色10YR7/4~灰白色N4/	3/4	劫鉢形。	
467	SD-01壁面	石鍤	5.4	3.5	3.6	92.16	滑石	灰色N6/~灰黄色2.5Y6/1	完存	底部平頭型。	
468	SD-01壁面	石鍤	8.6	7.0	1.8	158.62	蛇紋岩	暗緑色10GY5/1	ほぼ完存	打ち欠きは長辺のうち3辺に残る。	
469	2区	SD-01西脇	石鍤	9.3	7.3	1.5	146.75	玄武岩	灰白色7/	完存	打ち欠きが3カ所に残る。
470	SD-01壁面	石鍤	直径(15~16)?	4.7	5.32	5.2	滑石	暗緑色10GY6/1	2/5	大型でドーナツ状を呈し、半丸に沿孔をもつ型式。垂直にノミ痕跡、平面・円孔には研磨跡が多くあり。	
471	SD-01過溝廻山	磨製石砲	残6.5	3.3	0.55	19.12	粘板岩	灰黃褐色10YR5/2	2/3	直線刃半周形。両刃、全面研磨だが少し窪んだ部分には届いていない。	
472	1区	SD-01壁面	劫鉢車	直径3.65	0.6	13.00	何かの変形(成形岩)	灰黃褐色10YR6/2	ほぼ完存	丁寧な仕上げ研磨	
473	1区	SD-01壁面	劫鉢車	直径4.4	0.5	8.32	滑石	暗緑色10GY4/1	1/2	丁寧な仕上げ研磨	
474	1区	SD-01壁面(未完成)	石施工	8.7	5.9	1.6	148.57	玄武岩	灰黄色2.5Y6/2	完存	大型剥片の周縁を打ち欠いた段階で、最終打削はない。
475	2区	SD-01壁面	抉入柱状片刃石斧	11.5	3.1	3.9	216.23	粘板岩	暗オリーブ色灰褐色5GY4/1	ほぼ完存	基盤以外には研磨を施す(基盤の方には最終打削が残る)。
476	SD-01壁面	敲石	13.5	6.2	3.5	494.84	凝灰岩?	灰色5Y5/1~4/1	完存	敲打面以外はまた整形時の加工痕が残る。	
477	SD-01過溝廻山	石斧	—	4.9	2.6	89.57	粘板岩	灰色N4/	刀部4/5	整形時の加工痕が残る。	
478	1区	SD-01壁面(仕上げ研)	砥石(未完成)	—	—	4.25	142.92	砂岩	灰色5Y5/1	不明	仕上げ研磨用。少なくとも3面使用。
479	1区	SD-01壁面	打製石斧(未完成)	—	6.4	2.4	246.51	玄武岩	調離面:灰色N5/自然面:灰色Y6/1	不明(基盤側を欠損)	前面は有孔剥離面からの剥離があり、調離面と反対側の自然面は研磨面である。背面は上部に孔がある。手打ちで削り取った面と手打ちで削り取った面の間に調離面がある。
480	SD-01	剥片	6.5	3.0	0.6	9.2	頁岩か	砥粉色:9YR 7.5/4.5	完存		

出土木製品 (Fig.58~101, PL.33~56)

W001～W023は、起鉗具の広鉗である。未製品は見られない。広鉗には肩部が張るものと丸くおさめるものがある。W020～W022は段を有するタイプのもので、W021とW022は整理時に接合したため2個体分出土している(PL.54)。当該期の広鉗は、生活遺跡内から未製品が出土しないため他地域で製作されたものを、流通により入手するとの仮説が説かれている。今回の資料は、規格性を欠くものであり特筆される。広鉗の樹種は、調査担当者の観察によりカシ材と考えられる。W024,W025は狭鉗である。W024の刃部は欠損している。W026～W031は三叉鉗である。W032～W039は鉗柄と錐取付具である。W040～W049は鍔類と鍔柄である。鍔身肩部には、踏み込み部とも思える突起状につくり出すものと、つくり出さないものがある。突起状上部に顕著な削痕や摩滅などは見られない。鍔身に近い柄基部の断面は、ほぼ円形をしており柄が組み合わさることは無いと考えられる。W050～W052は掘棒と考えられる。W052の全長は短く49.6cmである。刀形か? W053,W054は鎌柄である。樹種は異なり、一方の柄は直線的で、もう一方は外側にやや反る。W055～W066は堅忤、横忤、掛矢などと考えられる。W055,W057,W058,W063には先端の顕著な摩滅は見られず、縱杵としての長時間使用は考えられない。W067,W068は臼、W069は横忤である。細身で小型の堅忤W055,056などは、小型臼W068と組合せ調理具としての使用が推測される。W070～W075は柵である。W072とW073は整理時に接合したため(PL.54)、計5個体分の出土である。W071の底部外面には横方向の溝状掘り込みが見られる。柵の形状や底面の製作方法に共通性は少なく、樹種にも多様性がみられる。W076～W093は工具の斧柄である。W085は柄と斧との角度が鈍角であり、内側にだけ金属刃受けの段が見られチョウナとして特化したつくりをしている。

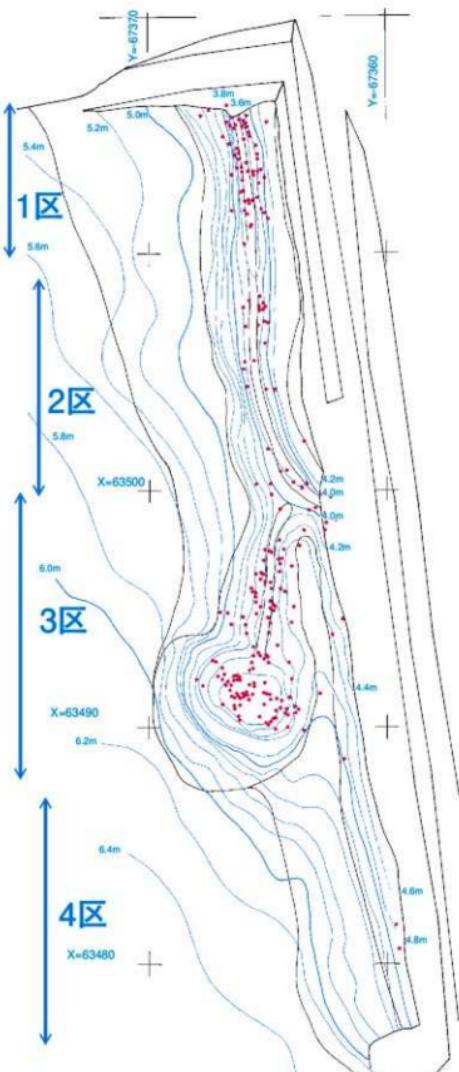
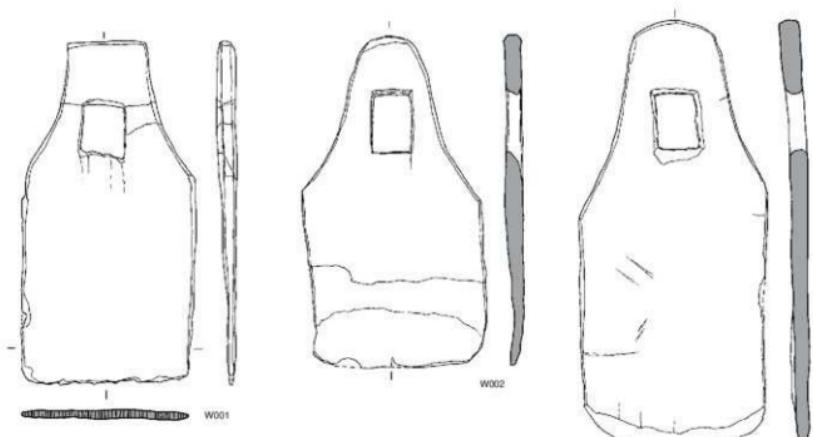


Fig.57 SD-01出土木製品分布状況図(1/200)



0 10 20cm

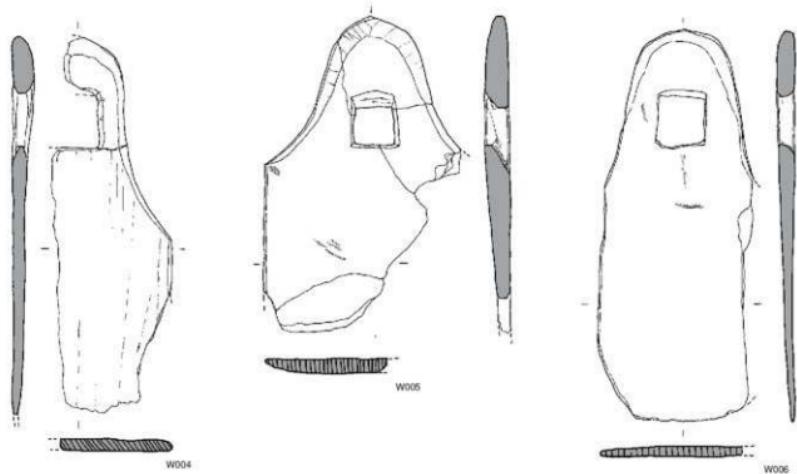


Fig.58 SD-01出土木製品実測図(1/4)

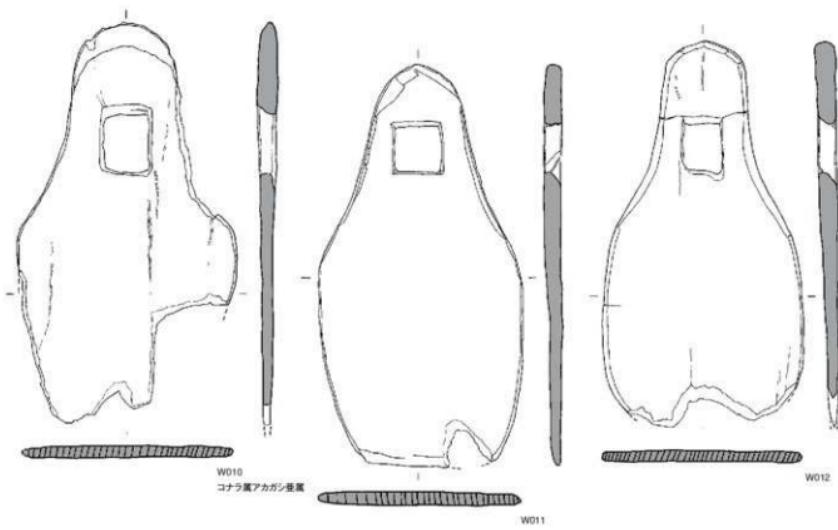
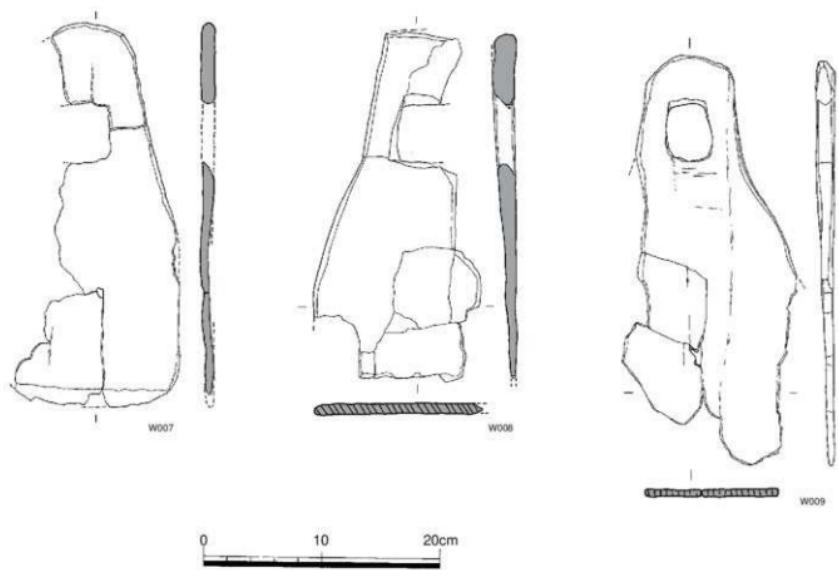
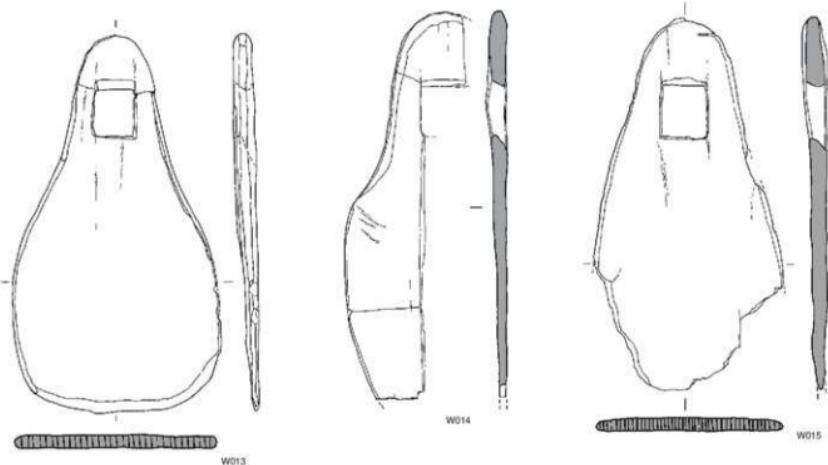


Fig.59 SD-01出土木製品実測図(1/4)



0 10 20cm

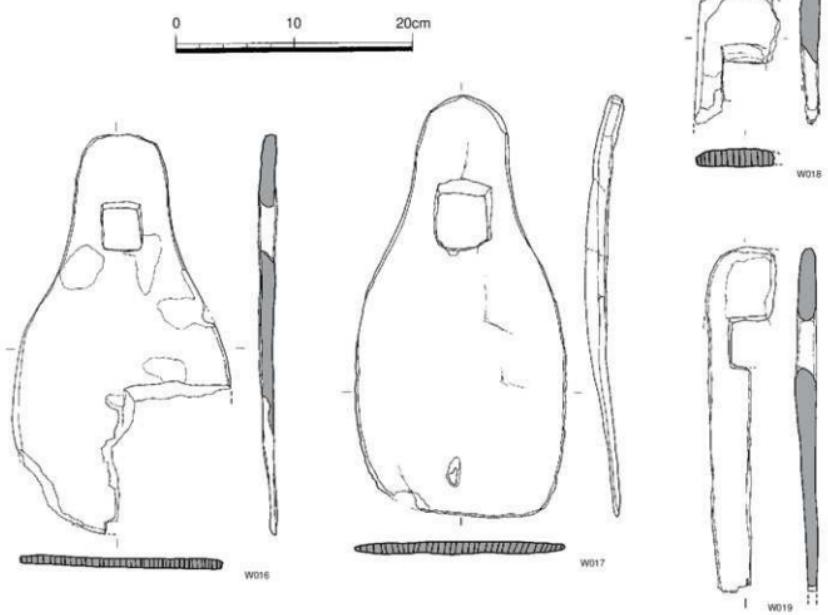


Fig.60 SD-01出土木製品実測図(1/4)

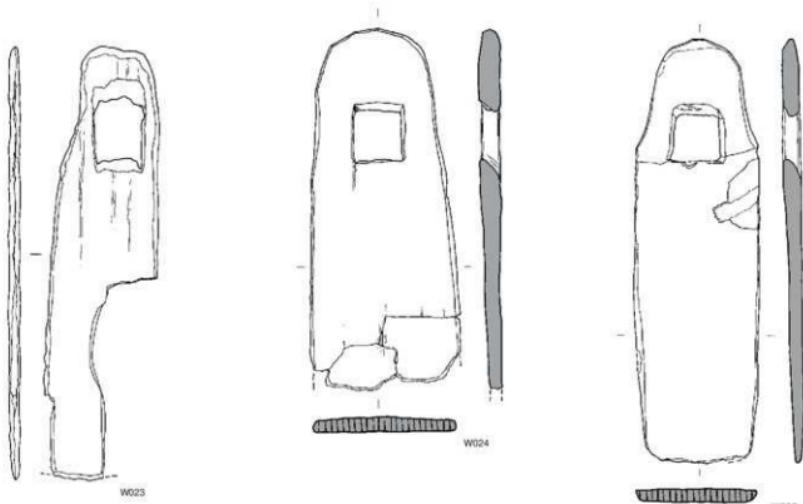
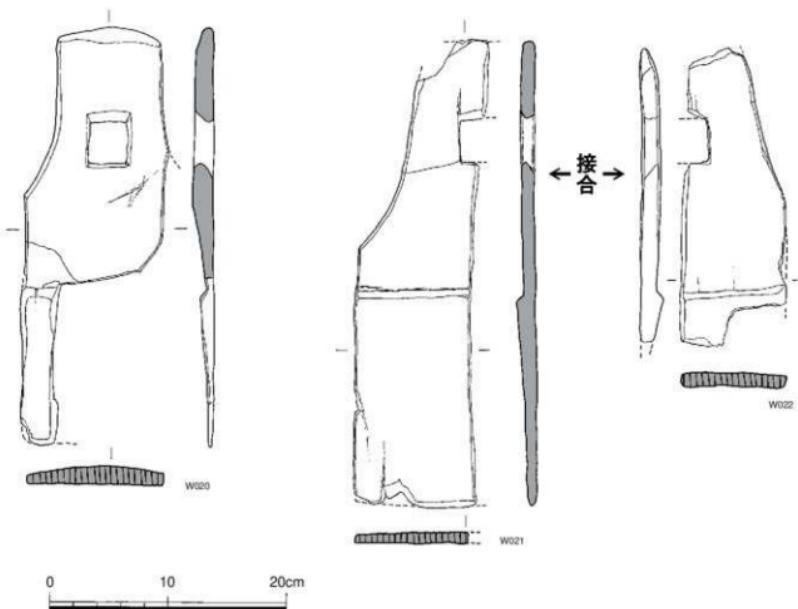


Fig.61 SD-01出土木製品実測図(1/4)

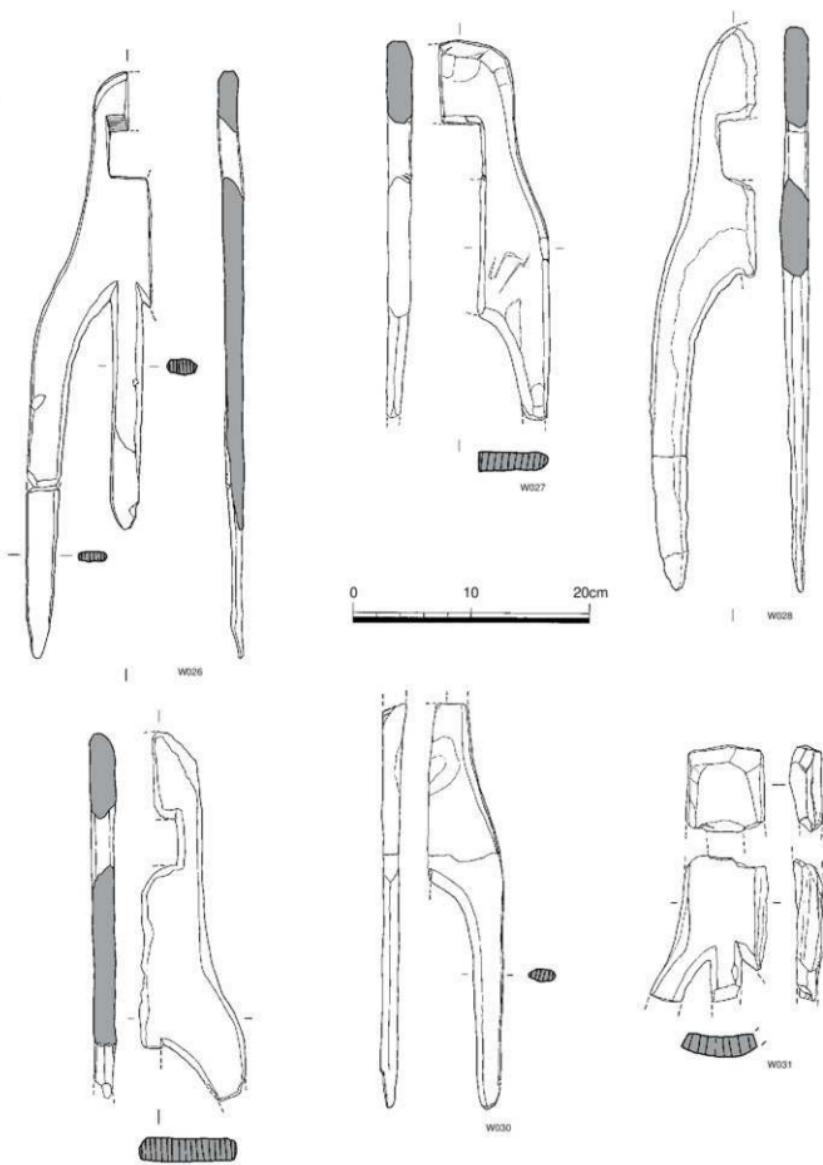


Fig.62 SD-01出土木製品実測図(1/4)

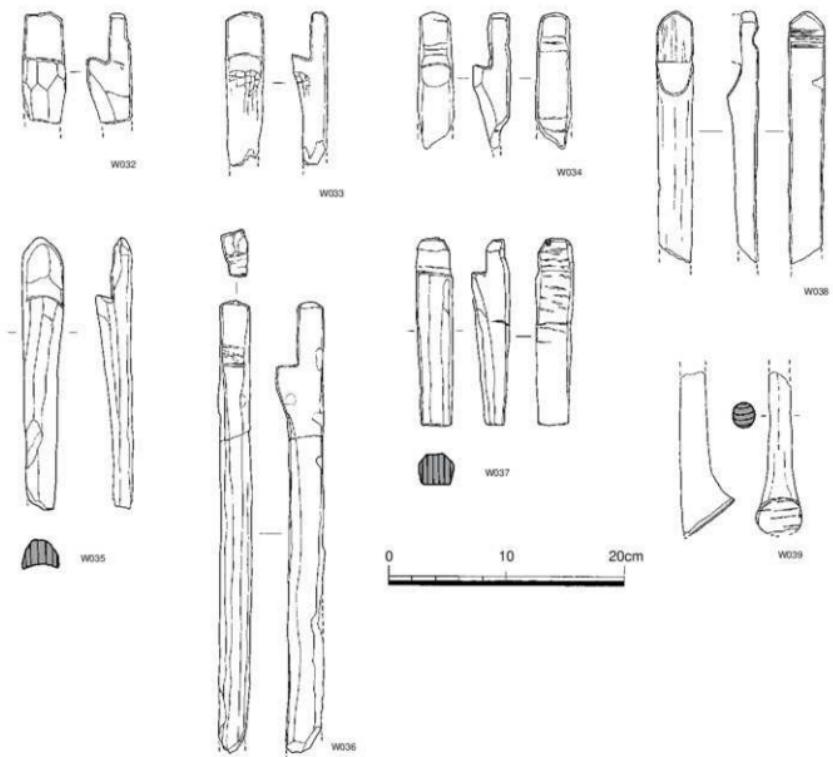


Fig.63 SD-01出土木製品実測図(1/4)

W089は組合せ式のものである。直柄にホゾとホゾ穴により組合せ、更に軸で留めて雇柄としている。他遺跡での出土例もあるようだが、今回は良好な状態で出土し、注目される資料である。W094は円盤外面の摩滅が見られることから塗鍛と考えられる。W095,W096は握手の付く作業台である。W097～W100は漁労具と思われるものである。W098のアカトリには精緻なつくりの把手がつく。W099には鍬のような方形柄孔があり、貝掘り具のような形が想定される。硬質であるイスノキでつくられた鋸状木製品W100、実際に漁ができるか不明ではあるが、ここでは漁労具に含めておく。W101～W111は匙形・杓文字形木製品である。W112～W117は柄杓と柄杓の柄頭である。W118～W139は未製品を含む槽である。W119は脚部に方形の透かしをもつ高脚のもので、椅子の可能性もある。W132,W135は外皮の付いた未製品のもので、槽の製作過程では、内面の荒削りが外面の加工より先に行われていることが分かる。それに対して、脚付槽の未製品であるW137は、外面脚部の製作後に内面の削り込み作業に着手している。W140,W141は容器、W142は椀である。W143,W144は脚付盤、W145は容器の一部と考えられる。W146,W147は精製容器の蓋、W148は上げ底で、欠き込みのある樽形容器である。W149,W150は、円形または楕円形の板状製品である。W151,W152は、把手をもち板状を呈するものである。2点とも縁部が炭化していることから、土器煮沸時の蓋と考えている。2点とも同地点から出土している。W153は漆塗筒形容器の破片である。同一個体と考えられる容器（巻頭カラー）である。

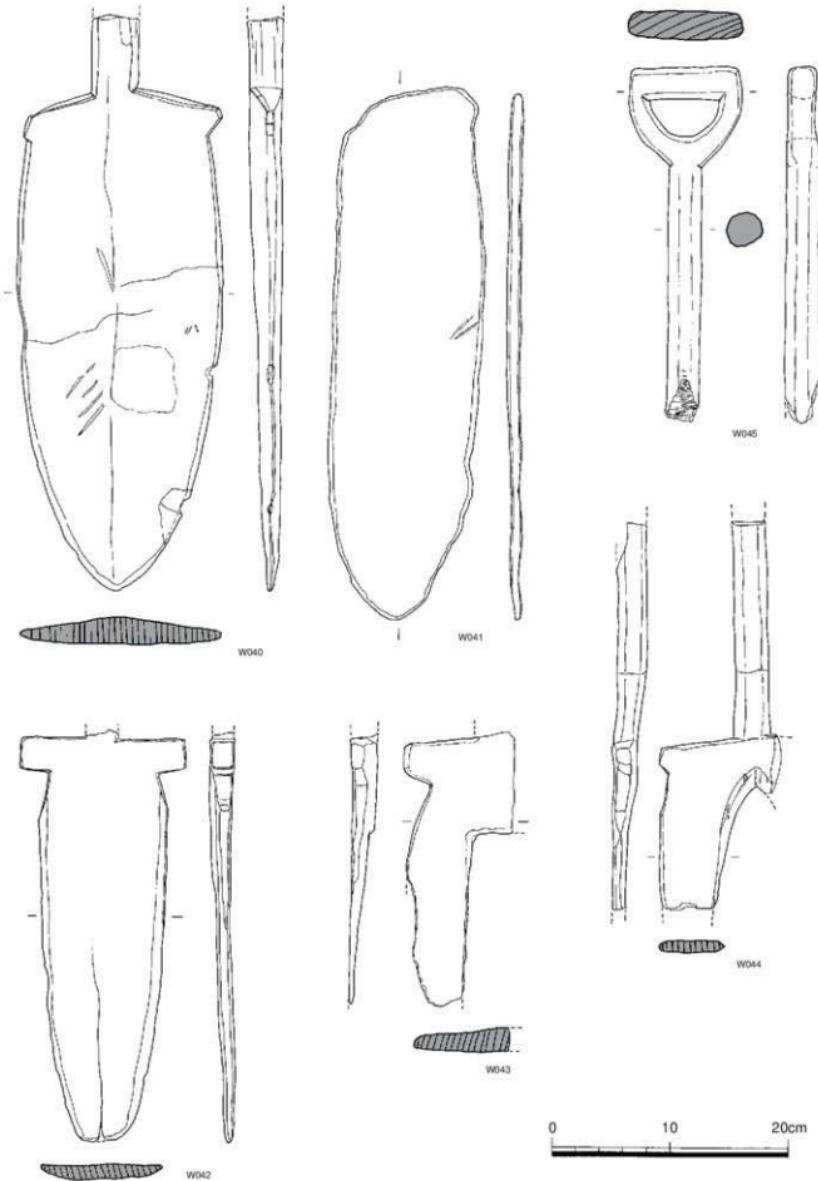


Fig.64 SD-01出土木製品実測図(1/4)

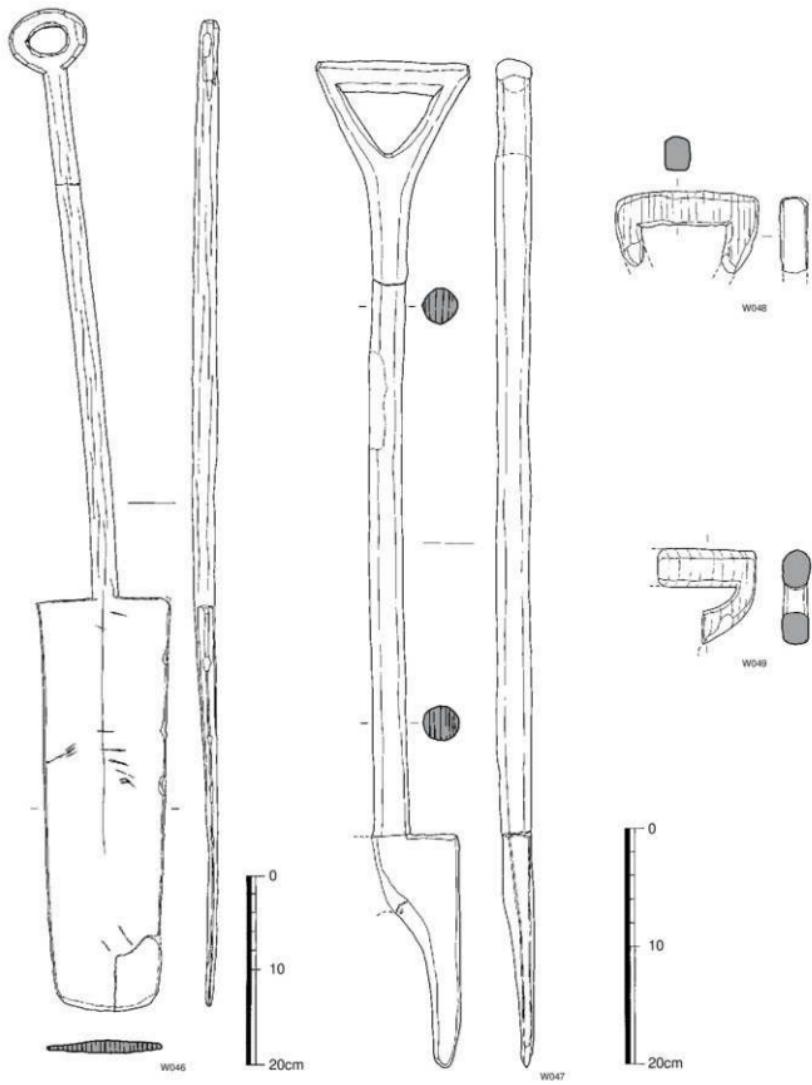


Fig.65 SD-01出土木製品実測図(1/4),(1/5)

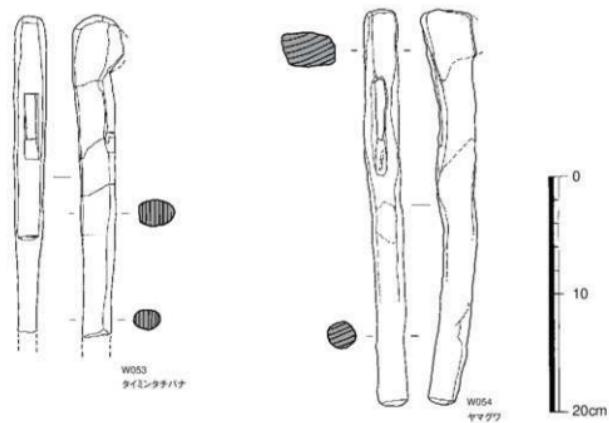
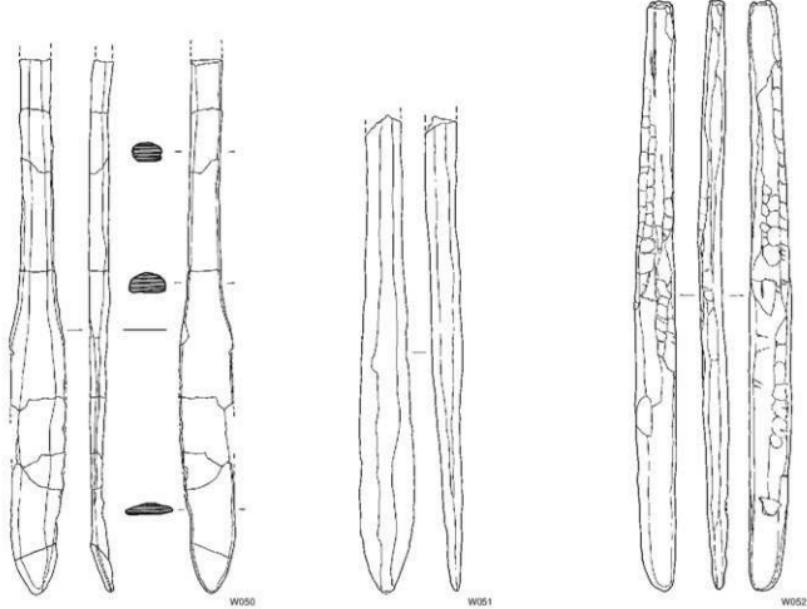


Fig.66 SD-01出土木製品実測図(1/4)

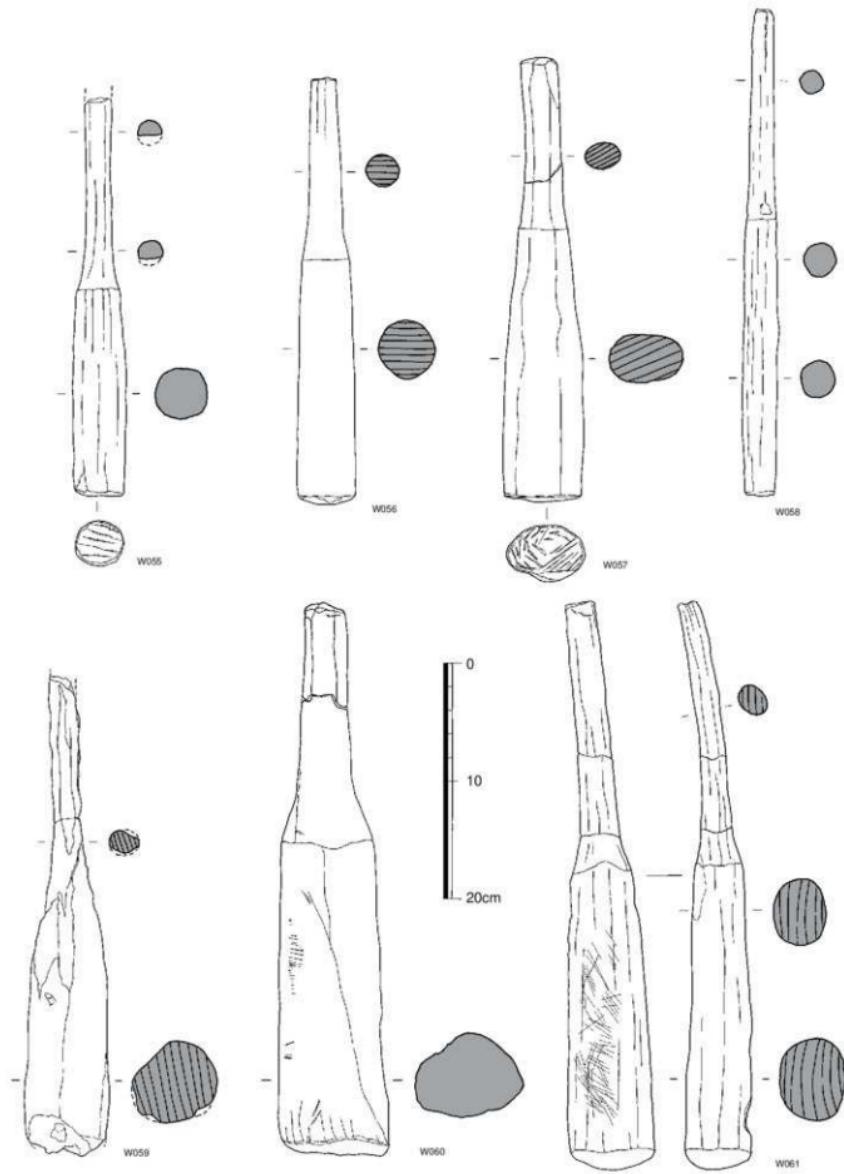


Fig.67 SD-01出土木製品実測図(1/4)

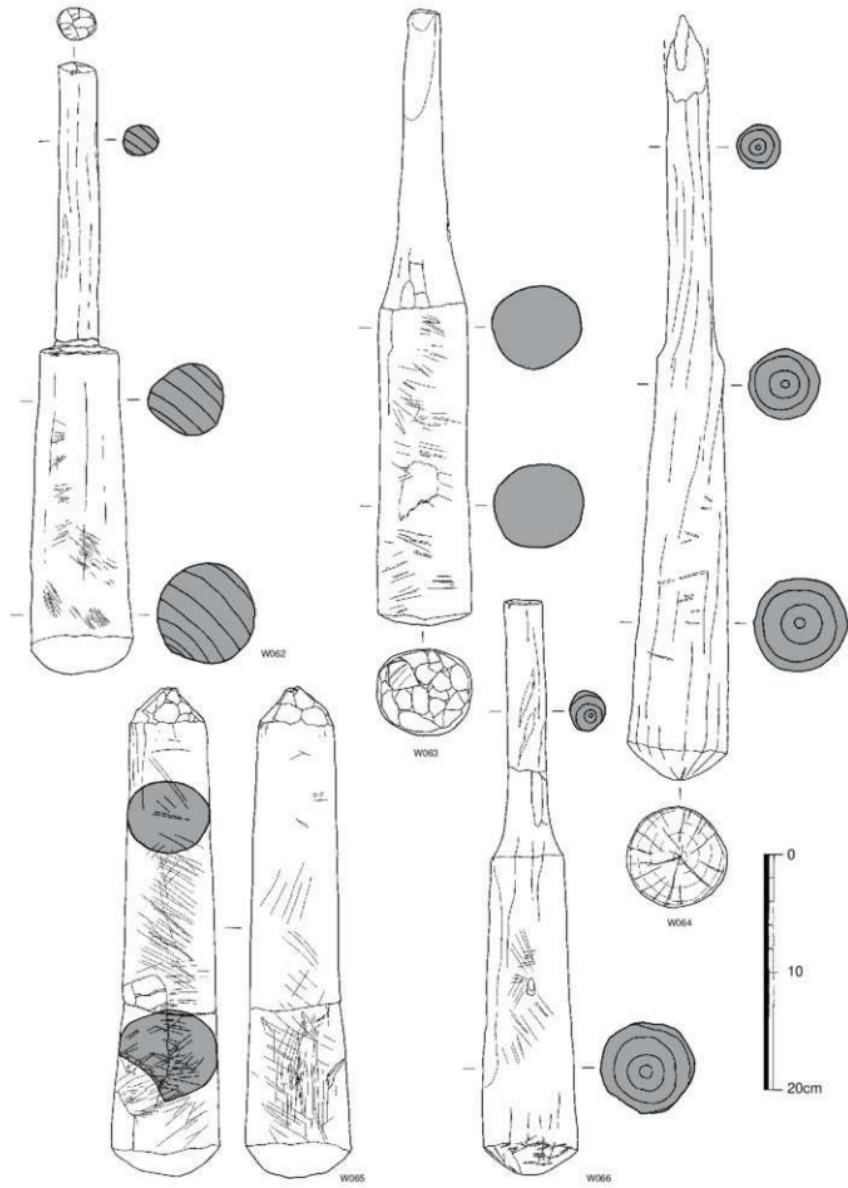


Fig.68 SD-01出土木製品実測図(1/4)

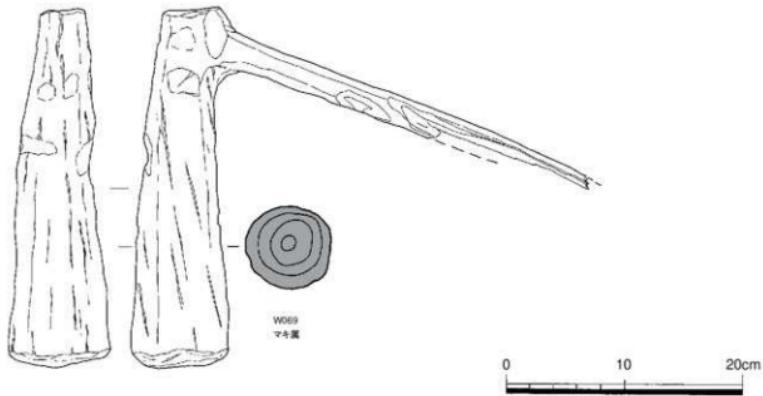
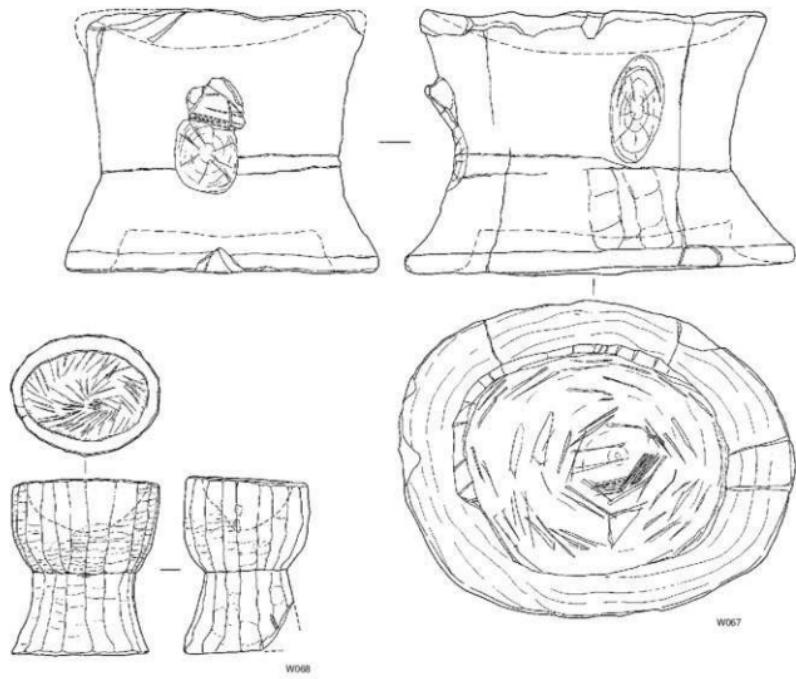
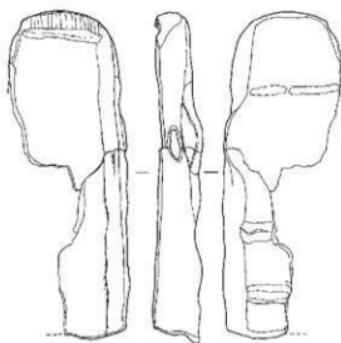


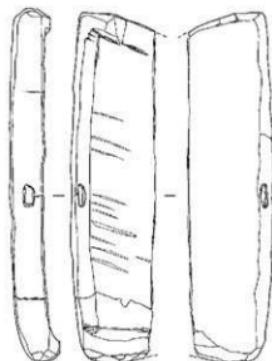
Fig.69 SD-01出土木製品実測図(1/4)



W070
タブノキ属

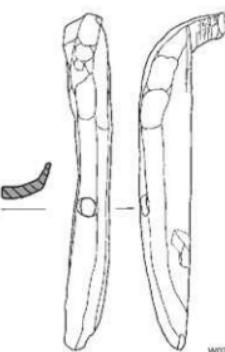
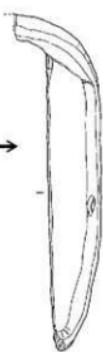


W071
タブノキ属

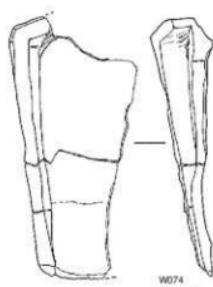


W072
スタジイ

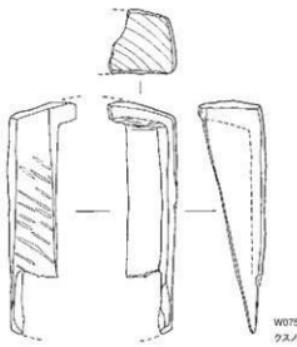
←接合→



W073



W074
タブノキ属



W075
クスノキ科

Fig.70 SD-01出土木製品実測図(1/4)

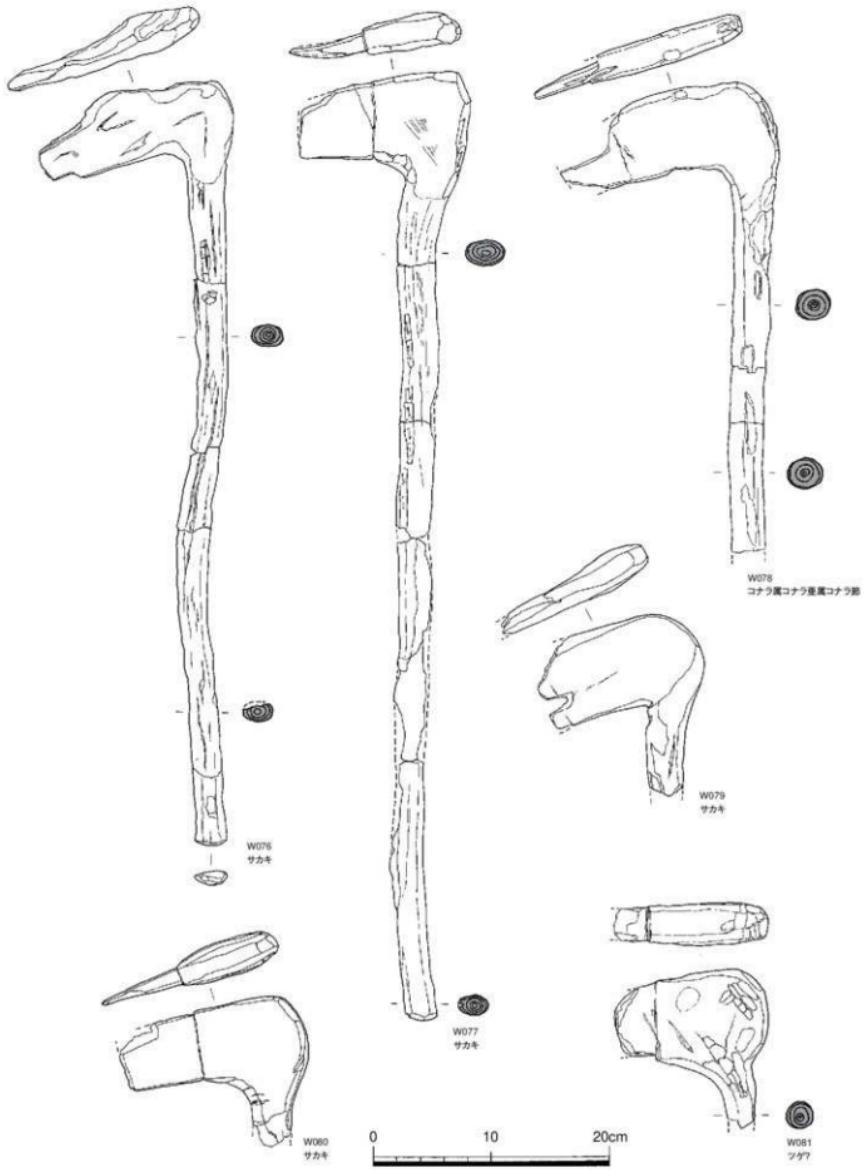


Fig.71 SD-01出土木製品実測図(1/4)

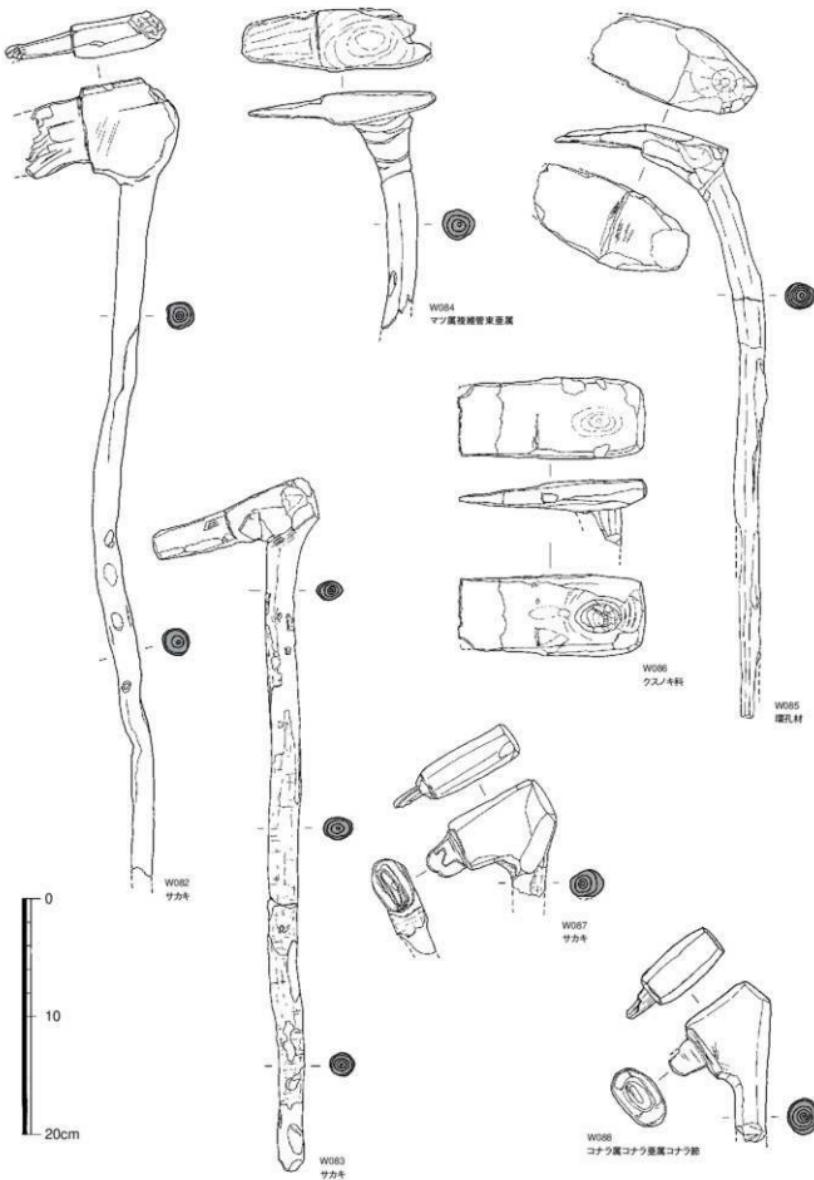
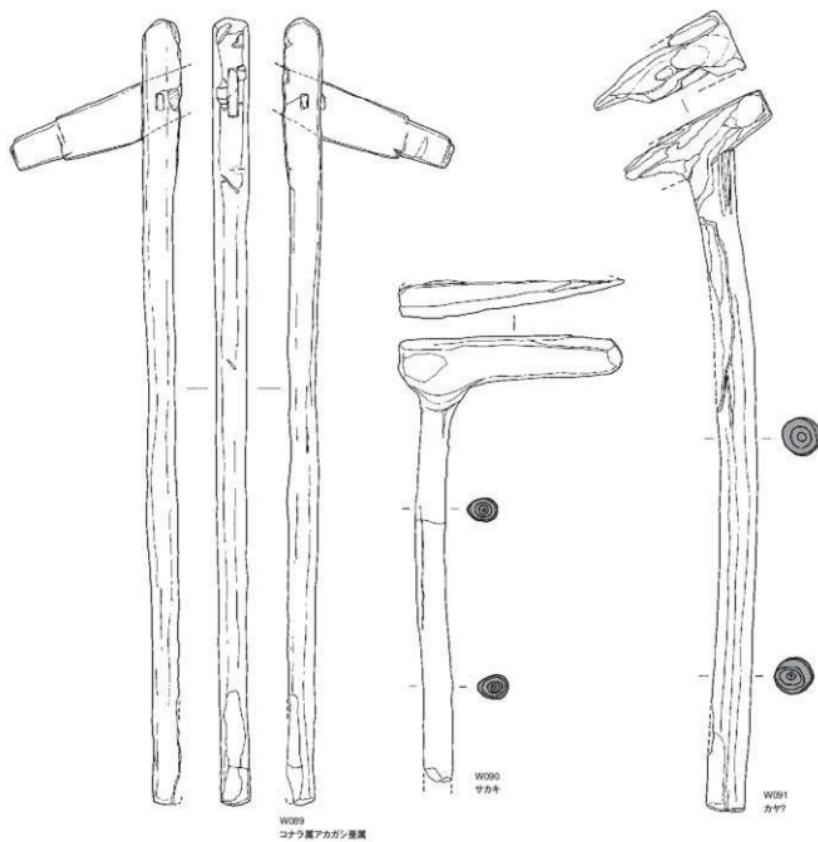
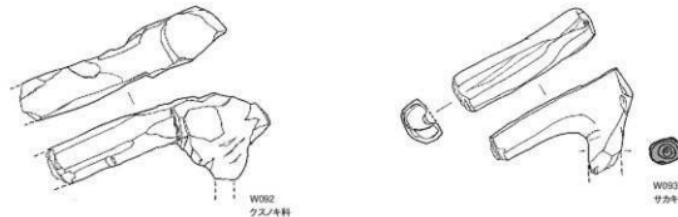


Fig.72 SD-01出土木製品実測図(1/4)



W089
コナラ属アカギシ属

W090 サカキ
W091 カヤ?



W092
クスノキ科

W093
サカキ

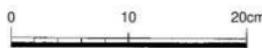


Fig.73 SD-01出土木製品実測図(1/4)

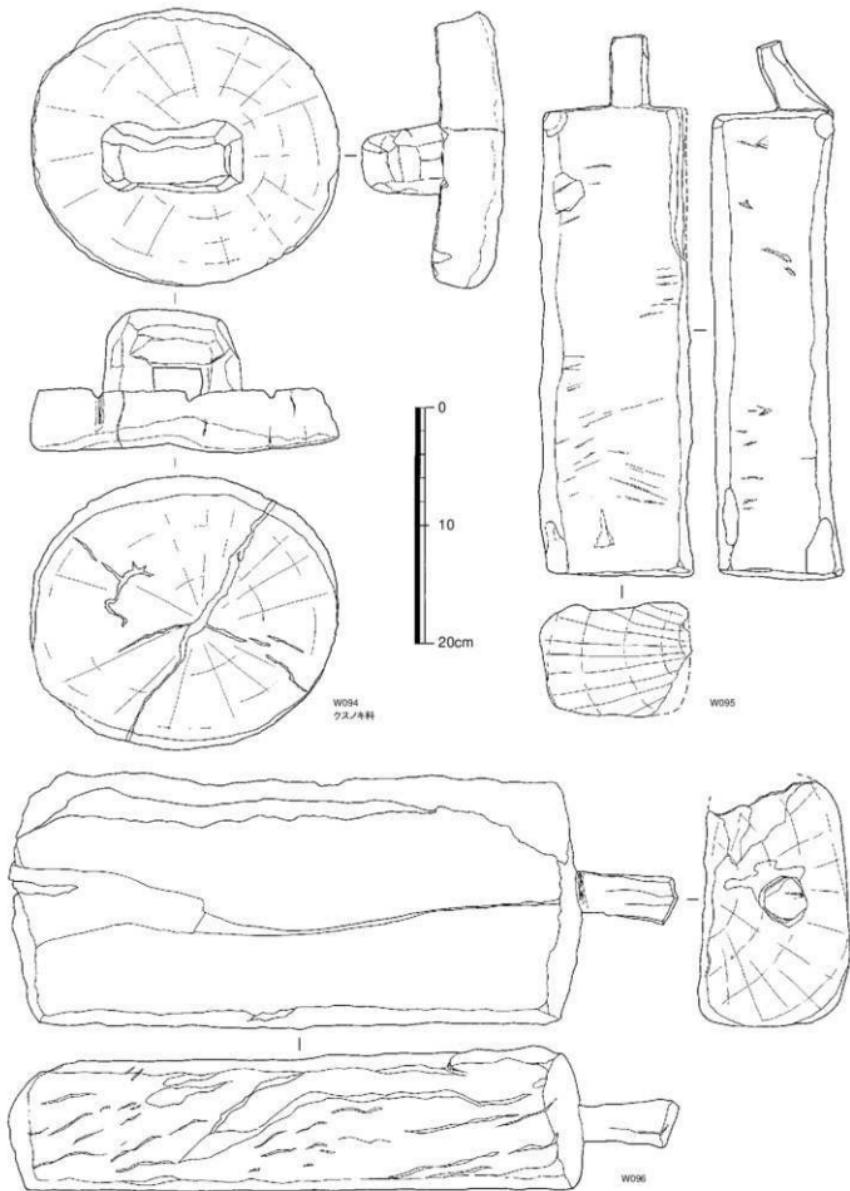


Fig.74 SD-01出土木製品実測図(1/4)

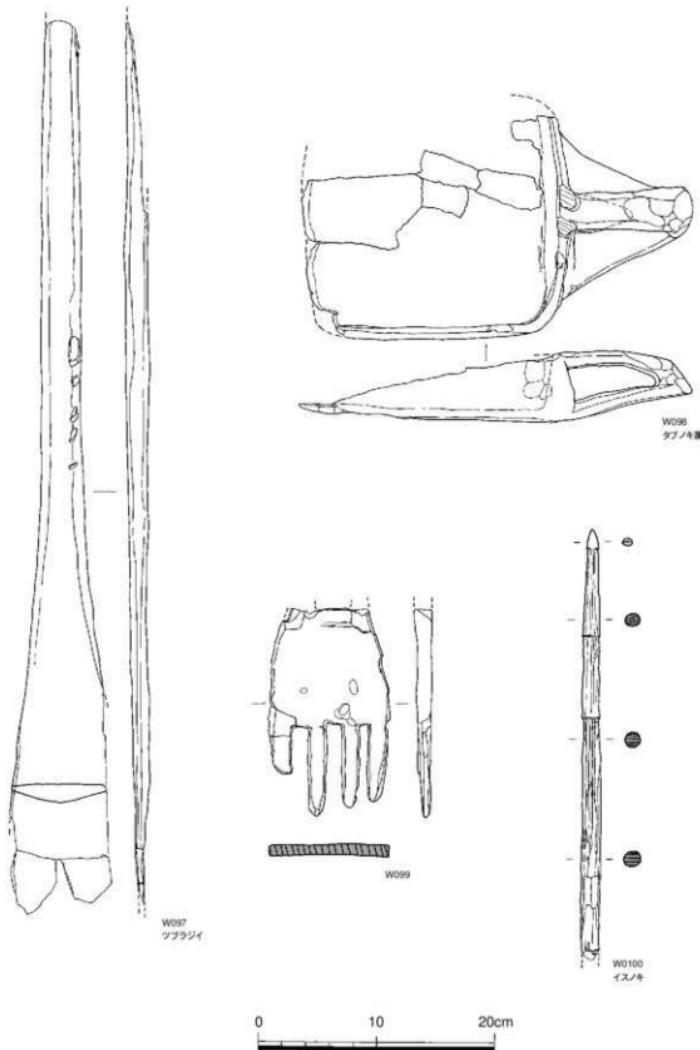


Fig.75 SD-01出土木製品実測図(1/4)

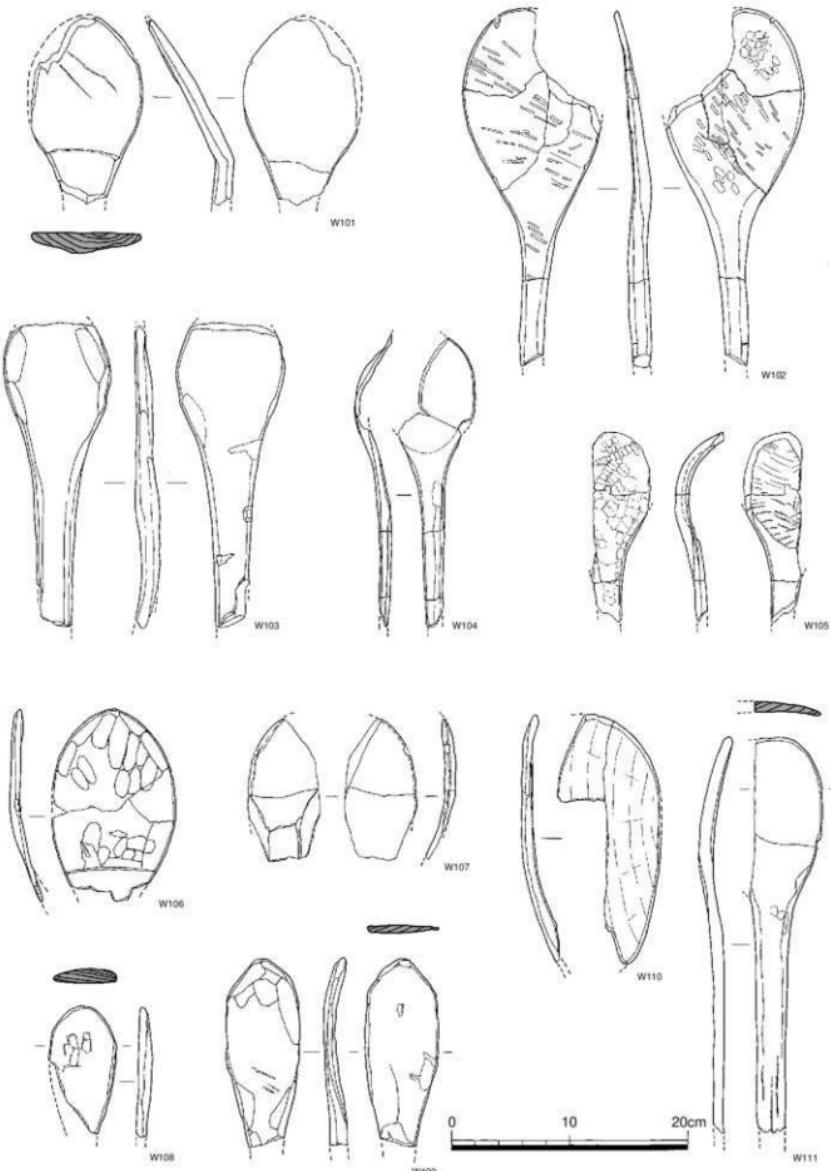
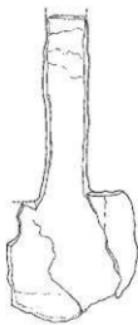
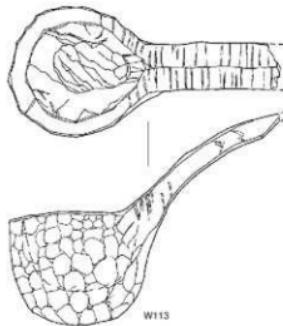


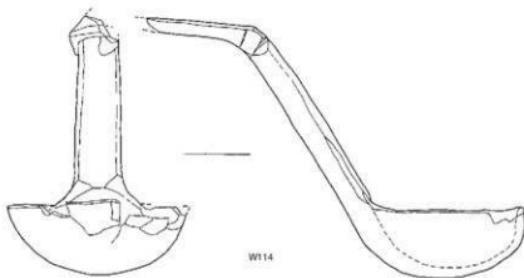
Fig.76 SD-01出土木製品実測図(1/4)



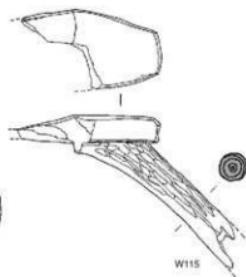
W112



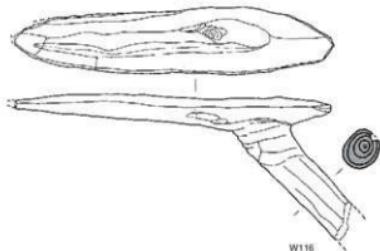
W113



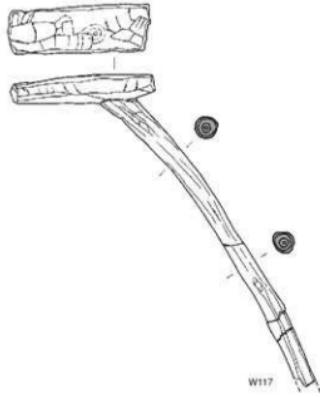
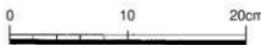
W114



W115



W116



W117

Fig.77 SD-01出土木製品実測図(1/4)

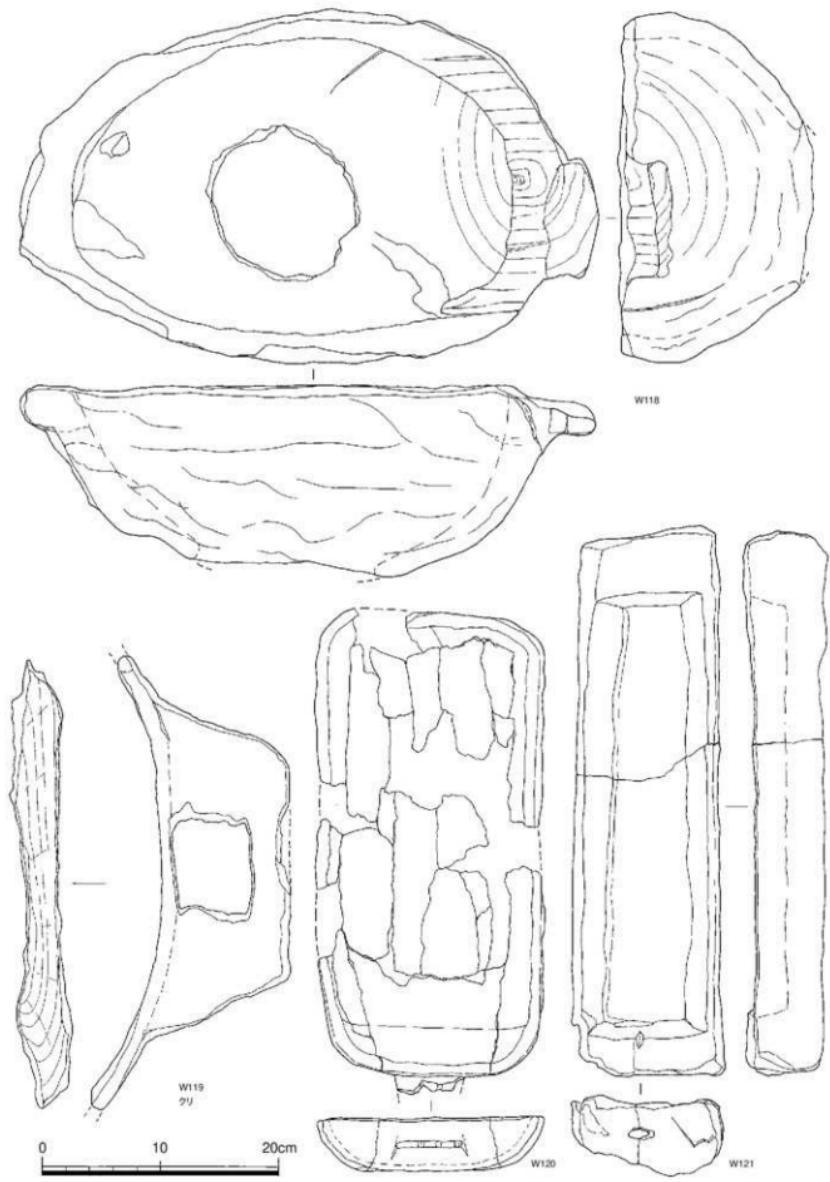


Fig.78 SD-01出土木製品実測図(1/4)

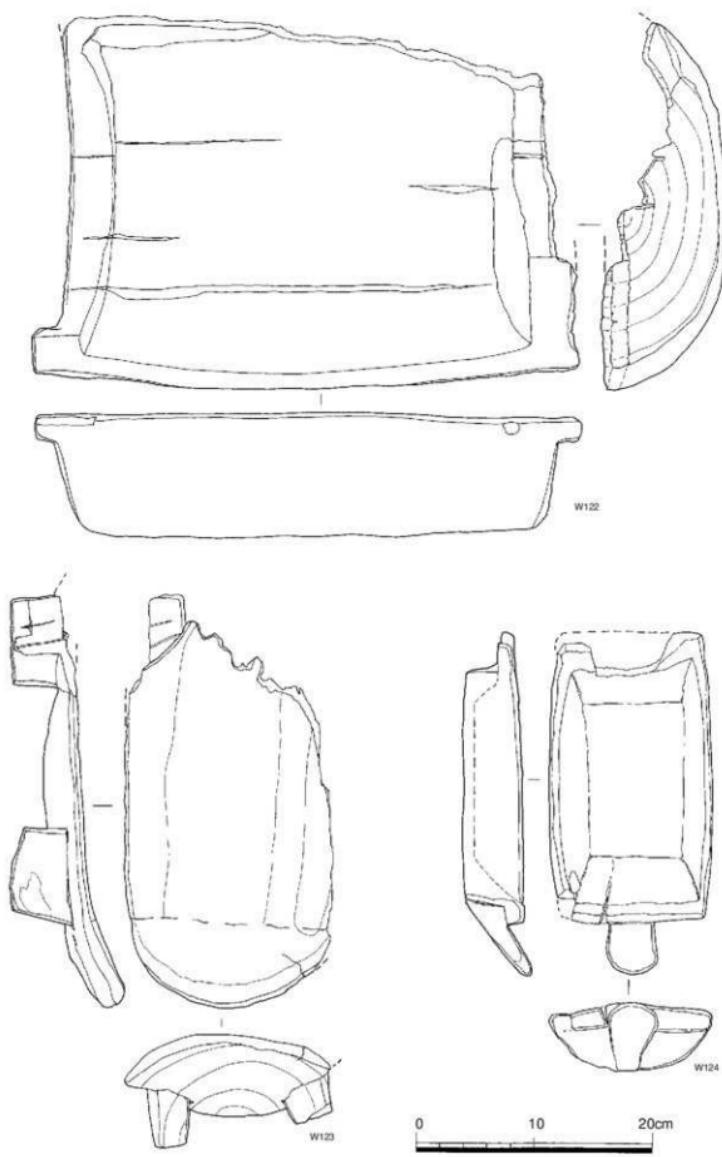


Fig.79 SD-01出土木製品実測図(1/4)

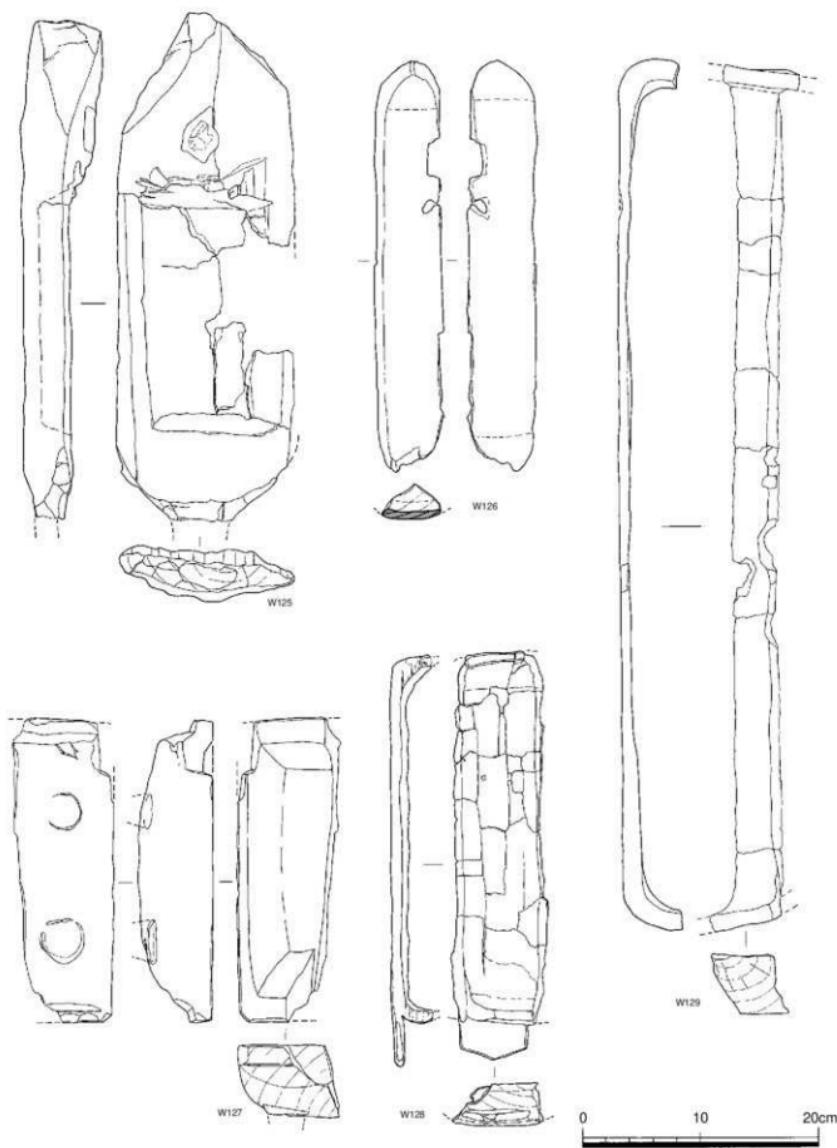


Fig.80 SD-01出土木製品実測図(1/4)

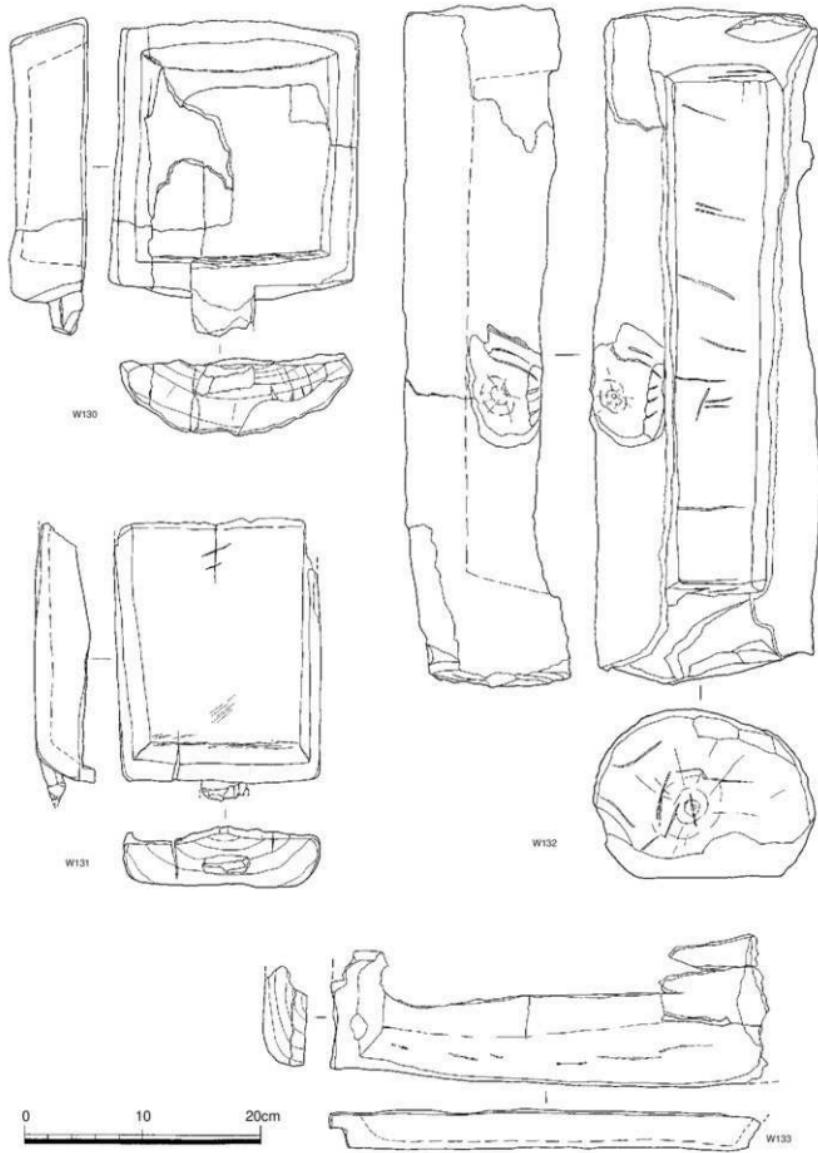
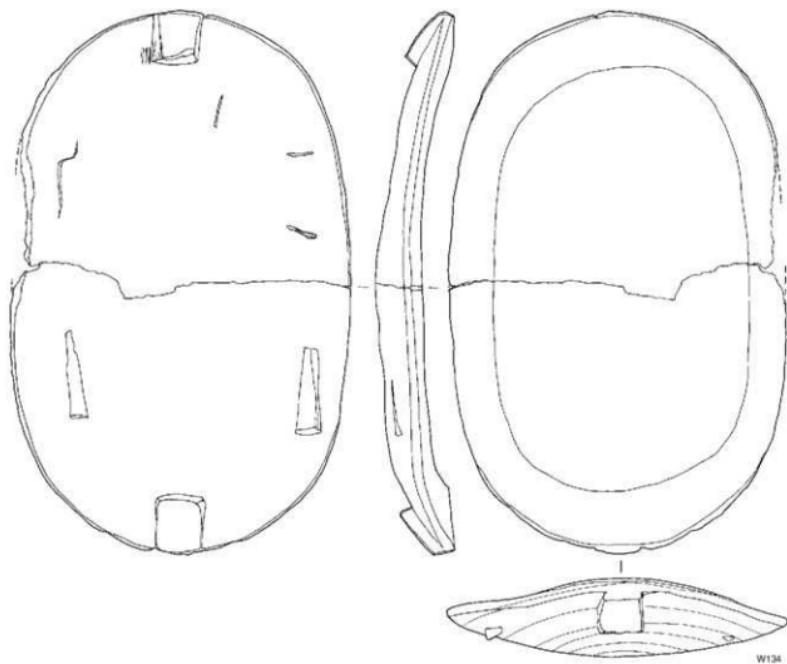
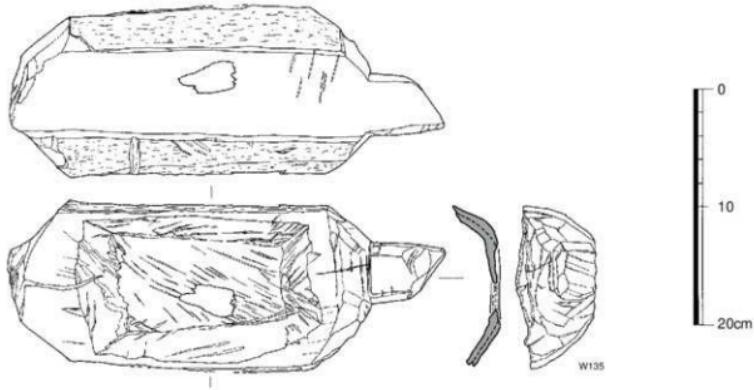


Fig.81 SD-01出土木製品実測図(1/4)



W134



W135

Fig.82 SD-01出土木製品実測図(1/4)

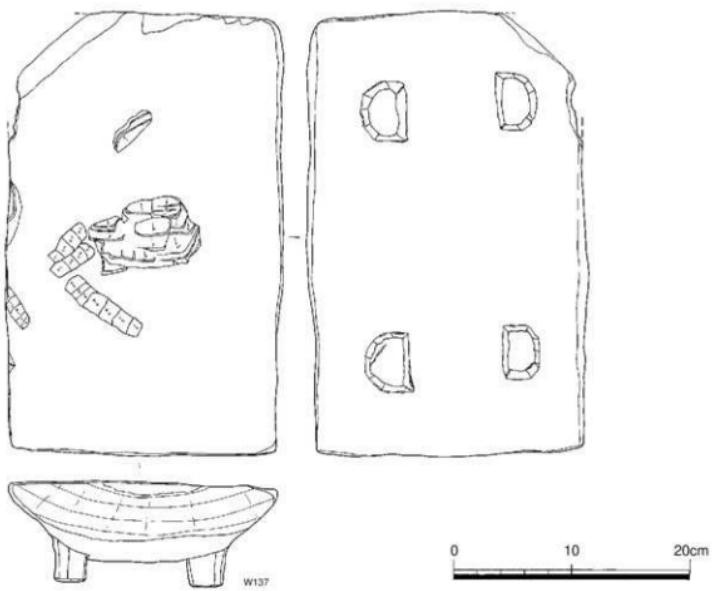
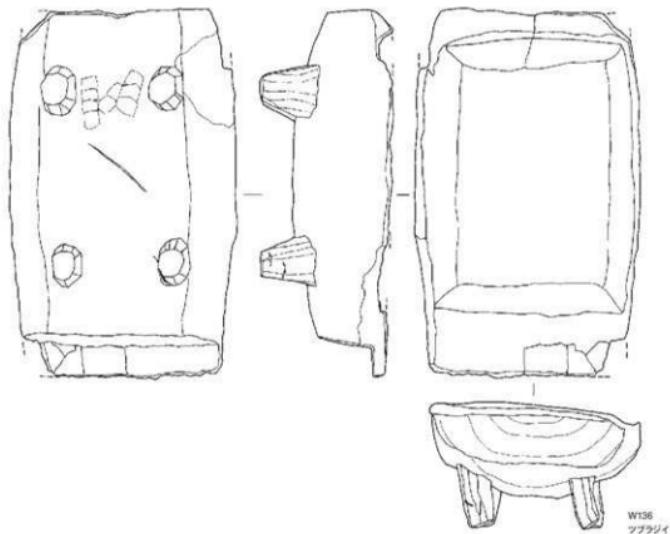


Fig.83 SD-01出土木製品実測図(1/4)

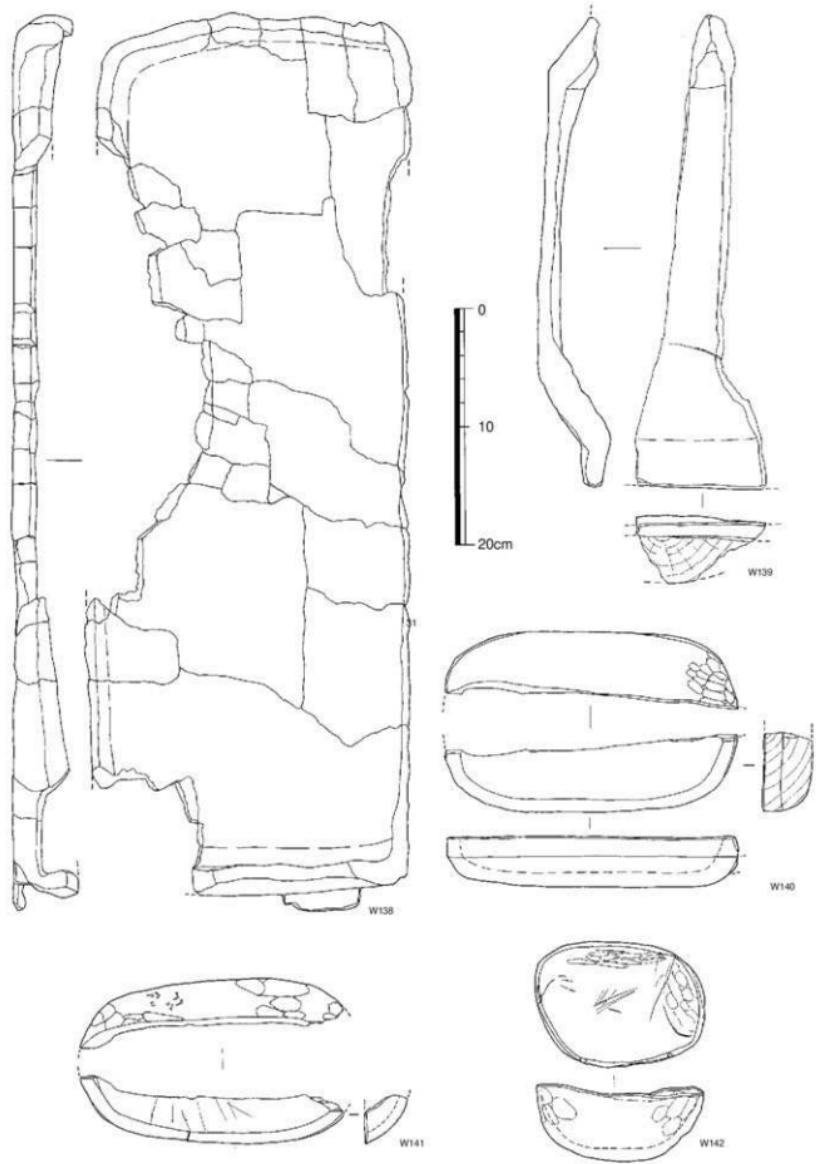


Fig.84 SD-01出土木製品実測図(1/4)

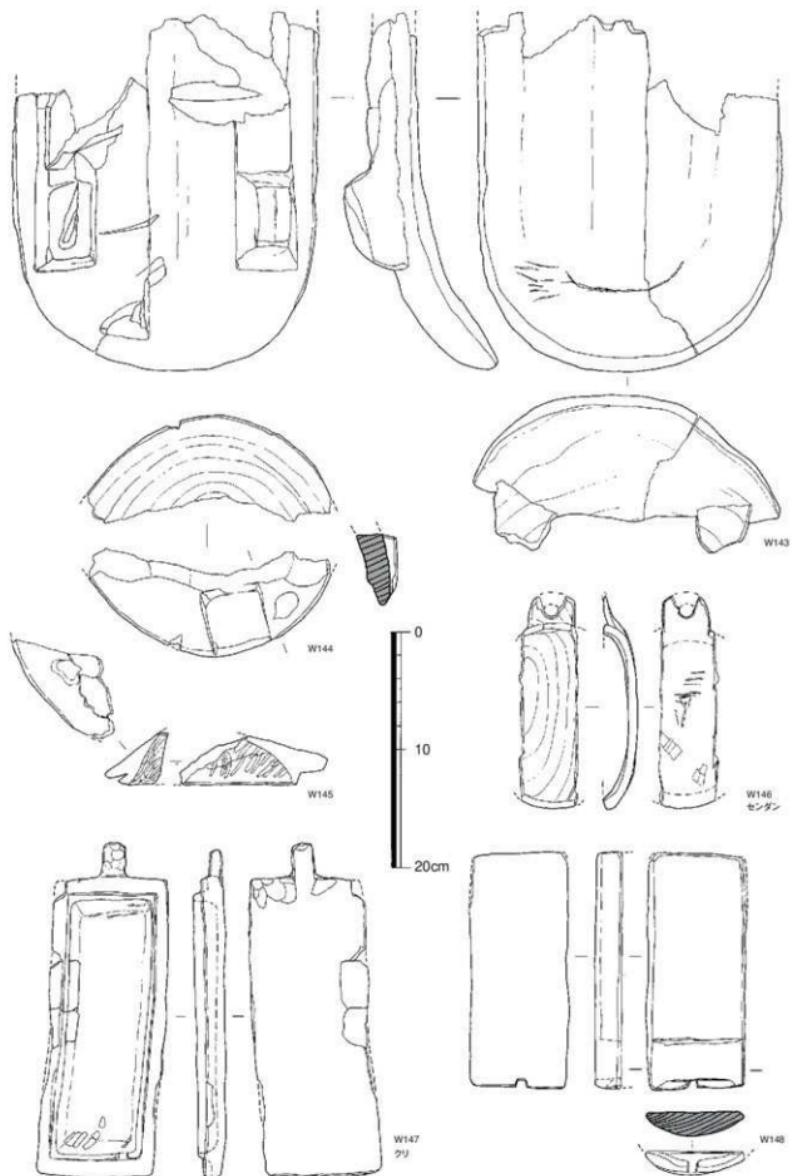


Fig.85 SD-01出土木製品実測図(1/4)

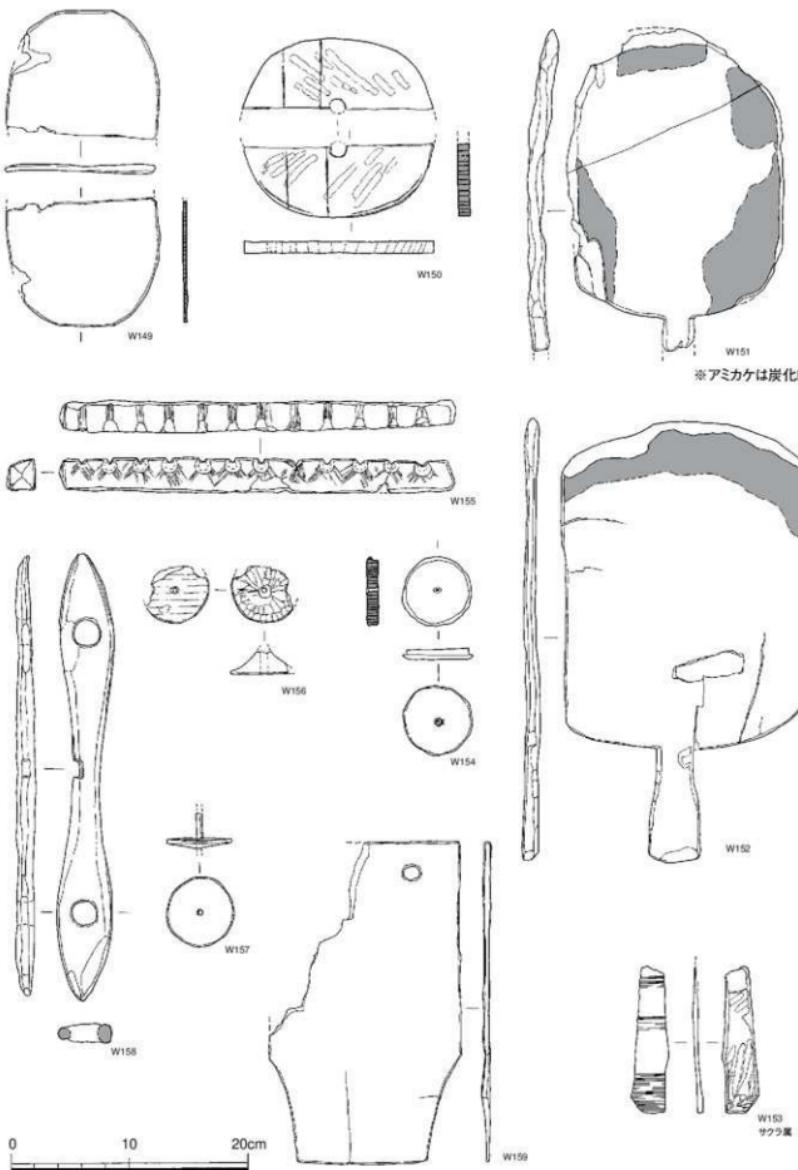


Fig.86 SD-01出土木製品実測図(1/4)

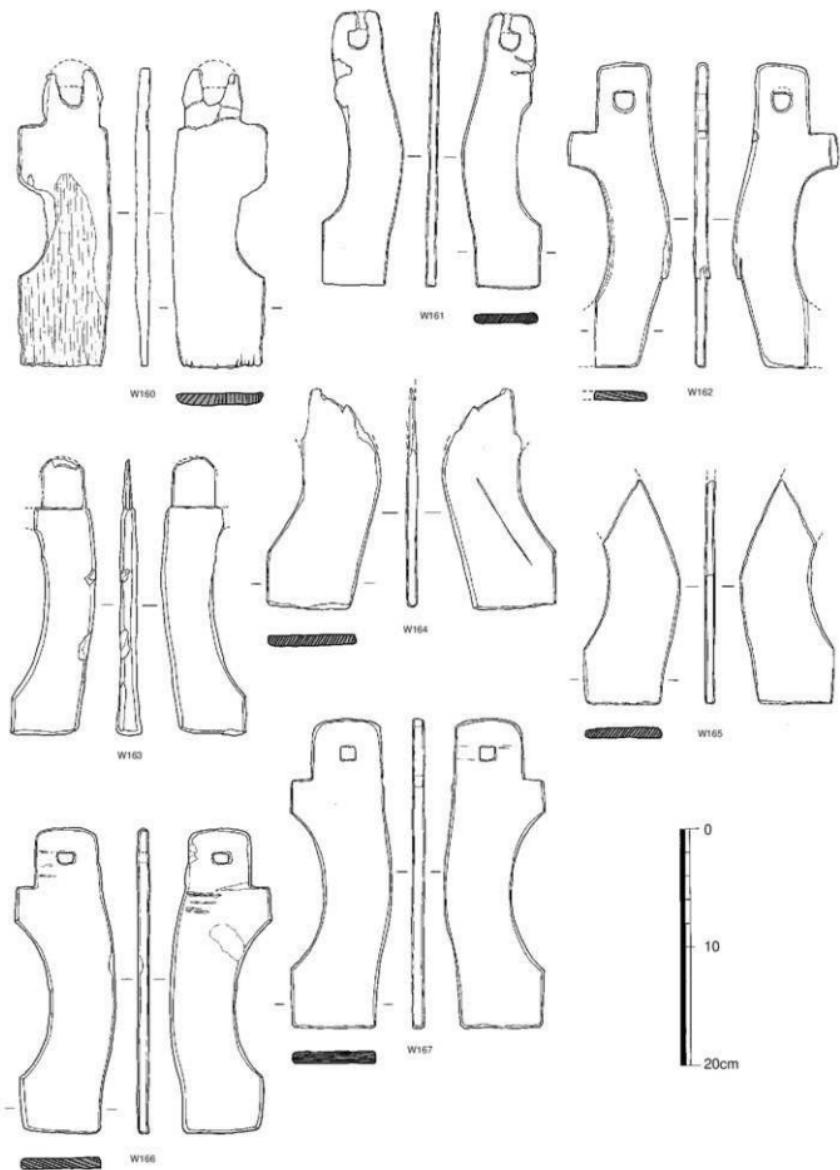


Fig.87 SD-01出土木製品実測図(1/4)

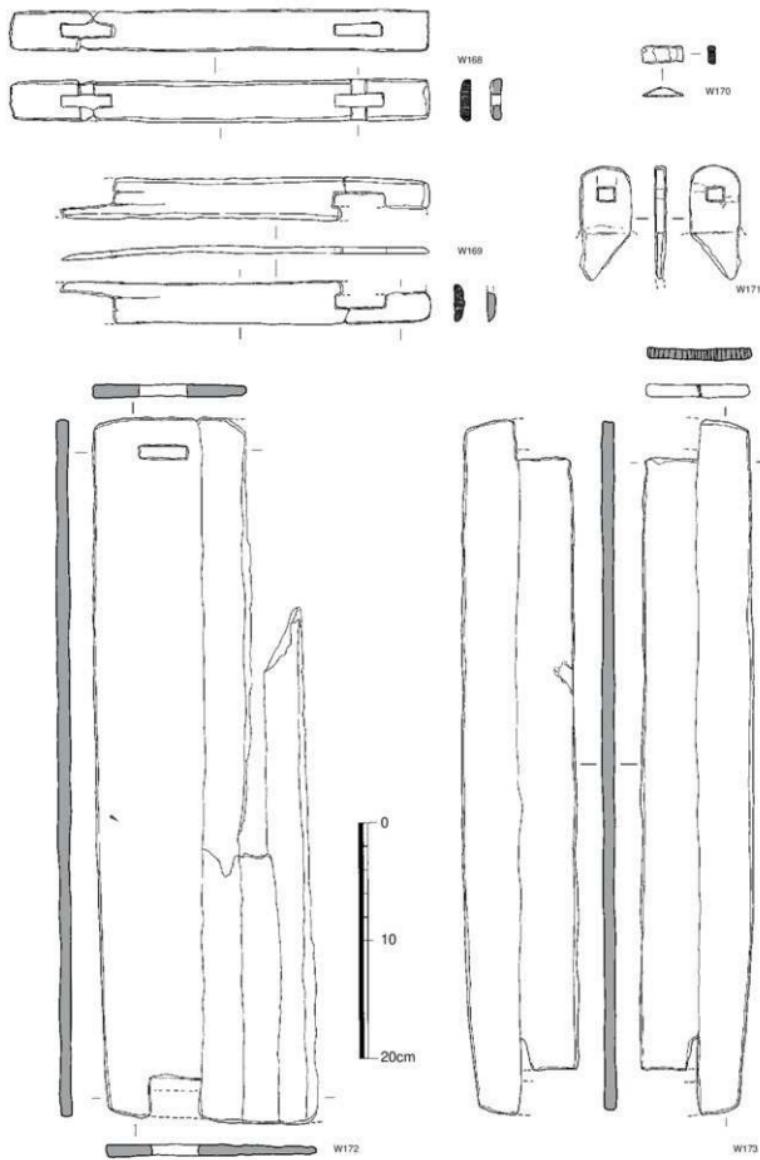


Fig.88 SD-01出土木製品実測図(1/4)

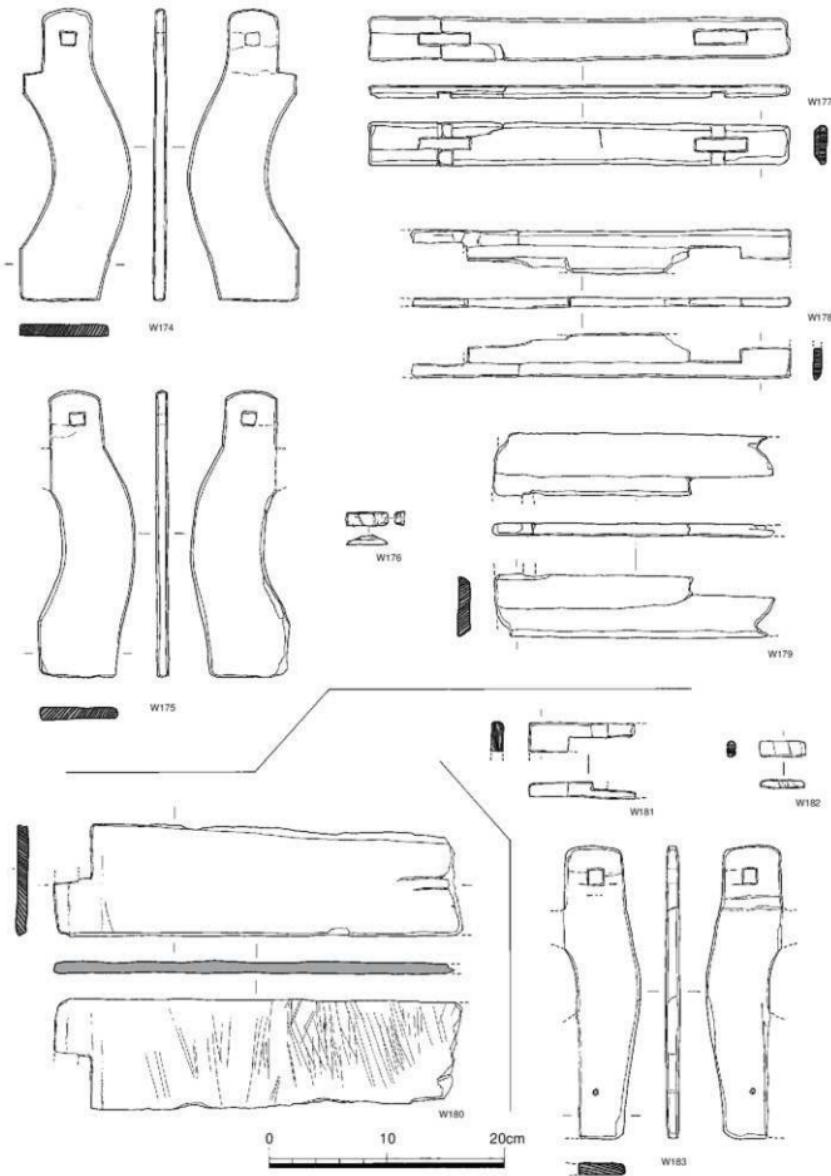


Fig.89 SD-01出土木製品実測図(1/4)

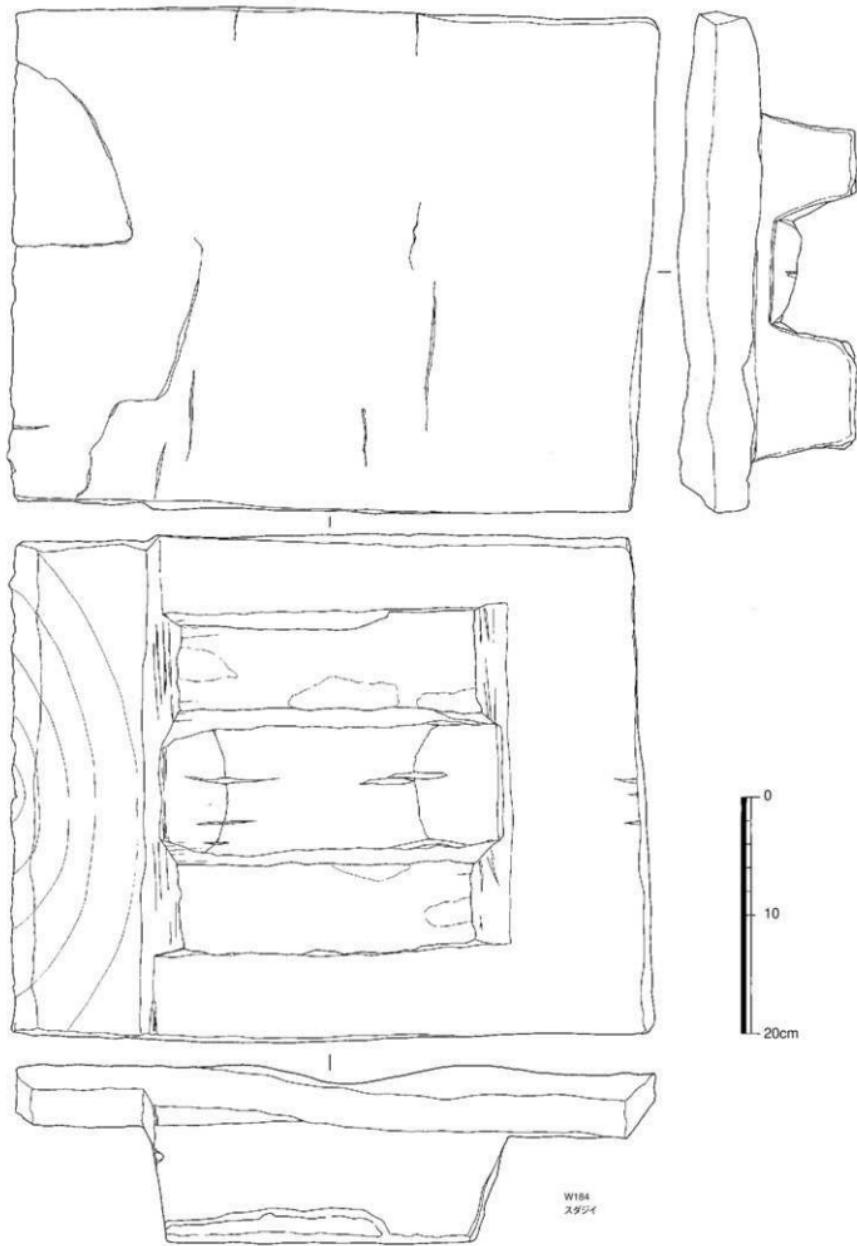


Fig.90 SD-01出土木製品実測図(1/4)

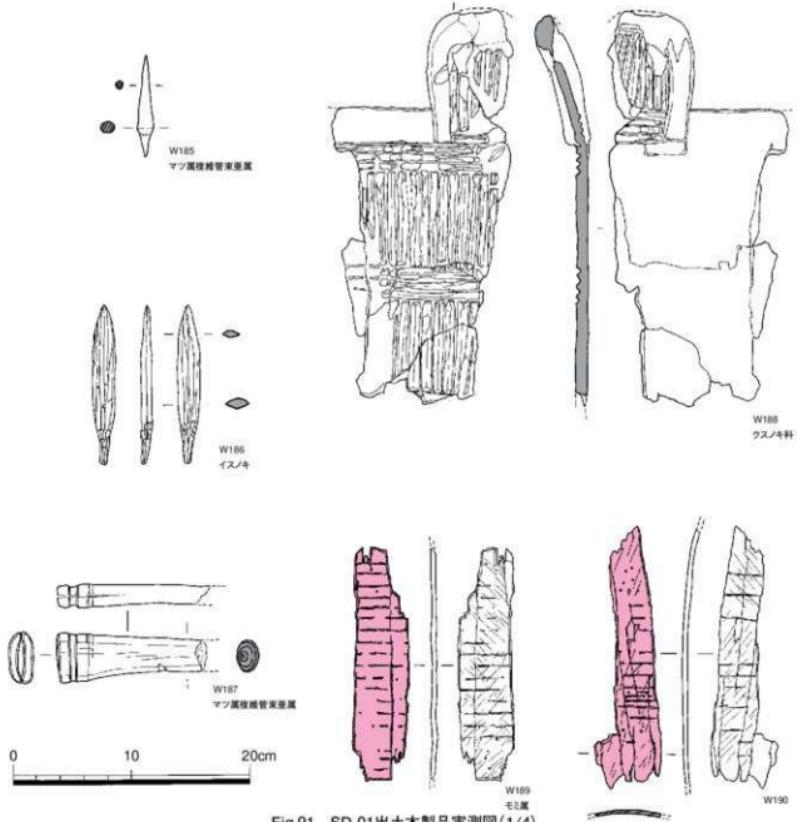
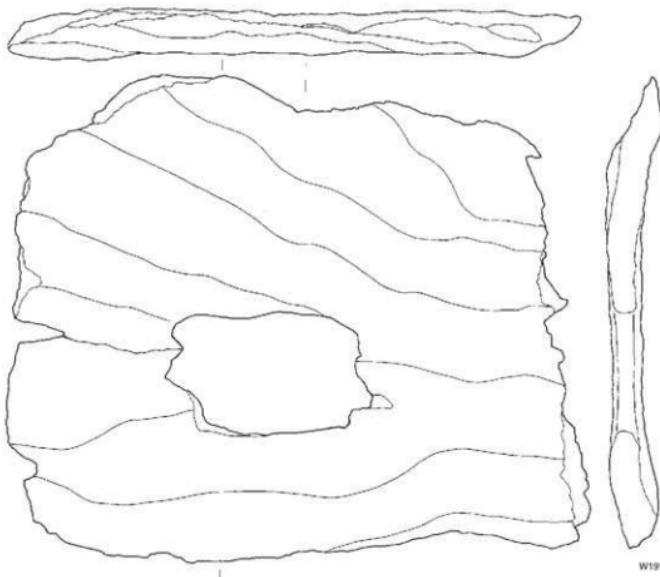


Fig.91 SD-01出土木製品実測図(1/4)

調査時には塗漆膜の保護のため周辺土壌と共に取り上げ埋蔵文化財センターに移送し処理を行った。内外面に黒色漆を塗り、外面には赤色漆で文様を描いている。主文様は3本の線を一度に引ける道具により直線文と鋸歯文を描き、上段には1本単位による斜格子文様が描かれている。W154は塗漆筒形容器の底板である。W153の資料より口径が小さく、別個体と考えられる。W155は火鑽臼である。W156、W157は木製轆轤車である。W157には軸部が遺存している。W158は用途不明木製品である。W159は容器吊取手である。W160～W183は組合せ式の机である案である。W160～W167は案脚単独での出土資料である。W168～W172は組み合わされた状態での出土であり、W173はその近接地から出土した天板である。W174～W179も組み合った状態で出土した。W180は単体で出土した天板である。W181～W183も組まれた状態で出土している。保存処理後接合資料の検討を行い、W164、W165、W168～W173、W174～W179が同一個体であった可能性が指摘されている(PL.54)。W180の天板の片面には、顕著な刃物キズが見られる。他の天板にも同様の痕跡があるが、他のキズと区別できるだけの密度を持っていない。脚部の形状から3個体分以上の存在が考えられる。挟板には鼻栓を差し込む溝が彫り込まれており、鼻栓の長軸断面は台形を呈するなど、共通する古い技法様相を有している。W184は一木づくりの机。W185、W186は木継、W187は鉄刃束である。



0 10 20cm

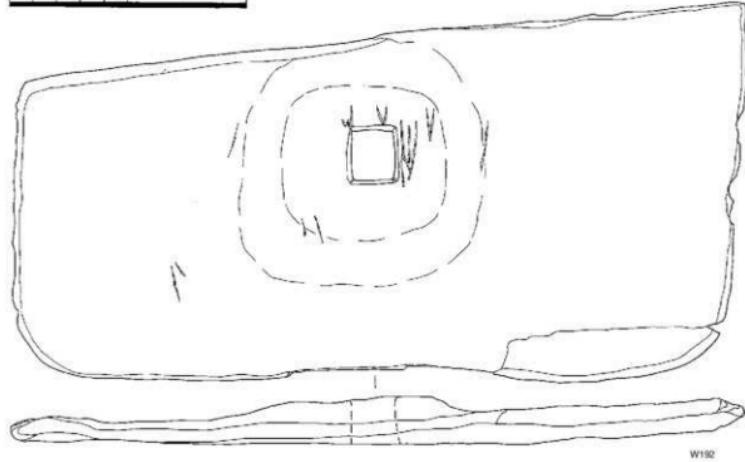
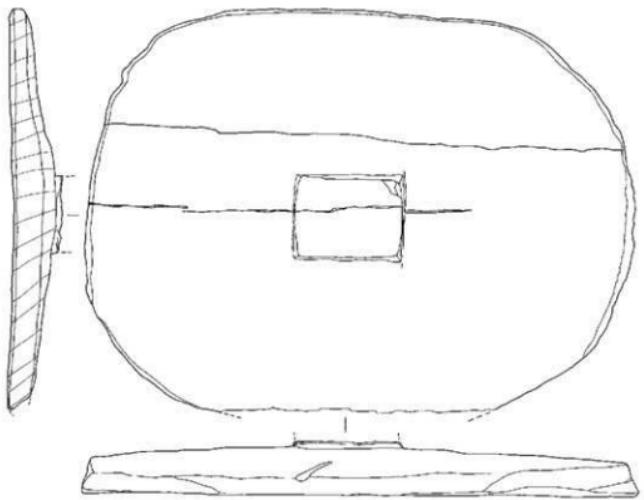


Fig.92 SD-01出土木製品実測図(1/4)



0 10 20cm

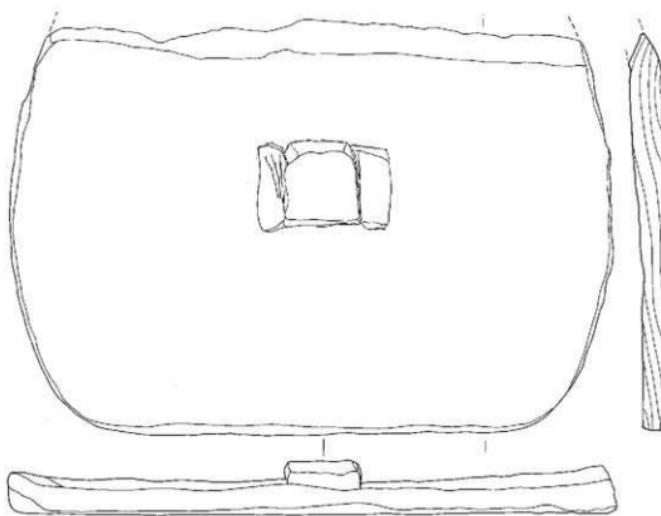


Fig.93 SD-01出土木製品実測図(1/4)

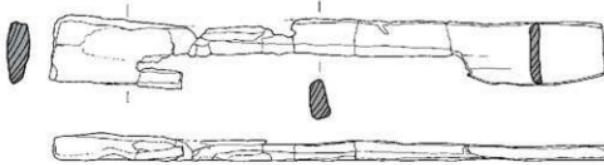
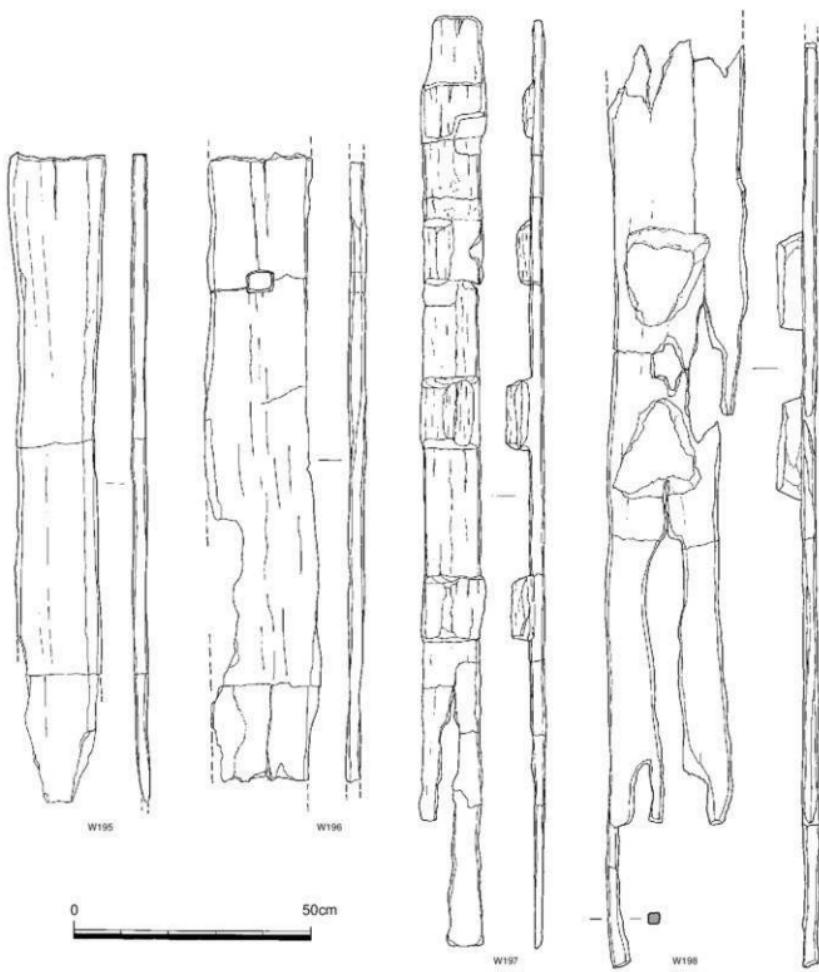
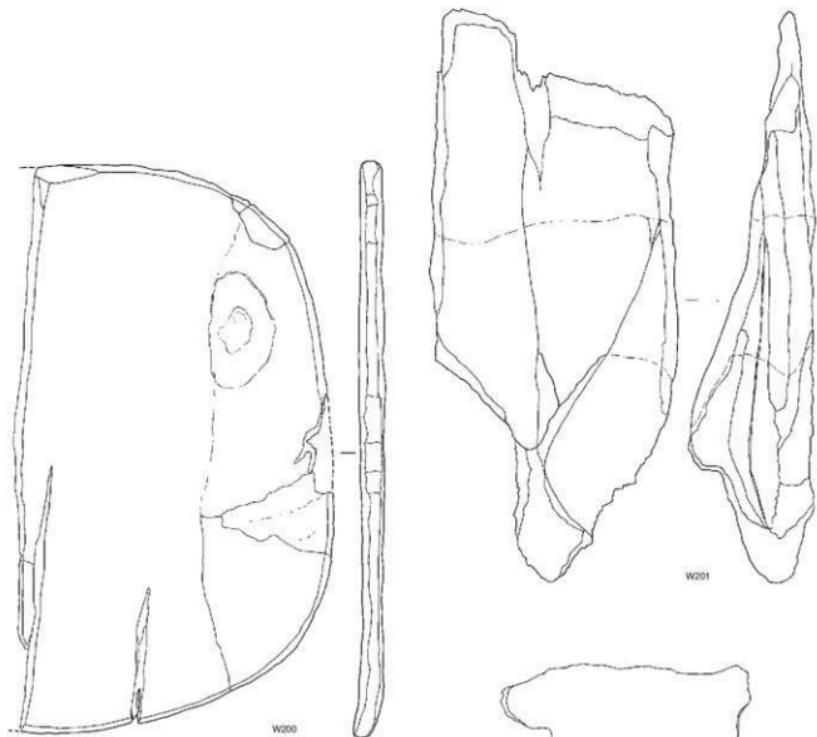


Fig.94 SD-01出土木製品実測図(1/4)



0 10 20cm

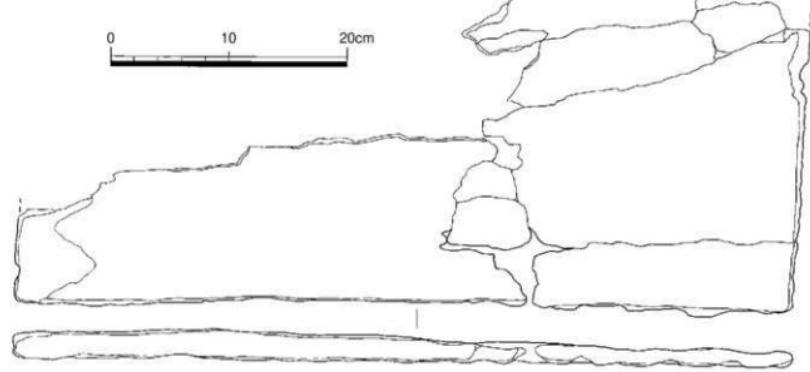


Fig.95 SD-01出土木製品実測図(1/4)

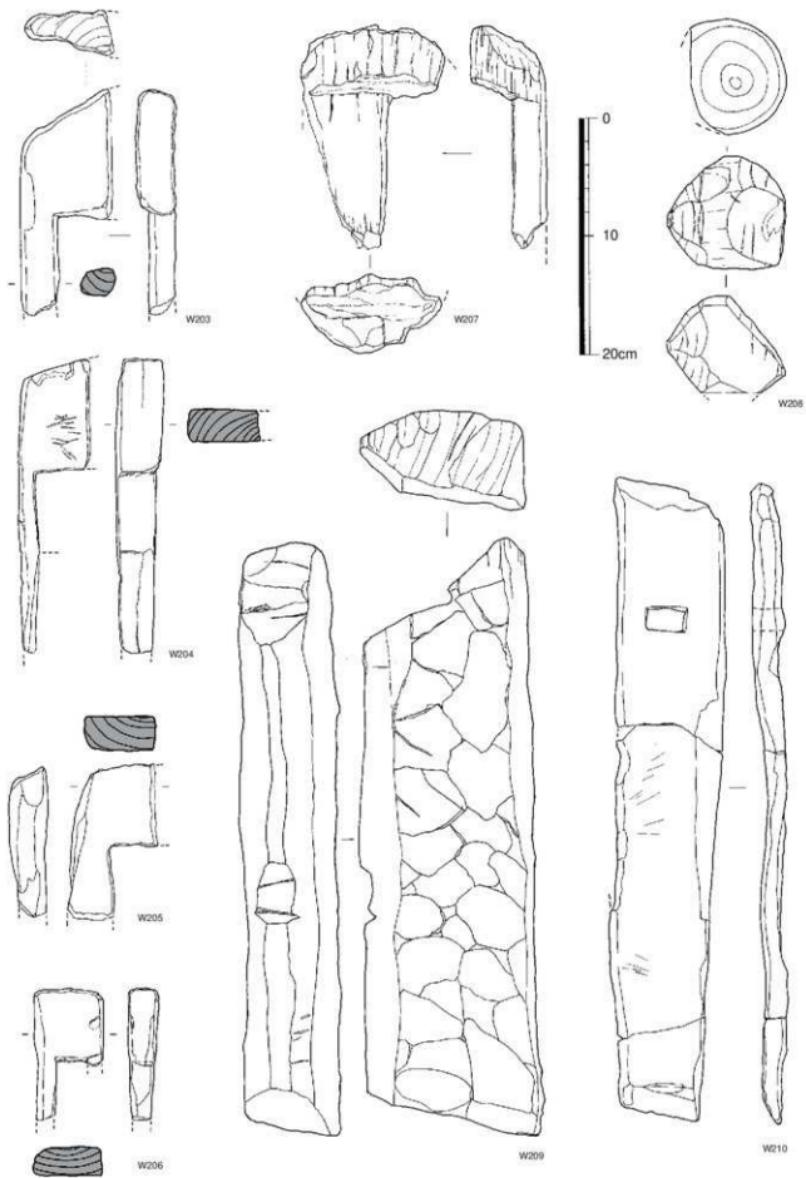


Fig.96 SD-01出土木製品実測図(1/4)

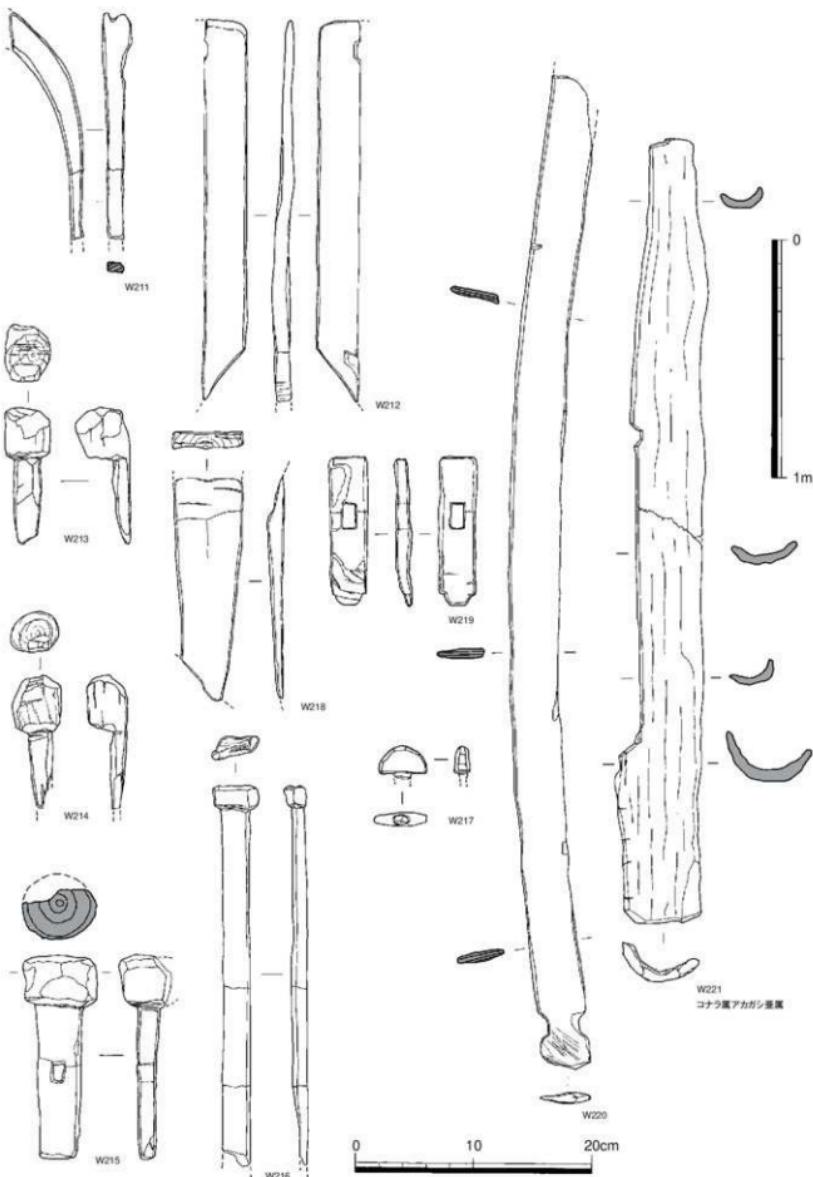


Fig.97 SD-01出土木製品実測図(1/4),(1/20)

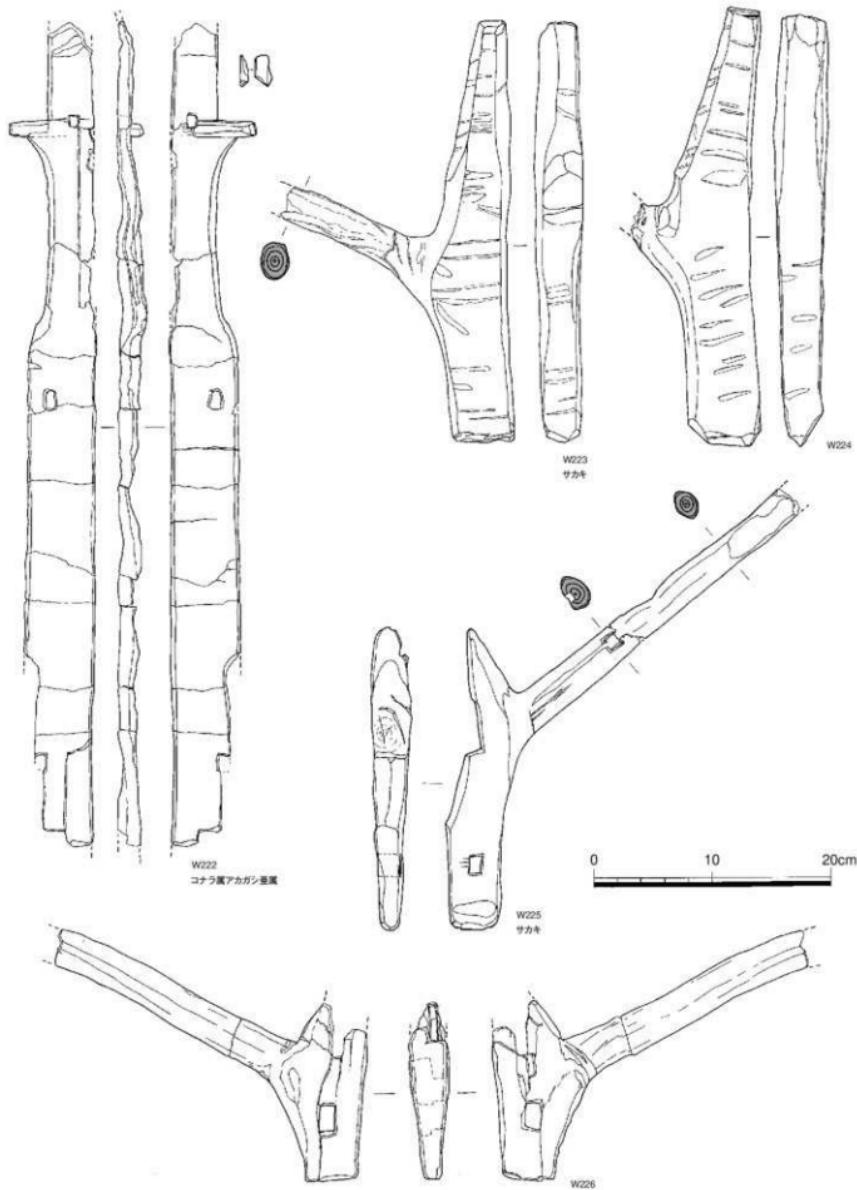


Fig.98 SD-01出土木製品実測図(1/4)

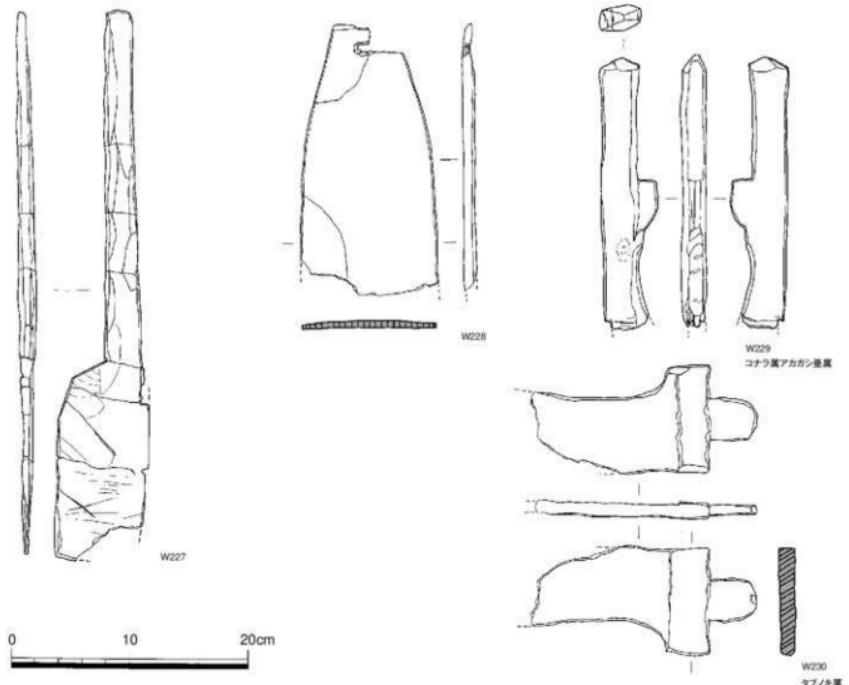


Fig.99 SD-01出土木製品実測図(1/4)

東の一方に切目を入れ、刃基部の厚身を削り込んだ後差し込み、タガ状のもので固定している。X線写真により、東の中に刃の基部が残存しており、目釘により固定されていることが確認されている。W188は短甲と考えられている。クスノキ科の樹種で、白木である。片面と突起部の裏には、断面三角形の彫り込みによる縦・横方向の直線文が施されている。突起部に見られる孔は破面で、孔の有無は不明である。W189,W190は盾である。第9次調査出土の盾には表裏に赤色顔料による文様状の塗布が見られたが、今回出土のものは片面にのみ見られる。部分による差異か。W191,W192はねずみ返し、W193,W194は蓋と考えている。W195,W196,W199は建物部材、W197,W198は梯子である。W200～W220は板状、有頭、ホゾ孔など加工木製品である。W221は井泉堤部に横たわっていた半裁木削出の材である。W222は、前原市上鍾子遺跡などで見られる各部をホゾとホゾ穴で組合せ、輻物や繩で複合的につくられる背負子。W223,W224は爪付背負子の未製品と考えられ、2点重ねて井泉の下層に水漬けされていた。W225,W226は爪付背負子の製品と考えられる。W227は一方を板状につくるが、方側には展開せず左右対称形とはならない。W228～W230は用途不明の木製品である。W231～W243は棒状のものである。先端を尖らせるもの、刀形を呈するもの、両端を切り離すものなどがある。W244～W254は用途不明の加工木製品である。精緻なつくりのもの、何かと組み合わせて使用されたと思われるものがある。W249の片面には赤色顔料が塗布されている。

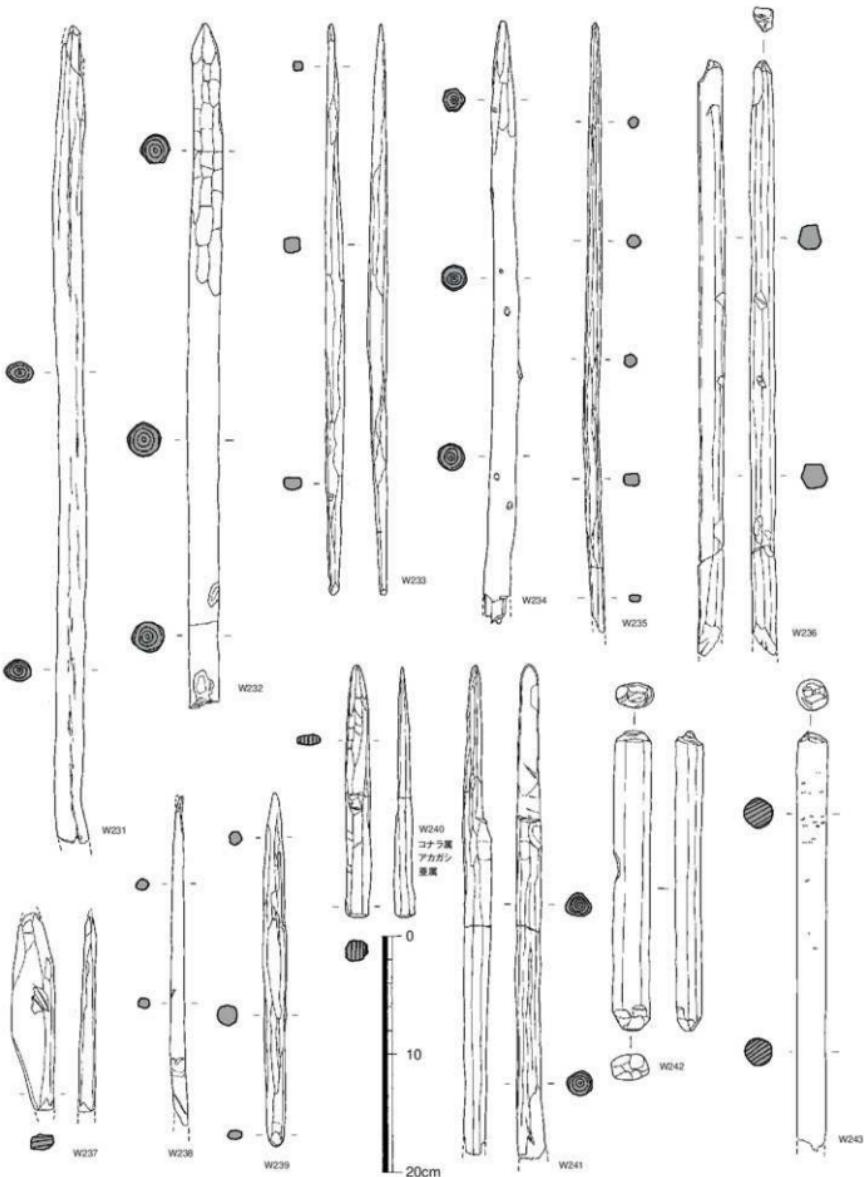


Fig.100 SD-01出土木製品実測図(1/4)

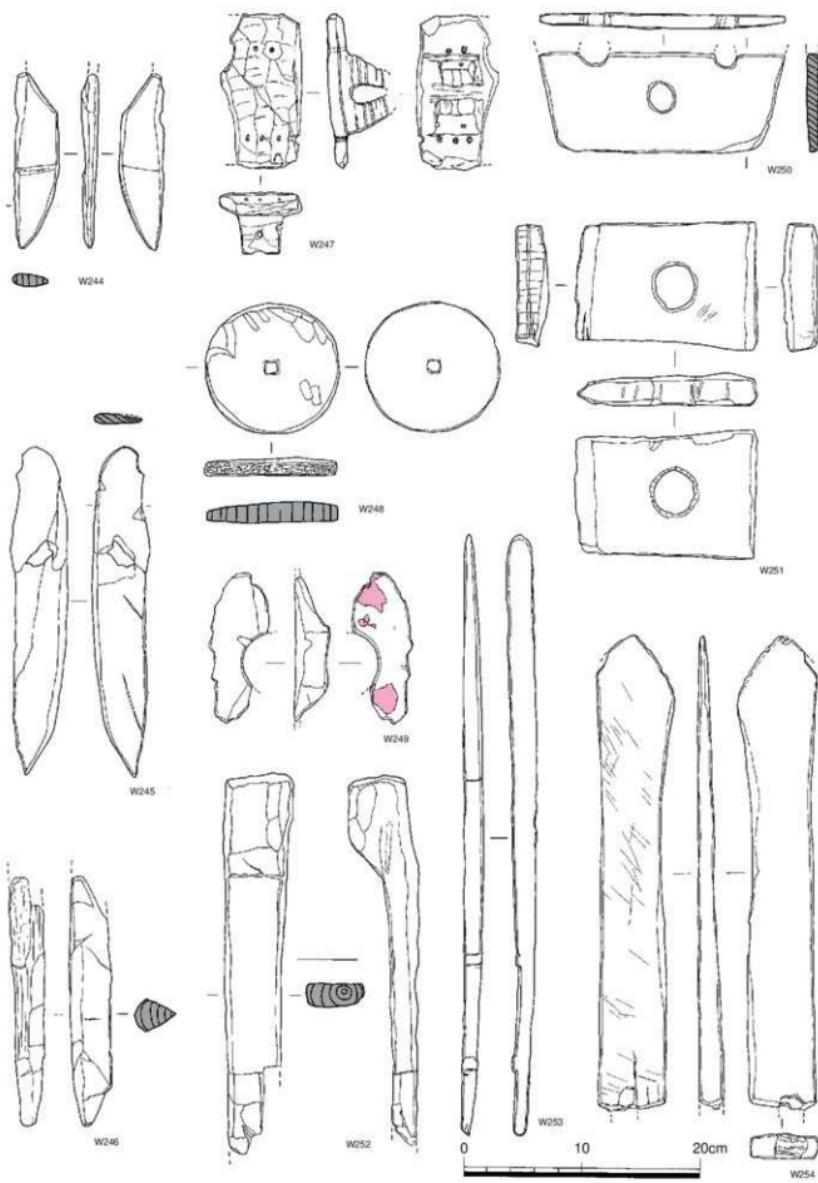


Fig.101 SD-01出土木製品実測図(1/4)

表3 第12次調査出土木製品観察表

番号	地区	名 称	木取号	寸(現存長×幅×厚)			備 考	座標値(X)	座標値(Y)	標高
				最大長	最大幅	最大厚				
W001	3区 広銀	柾目		28.9	14.7	1.6	カシ材(観察)	63491.50	-67366.30	4.68
W002	3区 広銀			28.0	15.5	1.5	カシ材(観察)	63494.86	-67365.04	4.87
W003	3区 広銀			36.1	15.9	1.7	カシ材(観察)	63495.10	-67364.67	4.88
W004	3区 広銀	柾目	(31.5)	(10.3)	1.8		カシ材(観察)	63491.50	-67365.05	4.11
W005	3区 広銀	柾目	(26.6)	(16.6)	2.0		カシ材(観察)	63512.32	-67366.79	4.36
W006	1区 広銀	柾目	(32.9)	(11.2)	1.5		カシ材(観察)	63513.48	-67365.75	4.21
W007	2区 広銀		(32.4)	(13.8)	1.2		カシ材(観察)	63500.20	-67363.56	4.88
W008	3区 広銀	柾目	(29.0)	(14.2)	2.0		カシ材(観察)	63496.00	-67365.68	4.87
W009	2区 広銀	柾目	(34.3)	(14.7)	1.6		カシ材(観察)	63508.11	-67365.31	4.52
W010	2区 広銀	柾目	(33.8)	18.6	1.8		コナラ属アカシヤ属	63506.52	-67364.89	4.67
W011	1区 広銀	柾目	33.9	17.2	1.6		カシ材(観察)	63512.63	-67366.04	4.48
W012	3区 広銀	柾目	(32.5)	17.0	1.8		カシ材(観察)	63496.36	-67365.37	4.77
W013	3区 広銀	柾目	32.8	17.5	1.8		カシ材(観察)	63496.55	-67365.28	4.71
W014	3区 広銀		(32.6)	(10.2)	1.8		カシ材(観察)	63496.30	-67365.19	4.63
W015	3区 広銀	柾目	(31.3)	(15.9)	1.2		カシ材(観察)	63490.42	-67364.77	4.39
W016	3区 広銀	柾目	(33.5)	(18.1)	1.5		カシ材(観察)	63492.15	-67364.02	4.62
W017	3区 広銀	柾目	35.6	17.8	1.9		カシ材(観察)	63491.52	-67364.98	4.12
W018	3区 広銀	柾目	(12.3)	(6.5)	1.7		カシ材(観察)	63517.57	-67365.00	4.52
W019	2区 広銀		29.0	(5.9)	1.8		カシ材(観察)	63154.17	-67365.55	4.03
W020	3区 広銀(有段)	柾目	35.2	(12.5)	1.8		カシ材(観察)	63493.93	-67362.30	4.86
W021	1区 広銀(有段)	柾目	39.2	(11.5)	1.6	W022と接合カシ材(観察)	63514.18	-67366.27	4.20	
W022	2区 広銀(有段)	柾目	(25.1)	(9.0)	2.0	W021と接合カシ材(観察)	63505.10	-67365.95	4.30	
W023	3区 広銀	柾目	36.6	(9.6)	0.9	薄い。狹幅か?カシ材(観察)	63491.00	-67366.90	5.00	
W024	2区 狹銀	柾目	(30.4)	(12.8)	1.8	カシ材(観察)	63500.28	-67363.35	4.41	
W025	3区 狹銀	柾目	35.7	10.6	1.5	カシ材(観察)	63490.53	-67366.19	4.23	
W026	3区 三叉歯	柾目	49.5	(10.4)	1.8	カシ材(観察)	63494.58	-67361.85	4.91	
W027	1区 三叉歯	柾目	(32.1)	(9.5)	2.1	カシ材(観察)	63515.43	-67366.24	4.45	
W028	1区 三叉歯		47.4	(9.0)	2.3	カシ材(観察)	63510.41	-67365.90	4.28	
W029	2区 三叉歯	柾目	(31.0)	(9.1)	2.1	カシ材(観察)	63505.40	-67365.93	4.35	
W030	3区 三叉歯	柾目	(34.1)	(6.4)	2.0	カシ材(観察)	63498.89	-67363.08	4.27	
W031	3区 三叉歯	柾目	—	(9.9)	(2.7)	カシ材(観察)	63491.23	-67365.79	4.18	
W032	3区 取付け具		9.3	3.7	3.7	カシ材(観察)	63491.80	-67365.58	4.19	
W033	3区 取付け具		(10.3)	3.2	3.2	カシ材(観察)	63491.30	-67364.66	4.11	
W034	2区 取付け具		(11.5)	3.0	(3.1)	カシ材(観察)	63500.29	-67365.50	4.62	
W035	1区 取付け具	柾目	(23.1)	3.5	3.0	カシ材(観察)	63513.85	-67365.83	4.20	
W036	3区 取柄		38.0	2.6	3.9	カシ材(観察)	63491.38	-67366.52	4.08	
W037	3区 取柄	柾目	15.8	3.1	3.1	カシ材(観察)	63490.70	-67364.25	4.51	
W038	1区 取柄		(21.2)	3.0	2.6	カシ材(観察)	63515.65	-67365.94	4.18	
W039	3区 取柄	芯去	(13.7)	3.9	—	カシ材(観察)	63490.38	-67366.19	4.27	
W040	3区 一本釘	柾目	48.5	(16.9)	—	カシ材(観察)	63494.11	-67365.01	4.83	
W041	2区 一本釘	柾目	(44.7)	(13.3)	1.2	カシ材(観察)	63500.85	-67364.18	4.12	
W042	3区 狹幅柾	柾目	(34.6)	13.9	2.1	カシ材(観察)	63499.15	-67362.69	4.30	
W043	2区 二叉歯	柾目	(23.3)	(9.3)	2.2	カシ材(観察)	63498.35	-67362.61	4.84	
W044	3区 一本二叉歯	柾目	(32.7)	(10.3)	2.5	カシ材(観察)	63498.35	-67362.61	4.84	
W045	3区 跡柄	芯去	(29.8)	9.5	3.0	カシ材(観察)	63496.00	-67364.90	4.76	
W046	3区 一本道	柾目	104.5	14.1	2.6	カシ材(観察)	63490.44	-67364.25	4.75	
W047	2区 一本二叉歯	柾目	84.6	(13.2)	3.0	カシ材(観察)	63503.37	-67366.29	4.11	
W048	3区 跡柄(把手部)	柾目	(7.0)	12.0	3.1	カシ材(観察)	63490.92	-67366.40	5.79	
W049	1区 跡柄(把手部)	柾目	(8.0)	(8.1)	—	カシ材(観察)	63514.00	-67366.16	4.15	
W050	3区 挿柄	柾目	(44.9)	4.6	1.7		63494.75	-67365.05	4.73	
W051	2区 挿柄		(40.2)	4.4	—		63499.84	-67362.46	4.93	
W052	1区 挿柄か?(刀形)		49.6	3.4	—	先端マツツ	63512.16	-67365.73	4.40	
W053	3区 足跡柄	芯去	(25.1)	4.3	2.7	タミミンタチバナ	63495.62	-67365.57	4.71	
W054	3区 足跡柄	芯去	33.1	4.3	3.0	ヤマグワ	63497.70	-67363.69	4.88	
W055	堅件(細身)		51.8	8.2	—					
W056	2区 堅件	芯去	36.0	4.9	—		63506.41	-67364.73	4.71	
W057	3区 堅件	芯去	37.3	6.6	—		63492.50	-67365.72	4.78	
W058	1区 堅件(細身)		41.0	2.9	—		63513.30	-67365.50	4.32	
W059	3区 堅件	芯去	(40.4)	7.2	—		63491.01	-67366.12	4.86	
W060	3区 横柄	芯去	46.4	9.4	—		63490.45	-67364.76	4.44	
W061	3区 堅件・横柄	芯去	47.9	7.1	—		63494.89	-67366.98	5.00	
W062	1区 堅件・横柄	芯去	51.6	8.5	—		63514.20	-67365.38	4.45	
W063	1区 堅件・横柄		51.8	8.0	—		63511.72	-67365.10	4.48	
W064	1区 堅件	芯持	64.2	8.5	—		63513.66	-67366.01	3.95	

番号	地区	名 称	本取引	最大長	最大幅	最大厚	備 考	率標値(X)	率標値(Y)	標 高	
W065	3区	堅伴・横植 転用		41.3	9.0			63491.59	-67365.92	4.45	
W066	3区	堅伴・横植	芯持	49.4	8.1			63495.20	-67365.35	4.89	
W067	3区	臼		22.2	33.3			63491.90	-67365.82	4.66	
W068	2区	臼(小型)		14.8	12.5			63502.14	-67363.45	4.73	
W069	4区	横伴	芯持	舟部長35.0	舟部幅8.3	—	マキ属	63481.74	-67359.68	5.23	
W070	1区	杏		(29.0)	(7.6)	3.7	タブノキ属	63515.68	-67366.12	4.26	
W071	3区	杏		27.5	(10.0)	4.4	タブノキ属	63491.50	-67362.85	5.02	
W072	1区	杏		29.4	7.2	4.1	W073と接合 タブノキ属	63514.95	-67366.78	4.47	
W073	1区	杏		(28.6)	7.2	4.1	W072と接合	63493.25	-67365.01	4.57	
W074	3区	杏		(22.2)	(10.8)	5.3	タブノキ属	63491.89	-67365.50	4.52	
W075	3区	杏	芯持	芯去	(19.7)	(5.8)	クスノキ科	63492.14	-67367.95	4.72	
W076	3区	榧斧屈曲柄	芯持	64.1	3.5		サカキ	63493.46	-67365.58	4.92	
W077	3区	榧斧屈曲柄		79.8	2.8		サカキ	63493.06	-67365.33	4.88	
W078	3区	榧斧屈曲柄	芯持	(39.4)	1.7	—	コナラ属コナラ亜属コナラ節	63491.65	-67356.59	4.70	
W079	3区	榧斧屈曲柄頭		(15.4)	3.0		サカキ	63494.77	-67366.05	4.97	
W080	3区	榧斧屈曲柄頭		(12.8)	3.0	—	サカキ	63496.23	-67364.93	4.80	
W081	3区	榧斧屈曲柄頭	芯持	(13.4)	3.7		ツゲ?	63491.89	-67366.00	4.43	
W082	3区	榧斧屈曲柄	芯持	(67.3)	3.0		サカキ	63490.02	-67364.68	4.58	
W083	3区	斧屈曲柄	芯持	58.4			サカキ	63491.52	-67365.18	4.09	
W084	4区	榧斧屈曲柄	芯持	(19.4)	5.2		マツバガシ属椎管束属	63480.76	-67359.53	5.07	
W085	1区	榧斧屈曲柄		(49.7)	6.8	3.0	瓈札材	63512.22	-67365.88	4.60	
W086	3区	榧斧屈曲柄頭	芯持	—	6.9	—	クスノキ科	63495.83	-67364.33	4.76	
W087	3区	斧屈曲柄頭	芯持	(9.9)	3.2		サカキ	63496.70	-67364.58	4.40	
W088	1区	斧屈曲柄頭	芯持	(13.6)	3.5		コナラ属コナラ亜属コナラ節	63515.34	-67365.80	4.32	
W089	1区	斧直柄(屋柄)		66.3	3.0		コナラ属カガシ属	63513.12	-67365.99	4.27	
W090	3区	斧屈曲柄	芯持	(37.5)	(3.2)		サカキ	63489.98	-67363.50	4.81	
W091	1区	斧屈曲柄	芯持	55.5	5.5		カヤ?	63511.83	-67366.38	4.58	
W092	3区	斧屈曲柄頭		(7.7)	4.2		クスノキ科	63491.35	-67366.14	4.49	
W093	3区	斧屈曲柄頭	芯持	(9.1)	3.7	—	サカキ	63492.11	-67366.26	4.12	
W094	3区	徹歛か?	芯持	25.8	23.2	11.8	クスノキ科	63493.05	-67365.63	4.90	
W095	3区	作蓄台		芯去	45.5	12.7	10.3		63495.70	-67365.47	4.90
W096	3区	作蓄台		芯去	(56.1)	(21.5)	12.0		63492.90	-67367.19	5.14
W097	3区	椎状		(75.1)	8.5	2.0	ツブライジ	63497.94	-67364.86	4.36	
W098	3区	アカトリ		32.7	(17.8)	8.0	タブノキ属	63495.40	-67365.52	4.76	
W099	3区	貝振り具合?	極目	(17.6)	10.5	1.5	カシ材(観察)	63491.97	-67366.63	4.85	
W100	3区	鉢	芯持	(36.1)	1.5		イヌノキ	63491.32	-67364.91	4.12	
W101	3区	鉢	芯持	(15.8)	(8.5)	(7.3)		63493.20	-67365.40	4.96	
W102	3区	鉢		(30.1)	(11.6)	3.1		63491.33	-67364.07	4.87	
W103	1区	鉢		(25.6)	9.0	2.0		63515.83	-67365.78	4.52	
W104	1区	鉢		(24.5)	(6.4)	3.1		63513.56	-67365.19	4.48	
W105	1区	鉢		(16.1)	(4.9)	(4.0)		63513.03	-67365.33	4.49	
W106	3区	鉢		(16.3)	10.3	2.7		63495.47	-67364.89	4.71	
W107	2区	鉢		(12.1)	(6.0)	(2.6)		63500.24	-67364.90	4.52	
W108	3区	鉢	板目	(10.8)	5.7	(1.2)		63492.11	-67366.21	4.27	
W109	2区	鉢	極目	(19.9)	6.2	(2.0)		63506.18	-67365.06	4.50	
W110	3区	鉢	芯去	(21.1)	(8.8)	(3.2)		63493.60	-67364.59	4.49	
W111	1区	鉢	極目	(33.4)	(6.2)	2.7		63515.55	-67365.90	4.26	
W112	3区	継杓	芯持	芯去	(25.9)	(11.0)	(14.3)		63497.12	-67365.18	3.84
W113	3区	杓		(22.7)	11.0	(18.1)		63490.35	-67364.86	4.58	
W114	2区	杓		31.9	15.0	—		63504.08	-67366.21	3.92	
W115	3区	杓柄頭	芯持	(21.2)	(6.8)	—		63492.98	-67364.40	4.87	
W116	3区	杓柄頭	芯持		5.7			63494.92	-67365.52	4.82	
W117	3区	杓柄頭	芯持	(34.5)	4.0	—		63491.46	-67365.98	4.43	
W118	2区	杓	芯持	芯去	48.5	29.6	16.0		63500.45	-67363.97	4.79
W119	3区	杓(脚付) 椅子か?	芯持	(5.0)	(38.2)	(16.8)	クリ	63496.00	-67365.59	4.72	
W120	2区	杓		(40.7)	(19.3)			63504.30	-67365.10	4.71	
W121	3区	杓		46.1	12.9	7.0		63494.95	-67364.76	4.84	
W122	2区	杓	芯持	46.0	31.5	10.5		63507.12	-67365.05	4.66	
W123	2区	杓(脚付)	芯持	(34.7)	(19.4)	9.7		63506.97	-67365.92	4.58	
W124	2区	杓		28.9	13.7	5.8		63507.80	-67365.15	4.58	
W125	3区	杓	芯持	(42.6)	15.0	7.0		63493.03	-67365.09	4.91	
W126	2区	杓	芯持	31.7	(5.8)	(3.0)		63507.60	-67365.15	4.45	
W127	3区	杓(脚付)	芯持	25.5	(8.6)	(6.2)		63499.27	-67363.34	4.67	
W128	3区	杓	芯持	34.5	(10.0)	(3.5)		63496.60	-67365.55	4.86	

番号	地区	名 称	木取寸	最大長	最大幅	最大厚	備 考	座標値(X)	座標値(Y)	標 高	
W129	3区	椿	芯去	73.3	(6.4)	5.0		63496.50	-67365.17	4.66	
W130	3区	椿	芯去	(26.5)	20.9	6.5		63491.52	-67366.03	4.40	
W131	3区	椿	芯去	(23.8)	17.5	5.0		63490.56	-67365.34	4.41	
W132	3区	椿未咸品	芯持	57.0	19.3	13.9		63490.05	-67364.57	4.64	
W133	1区	椿	芯去	(92.0)	(34.0)	(8.0)		63512.05	-67366.24	4.02	
W134	3区	椿(脚付)	芯去	45.8	28.4	6.5		63494.57	-67364.02	4.61	
W135	3区	椿未製品	芯去	36.6	14.2	6.7		63491.07	-67365.15	4.45	
W136	1区	椿(脚付)	芯去	31.3	19.0	11.2	ツブライ	63514.98	-67365.68	4.01	
W137		椿未製品(脚付)	芯去	37.5	23.5	9.0					
W138	3区	椿		75.3	27.8	5.6		63491.44	-67365.86	4.21	
W139	3区	椿	芯去	(39.6)	(11.2)	6.0		63491.44	-67365.02	4.11	
W140	3区	容器?	芯去	(24.6)	(6.6)	4.2		63490.90	-67364.49	4.03	
W141	1区	容器?		(22.0)	(5.6)	(3.5)		63511.18	-67365.69	4.32	
W142	1区	木挽?		6.4	14.1	—		63515.37	-67366.14	3.91	
W143	2区	舞(脚付)	芯去	(30.3)	25.5	13.0		63507.97	-67365.75	4.41	
W144	1区	舞(脚付)	芯去	—	—			63513.16	-67365.53	4.37	
W145	2区	用途不明木製品		(8.3)	(8.5)	4.1		63499.30	-67364.52	4.69	
W146	1区	容器蓋	芯去	(18.0)	5.0	2.8	センダン	63512.66	-67365.97	4.48	
W147	3区	容器蓋		28.3	10.1	1.7	クリ	63498.02	-67364.54	4.56	
W148	2区	樽形容器	芯去	20.0	8.3	2.2		63507.70	-67365.35	4.65	
W149	3区	板材	柾目	(10.8)	13.0	0.8		63494.20	-67361.53	4.71	
W150	3区	円形板	柾目	(16.0)	(6.1)	1.0		63490.21	-67365.08	4.19	
W151	3区	王器蓋	柾目	(27.1)	(18.2)	1.8		63492.85	-67365.71	4.79	
W152	3区	土器蓋		37.1	20.5	1.4		63492.55	-67365.64	4.75	
W153	2区	唐使筒形容器		—	—	0.5	サカラ属	63507.80	-67365.35	4.65	
W154	1区	容器蓋(小型)	柾目	—	5.9	1.0		63496.06	-67367.37	4.45	
W155	2区	火燭臼		33.3	2.9	2.7		63506.93	-67365.38	4.18	
W156	3区	木製劫鉗		(5.2)	(1.9)			63492.63	-67366.89	4.79	
W157	3区	木製劫鉗車		直径5.6	0.8			63491.98	-67366.87	5.70	
W158	3区	用途不明		37.5	4.8	1.5		63495.98	-67364.50	4.76	
W159	2区	容器吊取手		27.0	16.0	0.7		63506.59	-67364.82	4.67	
W160	3区	案(脚)	柾目	(25.2)	(7.8)	1.1	スギ材(観察)	63497.53	-67365.10	4.96	
W161	2区	案(脚)	柾目	(23.2)	6.6	0.9	スギ材(観察)	63504.30	-67364.73	4.73	
W162	3区	案(脚)	柾目	25.7	(8.6)	1.2	スギ材(観察)	63498.34	-67364.49	4.83	
W163	1区	案(脚)	柾目	(23.4)	(7.1)	2.3	スギ材(観察)	63515.43	-67366.49	4.49	
W164	1区	案(脚)	柾目	(18.6)	9.6	0.9	スギ材(観察)	63515.36	-67365.99	4.53	
W165	1区	案(脚)	柾目	(18.9)	8.0	0.8	スギ材(観察) W171と接合	63513.65	-67366.20	4.56	
W166	3区	案(脚)	柾目	25.8	8.5	1.0	スギ材(観察)	63494.10	-67365.95	4.93	
W167	3区	案(脚)	柾目	26.0	8.5	1.0	スギ材(観察)	63491.00	-67366.40	4.57	
W168	1区	案(扶板)	柾目	35.2	3.5		スギ材(観察)	63514.25	-67366.19	4.55	
W169	1区	案(扶板)	柾目	31.5	3.6	0.5	スギ材(観察)	63514.25	-67366.19	4.55	
W170	1区	案(幕栓)	柾目	3.5	1.5	0.7	スギ材(観察)	63514.25	-67366.19	4.55	
W171	1区	案(脚)	柾目	9.5	4.3	0.9	スギ材(観察) W165と接合	63514.25	-67366.19	4.55	
W172	1区	案(天板)	柾目	59.1	(18.8)	1.1	スギ材(観察)	63514.25	-67366.19	4.55	
W173	1区	案(天板)	柾目	58.5	(9.3)	1.1	スギ材(観察)	63514.25	-67366.19	4.55	
W174	1区	案(脚)	柾目	24.5	9.2	1.0	スギ材(観察)	63516.24	-67366.62	4.48	
W175	1区	案(脚)	柾目	24.2	(8.2)	1.0	スギ材(観察)	63516.24	-67366.62	4.48	
W176	1区	案(幕栓)	柾目	3.5	1.2	0.8	スギ材(観察)	63516.24	-67366.62	4.48	
W177	1区	案(扶板)	柾目	35.4	3.8	1.0	スギ材(観察)	63516.24	-67366.62	4.48	
W178	1区	案(扶板)	柾目	(31.9)	3.7	0.8	スギ材(観察)	63516.24	-67366.62	4.48	
W179	1区	案(天板)	柾目	(23.5)	(5.3)	1.0	スギ材(観察)	63516.24	-67366.62	4.48	
W180	3区	案(天板)	柾目	(34.3)	9.4	1.0	刀物キズあり、スギ材(観察)	63491.81	-67367.72	4.79	
W181	3区	案(扶板)	柾目	(9.0)	2.5	1.3	スギ材(観察)	63490.20	-67365.01	4.87	
W182	3区	案(幕栓)	柾目	3.8	1.3	0.7	スギ材(観察)	63490.20	-67365.01	4.87	
W183	3区	案(脚)	柾目	24.8	(6.4)	1.2	スギ材(観察)	63490.20	-67365.01	4.87	
W184	3区	一本机		54.2	42.5	15.0	スダジイ	63491.90	-67365.18	4.81	
W185	3区	木彌		8.5	1.4		マツ属複数管束属	63495.10	-67365.95	4.93	
W186	2区	木彌		13.5	1.9	0.9	イスノキ	63507.10	-67365.13	4.01	
W187	3区	趺坐鬼	芯持	(13.0)	4.1	1.9	マツ属複数管束属	63496.49	-67365.23	4.76	
W188	2区	舞板		(33.3)	(15.0)	2.3	クヌキ科	63508.08	-67365.38	4.07	
W189	3区	盾		(19.7)	(4.7)	0.4	片面赤色韋布	モミ属	63490.84	-67364.23	4.44
W190	3区	盾	柾目	(22.2)	(5.5)	0.4	片面赤色韋布		63492.85	-67364.99	4.75
W191	2区	ねずみ返し		49.1	40.8	4.2		63507.95	-67365.19	4.58	
W192	3区	ねずみ返し		61.6	32.1	4.0		63491.20	-67364.45	4.62	

番号	地区	名 称	木取号	最大長	最大幅	最大厚	備 考	率標値(X)	率標値(Y)	標高
W193	3区	蓋状	樋目	40.1	(33.8)	(4.5)		63498.89	-67362.20	4.90
W194	3区	蓋状	板目	50.6	(34.0)	(4.5)		63492.29	-67367.05	4.85
W195	1区	建物部材		(137.0)	21.0	35.0		63511.20	-67366.13	4.05
W196	2区	建物部材		(132.0)	24.0	32.0		63507.40	-67366.08	4.15
W197	2区	梯子		196.0	135.0	80.0		63499.92	-67363.15	4.86
W198	3区	梯子?		(195.0)	30.0	(7.0)		63498.90	-67362.87	4.62
W199	3区	建築部材	芯去	115.8	(15.6)	5.2		63492.95	-67365.17	4.99
W200	3区	板材		47.8	(27.0)	2.2		63497.42	-67364.87	4.86
W201	3区	用途不明木製品		(48.1)	(20.8)	(10.5)		63491.00	-67363.83	4.63
W202	3区	板材		66.8	(35.2)	2.3		63494.36	-67366.52	5.04
W203	3区	建築部材	芯去	19.1	(7.7)	3.0		63493.25	-67365.49	4.82
W204	2区	部材	芯去	(24.9)	(6.1)	4.0		63499.97	-67362.80	4.77
W205	3区	建築部材	芯去	(13.2)	(7.6)	3.2	広葉樹(観察)	63492.95	-67367.30	5.09
W206	3区	建築部材	板目	(11.3)	5.9	1.6		63491.42	-67366.20	4.43
W207	3区	用途不明木製品	芯去	(18.9)	(12.1)	6.5		63491.35	-67356.40	4.69
W208	3区	部材	芯持	(10.0)	9.6	—		63490.47	-67364.65	4.20
W209	3区	部材	芯去	50.5	14.9	8.4		63490.85	-67363.75	4.47
W210	3区	建築部材		54.3	(9.9)	2.8		63490.58	-67364.82	4.43
W211	1区	把手	芯去	(19.2)	(2.6)	(5.8)		63514.64	-67366.53	4.23
W212	1区	用途不明木製品		(31.2)	(3.5)	1.5?		63514.95	-67366.78	4.47
W213	1区	有頭	芯持	11.5	3.8	4.5		63515.56	-67366.62	4.08
W214	1区	有頭	芯持	(11.4)	4.1	3.5		63513.49	-67365.99	4.23
W215	3区	有頭	芯持	17.1	6.1	(4.5)		63494.53	-67364.92	4.68
W216	1区	有頭		(32.0)	3.9	1.8		63513.50	-67365.37	4.39
W217	1区	有頭		(2.9)	4.0	1.3				
W218	3区	板材	芯去	(18.8)	(5.8)	1.3		63497.60	-67364.38	4.55
W219	1区	鍾のカサビ		12.6	12.2	1.3		63511.82	-67365.89	4.50
W220	1区	用途不明		(83.4)	4.1	0.9		63513.50	-67365.40	4.13
W221	3区	井泉の桿		330.0	(38.0)	5.0	コナラ属アカガシ属	—	—	—
W222	3区	背負桿子(組合せ)		(69.4)	7.0	2.0	コナラ属アカガシ属	63491.10	-67365.85	4.40
W223	3区	背負桿子(木製品)	芯持	—	4.0	—	サカキ	63492.27	-67366.30	4.33
W224	3区	背負桿子(未製品)		—	4.5	—		63492.27	-67366.35	4.33
W225	1区	背負桿子					サカキ	63516.24	-67366.62	4.48
W226	3区	背負桿子		(31.6)	3.5			63498.99	-67365.66	4.78
W227	3区	しゃもじ形		46.1	8.0	1.6		63490.65	-67364.18	4.10
W228	3区	用途不明	樋目	(22.8)	(11.6)	(1.2)	カシ材(観察)	63491.48	-67365.60	4.18
W229	1区	用途不明					コナラ属アカガシ属	63516.24	-67366.62	4.48
W230	1区	用途不明		(19.0)	9.0	1.5		63515.82	-67367.73	4.64
W231	1区	棒状	芯持	(69.0)	2.5			63511.68	-67365.77	4.39
W232	1区	棒状	芯持	(57.5)	2.7			63511.50	-67364.89	4.41
W233	1区	棒状(ヤス?)		48.1	1.5	1.5		63512.23	-67365.55	4.13
W234	3区	棒状	芯持	(50.8)	2.3			63490.05	-67364.15	4.73
W235	1区	棒状		51.2	1.3			63515.12	-67365.75	4.20
W236	3区	棒状		(50.0)	2.1	2.1		63492.90	-67364.12	4.39
W237	3区	棒状	板目	(16.7)	3.7	1.4		63497.00	-67364.58	4.44
W238	1区	棒状		(27.7)	1.2			63515.60	-67365.02	4.58
W239	3区	棒状(刀形)		29.8	2.0			63492.08	-67366.38	4.26
W240	1区	棒状(刀形)	芯去	20.1	2.1	1.7	コナラ属アカガシ属	63512.20	-67365.63	4.39
W241	3区	棒状	芯持	(41.5)	2.2	2.4	先端部平坦	63497.23	-67364.52	4.33
W242	2区	棒状		25.2	3.1	2.2		63517.69	-67365.99	4.31
W243	3区	棒状	芯去	(35.2)	2.6			63492.06	-67366.19	4.26
W244	3区	用途不明	樋目	(14.9)	(3.5)	1.3		63498.77	-67362.60	4.08
W245	1区	用途不明		27.7	4.7			63511.90	-67365.20	4.45
W246	3区	用途不明	芯去	(20.9)	3.6	2.8		63491.92	-67365.58	4.18
W247	1区	用途不明		13.0	(6.9)	(5.0)		63512.39	-67365.37	4.35
W248	3区	用途不明		(12.7)	(4.8)	2.9		63497.22	-67364.60	4.48
W249	1区	用途不明		(12.7)	(8.4)	1.2	赤色細胞能	63513.97	-67365.35	4.47
W250	3区	用途不明	樋目	(20.7)	(8.4)	1.2		63492.13	-67366.90	4.69
W251	3区	用途不明	樋目	15.4	10.8	2.8		63491.40	-67366.02	4.06
W252	2区	用途不明	芯持	(32.0)	5.8	6.0		63509.79	-67364.47	4.55
W253	1区	用途不明		50.5	1.7	2.3		63514.87	-67365.90	4.16
W254	3区	用途不明		40.0	(6.6)	2.1		63495.19	-67364.76	4.57

3まとめ

まず、調査終了後環状に巡る溝であると認識された環濠SD-01であるが、その環濠掘削に先行してSD-01(A)が存在していたことは明らかである。その先行する溝が人為的な掘削によるものか自然流路であるかは不明であるが、集落中心部の外側にあたる西側肩部からは丹塗磨研の祭祀土器が集中して出土している。

井泉は、環濠SD-01掘削と同時に計画的に敷設されている。ただしその配置は、環濠の外側にとり付くように掘削していることに注意が必要である。環濠が埋没を始めても井泉部は幾度か掘り返され、使用目的の変化はあるものの窪み自体は古墳時代初頭まで継続していたようである。

環濠、井泉内からは大量の土器とともに多くの木製品が遺存しており、良好な資料を得ることができた。木製資料を概観すると、まず、多くの起耕具が目につく。広鉢の中には、五郎江タイプと呼称可能な段を有する特徴的なものが見られる。北部九州の広鉢生産地問題とも関係し、注目される。また、漆による装飾性の高い筒形容器、組合せ式で直柄の斧柄、複数の組合せ案、その他多くの農具、漁労具、生活具、武具などその種類は広範囲にわたる。

土器類については、特にSD-01が機能を失った後、溝の上面に堆積する土器群と溝を完全に埋没させた黒色土層から多くの注目される遺物が出土している。まず、三韓系土器、楽浪系土器など半島系の土器が出土している。また、国内では、東海、畿内、山陰、北四国、瀬戸内などからの搬入もしくは影響を受けた土器も見られる。そして、赤色顔料である水銀朱の精製等に関係すると考えられている広片口皿の破片と水銀朱が付着した石杵が出土している。広片口皿W381の外面には水銀朱の液だけが見られ、内容物が液状であったことがうかがえる。

石器類では、砥石、石包丁以外に石錘の出土が多い。石錘には、扁平な自然石に敲打を加えたものから、滑石を丹念に磨き穿孔を施す各種のものが多量に出土している。また、海岸に漂着したであろう輕石に加工を施し、網のブイに使用したと考えられるW410なども漁労方法の復元において注目される。

出土遺物における漁労関係資料の多さは、この集落の漁労に対する比重の大きさを表していると考えられる。そして、その主な活動海域は、今山より西側にあった古今津湾側よりも、博多湾から続く現在の今津湾側と推測される。当時、今山から東へ弧を描き伸びる砂丘上は、今宿遺跡での調査でも明らかなように古くから安定した地であり、その後背湿地の形成は著しいものであったと想像される。また、女原遺跡側から海側へ舌状に伸びる丘陵も、その成長を加速させるものと考えられる。つまり、後背湿地の形成状況と、今宿五郎江遺跡の立地を考えると、舟を海に直接漕ぎ出すには、現在の鯨川河口付近から現今津湾側へ向かう方が容易であったと考えられるのである。漁労具の使用方法の復元などから、漁場の環境などが推測される可能性も今後期待したい。また、伊都国域内では最も東に位置する拠点集落であり、漁場を共有したであろう奴国との交流を含めた影響がどのようなものであったかの解明も今後の課題の一つである。

今回確認された遺構は環濠とその外側であることから、掲載した資料は環濠と遺物包含層出土の遺物である。その遺構の性格もあり厳密な遺物の取り上げができず、ノイズの多いものとなってしまったが、今回の報告書では極力多くの遺物を掲載することに主眼を置いた。現在も、12次調査以外の出土品整理は続けられており、今後も継続的に資料は公表されていく。その資料総数は膨大なものであり、この遺跡に対する総括的なまとめは、後の報告書に譲りたい。

今宿五郎江遺跡第12次出土動物遺存体について

福岡市教育委員会埋蔵文化財第1課 屋山 洋

弥生時代後期前葉から古墳時代初頭の環濠から数点の動物遺存体が出土した。これらは覆土のフローテーションや篩を使用した水洗選別法は行っておらず、掘り下げ時に気づいた骨を取り上げたものである。出土した動物遺存体はイノシシとシカで弥生時代から出土する動物としては一般的な種である。65505001はイノシシ下顎で、現在細片化しているが、元々は下顎枝を欠いた状態で出土した。M3が萌出中で若い個体である。右顎先端部舌側に解体痕があり、舌をはずした可能性がある。下顎枝を欠くのは上顎からはずすときに切断したものと思われる。65505003、65505004は上顎と下顎のM3の歯冠のみでいずれも咬耗は弱く比較的若い個体と思われる。出土地区が違うものの、溝から出土したのがすべて頭蓋部であることから何らかの祭祀が行われた可能性も考えられるものの、出土数が少ないため詳しいことは不明である。65505002はシカの桡骨である。遠位端を欠く。イヌの咬痕があり、塵穴からイヌが咥えてきたものであろう。

表 今宿五郎江12次出土動物遺存体一覧

地区	遺構番号	大分類	小分類	部位名	左右	部分1	部分2	成長度	切 痕	火熱	備 考
65505001	SD-01	1区壁	哺乳類	イノシシ		下顎	下顎枝欠損	M3萌出中	下顎に歯面U字型の傷有り	なし	
65505002	SD-01	2区黒色土	哺乳類	シカ	左	脛骨	遠位端欠損	骨化済み	あり	なし	犬咬痕あり
65505003	SD-01	2区黒色土	哺乳類	イノシシ	M3 下顎	左	歯冠のみ	咬耗弱(成駆)	なし	なし	
65505004	SD-d	3区(器窓付)	哺乳類	イノシシ	M3 上顎	右	歯冠のみ	咬耗弱(成駆)	なし	なし	

65505001 右顎



65505001 左顎



65505001 右顎先端部



65505004



65505003



65505002



今宿五郎江遺跡第12次出土木製品の樹種

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

今宿五郎江遺跡は、今宿平野南端の丘陵末端から沖積平野に位置する。これまでの調査により、弥生時代後期や平安時代の遺構・遺物が検出されている。第12次調査区は、今宿五郎江遺跡の範囲西縁部にあたり、西に隣接する大塚遺跡の範囲と接している。

今回の分析調査では、弥生時代後期後半～終末の木製品を対象として、木材利用を明らかにするための樹種同定を実施する。

1. 試料

試料は木製品48点で、当社技師1名が収蔵施設へ赴いて採取した。このうち、取上げ番号R42は、W225とW229の2点があり、接合関係を確認できなかったことから、それぞれから試料を採取する。また、遺物番号W089は、柄本体・軸・軸を止めるためのホゾ計3点の部品で構成されており、それぞれから試料を採取する。したがって、合計点数は51点である。このうち、W153、W189、W252の3点を除く48点は、PEGによる保存処理済みである。

2. 分析方法

保存処理済みの木製品は、木取りを観察した上で、採取箇所を水で湿らせた後、剃刀の刃を用いて木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の3断面の徒手切片を作製する。保存処理をしていない3点は、木取りを観察した上で、3断面の徒手切片を作製する。切片をガム・クロラール（抱水クロラール、アラビアゴム粉末、グリセリン、蒸留水の混合液）で封入し、プレバラートを作製する。生物顕微鏡で木材組織の種類や配列を観察し、その特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類を同定する。なお、木材組織の名称や特徴については、島地・伊東(1982)、Wheeler他(1998)、Richter他(2006)を参考にする。また、日本産木材の組織配列については、林(1991)や伊東(1995,1996,1997,1998,1999)を参考にする。

3. 結果

樹種同定結果を表1に示す。木製品は、針葉樹4分類群(マツ属複維管束亞属・モミ属・マキ属・カヤ)と広葉樹14分類群(コナラ属コナラ亜属コナラ節・コナラ属アカガシ亜属・クリ・ツブライ・スダジイ・ヤマグワ・タブノキ属・クスノキ科・サカキ・イスノキ・サクラ属・センダン・ツゲ?・タイミンタチバナ)に同定された。なお、W085(横斧柄)は、環孔材の道管配列を有する広葉樹であるが、組織の保存状態が悪く、種類の同定には至らなかった。同定された各分類群の解剖学的特徴等を記す。

・マツ属複維管束亞属 (*Pinus subgen. Diploxyylon*) マツ科

いずれも木口面の切片が採取できないか、できても状態が悪い。軸方向組織は、仮道管と垂直樹脂道で構成される。垂直樹脂道は晩材部に認められる。放射組織は仮道管、柔細胞、水平樹脂道、エピセリウム細胞で構成される。分野壁孔は窓状となり、1分野に1個。放射仮道管内壁には鋸歯状の突起が認められる。放射組織は単列、1~15細胞高。

・モミ属 (*Abies*) マツ科

試料は盾1点(W189)のみで、木口面の切片が採取できなかった。軸方向組織は、観察した範囲では仮道管のみで構成される。放射組織は柔細胞のみで構成される。柔細胞壁は粗く、垂直壁にはじゅず状の肥厚が認められる。分野壁孔はスギ型で1分野に1~4個。放射組織は単列、1~20細胞高。

・マキ属 (*Podocarpus*) マキ科

軸方向組織は、仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行は緩やかで、晩材部の幅は狭い。樹脂細胞は早材部および晩材部に散在する。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔はヒノキ型で1分野に1~2個。放射組織は単列、1~10細胞高。

・カヤ? (*Torreya nucifera* Sieb. et Zucc.) イチイ科カヤ属

軸方向組織は仮道管のみで構成され、樹脂道および樹脂細胞は認められない。仮道管の早材部から晩材部への移行はやや急で、晩材部の幅は狭い。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔は保存が悪く観察できない。放射組織は単列、1~10細胞高。

観察された特徴や遺跡の位置からカヤの可能性が高いが、らせん肥厚の有無が明確ではないため、カヤ?とした。

・コナラ属コナラ亜属コナラ節 (*Quercus* subgen. *Quercus* sect. *Prinus*) ブナ科

環孔材で、孔圈部は1~2列、孔圈外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は單穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1~20細胞高のものと複合放射組織とがある。

・コナラ属アカガシ亜属 (*Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis*) ブナ科

放射孔材で、管壁厚は中庸~厚く、横断面では梢円形、単独で放射方向に配列する。道管は單穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1~15細胞高のものと複合放射組織とがある。

・クリ (*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.) ブナ科クリ属

環孔材で、孔圈部は3~4列、孔圈外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は單穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1~15細胞高。

・ツブライ (*Castanopsis cuspidata* (Thunberg) Schottky) ブナ科シイ属

環孔性放射孔材で、道管は接線方向に1~2個幅で放射方向に配列する。孔圈部は3~4列、孔圈外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は單穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1~20細胞高のものと集合~複合放射組織とがある。

・スタジイ (*Castanopsis cuspidata* var. *sieboldii* (Makino) Nakai) ブナ科シイ属

環孔性放射孔材で、道管は接線方向に1~2個幅で放射方向に配列する。孔圈部は3~4列、孔圈外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は單穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1~20細胞高。

ツブライとスタジイは、集合~複合放射組織の有無で区別されるが、ツブライの集合~複合放射組織は、個体によっては少ないことがあり、採取した切片の範囲では確認できない場合がある。そのため、スタジイとした試料の中にツブライが混じっている可能性があるが、本報告では観察した範囲で集合~複合放射組織が認められた試料をツブライ、認められなかった試料をスタジイとして区別した。

・ヤマグワ (*Morus australis* Poiret) クワ科クワ属

環孔材で、孔圈部は3~5列、孔圈外への移行は緩やかで、晩材部では単独または2~5個が塊状に複合して接線・斜方向に配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は單穿孔を有し、壁孔は交互状に配列。小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性、1~6細胞幅、1~50細胞高。

・タブノキ属 (*Persea*) クスノキ科

散孔材で、管壁は厚く、横断面では梢円形、単独または2個が放射方向に複合して散在する。道管は單穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は異性、1~3細胞幅、1~20細胞高。柔組織は周囲状、翼状および散在状。柔細胞はしばしば大型の油細胞となる。

・クスノキ科 (Lauraceae)

散孔材で、管壁は薄く、横断面では角張った梢円形、単独または2~3個が放射方向に複合して散在する。道管は單穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は異性、1~2細胞幅、1~20細胞高。柔組織は周囲状および散在状。柔細胞には油細胞が認められる。

・サカキ (*Cleyera japonica* Thunberg pro parte emend. Sieb. et Zucc.) ツバキ科サカキ属

散孔材で、小径の道管が単独または2~3個が複合して散在する。道管の分布密度は高い。道管は階段穿孔を有し、壁孔は対列~階段状に配列する。放射組織は異性、単列、1~20細胞高。

・イスノキ (*Distylium racemosum* Sieb. et Zucc.) マンサク科イスノキ属

散孔材で、道管は横断面で多角形、ほとんど単独で散在する。道管の分布密度は比較的高い。道管は階段穿孔を有する。放射組織は異性、1~3細胞幅、1~20細胞高。柔組織は、独立帶状または短接線状で、放射方向にはば等間隔に配列する。

・サクラ属 (*Prunus*) バラ科

散孔材で、管壁厚は中庸、横断面では角張った梢円形、単独または2~6個が複合、年輪界に向かって管径を漸減させながら散在する。道管は單穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性、1~3細胞幅、1~30細胞高。

・センダン (*Melia azedarach* L. var. *subtripinnata* Miquel) センダン科センダン属

環孔材で、小片のため孔隙部の幅は不明。孔隙外の小道管は横断面では多角形で多数が集まって複合管孔をなす。大道管内に茶褐色の充填物が認められる。道管は單穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は同性、1~4細胞幅、1~30細胞高。

・ツゲ (*Buxus microphylla* Sieb. et Zucc. var. *japonica* (Muell.Arg.)Rehd. et Wils.) ツゲ科ツゲ属

散孔材で、道管径は極めて小径、管壁は厚~中庸で、横断面では角張った梢円形、ほぼ単独で散在する。道管は階段穿孔を有し、壁孔は保存が悪く観察できない。放射組織は異性、1~2細胞幅、1~30細胞高。

観察された特徴からツゲと考えられるが、道管内壁の壁孔など、一部観察できない組織があるため、ツゲ?とした。

・タイミンタチバナ (*Myrsine seguinii* Lev.) ヤブコウジ科ツルマンリョウ属

散孔材で、道管は単独もしくは2個が放射方向または接線方向に複合して散在する。道管は單穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は大型の異性で、1~8細胞幅、100細胞高以上。

4. 考察

木製品は、工具(斧柄・塗鍛)、農耕具(平鍬・横杵・鎌柄)、運搬具(樺状・背負子・木桶の転用材?)、漁労具(アカトリ)、武器・武具(木鎌・束・盾・短甲)、服飾具(袴)、容器(槽・容器蓋)、調度(一本机)、祭祀具(武器形)、その他(用途不明等)に分けられる。これらの木製品には、合計18分類群が確認され、広葉樹のサカキ、アカガシ亜属等が比較的多い。

工具には斧柄と塗鍛があり、斧柄および斧柄の部品が今回の分析試料51点中20点を占めている。斧柄の本体18点のうち、直柄1点(W089)を除く17点は、樹木の枝分かれ部分を利用しており、装着部を幹(あるいは太枝)、柄を枝(あるいは小枝)とする木取りで、柄部分は芯持丸木となる。これらの斧柄にはサカキが多く、他に針葉樹の複維管束亞属、カヤ?、広葉樹のコナラ節、ツゲ?、クスノキ科、種類不明の環孔材が利用されている。斧の形態・用途別にみると、横斧(W085, 086, 084)でサカキが利用されていず、木材利用が異なる可能性がある。一方斧直柄(W089)は、柄の本体を分割材から削り出しており、ホゾにより斧軸を固定している。部品も含めて全てアカガシ亜属が利用されており、他の斧柄とは木材利用が異なる。塗鍛は、輪切りの芯持丸木を利用して、把手を削り出している。樹種は、広葉樹のクスノキ科であった。

農耕具では、平鍬、横杵、鎌柄がある。平鍬は、柾目板状を呈しており、アカガシ亜属が利用さ

れており、これまでの多くの調査事例とも調和的である。横杆は、枝分かれ部分を利用しておらず、幹(太枝)を打撃部、枝(小枝)を柄とする。打撃部と柄は、いずれも芯持丸木である。樹種は針葉樹のマキ属であり、比較的緻密で重硬な木材が利用されている。錐柄は、いずれも分割材を削り出した棒状を呈している。樹種は、W054がヤマグワ、W053がタイミンタチバナであり、少なくとも2種類の木材が利用されていたことが推定される。これまでの調査事例では、拾六町ツイジ遺跡でヤマグワが確認された例があり、今回の結果とも調和的である(福岡市教育委員会,1983)。なおタイミンタチバナについては、これまで確認されていないが、今回の同定結果から農耕具に利用されていたことが明らかとなった。

運搬具では、櫂状木製品、背負子、丸木舟の転用材がある。櫂状木製品は、柾目板状を呈しており、広葉樹のツブライジが利用されている。背負子は、完成品(W222)と未完成品(W223)がある。前者がアカガシ亜属、後者がサカキであり、樹種は異なるが強度の高い木材を利用している点で共通する。また、背負子・用途不明木製品とされる2点(W222,229)もアカガシ亜属とサカキであり、樹種からみれば背負子と同様の木材が利用されている。丸木舟の転用材? or 木樋とされる資料(W221)は、大型の半截木状で、内部を削り貫いている。強度の高いアカガシ亜属が利用されている。福岡県内では、近世の構造船を除けば、船材にアカガシ亜属が確認された事例は知られていないため、今回の資料も丸木舟以外の用途に利用された可能性もある。

漁労具では、アカトリ1点がある。一本から柄と身を削り出しておらず、身の部分が板目となる木取りである。タブノキ属が利用されており、耐朽性のある木材を選択したことが推定される。福岡県内では、タブノキ属の利用例は確認できないが、辻田遺跡の弥生時代終末とされるアカトリにクスノキが利用されており(松本・林,1979)、タブノキ属と同様の木材利用例と考えられる。

武器・武具は、木鎌、束、盾、短甲がある。木鎌は、円錐形状となる資料(W185)と、柳葉状となる資料(W186)があり、共に削り出して作られている。樹種は、前者が複維管束亜属、後者がイスノキである。複維管束亜属は、針葉樹としては重硬であるが、広葉樹と比較すると軽く強度も低いため、実用品ではない可能性がある。一方イスノキは、日本産広葉樹の中でもとくに重硬で強度が高い木材である。木鎌にイスノキを利用する例は、拾六町ツイジ遺跡や比恵遺跡で確認されており、今回の結果とも調和的である(福岡市教育委員会,1983,1991)。また、今回の結果から、水系の異なる今宿平野でも木鎌にイスノキを利用したことが推定される。

束は、形状から鉄器用と考えられている。芯持材を削りだして作っており、樹種は複維管束亜属であった。盾は、板目板で、赤漆が塗布されている。樹種はモミ属であり、盾として最も一般的な樹種・木取りである。福岡市内では、那珂君体遺跡7次で古墳時代初頭~前期の資料が報告されているが、今回の結果から、同様の木合い利用が弥生時代後期~終末にも見られたことが推定される。短甲は、板目板状を呈しており、樹種はクスノキ科であった。

服飾具では、袴が5点あり、いずれも脇底が板目となる木取りである。5点の資料は、3点がタブノキ属で、他にクスノキ科とスダジイが各1点ある。この結果から、タブノキ属やクスノキ科を中心とした木材利用が推定される。タブノキ属やクスノキ科は、樟腦を含み耐朽性を有することから、こうした材質から利用された可能性がある。なお、袴については、拾六町ツイジ遺跡の弥生時代前期後半とされる資料にクスノキ、那珂君体遺跡7次の古墳時代初頭~前期とされる資料にクリが確認された例がある(福岡市教育委員会,1983;株式会社古環境研究所,1998)。

容器では、槽と容器蓋がある。槽は、円弧状~半截木状の木材を木表側から削り貫き、木表側に4本の脚を削り出しておらず、削り貫いた槽の底面が板目による木取りである。樹種はツブライジであり、比較的強度の高い木材が利用されている。槽については、クスノキの利用が比較的多く、広葉樹のハンノキ属、クリ、アカガシ亜属(カシ)、コナラ節、ヤブニッケイ、針葉樹のスギ、ヒノキ等が利用されている。ツブライジの利用例は知られていないが、比較的強度の高い広葉樹の利用が多い。

点は、今回の結果とも調和的といえる。一方、容器蓋(W146,147)は、いずれも板目板状を呈しており、W146が側面で半円形を呈し、W147は側面が平坦な板状で内部を削り貫いている。前者がセンドン、後者がクリであり、いずれも広葉樹材が利用されている。

調度の一木机は、半截木状の木材の樹芯側を平坦面として、外側に脚を削り出している。樹種は、スタジイであり、比較的強度の高い木材を利用したことが推定される。また、祭祀具は、武器形(戈?)木製品1点がある。板目板状を呈しており、樹種はタブノキ属であった。

その他のうち、W153は、板目板状を呈しており、表面には黒漆が塗布され、赤漆で細い線が書かれている。線は3本が1セットとなり、板の2箇所に3セット、端部に少なくとも9セットが書かれている。同様の資料は、これまでにもいくつか報告されており、容器の破片等と考えられているが、樹種に関する資料はほとんどない。今回の結果から、緻密で強度の高いサクラ属が利用されていたことが推定される。サクラ属を容器に利用する例は、福岡県内では確認できないが、佐賀県の菜畑遺跡から出土した弥生時代前期初頭の資料や大分県の下郡桑苗遺跡から出土した弥生時代前期後葉～中期前葉の資料等が知られている(鷲倉,1982;能城,1992)。

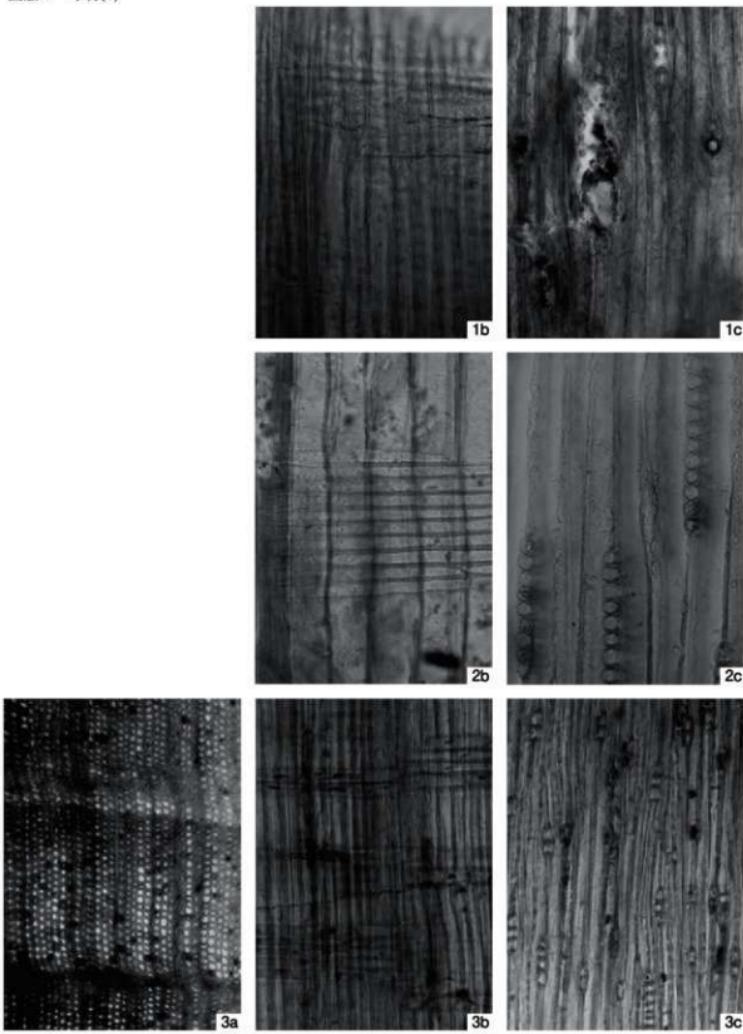
引用文献

- 福岡市教育委員会,1983.拾六町ファジ遺跡 福岡市城原小学校建設地内遺跡調査報告書.福岡市埋蔵文化財調査報告書第92集,117p. (1983)
- 福岡市教育委員会,1991.比恵遺跡群(10).福岡市埋蔵文化財調査報告書第255集,246p.
- 林 昭三,1991.日本産木材 顕微鏡写真集.京都大学木質科学研究所.
- 伊東 隆夫,1995.日本産広葉樹材の解剖学的記載 I.木材研究・資料,31.京都大学木質科学研究所81-181.
- 伊東 隆夫,1996.日本産広葉樹材の解剖学的記載 II.木材研究・資料,32.京都大学木質科学研究所66-176.
- 伊東 隆夫,1997.日本産広葉樹材の解剖学的記載 III.木材研究・資料,33.京都大学木質科学研究所83-201.
- 伊東 隆夫,1998.日本産広葉樹材の解剖学的記載 IV.木材研究・資料,34.京都大学木質科学研究所30-166.
- 伊東 隆夫,1999.日本産広葉樹材の解剖学的記載 V.木材研究・資料,35.京都大学木質科学研究所47-216.
- 株式会社古環境研究所,1998.福岡市.那珂君体遺跡出土木材の樹種同定.「那珂君体遺跡VII」,福岡市埋蔵文化財調査報告書第587集.福岡市教育委員会,69-80.
- 松本 篤・林 弘也,1979.辻田遺跡から出土した木材資料の樹種同定について、「山陽新幹線関係埋蔵文化財調査報告第12集」,福岡県教育委員会,144-155.
- 能城 修一,1992.大分県大分市下郡桑苗遺跡(第2次調査)から出土した木製品の樹種.「下郡桑苗遺跡II」,大分県文化財調査報告書第89輯,122-143.
- Richter H.G.,Grosser D.,Heinz L. and Gasson P.E. (編),2006.針葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト.伊東 隆夫・藤井 智之・佐野 雄三・安部 久・内海 泰弘(日本語版監修),海青社,70p.
[Richter H.G.,Grosser D.,Heinz L. and Gasson P.E.(2004)IAWA List of Microscopic Features for Softwood Identification].
- 鳥地 謙・伊東 隆夫,1982.図説木材組織.地球社,176p.
- 鷲倉 己三郎,1982.菜畑遺跡から出土した木製品の樹種.「菜畑遺跡 唐津市菜畑字松円寺所在の縄文・弥生時代穀作遺跡の調査(分析・考察編)」,唐津市文化財調査報告書第5集.唐津市教育委員会,430-446.
- Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E. (編),1998.広葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト.伊東 隆夫・藤井 智之・佐伯 浩(日本語版監修),海青社,122p.[Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E. (1989)IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification].

表1 樹種同定結果

遺物番号	器種・部位	木取号	樹種
W010	広鉗	楓目	コナラ属アカガシ亜属
W053	鉄鍔柄	削出棒状	タツミンタチバナ
W054	鉄鍔柄	削出棒状	ヤマグワ
W069	横件	芯持丸木	マツ属
W070	舟	板目	タブノキ属
W071	舟	板目	タブノキ属
W072	舟	板目	スダジイ
W074	舟	板目	タブノキ属
W075	舟	板目	クスノキ科
W076	縦斧屈曲柄	芯持丸木	サカキ
W077	縦斧屈曲柄	芯持丸木	サカキ
W078	縦斧屈曲柄	芯持丸木	コナラ属コナラ亜属コナラ節
W079	縦斧屈曲柄頭	芯持丸木	サカキ
W080	縦斧屈曲柄頭	芯持丸木	サカキ
W081	縦斧屈曲柄頭	芯持丸木	フゲ?
W082	縦斧屈曲柄	芯持丸木	サカキ
W083	斧屈曲柄	芯持丸木	サカキ
W084	横斧屈曲柄	芯持丸木	マツ属複雜管束軸属
W085	横斧屈曲柄	芯持丸木	環孔材
W086	横斧屈曲柄頭	芯持丸木	クスノキ科
W087	斧屈曲柄頭	芯持丸木	サカキ
W088	斧屈曲柄頭	芯持丸木	コナラ属コナラ亜属コナラ節
W089	炳(彎柄)	削出丸木	コナラ属アカガシ亜属
		板目	コナラ属アカガシ亜属
		板目	コナラ属アカガシ亜属
W090	斧屈曲柄	芯持丸木	サカキ
W091	斧屈曲柄	芯持丸木	カヤ?
W092	斧屈曲柄頭	芯持丸木	クスノキ科
W093	斧屈曲柄頭	芯持丸木	サカキ
W094	箇箇か?	芯持丸木	クスノキ科
W097	櫛状	板目	フブライ
W098	アカトリ	板目	タブノキ属
W100	詰	削出丸木	イノキ
W119	槽(脚付)椅子か?	板目	クリ
W136	槽(脚付)	板目	フブライ
W146	容器蓋	板目	センダン
W147	容器蓋	板目	クリ
W153	漆(油)筒型容器	板目	サクラ属
W184	一本机	板目(平裁木状)	スダジイ
W185	木織	削出丸木	マツ属複雜管束軸属
W186	木織	削出	イヌキ
W187	鉄刃束	芯持削出棒状	マツ属複雜管束軸属
W188	短甲	板目	クスノキ科
W189	盾(赤色顔料塗布)	板目	モミ属
W221	井泉の櫛(丸木舟の転用?)	板目(平裁木状)	コナラ属アカガシ亜属
W222	背負子(組合せ)	板目	コナラ属アカガシ亜属
W223	背負子(未製品)	芯持丸木	サカキ
W225	背負子	芯持丸木	サカキ
W229	用途不明木製品	板目	コナラ属アカガシ亜属
W230	用途不明木製品(武器形?)	板目	タブノキ属
W240	棒状	板目	コナラ属アカガシ亜属

図版1 木材(1)



1. マツ属複維管束亞属(W084)

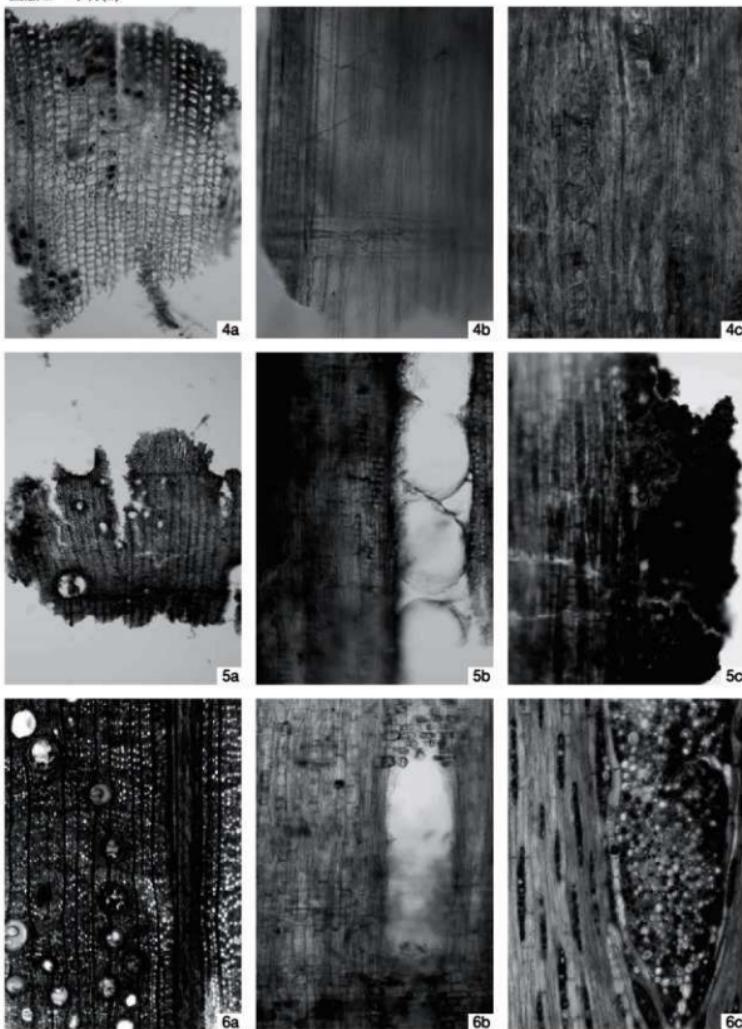
2. モミ属(W189)

3. マキ属(W069)

a : 木口, b : 矢目, c : 板目

200 μm:a
100 μm:b,c

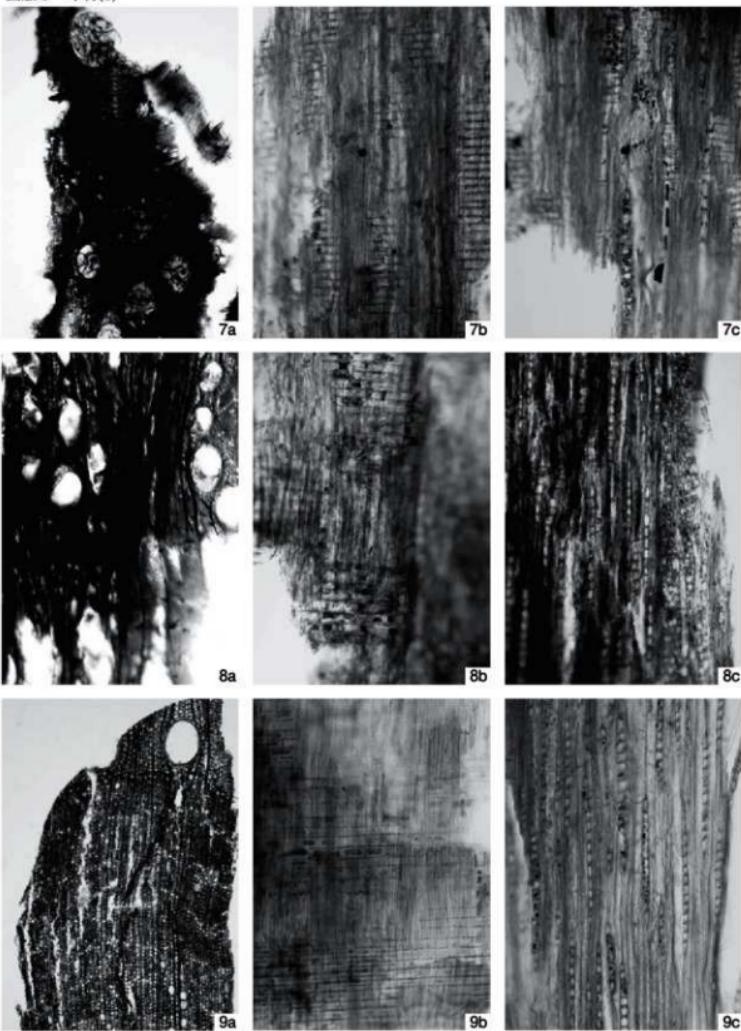
図版2 木材(2)



4. カヤ?(W091)
5. コナラ属コナラ亜属クヌギ節(W078)
6. コナラ属アカガシ亜属(W221)

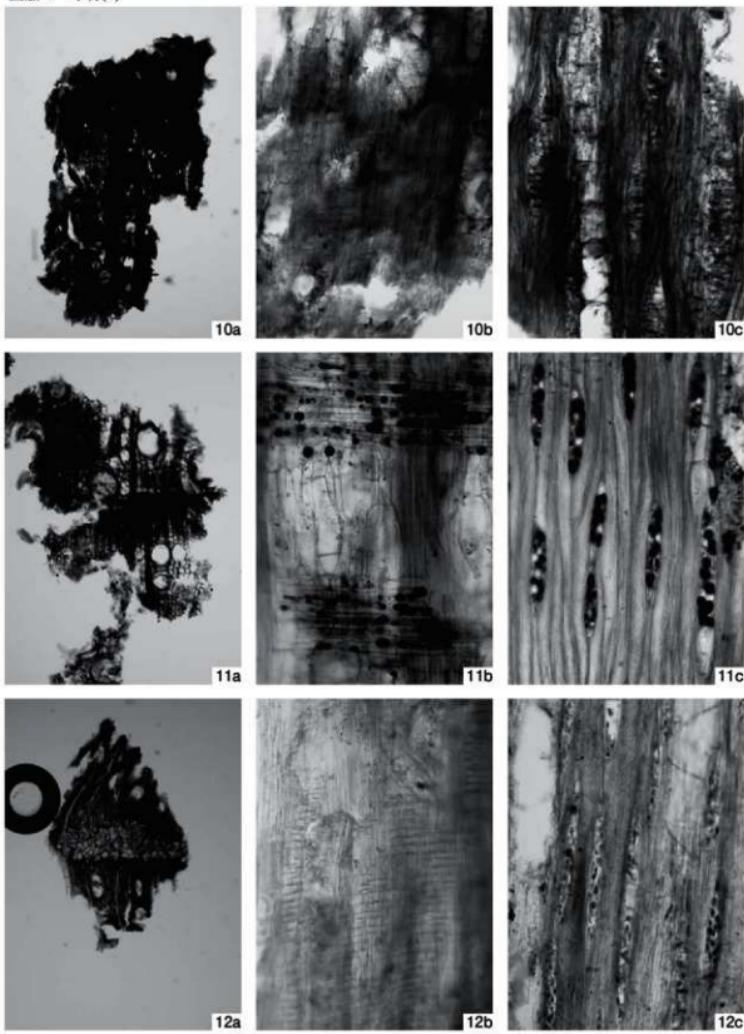
a : 木口, b : 痕目, c : 板目

図版3 木材(3)



7. クリ(W147)
8. ツブラジイ(W097)
9. スダジイ(W184)
a:木口, b:径目, c:板目

図版4 木材(4)



10. ヤマグワ(W054)

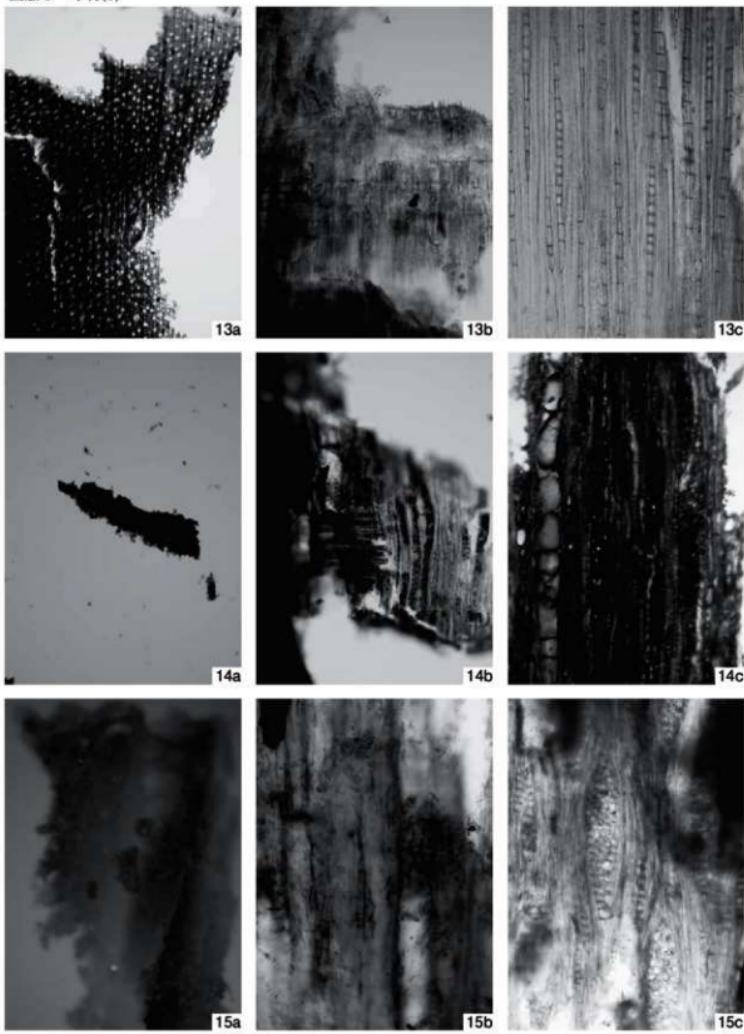
11. タブノキ属(W070)

12. クスノキ科(W092)

a : 木口, b : 痕目, c : 板目

300 μm:a
200 μm:b,c

図版5 木材(5)



13. サカキ(W223)

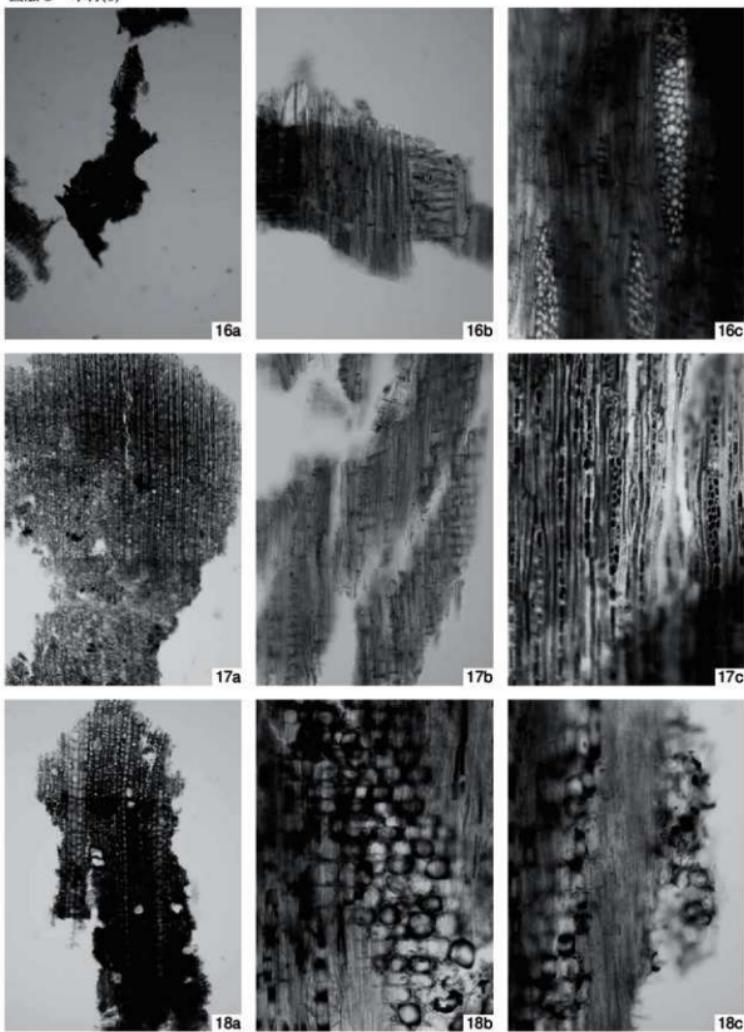
14. イスノキ(W100)

15. サクラ属(W153)

a : 木口, b : 症目, c : 板目

— 300 μm:a
— 200 μm:b,c

図版6 木材(6)



16. センダン(W146)
17. ツゲ ?(W081)
18. タイミンタチバナ(W053)
a : 木口, b : 痕目, c : 板目

300 μm :a
200 μm :b,c



1) 第12次調査区全景(北から) 写真右側は大塚第6次調査



2) SB-04完掘状況(東から)



3) SK-01完掘状況(北東から)



4) SK-02調査状況(北東から)



5) SD-02調査状況(東から)



1) SD-01調査状況(北から)



2) SD-01黒色土掘削状況(西から)



3) SD-01井泉掘削状況(南から)



4) SD-01掘削状況(南東から)



5) SD-01掘削状況(南東から)



1) SD-01土器溜まり状況(南から)



2) SD-01土器溜まり状況(東から)



3) SD-01土器溜まり状況(北東から)



4) SD-01土器溜まり掘削状況(南から)



5) SD-01土器溜まり状況(北から)



1) SD-01 挖削状況 (南から)



2) SD-01 挖削状況 (南から)



3) SD-01木製品検出状況 (南から)



4) SD-01木製品検出状況 (南から)



5) 井泉上層木製品検出状況 (南東から)



6) 井泉上層木製品検出状況 (西から)



7) SD-01木製品出土状況 (北から)



8) SD-01木製品出土状況 (西から)



1) SD-01 (B) 完掘状況 (北から)



2) SD-01 (B) 完掘状況 (南から)



3) SD-01、井泉完掘状況 (南から)



4) SD-01 土層堆積状況 (南東から)



5) SD-01 土層堆積状況 (南東から)



1) 井泉掘削開始状況(南から)



2) 井泉掘削状況(西から)



3) 井泉上層遺物出土状況(南から)



4) 井泉掘削状況(南から)



5) 井泉完掘状況(西から)



1) 井泉完掘状況(北東から)



2) 井泉完掘状況(北から)



3) 井泉完掘状況(北西から)



4) 井泉完掘状況(南西から)



5) 井泉完掘状況(南西から)



1) 井泉完掘状況(南西から)



2) 井泉構築状況(南西から)



3) 井泉構築状況(北西から)



4) 井泉横木切り込み状況(南西から)



5) 井泉裏貨泉出土状況(西から)



1) SD-01 (A) 遺物出土状況 (北東から)



2) SD-01 (A) 遺物出土状況 (北から)



3) SD-01 完掘状況 (南から)



4) SD-01 完掘状況 (北から)



5) SD-01 完掘状況 (北東から)



1) 現地説明会解説状況(西から)



2) 現地説明会遺物展示風景



3) 現地説明会遺物展示風景



4) 現地説明会解説状況(南から)



5) 大塚遺跡側現地説明会解説状況(南から)



001



002



003



004



005



006



007



008



009



010



011



012



013



014



015



016



017



018



019



020



020



020

出土遗物(缩尺不同)

PL. 12



021



022



023



024



025



026



025



027



027



028



029



030



031



032



033



034



035



036

出土遺物(縮尺不同)



037



038



039



040



041



042



043



044



045



046



047



048



049



050



051



052



053



054



055



056



057



058



059



060



出土遺物(縮尺不同)



082



083



084



085



086



087



088



089



090



091



092



093



094



095



096



097



098



099



100



101



102



104



105



106

出土遗物(缩尺不同)



出土遺物(縮尺不同)



126



127



128



129



130



131



132



133



134



135



136



137



138



139



140



141



142



143



144



145



146



147



148



149

出土遗物(缩尺不同)



159

160

161

162

163

164

165

166



166



166



167



168



169



170



171



172



173



174



175



176



177



178



179



180

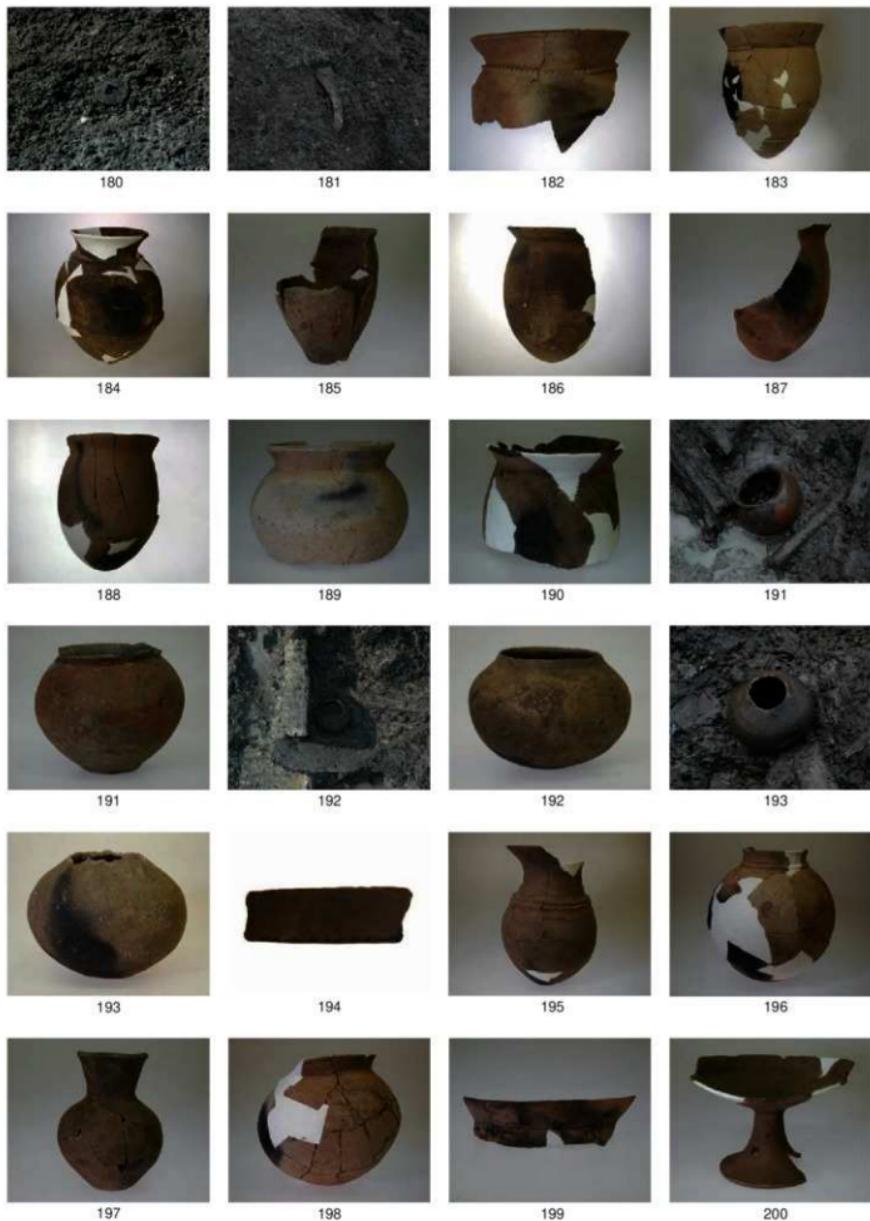


180



181

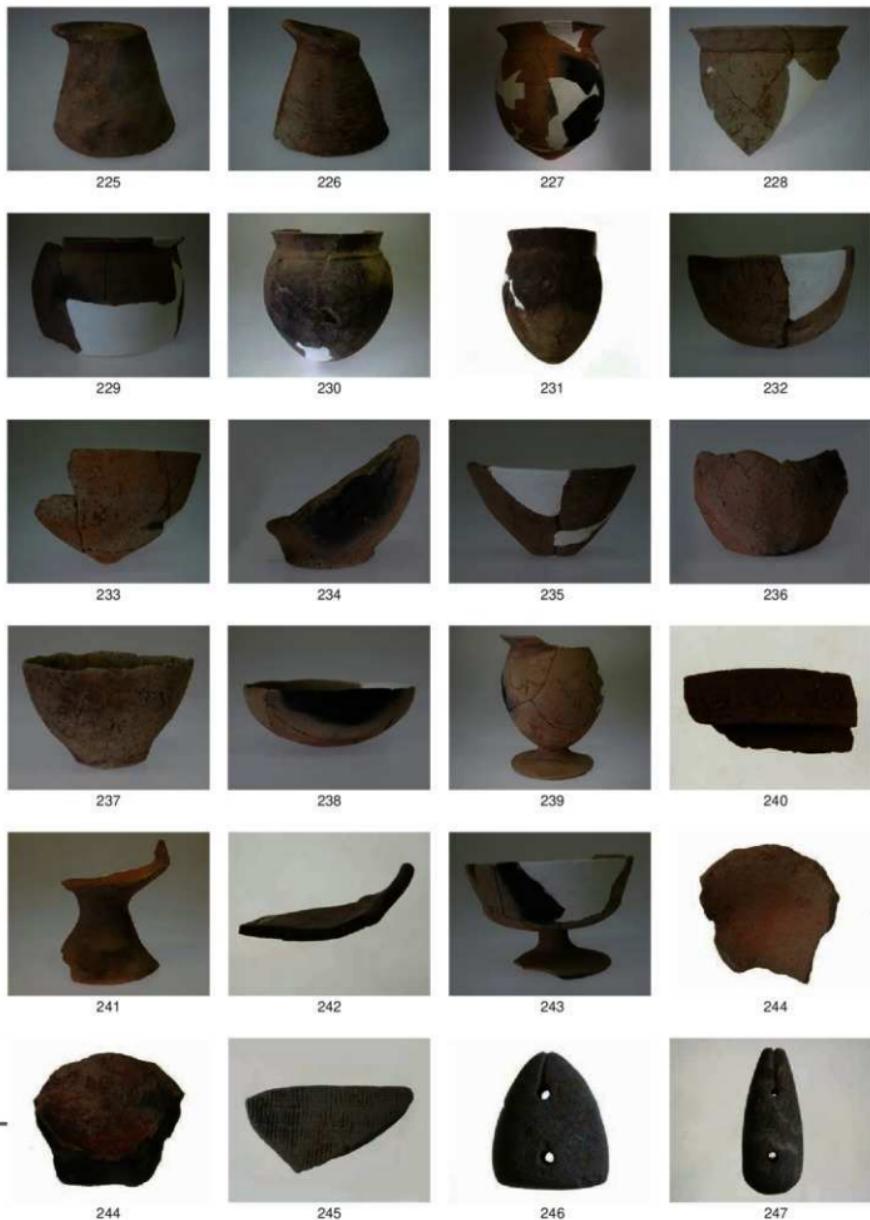
出土遗物(缩尺不同)



出土遺物(縮尺不同)



出土遺物(縮尺不同)



出土遺物(縮尺不同)



248



248



249



250



251



252



253



254



255



256



257



258



259



260



261



262



263



264



265



266



267

出土遗物(缩尺不同)



出土遺物(縮尺不同)



292



293



294



295



296



297



298



299



300



301



302



303



304



305



306



307



308



309



310



311



312



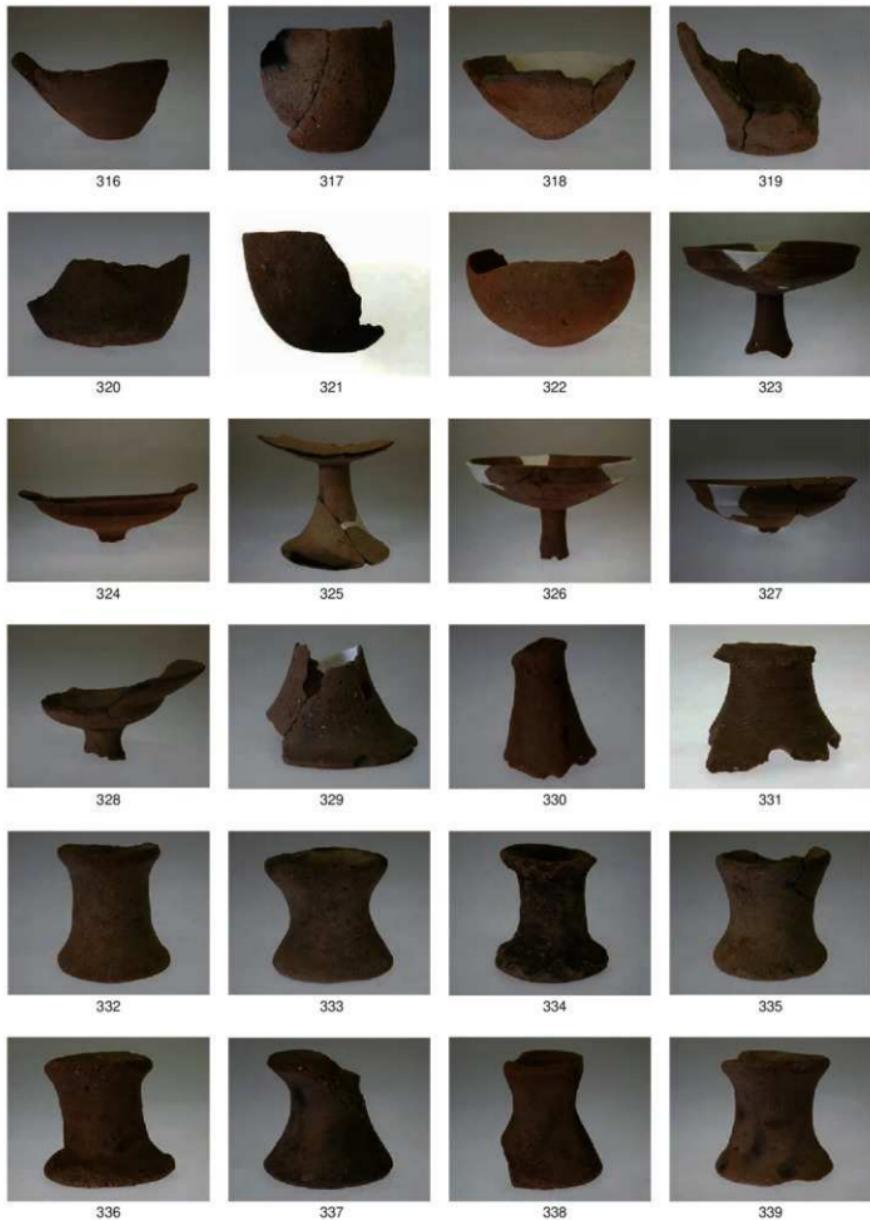
313



314



315



出土遺物(縮尺不同)



出土遺物(縮尺不同)



出土遺物(縮尺不同)



387



388



389



390



390



391



392



393



393



394



394



395



396



397



398



399



400



401



402



403



404



405

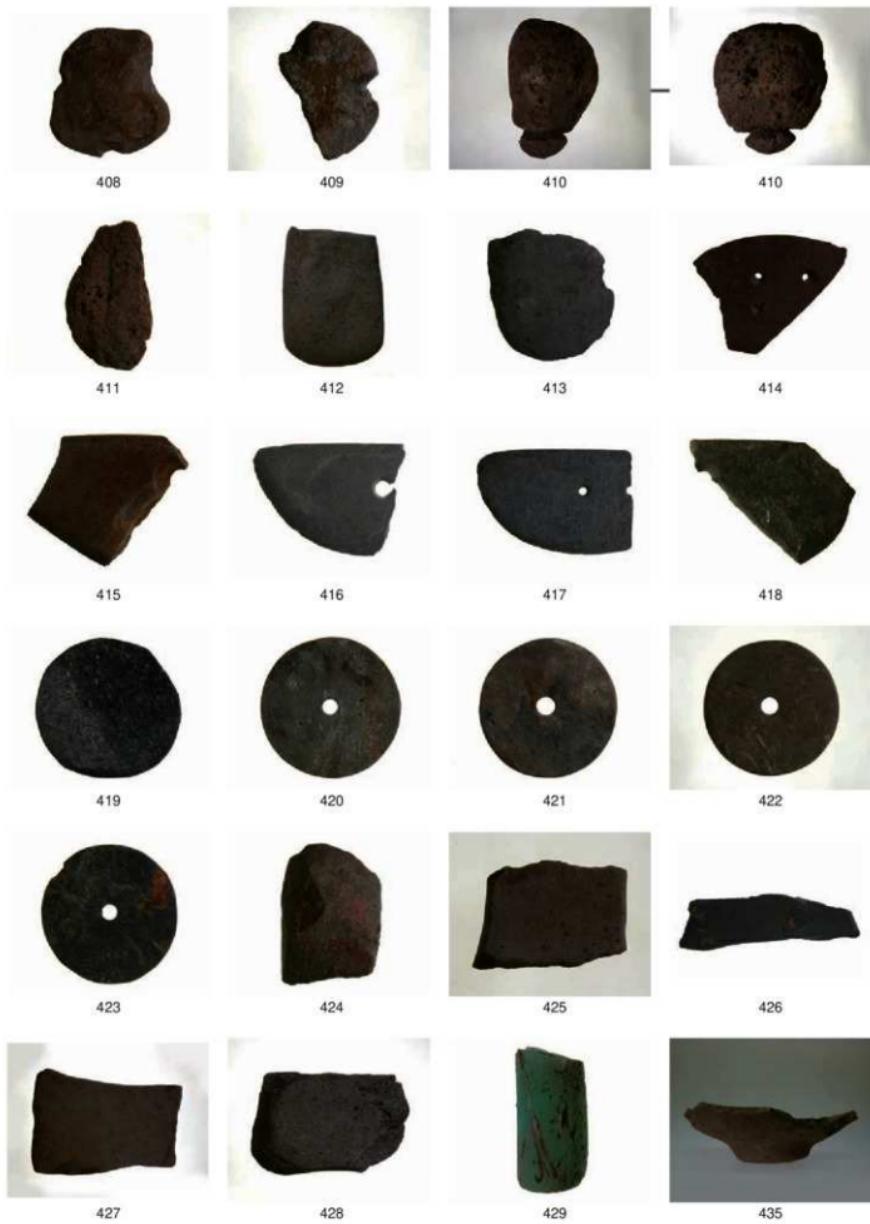


406



407

出土遗物(缩尺不同)



出土遺物(縮尺不同)



436



437



438



439



440



441



442



443



444



445



446



447



448



449



450



451



452



453



454



455



456



457



458



459



出土遺物(縮尺不同)



出土遺物(縮尺不同)

PL. 36



出土遺物(縮尺不同)



W049



W049



W050



W050



W051



W051



W052



W052



W053



W053



W054



W054



W055



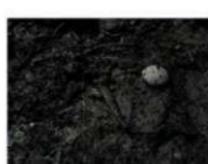
W055



W056



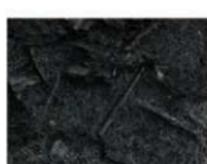
W056



W057



W057



W058



W058



W059



W059



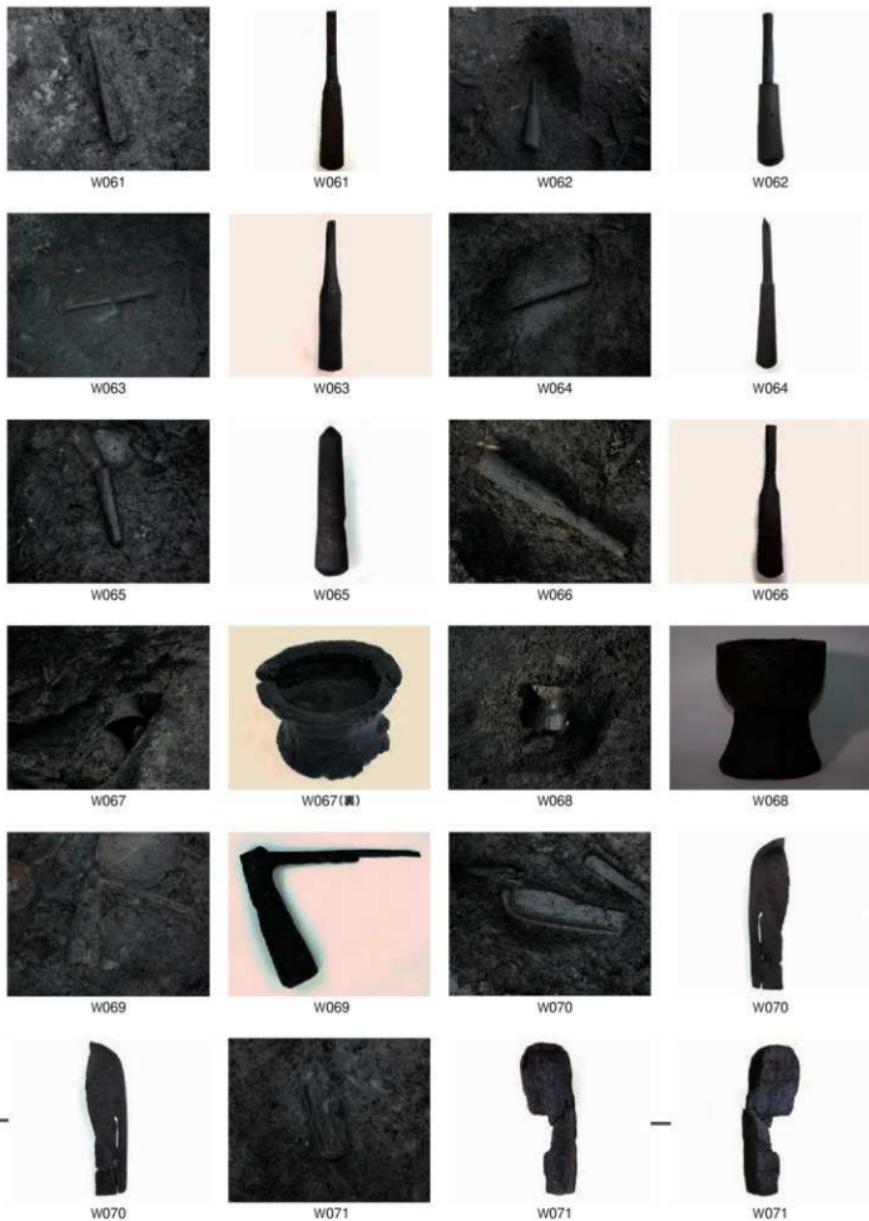
W060



W060

出土遗物(缩尺不同)

PL. 38



出土遺物(縮尺不同)



出土遗物(缩尺不同)



W082



W083



W083



W084



W084



W084



W085



W085



W086



W086



W086



W087



W087



W088



W088



W089



W089



W089



W089



W090



W090



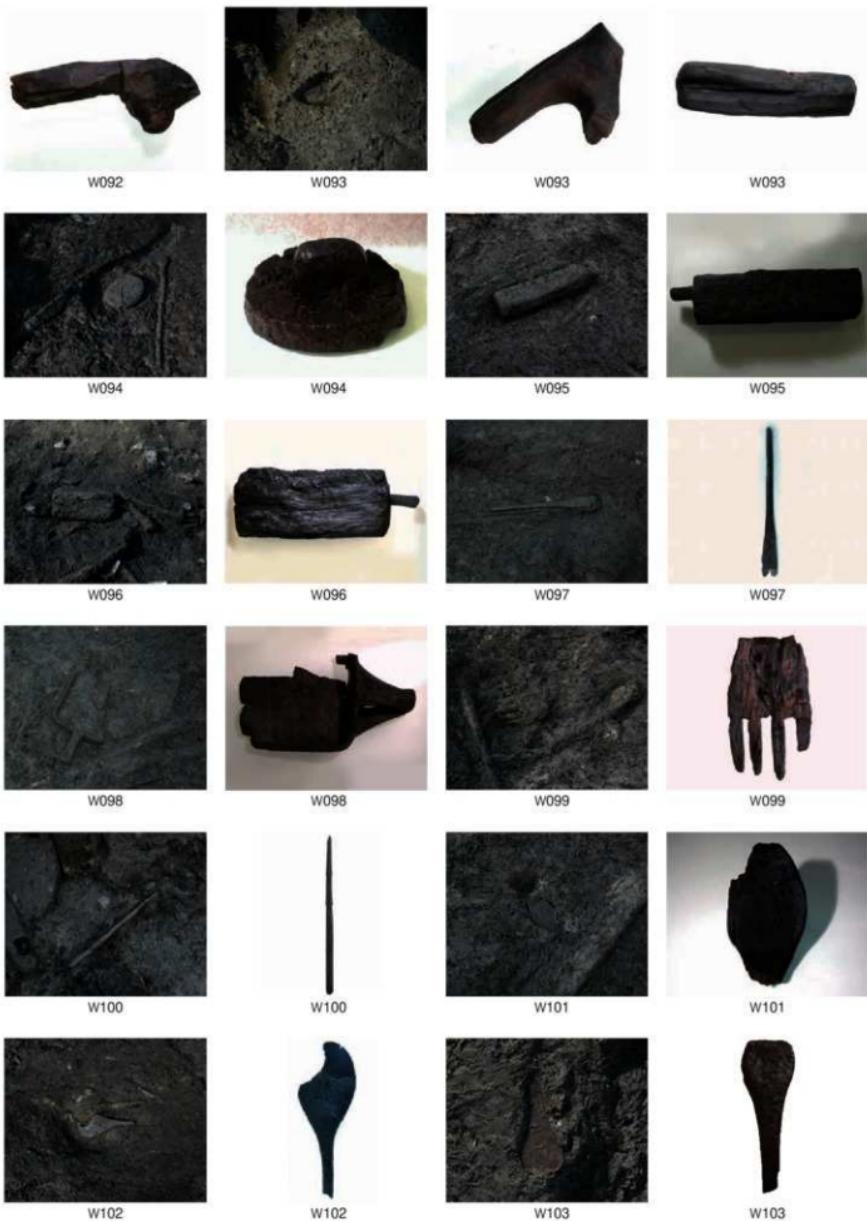
W091



W091

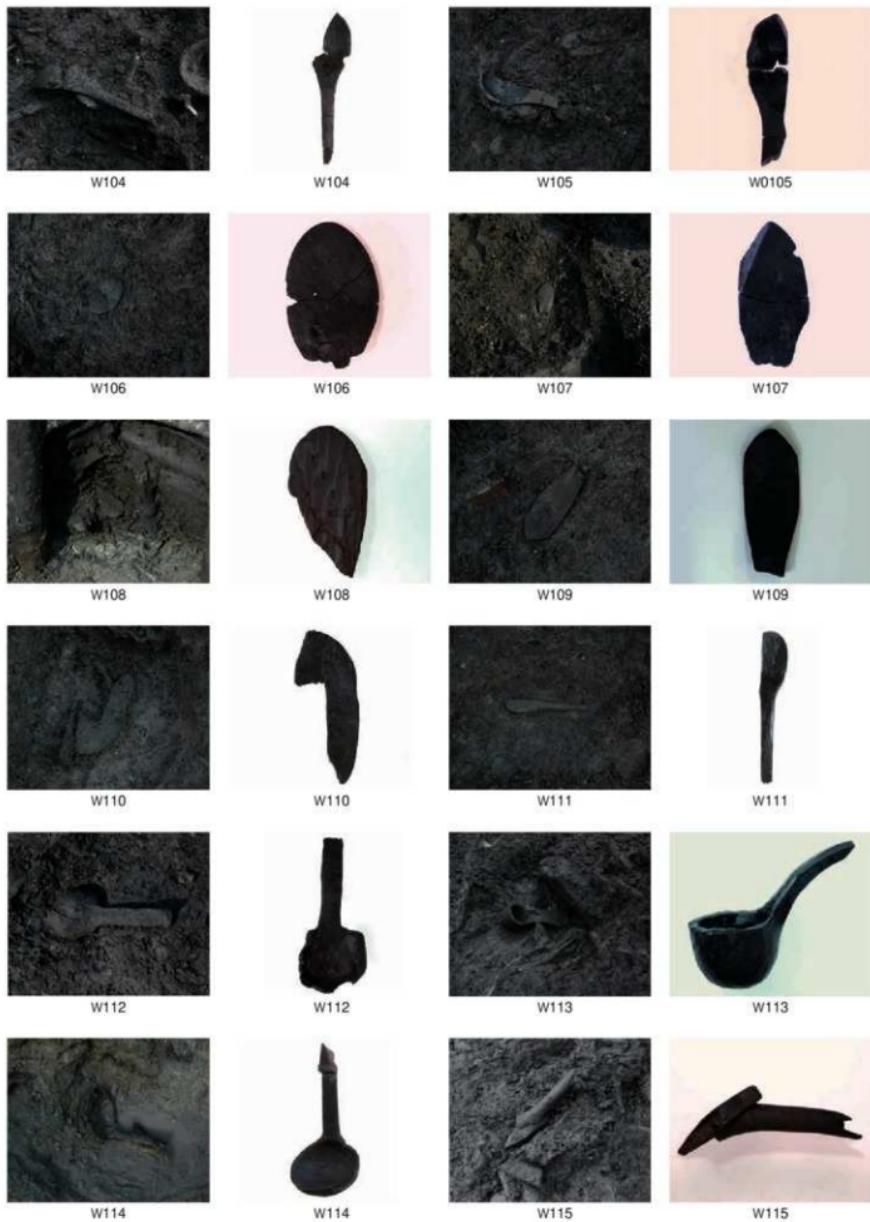


W092



出土遗物(缩尺不同)

PL. 42



出土遗物(缩尺不同)



出土遺物(縮尺不同)



出土遺物(縮尺不同)



W136



W136



W136



W137



W137



W137



W138



W138



W139



W139



W140



W140



W140



W141



W141



W141



W142



W142



W143



W143



W143



W144



W144



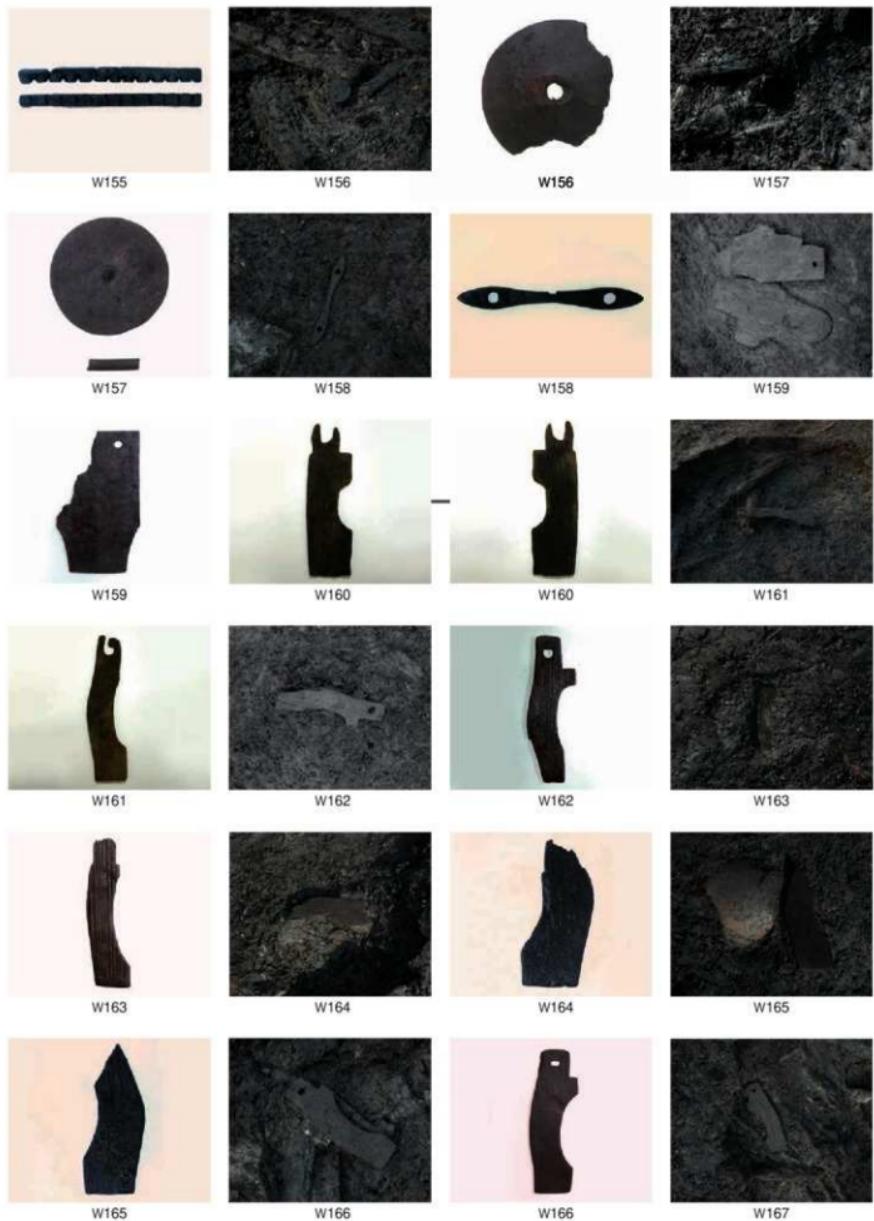
W144

出土遗物(缩尺不同)

PL. 46



出土遺物(縮尺不同)



出土遺物(縮尺不同)

PL. 48



出土遺物(縮尺不同)



W189



W189



W189



W190



W190



W190



W191



W191



W192



W192



W193



W193



W194



W194



W195



W195



W196



W196



W197



W197



W198



W198



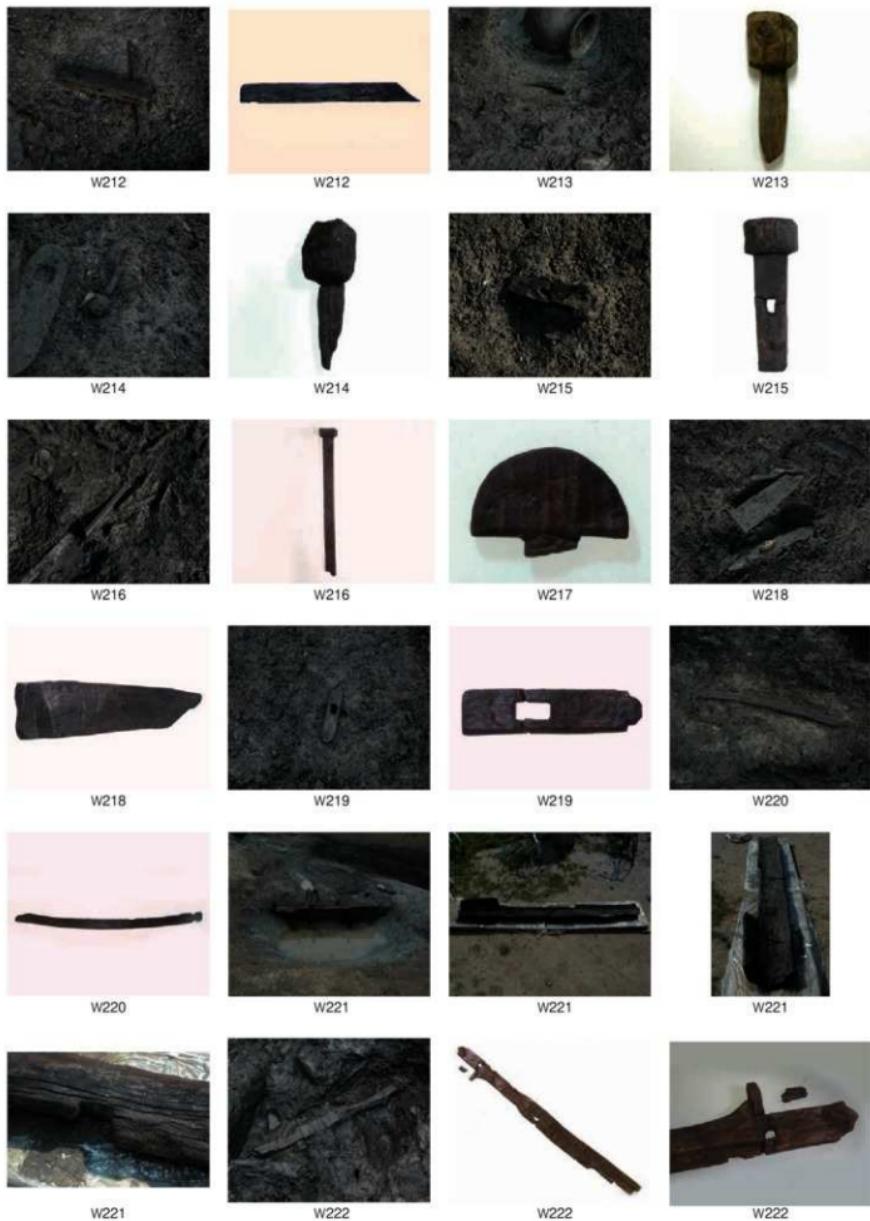
W199



W199



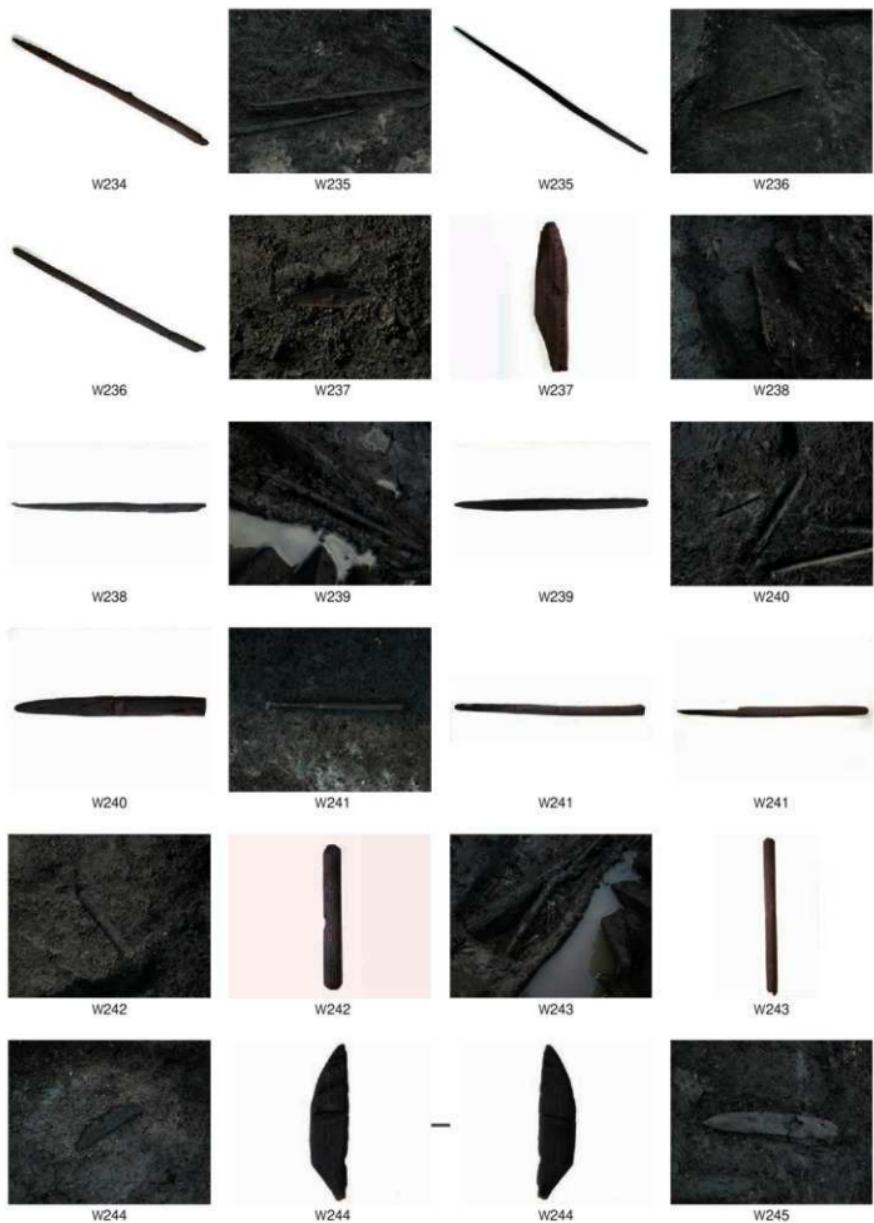
出土遺物(縮尺不同)



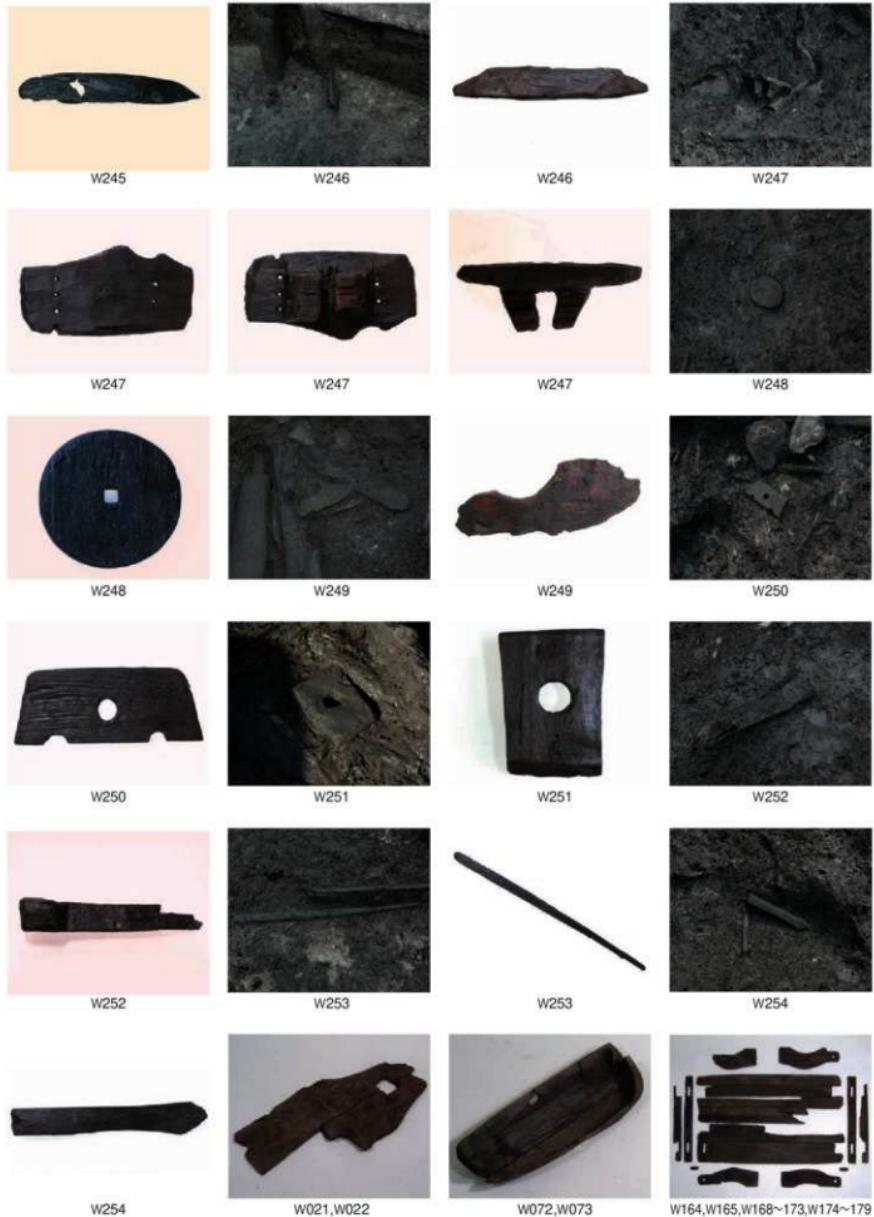
出土遺物(縮尺不同)



出土遺物(縮尺不同)



出土遺物(縮尺不同)



出土遺物(縮尺不同)



W153裏



W188裏

- 報告書抄録 -

書名 今宿五郎江 8
ふりがな いまじゅくごろうえ 8
副書名 第12次調査の報告
巻次
シリーズ名 福岡市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号 第1066集
編著者名 加藤隆也
編集機関 福岡市教育委員会
発行機関 福岡市教育委員会
発行年月日 20100201
作成法人ID 40130
郵便番号 810-8621
住所 福岡市中央区天神1-8-1
遺跡名 今宿五郎江遺跡
ふりがな いまじゅくごろうえいせき
遺跡所在地 福岡市西区今宿地内
市町村コード 40130 遺跡番号 0688
北緯 33° 34' 31"
東経 130° 15' 53"
調査期間 20061201～20070309
調査面積 1,340m²
調査原因 土地区画整理
種別 集落
主な時代 弥生時代中期末～古墳時代初頭
遺跡概要 竪穴住居1、掘立柱建物1、土壙11、溝2
特記事項 環濠内から半島系土器、朱精製土器を含む土器と併に、大量の木製品が出土



調査終了後風景

表紙 写真：調査風景（北から）

裏表紙写真：調査地と能古島を望む

（伊都区画整理事務所 提供）

今宿五郎江 8

— 第12次調査の報告 —

福岡市埋蔵文化財調査報告書 第1066集

2010(平成22)年1月27日

発行 福岡市教育委員会
福岡市中央区天神1丁目8-1

印刷 西日本印刷工業株式会社
福岡市博多区井相田3丁目2-1

IMAJUKU GOROU 8

— Results of the 12th excavation of ImajukuGorou Sites —

Report of Archaeological Investigations of Fukuoka city, Vol.1066

